

八木山緑町遺跡ほか 発掘調査報告書

2001年3月

仙台市教育委員会

八木山緑町遺跡ほか 発掘調査報告書

2001年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しましては、日々から多大なるご協力を賜り、まことに感謝にたえません。仙台市内には、現在約800ヶ所の遺跡が確認されておりますが、そのような埋蔵文化財は土地との関連で保存されてきたものであるため、各種開発事業によって絶えず破壊・消滅の恐れにさらされております。当教育委員会としましては開発側との協議を通して、ご理解とご協力を得て、貴重な文化財を保存し、後世に伝えることに努めているところであります。

仙台市は平成元年に政令指定都市となり、東北地方の中核都市として飛躍的な発展を遂げており、ますます責務が増したとともに、21世紀へ向けての文化財行政指針の作成や体制整備も求められてきております。

さて、この報告書には複数遺跡の調査成果を収録しております。

市街地の南西部に位置する八木山丘陵は早くから宅地開発が行われたため、現在周知されている遺跡はとりわけ少なく、平成7年度と11年度に実施した八木山緑町遺跡の調査成果は、丘陵上の遺跡の実態を知る上で貴重な資料となりました。あわせて平成13年度に発掘調査を実施した洞ノ口遺跡、南小泉遺跡、大原一里塚、山田条里遺跡、富沢遺跡の調査成果も収録しております。

これらの成果が地域の歴史の解明と文化財保護思想の高揚のためお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書刊行まで多くの方々のご指導、ご協力をいただきましたことに対しまして、心より感謝申し上げます。今後とも文化財保護行政についてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年3月

仙台市教育委員会

教育長 小 松 弥 生

例　　言

1. 本書は、民間開発事業および市関連事業等に関わり、平成7・11年度に調査した八木山緑町遺跡（第1次・第2次調査）をはじめ、平成11・12年度に調査した洞ノ口遺跡（第3次・第6次調査）、平成12年度に調査した南小泉遺跡（第33次・第34次調査）、大原一里塚、山田条里遺跡（第6次調査）、富沢遺跡（第117次調査）の発掘調査の内容を収録したものであり、これは既に公表している諸資料の内容に優先するものである。

2. 各遺跡の整理・報告書作成作業は下記のとおり仙台市文化財課職員が分担し、全体の編集作業は佐藤が担当した。

八木山緑町遺跡……………工藤信一郎
洞ノ口遺跡（第3次調査）……………主浜光朗・村上秀樹
洞ノ口遺跡（第6次調査）……………平間亮輔
南小泉遺跡……………渡部弘美
大原一里塚・富沢遺跡……………吉岡恭平
山田条里遺跡……………佐藤淳

3. 調査および整理作業に関わる参加者、指導・協力者のほか、分析関係者については遺跡ごと調査要項欄などに記している。

4. 本書に掲載した調査および報告書作成に関する諸記録、出土遺物などの資料は仙台市教育委員会文化財課が保管している。

凡　　例

1. 土層注記に記載している土色は「新版標準土色帖」（小山・竹原：1997）に基づいている。

2. 本書中の方位については、国土座標系によるもの他、磁北基準のもの、任意方向のものがある。

3. 全体図・遺構図

(1) 発見した遺構は種別ごとに以下の略号を用いている。

SI：堅穴住居跡・堅穴遺構 SK：土坑 SD：溝跡 SB：掘立柱建物跡

SX：性格不明遺構 P（ピット）：柱穴・小穴

(2) 個別の遺構平面・断面図の縮尺は1/60、遺物出土状況図は1/30を基本としているが、全体図ほかについては遺跡ごとに異なっている。また図中のアミ点などによる表記内容も統一していない。

4. 遺物図

(1) 遺物図の縮尺は1/3を基本としているが、石器・木製品についてはこれ以外のものもある。

目 次

序 文 例 言 凡 例

I 八木山緑町遺跡

調査要項.....	1
遺跡の位置と環境.....	1
調査に至る経緯と調査区設定.....	3
〔1〕第1次調査	
1. 発見遺構と出土遺物.....	7
2. まとめ.....	57
〔2〕第2次調査	
1. 発見遺構と出土遺物.....	58
2. まとめ.....	64

II 刃ノ口遺跡

〔1〕第3次調査

1. 調査要項.....	93
2. 遺跡の位置と環境.....	93
3. 調査の方法と経過.....	94
4. 基本層序.....	94
5. 発見遺構と出土遺物.....	97
6. まとめ	111
7. プラント・オパール分析	122

〔2〕第6次調査

1. 調査要項	127
2. 遺跡の概要	127
3. 基本層序	128
4. 調査の方法	131
5. 発見遺構と出土遺物	131
6. まとめ	131

III 南小泉遺跡

〔1〕第33次調査

1. 調査要項	139
2. 遺跡の位置と環境	139
3. 調査の方法と経過	139
4. 基本層序	139

5. 発見遺構と出土遺物	141
6. まとめ	144
〔2〕第34次調査	
1. 調査要項	147
2. 遺跡の位置と環境	147
3. 調査の方法と経過	147
4. 発見遺構と出土遺物	147
5. まとめ	148
IV 大原一里塚	
1. 調査要項	151
2. 遺跡の位置と環境	151
3. 調査の方法と経過	151
4. 基本層序	152
5. 調査成果	153
6. まとめ	153
V 山田条里遺跡 第6次調査	
1. 調査要項	155
2. 遺跡の位置と環境	155
3. 調査に至る経緯と調査方法	156
4. 基本層序	157
5. 発見遺構と出土遺物	158
6. まとめ	161
7. プラント・オパール分析	164
VI 富沢遺跡 第117次調査	
1. 調査要項	169
2. 遺跡の位置と環境	169
3. 調査の方法と経過	169
4. 基本層序	170
5. 調査成果	170
6. まとめ	171
7. プラント・オパール分析	173

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）

調査要項

遺跡名 八木山緑町遺跡（宮城県遺跡番号01317）

調査地点 仙台市太白区八木山緑町21-3

調査対象面積 約5,400m²

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育委員会文化財課

調査協力 木村 敏

〔第1次調査〕

調査原因 宅地造成

調査面積 約700m²

調査期間 平成7年8月28日～10月31日

調査担当 丁藤信一郎 三塚 靖 主浜光朗（整理）

〔第2次調査〕

調査原因 共同住宅建設

調査面積 約150m²

調査期間 平成11年11月2日～11月9日

調査担当 篠原信彦 吉岡恭平

調査協力 ナイス日栄㈱

遺跡の位置と環境

当遺跡はJR仙台駅から南西へ3.2kmの標高80数mの丘陵上、太白区八木山緑町に位置する（第2図）。調査以前の表探資料では、縄文・古代の遺跡と認識されていた。

北西から南東に伸びてくるこの丘陵（通称・八木山丘陵）は、当遺跡付近から約1.4km南東に行ったところで段丘崖になっており、その東側は広瀬川を越えて太平洋岸に至るまで、自然堤防・後背湿地・浜堤など沖積平野となっている。南側は郡山低地、荒川、大野田地区の自然堤防地帯を経て名取川に至る。

周辺の遺跡を概観すれば次のようである（第1図）。

当遺跡から丘陵尾根部を南東側に辿れば、約200mで燕ヶ丘B遺跡（縄文）、約500mの位置から丘陵端（通称・大年寺山）まで茂ヶ崎城跡（中世）が位置している。南斜面側には二ツ沢遺跡（縄文）、二ツ沢横穴墓群（古墳・古代）、茂ヶ崎横穴墓群（古墳・古代）が点在し、北面には大年寺山横穴墓群（古墳・古代）が所在している。

また尾根に平行するように北側に沢が入っているが、それを越えたところには青山二丁目B遺跡（旧石器・縄文）、青山二丁目遺跡（古代）がある。

これらのうち本調査を実施している遺跡は茂ヶ崎横穴墓群、大年寺山横穴墓群だけであり、造営開始年代は大年寺山横穴墓群が6世紀末頃、茂ヶ崎横穴墓群が7世紀中・後半と考えられている。ここで名前をあげた横穴墓群だけでなく、この丘陵縁辺には横穴群が多数存在し、向山横穴墓群と総称されている。これらの横穴墓群の形成については、東側や南側の平野部分にある遺跡との関係を考慮せざるを得ない。

縄文時代の遺跡として、秋ヶ丘遺跡・秋ヶ丘B遺跡・二ツ沢遺跡・向山高校裏遺跡・青山二丁目B遺跡を挙げたが、ほとんどが宅地化されていることから、実態については不明である。今回の調査によって、丘陵部の縄文から

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



No.	遺跡名	種類	文	跡	年代	No.	遺跡名	種類	文	跡	年代
1	八木山緑町遺跡	包含地	現文、奈良、平安			26	土内内藤跡	跡路	丘陵斜面	奈良、平安	
2	三ツ段古跡	包含地	丘陵			28	三ツ段走跡	走跡	丘陵斜面	現文、(前、中期)・平安	
3	武ノ子B道跡	包含地	丘陵斜面			29	新寺古跡	内招	丘陵	古墳	
4	吉田丁口D道跡	包含地	丘陵斜面			30	荒川跡(木戸川)遺跡	空跡	丘陵斜面	古墳、奈良、平安	
5	吉田丁口D道跡	包含地	丘陵斜面	現文		31	金石跡	空跡	丘陵斜面	古墳	
6	円山14番道跡	包含地	丘陵斜面	(中頃)		32	上内被穴墓群丸地迹	被穴墓	丘陵斜面	古墳(後半)	
7	秋木大塚跡	包含地	丘陵斜面	現文、奈良、平安		33	御石原跡	空跡	台地	平安	
8	二ツ段火葬跡	被穴墓群	丘陵斜面	古墳		34	御石古墳	前方後方墳	台地	古墳(中期)	
9	茂十蛇跡	被穴	丘陵斜面(伊賀側)	南北割		35	黒川跡	空跡	台地	古墳、奈良、平安	
10	愛宕山被穴墓群A道跡	被穴墓群	丘陵斜面	古墳(中期)		36	黒川跡(西台道跡)	空跡	台地	古墳、奈良、平安	
11	愛宕山被穴墓群B-C道跡	被穴墓群	丘陵斜面	古墳(中期)	奈良	37	富士山跡	水田跡	冲積平原	現文・五代	
12	宗門山被穴墓群	被穴墓群	丘陵斜面	古墳(中期)		38	室生酒造跡	水田跡	冲積平原	現文、古墳、平安、近世	
13	大年山被穴墓群	被穴墓群	丘陵北側斜面	古墳(後期)		39	山川道跡	空跡	自然地帯丘陵斜面	現文・近世	
14	桃原跡	集落?	丘陵斜面	現文		40	猪塚跡	空跡	自然地帯	古墳、平安	
15	移上土(直塚・土手)	土手	丘陵	丘陵		41	下ノ内藤跡	空跡	自然地帯	自然地帯	
16	鬼屋山古跡	丘陵	自然地帯	古墳(中期)		42	元豊跡	乳頭狀・水田跡	自然地帯	桑原・奈良、平安・中世、近世	
17	小豆坂古跡	不明	丘陵地盤	古墳		43	兵野六丁目道跡	空跡	自然地帯	自然地帯	
18	茂十炳火葬跡	被穴墓群	丘陵斜面	古墳(中期)	奈良	44	河原山道跡	空跡	自然地帯	奈良、平安	
19	桃原村監古跡	包含地	丘陵斜面	古墳?	奈良、平安	45	西山道跡	空跡	自然地帯	奈良、平安	
20	桃原二丁目古跡	包含地	海岸平野	現文、奈良、平安		46	金成八幡古跡	内招	自然地帯	古墳地帯	
21	二座古跡	前方後方	丘陵	古墳		47	船岡古跡群	跡地	自然地帯	中世	
22	一郎古跡	四隅	海岸平野	古墳(後期)		48	長谷町東遺跡	空跡	自然地帯	自然地帯(木戸川)・奈良(初期)	
23	移荷料敷道路	包含地	丘陵	奈良、平安		49	西村櫛道跡	送合道	自然地帯	現文、(後生)・(中期)・古墳	
24	伴洋一塙	四隅	海岸平野	古墳(中期)		50	都山道跡	空跡	自然地帯	古墳(未調)・奈良(初期)	
25	金成沢古跡	内招	丘陵	古墳		51	北山城跡	城跡	自然地帯	奈良(江戸)	
26	土内内藤跡	包含地	丘陵	現文、奈良、平安		52	矢来遺跡	私鉄道	自然地帯	古墳、奈良、平安	

第1図 八木山緑町遺跡と周辺の環境

弥生時代の実態の一部でもかいま見ることができた。青山二丁目B遺跡から表土採集された石器は仙台市博物館に寄贈されており、後期旧石器時代から縄文時代前期初頭とみられるもので、石刀・尖頭器・石鏃・搔器・石匙などの良好な石器も含まれている。

また仙台市内及びその周辺には多数の中世城館跡があるが、旧名取郡内にも多くの城館跡が残存している。茂ヶ崎城跡もその一つで、木柵柵であるが平場・土塁・空堀等が残っているところもあり、立地上、北・東・南側が見通せる絶好の地である。標高100数mが平均的な高さだが、120m位のところが最も高い。「仙台領古城書上」には名取郡北方33郷の旗頭の栗野大膳の居城とあり、規模については、東西86間・南北61間、本丸より二の丸への間に間数280余間の山繞き平地があると記されている。今は廢絶しているが近世には大年寺が建立され、また瑞鳳殿などがある経ヶ峰とは別に、伊達家の墓所も東端近くに置かれた。

調査に至る経過と調査区設定

この箇所の開発に係わる協議から発掘調査及び報告書刊行までの経緯は、全国的な社会問題となったバブル崩壊の事情もあり、大変複雑であった。

まず平成7年4月、当時の土地所有者から共同住宅建設の協議があり、同月内に発掘届の提出を受け、6月に確認調査を実施し、本調査が必要であるという結論を得た。

結果この共同住宅設計図は取り下げられ、次に宅地造成の計画が浮上した。8月に再度発掘届を提出していたとき、8月末から10月末まで宅地内道路を対象に緊急発掘調査として第1次調査を実施した（第3図）。11月後半になって、依頼者側から、これ以上の費用負担はできないとの意思表示があり、整理・報告書作成が滞ってしまった。

平成9年12月になって、ナイス日栄株式会社のほうで共同住宅建設に変更する開発案が出され、10年度いっぱいかかるかって、できるだけ調査面積を縮小するために7年度に調査した場所を活かした建築計画の立案と、そして7年度調査残務も引き継いでもらえるかの協議が何回も持たれた。勿論その他の問題もあり、開発部局や地元との協議にも大変な時間を要したのである。最終的には、7年度調査成果を100%引き継ぐ宅地造成部分と、調査対象遺跡外になる共同住宅建設部分に土地利用を分け、また7年度調査残務もナイス日栄側で受け継ぐことになった。ただし宅地造成部分と共同住宅を繋ぐ一部に、若干の要調査箇所はどうしても出ることになった。

上記の協議を踏まえ、平成11年11月、対象面積150m²に絞り込んだ第2次の発掘調査を行ない、調査は完了した（第4図）。その後平成12年5月になって、ナイス日栄は開発を断念、開発行為事前申請の取り下げをし、第3者に譲渡することになったが、7年度分と11年度分の整理・報告書刊行の負担はナイス日栄側の負担で行なうこととなり、事業完了した次第である。

調査区の設定にあたっては、調査の効率を考慮した上で、開発区域のうち調査対象となる計画道路幅の6mを基準として、6mメッシュで全体を区分けした。東西方向をアルファベットで表示し、一番西端をAライン、東端をJラインとした。また南北方向は算用数字で表示し、南端ラインを1ライン、一番北端のラインを10ラインとした。この南北の基準ラインは真北から37度東に偏している。

これらに拘まれている区画について、南西部部分から北へA-1～A-9、南西部部分から東へA-1～I-1というような地区呼称とした。調査基準点設定後、国家座標値を計測するための測量を実施している。

基準点A (II-2杭) X = -195696.828 Y = 3159.503

基準点B (II-9杭より南に1m) X = -195661.142 Y = 3184.261

平成11年度の2次調査にあたっては、1次調査時の調査基準杭がそのまま現地に残っていたことから同一基準での調査区設定をおこなった。

その結果、1次調査区はA～E-4～6、F～H-1～8に該当し、2次調査区はE・F-7～9及びH・I-7～9ということになる。

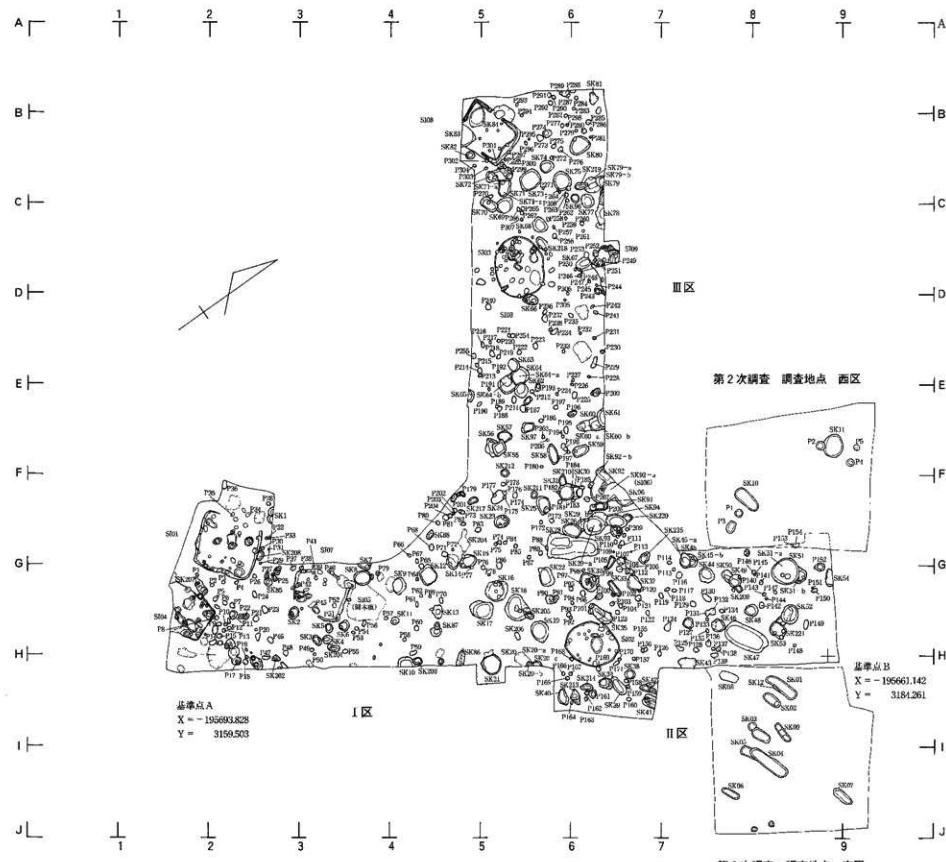
I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



第2図 調査地点位置図 ($S=1/5000$)



第3図 調査区位置図 ($S=1/1000$)



第4図 道構配図 (S=1/250)

[1] 第1次調査

1. 発見遺構と出土遺物

平成7年度の発掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡5軒、土坑約120基、ピット約300基のほか、弥生時代の竪穴住居跡2軒が検出された（第4図）。竪穴住居の平面形は、縄文時代の住居跡が方形を呈するのに対して、弥生時代の住居跡は円形を呈している。構造的にはいずれも地床炉をもち、柱穴は、弥生時代の住居は壁柱穴または戸外柱穴で、縄文時代の住居は2~4本の主柱穴をもち周溝が巡っている。土坑は円形または方形のものがほとんどで、円形の土坑には断面形が袋状・フラスコ状を呈しているものが多い。

平成11年度の第2次調査では、土坑12基とピットが若干発見された。これらの土坑のうち2基は、出土遺物などからみて弥生時代の土壙墓と考えられる。こうしたことからみて、7年度に発見されているものも含め、周辺の土坑についても土壙墓となる可能性が考えられる。

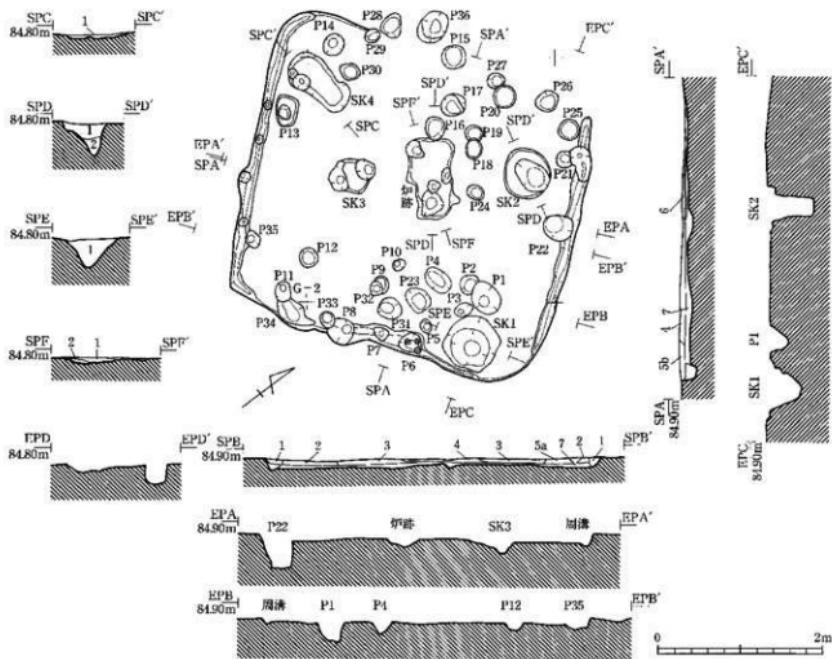
以下、各遺構と遺物の詳細について述べたい。

(1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は7軒検出された。SI05（倒木痕）・SI06（土坑の重複）は欠番となっている。

SI01竪穴住居跡（第5・6図）

【位 置】 当初G-1、2区に一部が検出され、F-1、2区を拡張することにより全体を把握することができた。このようにF-2区を中心として位置している。



第5図 SI01竪穴住居跡

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）

【平面形・規模】 ほぼ中央に地床炉を持つ方形の平面形を呈する。南北3.80m、東西4.06mを計るが、削平が激しく、北辺は西側の一部に認められるのみである。東辺での傾きは、真北からN-41°-Wとなっている。

【堆積土】 堆積土は大別で7層に分けられた。このうち2~5層が住居跡の堆積土で、1層は周溝の埋土、6層は炉の埋土の一部、7層は掘り方埋土である。

【壁面】 検出面からの深さは、東壁で5~8cm、西壁で10cm前後、南壁で5~10cm、北壁で4cmを計る。

【床面施設】 北壁側を除いて周溝が巡っている。上幅15cm前後、床面からの深さは、最大で5cm程度を計る。

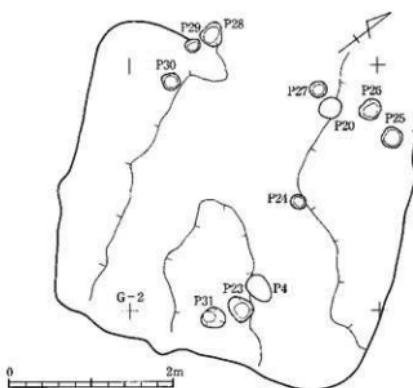
【炉跡】 床面ほぼ中央に位置している地床炉で、不整形形を呈している。長軸で100cm、短軸で50cmを計り、炉の底面には凹凸が認められる。

【柱穴・ピット】 墓際や床面に多数検出されたが、このうち堆積状況等から人為的に掘り込まれた可能性の高いものとしてピット35基、土坑4基を記録した。床面掘り方底面からも、ピットを9基検出している（第6図）。床面から検出されたピットは、径20cm前後のものが多く、深さもほとんどが10~15cm程度であるが、もっとも深いピット13では65cmを計る。これらのうち、位置、形状、深さなどから、SK1・2が主柱穴となり、ピット12・14を補助柱とする構造の可能性や、壁間に位置しているピットについては、壁柱穴となる可能性も考えられるが全体の構成は不明である。

【出土遺物】 堆積土中から縄文土器、土製品、剥片石器、礫石器等が出土している（第7図）。このうち5の外側には炭化物が付着している。6は底面に文様らしき痕跡があるが不明である。10・11は円盤状土製品の欠損品である。12~15は不定形石器で、13には、両面から入れられた加工によって錐状の先端部が造り出されている。16は磨凹石で、使用痕跡としての底面と凹部が両面にみとめられる。

層	位	上	性	備
1層		10YK3/1 黒褐色	シルト	2面埋土
2層		10YK2/2 黒褐色	シルト	10YK5/4に近い黄褐色ブロック状に混入
3層		10VK2/3 黒褐色	シルト	10YK5/4ブロック状に若干混入
4層		10YK3/2 黒褐色	シルト	他二粒岩下混入
5層		10YK3/3 黒褐色	シルト	10YK4/4黑色土塊入
5b層		10YK2/3 黒褐色	シルト	10YK5/4若干混入（厚3層に嵌入）
6層		10YK3/1 黒褐色	シルト	カーボン 無土粒混入
7層		10YK3/1 黒褐色	シルト	10YK5/6 底状に混入

SI01埋土観察表



第6図 SI01掘り方底面検出遺構

I 八木山線町遺跡（第1・2次調査）

遺跡名	形状	規模 (m × N/m)	深さ (cm)	堆土高さ	上色	下作	備考
Pt1	楕円形	42 × 33	235	10YR3/2 黒褐色	シルト	カーボン酸鉄人	
Pt2	円形	26 × 22	165	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人	
Pt3	楕円形	22 × 16	247	10YR5/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人	
Pt4	楕円形	35 × 24	248	10YR3/2 黑褐色	シルト	無人、カーボン酸鉄人 2.5YR4/4に近似、堆土混入	
Pt5	楕円形	15 × 13	61	10YR3/2 黑褐色	シルト		
Pt6	不整形	36 × 27	184	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人混入	
Pt7	楕円形	18 × 15	109	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人混入	
Pt8	円形	33 × 32	141	10YR3/2 黑褐色	シルト		
Pt9	円形	20 × ()	116	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人混入	
Pt10	円形	16 × 14	461	10YR3/2 黑褐色	シルト		
Pt11	楕円形	25 × 18	134	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人	
Pt12	円形	23 × 22	68	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人 10YR4/3混入	
Pt13	不整形	37 × 28	636	10YR3/2 黑褐色	シルト		
Pt14	円形	26 × 25	181	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人	
Pt15	円形	18 × 16	320	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人	
Pt16	楕円形	28 × 23	225	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人	
Pt17	円形	22 × 27	107	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人 10YR4/3混入	
Pt18	楕円形	23 × 30	52	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人 堆土混入	
Pt19	円形	22 × 21	95	10YR3/2 黑褐色	シルト		
Pt20	円形	28 × 27	28	10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人	
Pt21	円形	21 × ()	87	10YR3/2 黑褐色	シルト		
Pt22	円形	36 × 42	307	10YR3/2 黑褐色	シルト	堆土粒、カーボン酸人	
Pt23	楕円形	32 × 26	167	10YR3/2 黑褐色	シルト	堆土粒、カーボン酸人	
Pt24	楕円形	22 × 17	125	10YR3/2 黑褐色	シルト	堆土粒、酸鉄物、10YR4/3酸性に混入	
Pt25	円形	26 × 25	71	10YR3/2 黑褐色	シルト	堆土粒、酸鉄物、10YR4/3酸性に混入	
Pt26	楕円形	36 × 25	91	10YR3/2 黑褐色	シルト	堆土粒、酸鉄物	
Pt27	円形	20 × 30	91	10YR3/2 黑褐色	シルト	堆土粒、酸鉄物	
Pt28	不整形	30 × 25	221	10YR2/2 黑褐色	シルト	堆土粒、酸鉄物	
Pt29	円形	20 × 16	138	10YR2/2 黑褐色	シルト	堆土粒、酸鉄物	
Pt30	楕円形	22 × 20	36	10YR2/2 黑褐色	シルト	堆土粒、酸鉄物	
Pt31	楕円形	26 × 26	353	10YR3/1 黑褐色	シルト	堆土粒、酸鉄物、10YR4/4ブロック状に混入	
Pt32	楕円形	17 × 15	262				
Pt33	楕円形	20 × 16	169				
Pt34	不整形	(17) × 28	67				
Pt35	不整形	30 × 18	43				
Pt36	楕円形	40 × 32	21				
SK1	円形	70 × 69	369	上層 10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン酸・塊状鉄物1個入り 10YR5/6 黑褐色粘土混入	
SK2	円形	60 × 36	555	1層 10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン酸・塊状鉄石1個入り	
SK3	不整形	67 × 46	294	1層 10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン酸・塊状鉄石1個入り	
SK4	表土層	83 × 33	131	1層 10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン酸鉄人 10YR4/4ブロック状に混入	

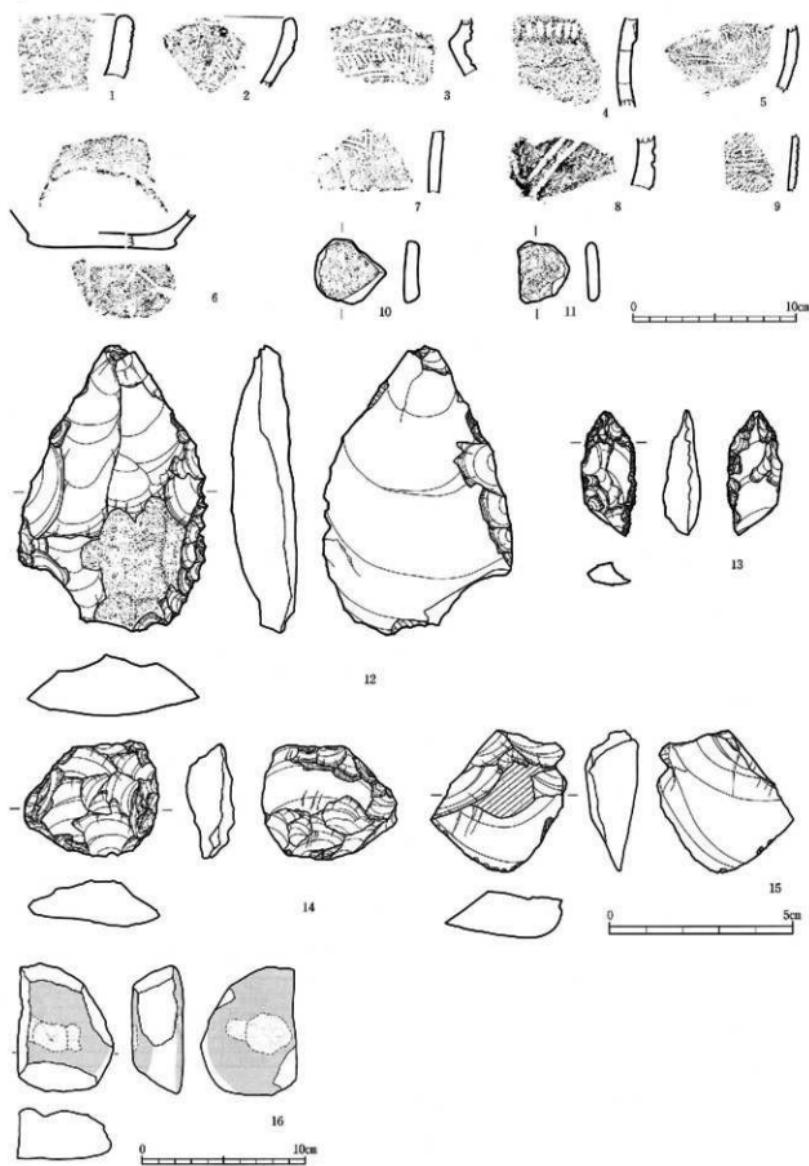
SI01床面施設観察表

箇所No.	位置No.	出土地點	層位	種別	標記	文様の特徴	備考	写真No.
7-1	A-5	S001	1・2層	縞文土器	山形部	輪壳		写真41
7-2	A-11	S001	地盤	縞文土器	山形部	虎頭	皮状	写真41
7-3	A-2	S001	1・2層	縞文土器	山形部	虎頭 虎足		写真41
7-4	A-7	S001	縞文土器上	縞文土器	山形部	縞文土器上に解剖面	外西、内東方に多量の砂粒を含むため小さな凹凸が多い	写真41
7-5	A-1	S001	1・2層	縞文土器	体部	虎頭 (状)	十番の外山に炭化物が付着している	写真41
7-6	A-3	S001	1・2層	縞文土器	体部	体部に解剖	定期に文様をらしきものあり 不規	写真41
7-7	A-8	S001	縞文	縞文土器	山形部	虎頭 短足	10YR3/2 黑褐色	写真41
7-8	A-9	S001	縞文	縞文土器	体部	虎頭	カーボン酸・塊状鉄石1個入り	写真41
7-9	A-10	S001	縞文	縞文土器	体部	虎頭 (状)		写真41
7-10	A-4	S001	1・2層	土製品	—	—	十数個	写真41
7-11	A-6	S001	土製品	—	—	—	山形部	写真41

箇所No.	位置No.	出土地點	層位	器種	径 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	写真No.
7-12	A-4	S001	—	不定形石器	88.0	57.0	18.9	81.1	黒粘岩		写真46
7-13	A-1	S001	1・2層	不定形石器	38.0	18.0	10.5	5.7	—		写真45
7-14	A-2	S001	1・2層	不定形石器	35.0	41.0	14.1	16.6	ディヤライト		写真45
7-15	A-3	S001	—	不定形石器	42.0	40.5	14.7	19.1	貝化珊瑚灰岩		写真45
7-16	B-1	S001	円石 (底)	—	79.0	59.0	31.5	180.0	安山岩		写真46

SI01出土遺物観察表

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



第7図 SI01出土遺物

SI02堅穴住居跡（第8図）

【位置】 G-6区の南東部を中心として、南側のG-5及び東側のH-6区に位置している。

【平面形・規模】 平面形は東西軸が長い楕円形を呈し、中央よりやや東寄りに地床炉を持っている。東西3.60m、南北2.85mを計る。

【堆積土】 堆積土は大別で6層に分けられた。

【壁面】 検出面からの深さは、東壁で3~5cm、西壁で6~8cm、南壁で3~9cm、北壁で3~5cmを計る。

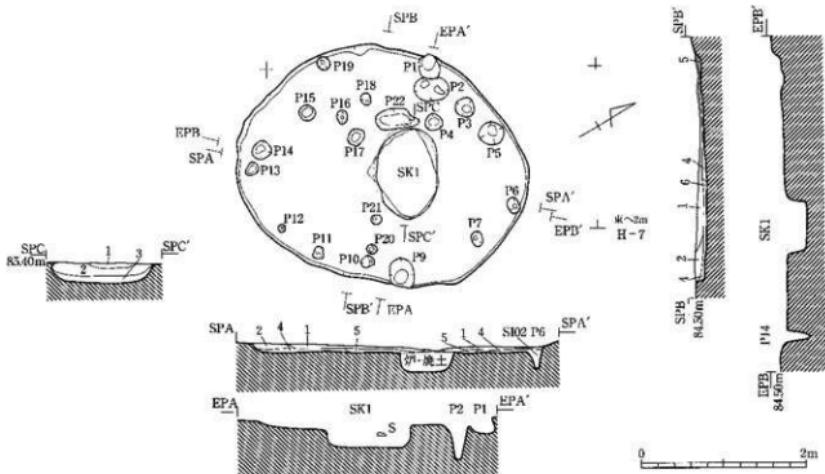
【床面施設】 窓溝などの施設は検出されなかった。

【炉跡】 床面の中央よりやや東に焼土が広がっており、焼け面も認められたことから地床炉と考えられる。

焼土の下面から南北方向に長い楕円形を呈する土坑状のプランが検出された。長軸で110cm、短軸で75cmを計り、炉底面から26cmほど掘り込まれている。堆積土は3層に分けられ、理1層には焼土が多く含まれているが下層には焼土粒や炭化物粒が少量含まれる程度である。底面はほぼ平坦で凹凸はみられない。

【土坑・ピット】 壁際や床面に多数検出されたが、このうち堆積状況等から人為的に掘り込まれた可能性の高いものとしてピット21基を記録した。検出されたピットは、径15cm前後の小さなものと径35cm前後のものに分けられる。深さについてはほとんどが10cm以下であるが、もっとも深いピット2では43.5cmを計る。壁間に位置しているピットについては、壁柱穴となる可能性も考えられるが全体の構成は不明である。

【出土遺物】 堆積土中から赤土器が出土している（第9図）。いずれの土器片も撚糸もしくは縄文によって羽状に施文されている。このうち15・16には炭化物が付着している。



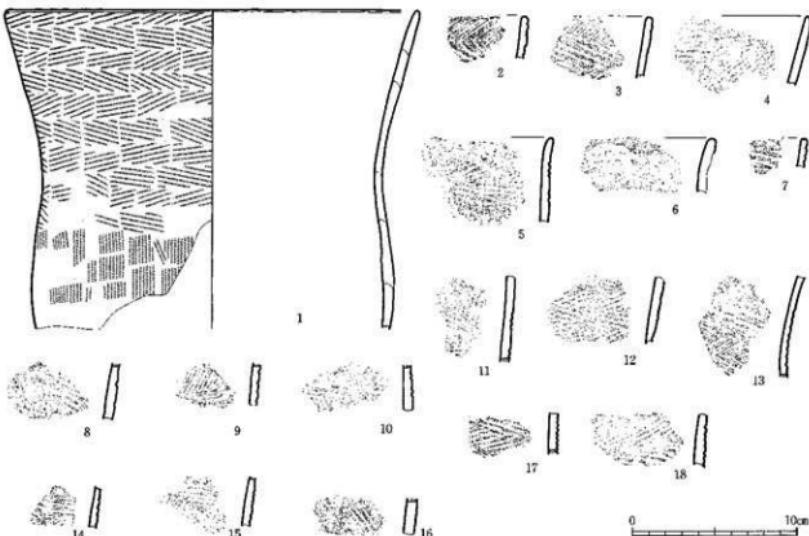
層	色	性	備考
1層	10YR2/3 黄褐色	シルト	カーボン少量混入。10YR4/3ブロック状に混入。南北ヘルツの方が色調が明るい。
2層	10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン少量混入。
3層	10YR2/3 黄褐色	シルト	10YR5-ラグコック灰に混入。
4層	10YR3/4 橙褐色	シルト	10YR2/2ラグコックを混入。カーボン少量混入。
5層	10YR2/3 黄褐色	シルト	カーボン少量混入。
6層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR2/2ブロックを混入。カーボン较多量に混入。

第8図 SI02堅穴住居跡

T 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）

遺跡名	形・状	大きさ (長×幅×cm)	深さ (cm)	地盤上層化	土 色	土 性	備 注
Pit 1	楕円形	30×26	18.9	10YR5/4	暗褐色	シルト	他のピットよりも明るい色調の厚土
Pit 2	楕円形	42×30	11.5	10YR5/2	暗褐色	シルト	中央部に石製品が盛出
Pit 3	円形	23×22	7.6	10YR5/2	暗褐色	シルト	10YR5/6の枚を少量含む
Pit 4	円形	26×20	5.6	10YR5/2	暗褐色	シルト	炭化物を多く含む。10YR5/6の枚を少量含む。
Pit 5	円形	31×31	13.3	10YR5/2	暗褐色	シルト	中央部に10YR5/6のブロック瓦片、上野川砾層、カーボン较少量混入
Pit 6	楕円形	18×13	27.6	10YR5/2	暗褐色	シルト	10YR5/6のブロック瓦片
Pit 7	楕円形	18×13	6.6	10YR5/2	暗褐色	シルト	10YR5/6のブロック瓦片
Pit 8							欠番
Pit 9	不整形	13×28	32.1	10YR2/2	黒褐色	シルト	P400との切り合いで、10YR5/6を少量混入
Pit 10	円形	18×16	3.1	10YR2/3	暗褐色	シルト	10YR5/6ブロック瓦片、カーボン较少量混入
Pit 11	不整形	14×12	26.9	10YR2/2	暗褐色	シルト	10YR5/6ブロック瓦片、カーボン较少量混入
Pit 12	円形	8×8	4.4	10YR2/2	暗褐色	シルト	10YR5/6ブロック瓦片を多量に混入
Pit 13	楕円形	17×15	5.5	10YR2/2	暗褐色	シルト	10YR5/6ブロック瓦片を多量に混入
Pit 14	円形	25×23	6.6	10YR2/2	黒褐色	シルト	カーボン瓦(?)を含む。10YR5/6を少量混入
Pit 15	円形	21×19	3.7	10YR2/2	暗褐色	シルト	10YR5/6ブロック瓦片を多量に混入。カーボン较少量混入
Pit 16	楕円形	17×12	19.0	10YR2/2	暗褐色	シルト	10YR5/6ブロック瓦片、カーボン较少量混入
Pit 17	楕円形	21×19	7.3	10YR2/2	暗褐色	シルト	炭化物が付着し、上に埋められた瓦片を多量に含む。10YR5/6ブロック少量混入
Pit 18	円形	15×13	6.6	10YR3/2	暗褐色	シルト	10YR5/6ブロック瓦片、カーボン较少量混入
Pit 19	円形	18×16	6.5	10YR3/2	暗褐色	シルト	10YR5/6ブロック瓦片を多量に混入。カーボン较少量混入
Pit 20	円形	13×13	5.0	10YR2/2	暗褐色	シルト	10YR5/6のブロック瓦片
Pit 21	円形	13×12	4.5	10YR2/2	暗褐色	シルト	10YR5/6のブロック瓦片
Pit 22	不整形	33×24	8.2	10YR2/4	暗褐色	シルト	上野川砾層、カーボン较少量混入
SK1	楕円形	111×73	26.9	1層	10YR5/3	暗褐色	25YR1/6の枚を多量に含む。上部片に土被片を多量混在
				2層	10YR2/2	暗褐色	カーボン较少量、上部片を少含む。10YR5/6ブロック少量含む
				3層	10YR5/4	暗褐色	カーボン较少量含む。10YR5/6ブロック少量含む(底面)

SI02 床面施設観察表



第9図 SI02出土遺物

遺跡名	遺跡番号	出土地点	種 位	種 別	堆 位	文部の特徴		備 考	写真枚数
						形	状		
9 - 1	A - 113	SI02	堆积土層	山積～堆積	LR, 矢文, LR, 矢文				写真42
9 - 2	A - 12	SI02	1 + 2 層	堆积土層	口縁部	拂りあ (目狀)		断面に変化が見られる	写真42
9 - 3	A - 27	SI02		堆积土層	口縁部	拂りあ (目狀)			写真42
9 - 4	A - 24	SI02		堆积土層	口縁部	拂りあ (目狀)		堆积山堆	写真42
9 - 5	A - 13	SI02	1 + 2 層	堆积土層	口縁部	拂りあ (目狀)		堆积山堆?	写真42
9 - 6	A - 17	SI02	堆积土層	口縁部	拂りあ (目狀)	無害物が表見の8/10 不明			写真42
9 - 7	A - 26	SI02	堆积	堆积土層	口縁部	LR, 矢文, 剥状?			写真42
9 - 8	A - 25	SI02	堆积	堆积土層	堆形	拂りあ (目狀)?			写真42
9 - 9	A - 26	SI02	堆积	堆积土層	堆形	LR, 矢文, 剥状?			写真42
9 - 10	A - 16	SI02	堆积上	堆积土層	堆形	拂りあ (目狀)			写真42
9 - 11	A - 14	SI02	堆积上	堆积土層	堆形	拂りあ (目狀)			写真42
9 - 12	A - 18	SI02	堆积上	堆积土層	堆形	剥状?			写真42
9 - 13	A - 20	SI02	堆积	堆积土層	口縁部	剥状? LR, 矢文			写真42
9 - 14	A - 21	SI02	堆积	堆积土層	堆形	拂りあ (目狀)			写真42
9 - 15	A - 19	SI02	堆积上	堆积土層	堆形	拂りあ (目狀)		土器外前の炭化物付着	写真42
9 - 16	A - 22	SI02		堆积土層	堆形	拂りあ (目狀)		内面に炭化物が付着している	写真42
9 - 17	A - 23	SI02	堆积	堆积土層	堆形	拂りあ (目狀)			写真42
9 - 18	A - 15	SI02	堆积上	堆积土層	堆形	拂りあ (目狀)			写真42

SI02 出土遺物観察表

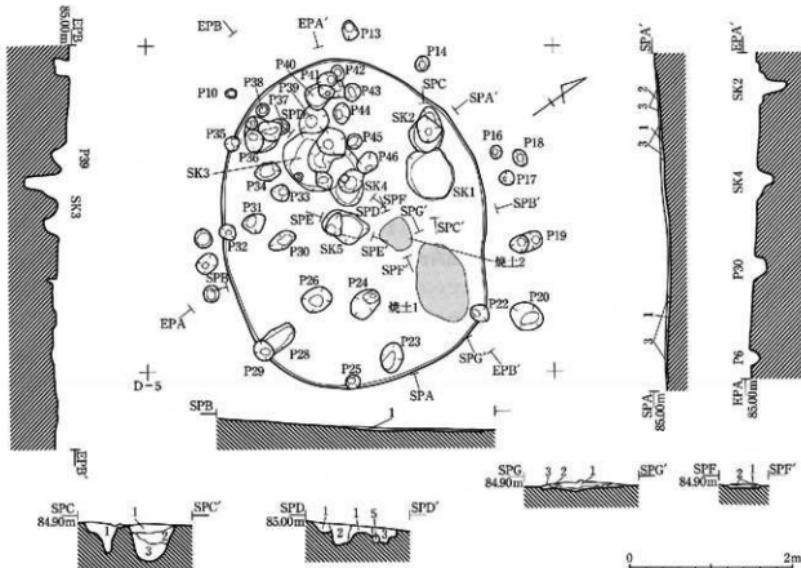
SI03堅穴住居跡（第10図）

【位置】 C - 5 区に位置している。

【平面形・規模】 平面形は東西軸が長い楕円形を呈している。東西3.98m、南北3.24mを計る。

【堆積土】 堆積土はほとんど残っていないが2層に分けられた。

【壁 面】 前坪が著しく検出面からの深さは、残りのよい部分でも2~3cm程度でしかない。



層 位	土 色	土 件	備 考
1層	10YR3/2 黄褐色	シルト	堆土粒子混入
2層	10YR3/1 黄褐色	シルト	カーボン粒混入
3層	10YR2/3 黑褐色	シルト	堆土粒子混入 カーボン粒混入

第10図 SI03堅穴住居跡

【床面施設】 周溝などの施設は検出されなかった。

【炉 跡】 床面東側に地床炉と考えられる焼土造構2基が検出されている。

焼土造構1は、東西軸104cm、南北軸70cmの楕円形のプランを呈している。床面から15cmほど掘り込まれており、中央部がさらに凹んでいる。堆積土は3層に分けられ、上面の焼土は5~10cm程堆積しており、固くしまっていた。焼土の下面是焼成により赤変し硬化していた。

焼土造構2は、長軸で44cm、短軸で40cmのほぼ円形のプランである。床面から8cmほど掘り込まれており、底面は平坦である。堆積土は2層に分けられ、上面の焼土は2~3cm程と薄く堆積しており、焼土の下面是焼土造構1の底面に比べて焼成による赤変、硬化の度合いは進んでいなかった。

【柱穴・ピット】 壁際や床面に多数検出されたが、このうち堆積状況等から人為的に掘り込まれた可能性の高いものとしてピット34基、土坑5基を記録した。全体的に土坑・ピットとともに床面の西側部分に集中して検出されている。

土坑は、2基の焼土造構と相対するようにSK3~5、北側にSK1・2が位置している。SK3・4は重複しており、SK1・2は接している。

SK1は、長軸58cm×短軸54cmのほぼ円形のプランを呈し、床面から45cm程掘り込まれている。堆積土は3層に分けられ、焼上粒や炭化物粒が入っている。底面はすり鉢状に凹んでいる。SK2は、長軸57cm×短軸40cmの不規則形のプランを呈し、床面から35cm程掘り込まれている。堆積土は単層で、焼上粒や炭化物粒が入っている。底面の一部がさらにピット状に掘り込まれている。

SK3は、推定で長軸100cm×短軸80cmのほぼ楕円形のプランを呈するものと思われる。床面から50cm程掘り込まれている。堆積土は3層に分けられ、焼上粒や炭化物粒が入っている。底面は凹凸が激しくピット状に凹んでいる。SK4はSK3に切られていることから、形状や規模ははっきりしないが、検出部分での推定で短軸42cmのほぼ楕円形のプランを呈するものと思われる。床面から20cm程掘り込まれている。堆積土は3層に分けられ、焼上粒や炭化物粒が入っている。底面の一部がさらにピット状に掘り込まれている。SK5は、長軸53cm×短軸33cmの不規則形のプランを呈し、床面から40cm程掘り込まれている。堆積土は3層に分けられ、焼上粒や炭化物粒が少量入っている。底面の一部がさらにピット状に掘り込まれている。

ピットは前述のとおり、住居跡内から23基、周囲から11基検出されている。北壁側では、壁にかかる位置のピットがみられず住居跡の周辺に沿って検出されているのに対して、南側から東側にかけては壁に沿うような位置のものが多く、逆に住居跡の周辺にピットは検出されていない。

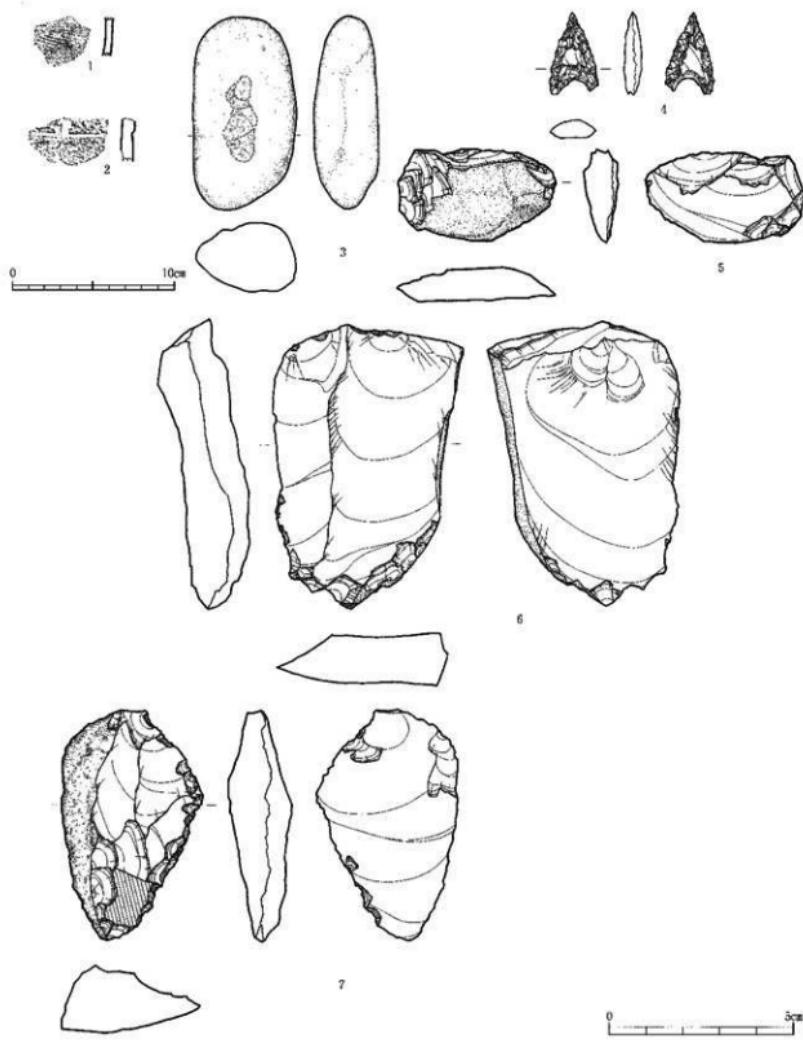
壁面に沿うように検出されているピットは、径15~30cm前後の比較的小型のものが多く、深さもほとんどが15~25cm程である。位置、形状、深さなどから、これらのピットについては、壁柱穴となる可能性も考えられるが全体の構成は不明である。

【出土遺物】 堆積土中から縄文土器、剥片石器、疊石器等が出土している（第11図）。1は、SiO₂豊富な住居跡から出土している土器と同じく、攢り糸によって羽状に施文されている。3は凹石で、使用痕跡としての凹部が片面にみられる。4の石鏃は床面から出土しているもので、基部に抉りが入った無茎鏃である。5~7はいずれも剥片を素材とする不定形石器または二次加工のみられるものである。

遺跡名	形状	裏板（長×幅cm）	深さ（cm）	地上高さ	上色	土性	備考
Pn 1							欠番
Pn 2							欠番
Pn 3							欠番
Pn 4							欠番
Pn 5							欠番
Pn 6	円形	20×20	11.7	10YR4/1 黄褐色	シルト		
Pn 7	楕円形	28×22	26.5	10YR4/1 黄褐色	シルト		
Pn 8	円形	23×22	17.3	10YR4/1 黄褐色	シルト		
Pn 9							欠番
Pn 10	円形	14×13	5.5	10YR2/2 黒褐色	シルト		
Pn 11							欠番
Pn 12							欠番
Pn 13	楕円形	24×18	16.8	10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込人	
Pn 14	円形	19×18	16.4	7.5YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 15							欠番
Pn 16	円形	16×15	9.1	10YR3/1 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込	
Pn 17	円形	18×18	18.7	10YR3/1 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込	
Pn 18	楕円形	24×17	15.7	10YR3/1 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込	
Pn 19	楕円形	40×32	36.3	10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込	
Pn 20	楕円形	42×36	30.2	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 21							欠番
Pn 22	円形	26×29	16.5	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 23	楕円形	38×27	15.5	10YR3/1 黑褐色	シルト		
Pn 24	楕円形	41×29	32.7	10YR3/1 黑褐色	シルト		
Pn 25	円形	19×17	14.1	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 26	楕円形	37×29	28.3	10YR3/1 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込人	
Pn 27							欠番
Pn 28	不整形	18.5×27	10.5				
Pn 29	円形	57×24	11.0	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR4/2地状に呑込 カーボン粒呑込	
Pn 30	小形	35×21	17.1	10YR3/1 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込	
Pn 31	不整形	26×26	17.3	10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込人	
Pn 32	円形	19×19	11.1	10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込	
Pn 33	円形	22×20	10.2	10YR3/1 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込人	
Pn 34	不整形	43×24	17.2	10YR2/1 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込	
Pn 35	円形	17×17	10.2	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 36	不整形	58×45	36.9	10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込人	
Pn 37	小形	() × 19	5.4	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 38	円形	17×15	4.7	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 39	円形	() × 45	17.2	10YR3/1 黑褐色	シルト		
Pn 40	円形	() × 40	8.7	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 41	楕円形	43×32	18.5	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 42	円形	() × 17	12.3	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 43	円形	() × 22	10.3	10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込	
Pn 44	楕円形	25×21	8.6	10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン粒呑込人	
Pn 45	円形	17×17	20.8	10YR2/2 黑褐色	シルト		
Pn 46	楕円形	28×22	20.8	10YR2/2 黑褐色	シルト		
SK 1	円形	58×54	45.5	1層 10YR3/1 黑褐色	シルト	カーボン粒・鐵土粒呑込人	
				2層 7.5YR2/2 黑褐色	シルト	鐵土粒・カーボン粒呑込人	
				3層 10YR3/2 黑褐色	シルト	カーボン・カーボン粒呑込人	
SK 2	不整形	87×60	34.9	1層 10YR3/1 黑褐色	シルト	10YR4/4小ブロック状に石子呑込 地上段下・カーボン粒呑込人	
SK 3	楕円形	() × 82	51.2	1層 10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/6ブロックを多量に含む	
				2層 10YR2/3 黑褐色	シルト	カーボン粒少含む	
				3層 10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン粒多量に含む	
SK 4	小形	() × 42	20.7	1層 10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/6ブロックを多量に含む	
				2層 10YR2/2 黑褐色	シルト	カーボン粒少含む	
				3層 10YR2/3 黑褐色	シルト	カーボン粒多量に含む 石製品有	
SK 5	小形	55×33	40.5	1層 10YR2/2 黑褐色	シルト	石製品有り カーボン粒呑込人	
				2層 10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR2/1ブロックを上層に多量に含む カーボン粒少量含む	
				3層 10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/6ブロックを多量に含む	

SI03 床面施設観察表

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



遺物No.	登錄No.	出土地点	電位	種別	形狀	標記	文様の特徴	備考	参考図版No.
11-1	A-28	SI03		先史上器	伴器	褐色 (88灰)			写真43
11-2	A-29	SI03		先史上器	口縁部	赤褐色に多少、細目、光澤有り、開支			写真43
11-3	B-4	SI03							写真47
11-4	A-5	SI03	深谷						写真47
11-5	A-8	SI03		不定形石器	28.0	48.0	9.6	15.8	複数質貝器
11-6	A-6	SI03		剥片	84.0	25.0	.72	99.5	具化織貝器
11-7	A-7	SI03		不定形石器	72.0	45.0	.94	42.8	珠化織貝器

第11図 SI03出土遺物

SI04竪穴住居跡（第12図）

【位置】 G-1区が主体で、若干G-2区にかかっている。G-1区も南半部は市道沿いの杉などの樹木域となっていることからこれ以上の拡張は行なえず挖掘することができなかった。

【平面形・規模】 平面形は東西に長い長方形を呈している。住居跡の南西部分は調査区域外になっている。床面南東部分に地床炉を持っている。東西3.50m、南北2.85mを計る。東西辺で方向をみると、真北からN-20°-Wとなっている。

【堆積土】 堆積土はわずかに残っている程度であるが2層に分けられた。

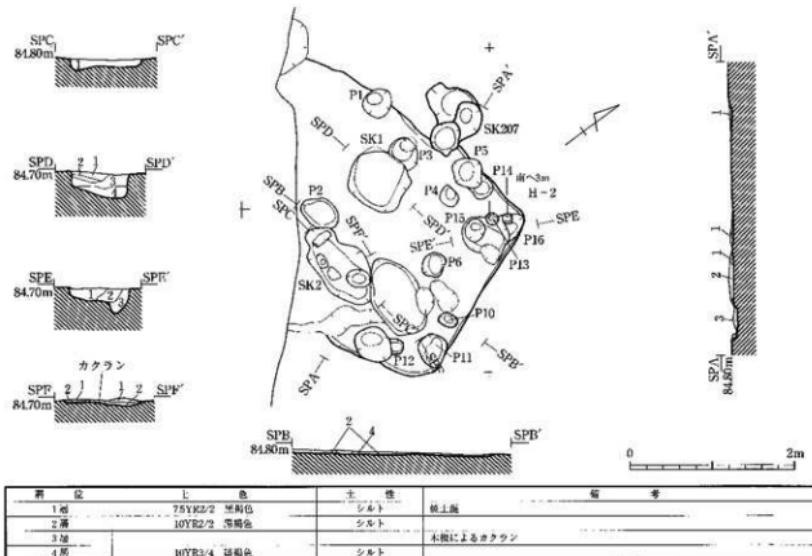
【壁面】 削平が著しく検出面からの深さは、2cm程度でしかない。

【床面施設】 底面は木板などによる擾乱がいちじるしい状況で、馬溝などの施設は検出されなかった。

【炉跡】 床面南東部に位置している地床炉で、長軸で100cm、短軸で60cmを計り、平面形は梢円形を呈している。炉の底面には若干の凹凸が認められる。堆積土は2層に分けられ、上面の焼土は2~5cm程と薄く堆積しており、焼土の下面は焼成による赤変、硬化はあまり進んではいなかった。

【土坑・ピット】 床面中央部に土坑2基と壁側に沿うような位置からピット13基が検出されている。SK1は70cm×70cmではほぼ方形のプランを呈する。床面から30cm程掘り込まれている。堆積土は4層に分けられ、埋土層は焼土層である。底面が東側に向かって傾斜している。SK2は炉跡の西側に接してあり、長軸110cm×短軸60cmで不整形プランを呈する。床面から10~15cm程掘り込まれている。堆積土は単層で、焼土・炭化物を若干含んでいる。底面にはピット状の細かな凹凸がみられる。土坑西壁にかかって石棒が出土している。

【出土遺物】 (第13図) 1・2は、表裏両面とともに側刃に簡単な二次加工が施されている剥片石器で、1は石核、2は不定形石器の欠損品である。3は、安山岩を用いた石棒と考えられるもので、特に加工は施されていないが、面取りされており断面形は長方形を呈している。

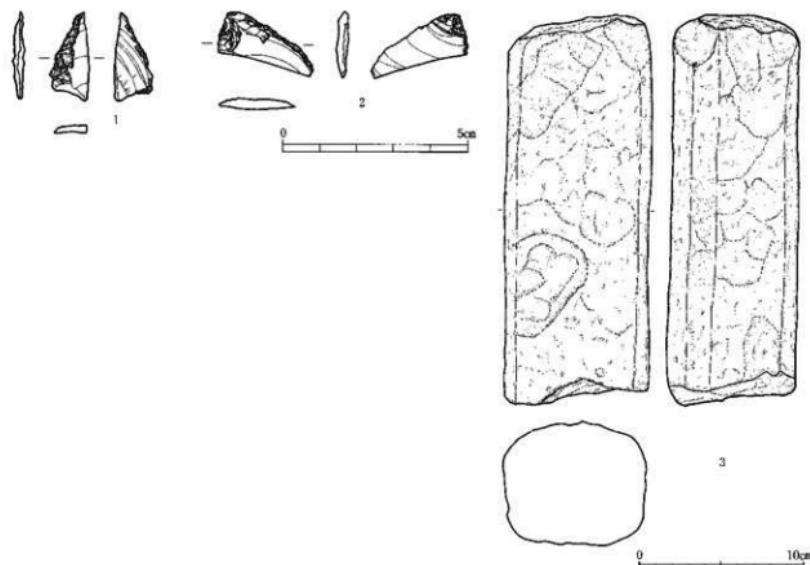


第12図 SI04竪穴住居跡

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）

遺物名	形 状	範囲 (長×幅cm)	厚さ (cm)	層位	上 色	下 性	備考
Pt1	円形	37×32	54.6	10YR2/2	本褐色	シルト	カーボン粒混入
Pt2	楕円形	47×36	10.4	10YR2/1	暗褐色	シルト	
Pt3	円形	()×37	38.5	10YR2/3	深褐色	シルト	
Pt4	小形卵	()×22	26.2	10YR2/1	暗褐色	シルト	焼土粒・カーボン粒混入
Pt5	不定形	40×35	68.7	10YR2/2	深褐色	シルト	焼土粒・カーボン粒混入
Pt6	椭円形	28×26	16.9	10YR2/2	深褐色	シルト	10YR2/6 幹子混入
Pt7						少	
Pt8						欠番	
Pt9						欠番	
Pt10	楕円形	24×16	22.0	10YR2/4	黒褐色	シルト	
Pt11	楕円形	()×36	20.9	10YR2/3	深褐色	シルト	カーボン粒混入
Pt12	円形	()×18	5.3	10YR2/2	深褐色	シルト	
Pt13	円形	36×15	6.3	10YR2/1	深褐色	シルト	
Pt14	円形	32×13	9.0	10YR2/3	黒褐色	シルト	
Pt15	楕円形	38×34	27.5	1層	10YR2/3	深褐色	シルト
				2層	10YR2/2	深褐色	10YR4/4ブロック状に混入 カーボン粒若干混入
Pt16	不明	()×32	12.4	10YR2/2	深褐色	シルト	10YR4/4ブロック状に混入 カーボン粒・焼土粒混入
SK-1	方形	()×23	26.8	1層	10YR2/3	深褐色	10YR4/4ブロック状に混入 カーボン粒若干混入
				2層	5 YM2/2	漆水褐色	シルト
				3層	10YR2/2	深褐色	被子織
				4層	10YR2/2	深褐色	シルト 10YR2/4 遷移に混入
SK-2	不定形	113×45	14.6	1層	10YR2/1	黒褐色	焼土粒・カーボン粒若干混入

SI04 床面施設観察表



試験No.	番号No.	出土場所	層位	断面	高 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考	写真回数No.
13-1	A-9	SI04		石塊	27.0	11.5	2.3	0.8	13化成灰岩		写真46
13-2	A-59		不定形石器	24.0	27.0	3.0	1.4	珪質頁岩		写真48	
13-3	H-6	SI04		石塊	28.0	88.0	61.0	272.0	安山岩		写真48

第13図 SI04出土遺物

SI07竪穴住居跡（第14図）

【位 置】 G-3区を中心として、若干G-2区にかかっている。

【平面形・規模】 斜面が著しく、床面や壁面もほとんど残っていない状況でありわずかに周辺の形状から方形のプランをもつ住居跡であることが推察された。想定は、周辺外側で東西350m、南北310mを計る。

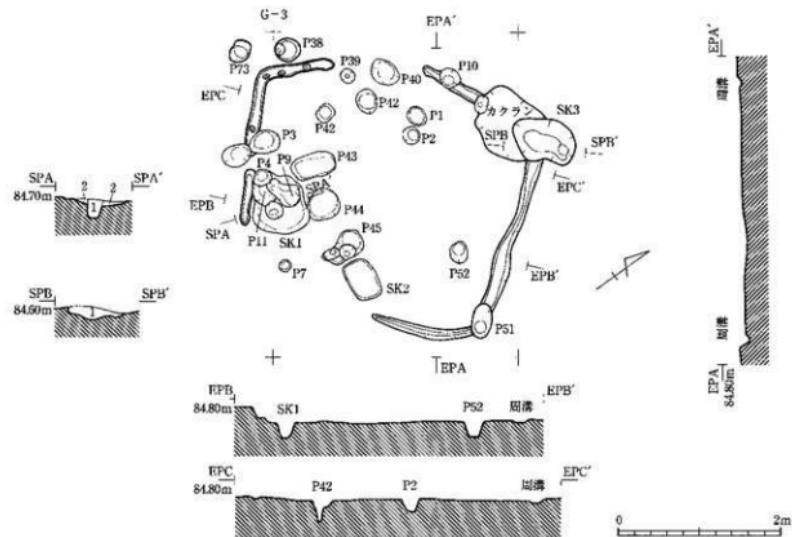
【堆積土】 岩漬の堆積土がわずかに残っている程度で、住居跡の堆積状況は不明である。

【床面施設】 削平が著しく、床面もほとんど残っていない状況で、検出された周溝も削平により途切れている部分もある。周溝は上幅で15cmで、深さは削平されていることもあり1~3cm程度でないかない。

【伊 跡】 灯跡は検出されなかった。

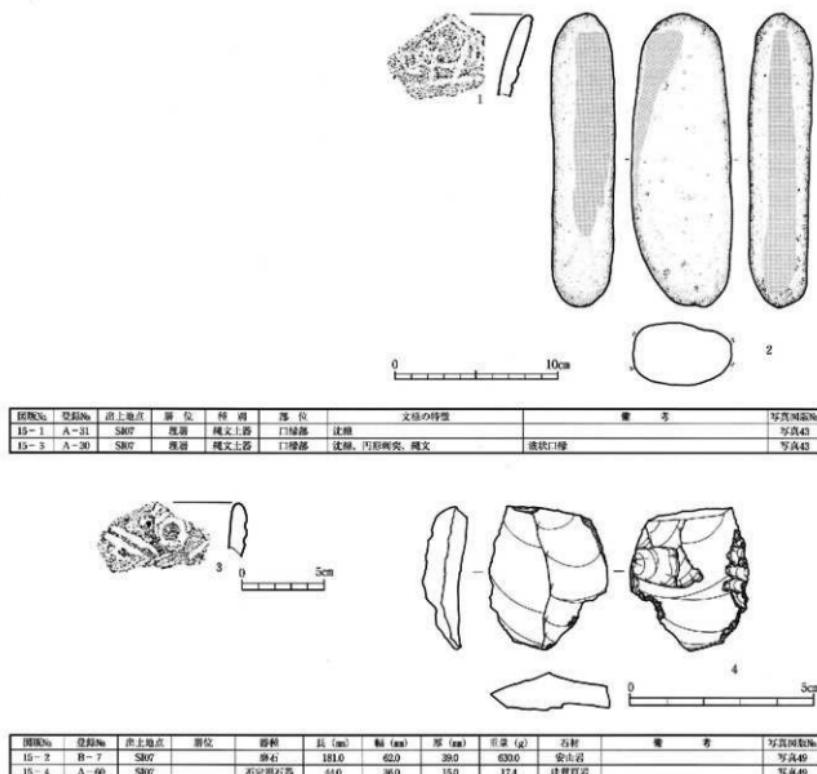
【土坑・ピット】 ピットは周溝に沿うような位置のものが多く、9基検出されている。径25cm前後の小型のものが多い。住居跡のプラン検出前に7基のピットを検出し調査しているが、これらのピットについても位置的にみて住居跡に伴う可能性が考えられる。

土坑は2基検出された。SK 1は複数のピットに切られているが、不整形のプランを呈し、底面にも凹凸がある。SK 2は削平により壁はほとんど残っていない。底面は平坦である。



標本名	形 級	幅員 (mm × 高さ · cm)	巣 (m)	巣上等級	上 色	上 性	備 考
Pt1	円形	26×22	36		10YR3/2 黒褐色	シルト	魂ナ カーボン混入
Pt2	円形	23×23	15.7		10YR2/2 黒褐色	シルト	カーボン混入
Pt3	椭円形	35×28	27.4		10YR2/2 黒褐色	シルト	カーボン+粘土混入
Pt4	円形	23×26	26.6		10YR2/2 黒褐色	シルト	カーボン+粘土鉱混入
Pt5							欠番
Pt6							欠番
Pt7	円形	14×14	5.8		10YR3/1 黒褐色	シルト	
Pt8							欠番
Pt9	不明	66×30	31.4		10YR2/2 黒褐色	シルト	地ナホ・カーボン鉱混入
Pt10	円形	27×24	48.6		10YR3/1 黑褐色	シルト	カーボン鉱混入
Pt11	不明	140×32	145		10YR2/1 黑褐色	シルト	カーボン+粘土鉱混入
SK 1	不整形	71×60	28.7	1号	10YR2/2 黑褐色	シルト	地ナホ・カーボン鉱混入
				2号	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/6 鉄入
SK 2	方形	30×35	1.4		10YR2/2 黑褐色	シルト	
SK 3	不整形	60×56	17		10YR2/2 黑褐色	シルト	礁ナブロック鉱入、10YR4/3鉄入

第14図 SI07豎穴住居跡



第15図 SI07出土遺物

【出土遺物】 (第15図) 図示できるものは土器の細片と石器のみである。2は、扁平な石の両側邊に磨面をもつ磨石で、3・4は、当初SI05とした東側の倒木痕の影響を受けている遺物である。

SI08竪穴住居跡 (第16図)

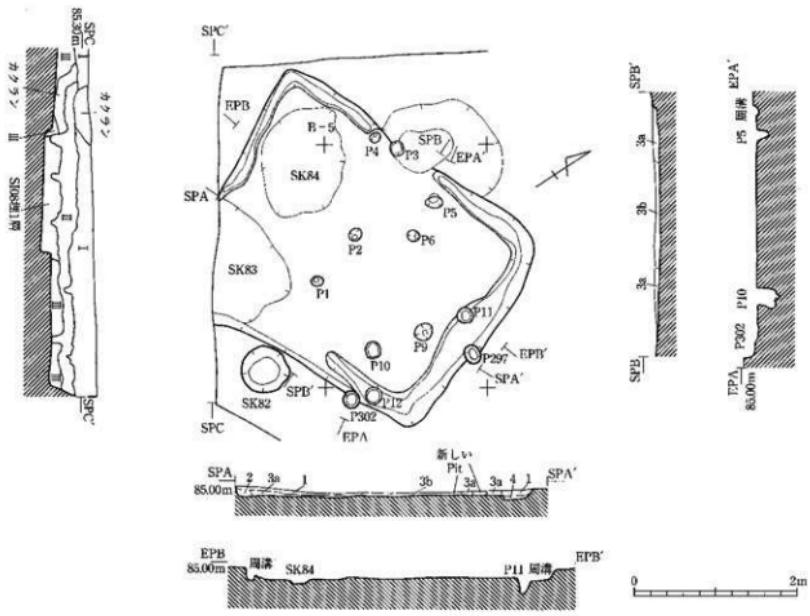
【位置】 調査区西端B-5区を中心として、A-4・5区、B-4区にまたがっている。SK83・84の2基の土坑に切られている。

【平面形・規模】 平面形は東西に長い長方形を呈している。住居跡の南西部分は調査区域外になっている。東西3.70m、南北3.00mを計る。南北辺で方向をみると、真北からN-18°-Wとなっている。

【堆積土】 5層に分けられたが、4層は周溝の堆積土である。

【壁面】 検出面からの深さは、東壁で10cm前後、西壁で6~10cm、南壁で11~16cm、北壁で3~10cmを計る。

【床面施設】 小型のピットが検出された他に、土坑やガルなどの施設は検出されていない。周溝は北・南辺の一部に途切れている部分もあるが床面をほぼ巡っている。周溝の規模は、東壁で幅30~50cm、深さ10~16cm、



切 倍	上 位	性 品	下 位
1 倍	10YR2/1	暖褐色	シルト カーボン熟成人
2 倍	10YR2/2	暖褐色	シルト 10YR2/2暖褐色ブロック状に混入
3a倍	10YR2/2	暖褐色	シルト 南北セメント10YR2/2に近い色調入
3b倍	10YR2/2	暖褐色	シルト 10YR2/2暖褐色。中央部は下部にカーボン熟成人
4 倍	10YR2/3	深褐色	シルト カーボン熟成干土

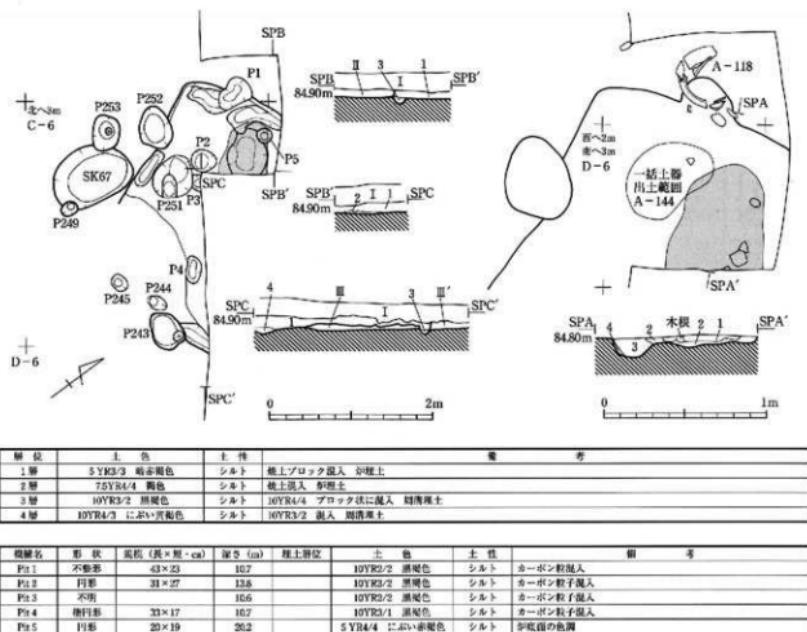
品種名	形 状	根幅 (cm × cm)	株高 (m)	埋土耐性	生 長	上 位	備 考
Pt1	円形	13×14	29.7	10TR2/2 黒褐色	シルト		
Pt2	円形	15×14	30.5	10TR2/3 黒褐色	シルト		
Pt3	円形	17×16	22.1	10TR2/2 黒褐色	シルト	カーボン粒着子脱入	10VR1/3脱入
Pt4	円形	13×13	39.0	10TR4/1 黒褐色	シルト	ボンゴンでしまり無し	
Pt5	楕円形	22×15	13.7	10TR2/2 黒褐色	シルト		
Pt6	円形	15×13	50.0	10TR2/2 黒褐色	シルト	カーボン粒脱入	
Pt7					矢垂		
Pt8					矢垂		
Pt9	円形	21×21	34.0	10TR3/1 黑褐色	シルト	カーボン粒脱入	
Pt10	円形	20×18	39.6	10VR2/1 黑褐色	シルト	カーボン粒脱入	
Pt11	円形	16×18	22.2	10TR3/1 黑褐色			
Pt12	円形	20×20	24				

第16図 SI08竪穴住居跡



固有番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部位	文様の特徴	備考	写真回数
17-1	A-32	ST08		織文十四	体部	LR織文		写真43

第17図 SI08出土遺物



第18図 SI09堅穴住居跡

西壁で幅10~20cm、深さ6~14cm、南壁で幅20~30cm、深さ6~18cm、北壁で幅20~30cm、深さ8~12cmを計る。

【柱穴・ピット】 住居跡に伴うと考えられるピットは計12基検出されているが、いずれも小型のもので、位置、形状などからみて柱穴と考えられるものはない。これらのピットの大きさは、径13~22cm程度の円形のもので、深さも周溝底面で検出されたものを除くと13~40cmの範囲に入る。

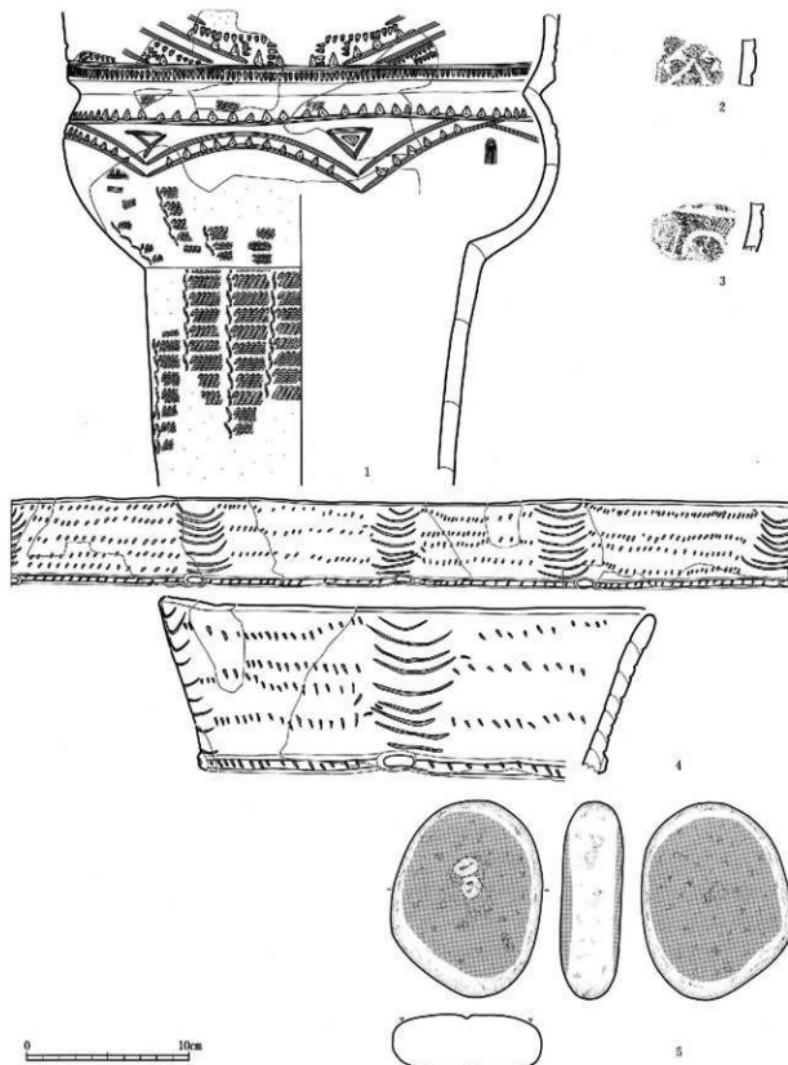
【出土遺物】 (第17図) 図示できる資料は土器の体部の細片1点のみであった。

SI09堅穴住居跡 (第18図)

【位 置】 C-6区に中心をおいて、一部B-6区にかかっている。調査区北壁にかかってまとまった遺物がみられたことから調査区を拡張したところ、が跡と考えられる焼上遺構や周溝の一部などが検出されたことから住居跡としたが、残存状況も悪く、拡張の範囲も小さいこともあって住居跡の全体を把握することはできなかった。

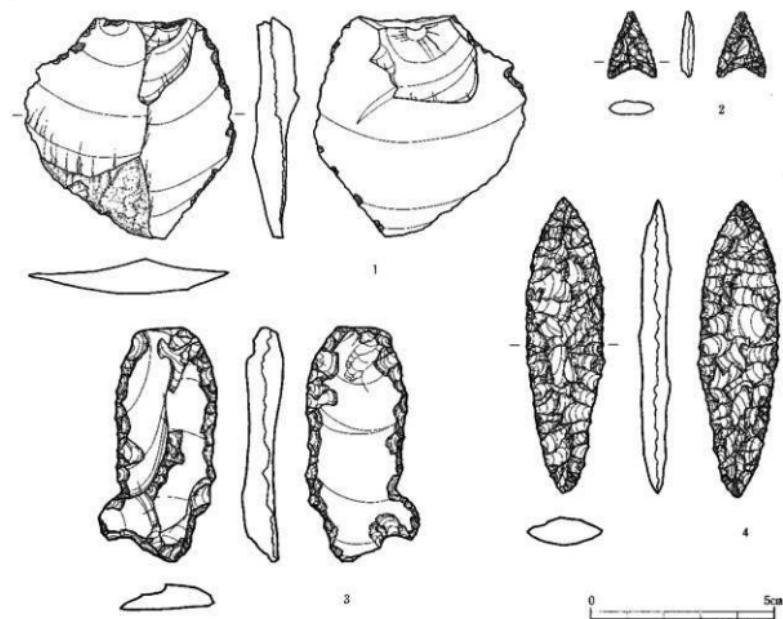
【平面形・規模】 住居跡北西壁のコーナーの一部と南側で周溝の一部を検出しているだけであるが、方形のプランを呈すると思われる。規模については、推定で南北3.00m、東西は2m以上になると思われる。南北辺で方向をみると、真北からN-20°-Wとなっている。

【堆積土】 調査区の壁面での観察で、堆積土は単層で、床面に焼土が拡がっていた。



第19図 SI09出土遺物（1）

測量No.	発見No.	出土地点	層位	施	測	測	測	文様の特徴			指	参考	実物写真No.
								施	測	測			
19-1	A-114	SI09		施文土器	山形一牛頭	波紋、施文波、縞刷（片前ノフー縞）						写真44	
19-2	A-35	SI09	埋	施文土器	牛頭	波紋、施文						写真44	
19-3	A-34	SI09	埋	施文土器	牛頭	波紋、L字網文						写真44	
19-4	A-118	SI09		施文土器	口縁部	波紋、山形文						写真44	
19-5	B-45	SI09	埋土上	青石	123.0	94.0	28.5	590.0	安421			写真51	



第20図 SI09出土遺物（2）

【壁面】 削平により検出面からの深さは、西壁、北壁ともに3cm前後しかない。

【床面施設】 住居跡の推定範囲のうち南西部の床面は削平により残っていない。部分的に周溝の残存と思われる浅いくぼみ部が検出される。残存する周溝の規模は、西壁で幅20cm、深さ5cm、南壁で幅20~25cm、深さ4cm、北壁で幅10~25cm、深さ7~10cmを計る。

【炉跡】 北壁側に地床炉と考えられる焼土遺構が検出されている。検出された焼土遺構は、東西幅50cm、南北軸70cm以上の楕円形のプランを呈すると思われる。床面から3cmほど掘り込まれている。堆積土は2層に分けられ、上面の焼土は5cm程堆積しており、焼土の下面の焼成による赤変、硬化はあまり進んでいなかった。

【柱穴・ピット】 ピットは5基検出されているが、削平の影響もあり全体の構成については不明である。

【出土遺物】 (第19・20図) 炉跡の西に接する80×120cmの範囲と、住居北壁にかかる位置から、一括土器2個体分が出土している(第19図1・4)。第19図5は磨凹石で、両面に磨面と片面に凹部をもっている。第20図2は、基部が四基となる無茎縁、3は、石匙で打面を残しながら側縁に粗い二次加工を施して刃部を造り出している。両側刃から挟りを入れてつまみ状の凸部をもっている。4は柳葉形状の石槍で表裏全面に細かな二次加工が施されている。

(2) 土坑 (第21~29図)

土坑は調査区のほぼ全域にわたって約120基が検出されている。平面の形状については、細かく細分していくば様々な形状のものがあると思われるが、大きく次の5種に大別している。

- | | |
|----------------|-----------------|
| A : 円形を基準とするもの | B : 楕円形を基準とするもの |
| C : 方形を基準とするもの | D : 長方形を基準とするもの |
| E : 不整形となるもの | |

本來すべての上坑について記述すべきであるが、ここでは特徴的な土坑について取り上げることとし、個々の遺構については平面図及び観察表を参照されたい。

SK2~6 (第21図) G-2・3区、SI07の南側に位置している。5基の上坑ともに径70~80cmと小型のもので、平面形はほぼ円形を呈している。いずれの上坑も埋土中に焼土や炭化物が多く混入している。特にSK2・6については、埋土中に焼土が多量に混入している。

SK10 (第21図) H-4区に位置している。調査区南端に全体の1/2程度かかっているが、平面形は椭円形を呈すると思われる。SK203を切っている。土坑プラン検出時に深鉢土器一個体 (第31図1) と、埋土中から30cm大的周縁のある比較的大型の石皿が出土している (第38図1)。

SK16 (第22図) G-5区に位置している。平面形は円形を呈すると思われる。埋土は単層であるが、上層に焼土の混入がみられた。底面から径15~25cm大的ビット7基が検出されている。

SK17 (第22図) G-5区に位置している。平面形は円形を呈し、断面形は袋状を呈している。埋土は4層であるが、1・3層に焼土粒と炭化物粒の混入がみられた。遺構検出時、土坑上面西側からアメリカ式石器 (第33図7) が出土している。埋土3層の上面に近い底面から20cmのレベルで、口縁部と底部を欠く土器が横位の状態で出土している (第31図4)。この土器とは同レベルで東壁に接する位置に40cm大的自然石が出土している。両極剥離のある楔形石器2点とその接合資料5点が集中出土している (第40・41図)。

SK18 (第22図) G-5区に位置し、SK205に切られている。平面形は円形を呈する。底面のほぼ中央に径40cm大的ビットがあり、底面から30cm程掘り込まれている。両極剥離のある楔形石器が1点出土している (第40図A-72)。

SK19 (第22図) G-5区に位置している。平面形は円形を呈し、埋土は2層に分かれている。周辺に位置するSK16~18・21とはほぼ同規模の上坑である。両極剥離のある楔形石器が1点出土している (第40図A-73)。

SK21 (第22図) H-5区に位置している。平面形は円形を呈し、断面形は袋状を呈している。埋土は3層に分けられるが、埋土の観察からは自然堆積というよりは人為的なものである可能性が高い。SK17と同様、埋土中に焼土・炭化物粒が多く混入しているが、特に埋土2層には大量の焼土・炭化物が入っている。埋土2層の上面に近いレベルで、西壁に接するように扁平な自然石と、厚さ3.5cmで表面が平滑に研かれて長方形に加工されている石が「一」形に組まれたような状態で出土している (第37図5／第39図1)。ほぼ同レベルで周縁をもつ石皿が3点出土している (第38図2・3／第39図2)。

SK24 (第23図) F-5区に位置している。平面形は椭円形を呈し、3基のビットに切られている。埋土中に焼土を多く混入している。検出の記録のみで掘り込みはおこなわなかった。

SK25 (第23図) F-5区に位置している。平面形は長方形を呈している。埋土は3層に分けられるが、埋土中に焼土・炭化物粒が多く混入しており、特に埋土1層は炭の集積層となっている。壁面及び底面は焼成により亦変硬化していた。出土遺物がないことから時期的なものはわからないが、埋土の状況からはそれほど古い時期のものではないと思われる。

SK28 (第23図) F-5・6区に位置している。平面形は長方形を呈し、規模は340cm×150cm、深さ40cmを計る。当初は2基の上坑の重複と考えたが調査の結果同一のものと理解された。埋土は単層で、埋土の観察からは白

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）

然堆積というよりは人為的なものである可能性が高い。底面には若干の凹凸がみられ、わずかに東へ傾斜している。とくに出土遺物はなかった。

SK47（第24図） G-7区に位置している。平面形は長方形を呈し、規模は290cm×150cm、深さ20cmを計る。埋土は単層で、埋土の観察からは自然堆積というよりは人為的なものである可能性が高い。底面はほぼ平坦で凹凸はみられない。規模や形状、埋土の状況、出土遺物のない点などがSK28と似ていることから同様の遺構と考えられる。

SK54（第25図） G-8区に位置し、調査区北壁に全体の1/2程度かかっている。平面形は円形を呈し、断面形は袋状を呈している。埋土は4層であるが、1・2層に焼土粒と炭化物粒の混入がみられた。

SK69（第27図） BC-5区に位置し、SK70に切られている。平面形は円形を呈し、断面形は袋状を呈している。埋土は3層であるが、1層に焼土粒と炭化物粒の混入がみられた。

SK70（第27図） BC-5区に位置している。平面形は長方形を呈している。埋土は2層に分けられるが、埋土中に焼土・炭化物粒が多く混入しており、特に埋2層は炭の集積層となっている。壁面下部及び底面は焼成により赤変硬化していた。出土遺物がないことから時期的なものはわからないが、埋土の状況からSK25と同様の遺構と考えられる。

SK86（第28図） H-4区に位置し、調査区東壁に全体の1/2以上かかっている。平面形は長楕円形を呈し、長軸100cm以上、短軸40cm、深さ60cmを計る。長軸方向での断面形は袋状を呈し、底面の幅は最大で10cm程度しかなく、水平ではない。埋土は4層に分けられる。周辺の遺構調査終了後、下層調査にあわせて断ち割りを行い底面を検出している。

【出土遺物】（第30～39図） 土坑から出土した遺物には、繩文土器・土製品（第30～32図）・剥片石器（第33～35図）・砾石器・石製品（第36～39図）などがある。第33図1～5は石錐で、基部が凹基無茎錐のもの、6は石錐、7はアメリカ式石錐である。第35図4は磨製石斧の表面の欠落したものとおもわれる。第35図5は表面を平滑に研いた石製品で、平面形は長軸3.8cmのほぼ円形を呈している。ほぼ中央にあけられた穴は径8mmを計り、両側から穿かれている。断面形は扁平で厚さ15.9mmを計る。石材には珪化凝灰岩をもちいている。第36～39図は砾石器・石製品で、凹石3点、磨凹石5点、磨石5点、石製品1点、石皿4点、盤状の石1点を示している。

（3）ビット

ビットは調査区のはば全域にわたって計308基が検出されている。これらの中には、いくつかのビット列を構成するものもあるが、明確に建物跡と認定できるものはなかった。

調査にあたっては、ビットの形状や埋土にいくつかの分類基準をもうけたうえで掘り込みを行い記録をとっている。詳細については、検出された位置（グリッド名称）、形状、大きさ、埋土について集計表にまとめてあるので参照されたい。

【形状分類】

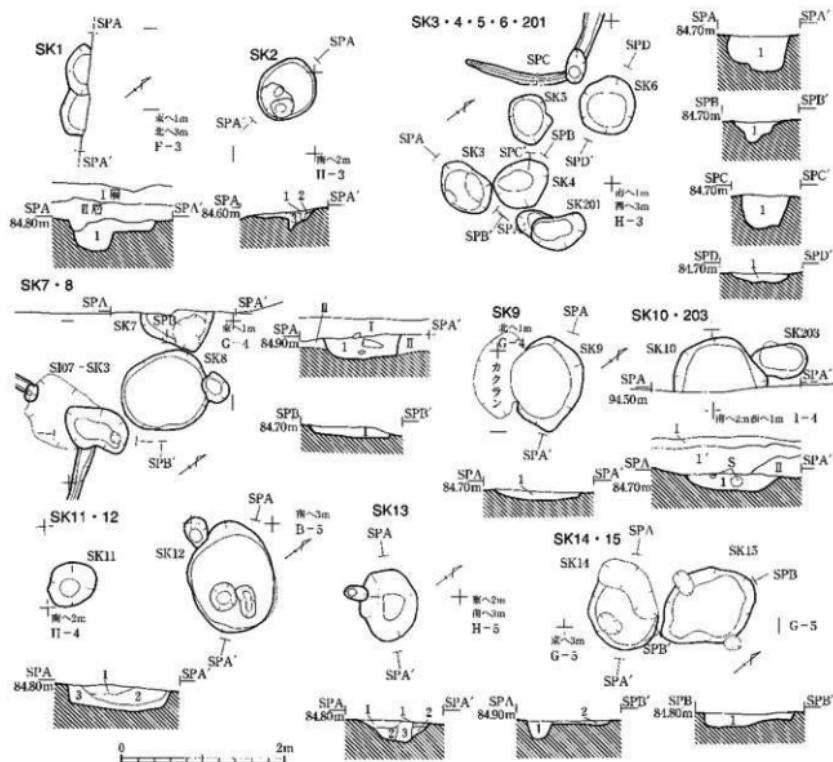
細かく細分していくば様々な形状のものがあると思われるが、大きく次の4種に大別している。

- | | |
|----------------|-----------------|
| A : 円形を基調とするもの | B : 楕円形を基調とするもの |
| C : 方形を基調とするもの | D : 不整形となるもの |

【埋土分類】

形状と同様に、大きく次の6種に大別している。

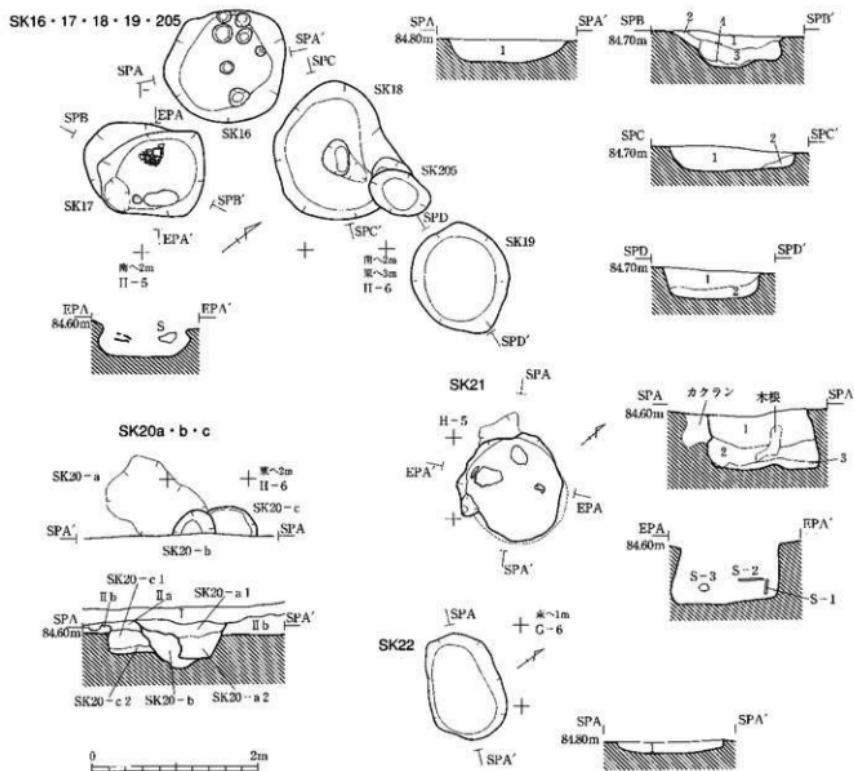
- | | | |
|----------------|-----------------|----------------|
| A : 10YR2/2黒褐色 | B : 10YR3/2黒褐色 | C : 10YR2/3黒褐色 |
| D : 10YR3/1黒褐色 | E : 7.5YR2/2黒褐色 | F : 10YR2/1黒褐色 |



遺構名	位置(Ghd)	平面形	測定(長×幅・cm)	壁高(cm)	埋土色	上色	土色	備考
SK1	F-2区	-	112×()	39.1	1層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
SK2	G-2区	A	80×72	42.3	1層 10YR3/1E 10YR4/3のブロック層		シルト	
					3層 7.5YR4/3 黒褐色		シルト	
					3層 10YR4/3 にれい黄褐色		シルト	
SK3	G-3区	E	76×56	46.6	1層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
SK4	G-3区	A	66×36	20	1層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
SK5	G-3区	B	63×50	43.2	1層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
SK6	G-3区	A	72×68	12.4	1層 10YR3/4 黒褐色		シルト	
SK7	G-3区	-	90×()	11.5	1層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
SK8	G-3区	A	106×90	17.6	1層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
SK9	G-4区	-	118×()	17.2	1層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
SK10	H-1区	-	113×()	15.8	1層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
SK11	G-4区	B	61×53	17.3	1層 10YR4/4 灰褐色		シルト	
SK12	G-4区	B	136×101	26	1層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
					2層 10YR3/4 黒褐色		シルト	
					3層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
					3層 10YR2/3 黒褐色		シルト	
SK13	G-4区	B	89×68	28	1層 10YR2/3 黒褐色		シルト	
					2層 10YR3/2 黑褐色		シルト	
					3層 10YR2/2 黒褐色		シルト	
SK14	F-4区	-	96×()	9.1	1層 10YR2/3 黑褐色		シルト	
					2層 10YR3/2 黑褐色		シルト	
					3層 10YR2/3 黑褐色		シルト	
SK15	F-4区	E	127×98	23.4	1層 10YR3/2 黑褐色		シルト	
SK201	G-3区	E	84×40	46.9	1層 10YR3/3 黑褐色		シルト	

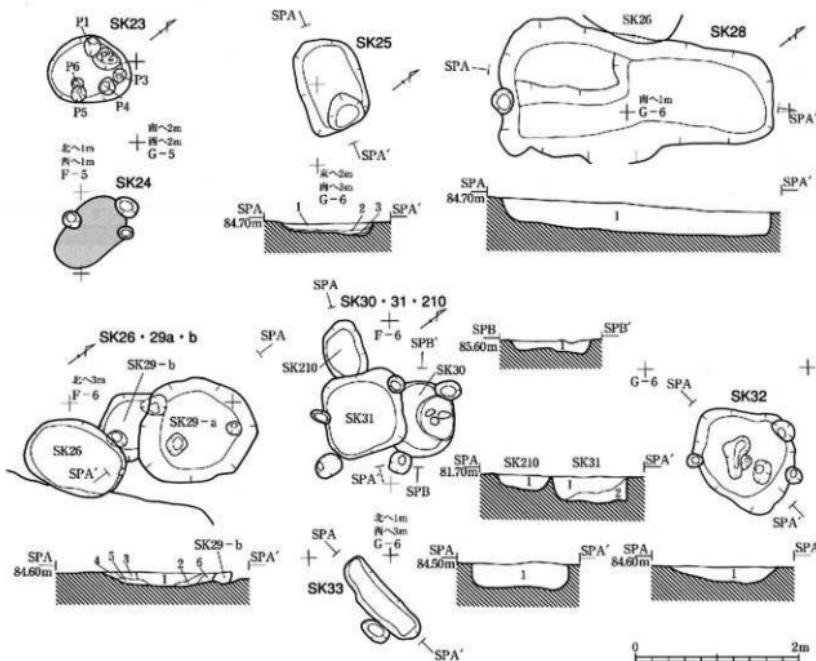
第21図 土坑(1)

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



通 動 名	実装 (Gnd)	Y形側	鏡側 (長×幅×cm)	荷重 (kg)	壁上位置	十 色	上 性	特 考
SK16, PH1-8	G - 5 区	C	154×138	52.7	1層 1層	10YR2/2 黒褐色 10YR2/2 黑褐色	シルト シルト	
SK17	G - 5 区	E	150×116	51.6	1層 2層 3層	75YR4/3 黄褐色 10YR4/2 暖褐色 10YR4/2 黑褐色	シルト シルト シルト	
					4層	10YR4/4と10YR4/4のブロック層	シルト	
SK18	G - 5 区	E	170×147	53.7	1層 2層	10YR2/3 黑褐色 10YR4/4と10YR2/3のブロック層	シルト シルト	
SK19	G - 5 区	B	136×117	36.7	1層 2層 3層	10YR1/1 黑褐色 10YR2/2 黑褐色 10YR2/2 黑褐色	シルト シルト シルト	
SK20-a	H - 5 区	-	84×()	32.9	1層 2層	10YR2/3 黑褐色 10YR2/3 黑褐色	シルト シルト	
SK20-b			30×()	32.7	1層	10YR2/2と10YR5/6のブリック	シルト	
SK20-c			66×()	26	1層 2層	10YR2/2 黑褐色 10YR1/1 黑褐色	シルト シルト	
SK21	H - 5 区	A	130×122	75.1	1層 2層 3層	10YR1/1 黑褐色 10YR2/1, 10YR5/6とブロック壁に混 10YR2/6と10YR3/1のブロック層	シルト シルト シルト	
SK22	G - 5 区	B	132×91	15.9	1層	10YR2/3 黑褐色	シルト	

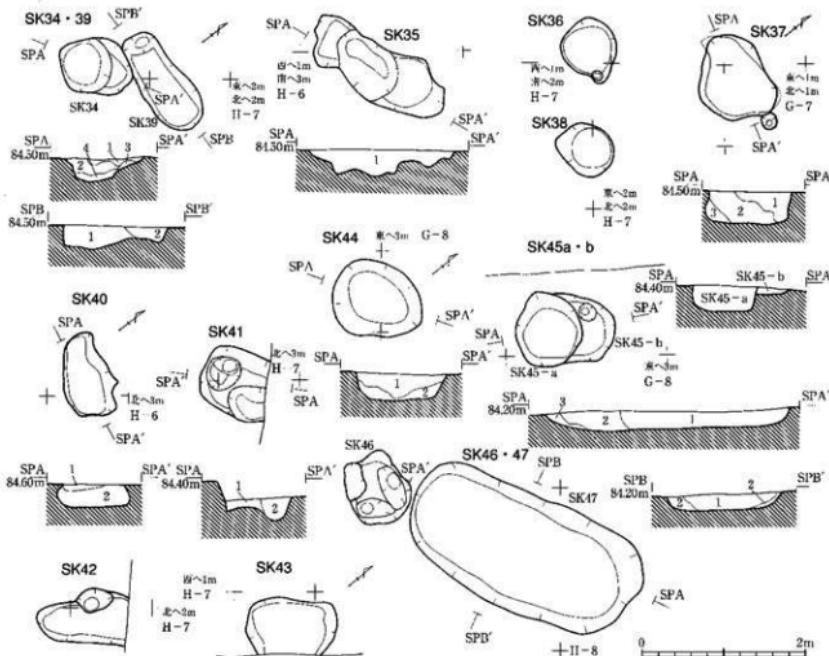
第22図 土坑(2)



地塊名	位置 (Grid)	平面図	断面 (長×幅×厚)	壁高 (cm)	堆土層位	土 色	土 性	標 種
SK23	F-5区	B	103×82	42.4	1層 107R3/2 黒褐色	シルト		
SK25 - P1					1層 107R2/2 黒褐色	シルト		
SK25 - P2					1層 107R2/1 黒褐色	シルト		
SK25 - P3					1層 107K2/2 黒褐色	シルト		
SK25 - P4					1層 107K2/2 黒褐色	シルト		
SK25 - P5					1層 107K2/1 黒褐色	シルト		
SK25 - P6					1層 107K2/2 黒褐色	シルト		
SK24	F-5区	B	102×64	39	底上			
SK25	F-5区	D	116×80	21	1層 107K2/2, 107R1/1 2層 107R2/3, 107R7/1の木炭集積のブロックを多量に含む 3層 107R2/3, 107R5/6黒褐色のブロック層	シルト		
SK26	F-6区	B	124×87	61	1層 107R2/2 黒褐色	シルト		
SK26	F-5+6区	E	340×166	51.8	1層 107K2/1, 107R4/4のブロック層	シルト		
SK29-a	F-6区	E	129×()	42.4	1層 107Y2/3 黒褐色	シルト		
SK29-b		E	82×82	37.8	1層 107Y2/2 黒褐色	シルト		
SK30	F-5+6区	E	92×()	45.8	1層 107Y2/2 黑褐色	シルト		
SK31	F-5+6区	C	96×97	32.2	1層 107Y2/2 黑褐色	シルト		
					2層 107Y2/2 黑褐色	シルト		
SK32	G-6区	E	144×118	69.8	1層 107Y2/2 黑褐色	シルト		
SK33	G-6区	D	124×39	29.7	1層 107R2/2 黑褐色	シルト		
SK34	F-5+6区	B	49×()	19.7	1層 107R2/2 黑褐色	シルト		

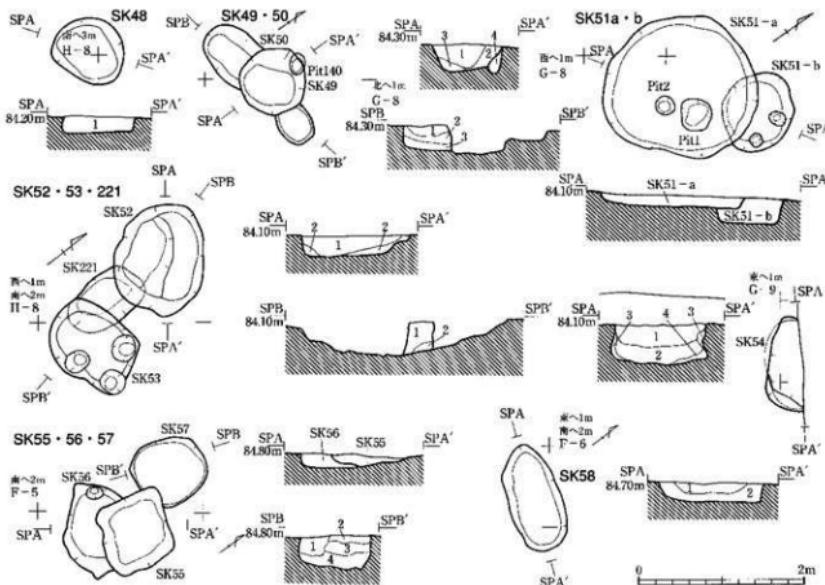
第23図 土坑 (3)

I 八木山銀町道路（第1・2次調査）



地図名	位置 (Grid)	平面図	断面 (高×幅, cm)	深度 (cm)	壁上土色	上色	土性	備考
SK34	H-6区	E	96×71	27	1層 10YR4/1 黒褐色		シルト	
				2層 10YR3/2 黑褐色		シルト		
				3層 10YR3/2, 10YR5/6 ブロック層		シルト		
				4層 10YR3/2 黑褐色		シルト		
				5層 10YR3/2, 10YR5/6 ブロック層		シルト		
SK35	G-6区	E	170×50	45.3	1層 10YR5/3 黑褐色		シルト	
SK36	G-7区	A	72×68	25.9	1層 10YR2/2 黑褐色		シルト	
SK37	G-6区	E	106×58	42.3	1層 10YR2/2 黑褐色		シルト	
				2層 10YR2/2 10YR5/6 ブロック層		シルト		
SK38	H-6区	A	70×58	28.9	1層 10YR2/2 黑褐色		シルト	
SK39	H-6区	D	134×56	27.4	1層 10YR2/2 黑褐色		粘質シルト	
SK40	H-5区	E	106×52	30.5	1層 10YR2/2 黑褐色		シルト	
SK41	H-6区	-	82×()	69.4	1層 10YR2/2 黑褐色		シルト	
				2層 10YR1/3・10YR2/2 ブロック層		シルト		
SK42	H-6区	-	66×()	24.2	1層 10YR2/2 黑褐色		シルト	
SK43	H-7区	-	110×()	15.2	1層 10YR2/3 内輪側色		シルト	
SK44	G-7区	A	116×86	36.1	1層 10YR2/2 黑褐色		シルト	
				2層 10YR2/2, 10YR5/6 ブロック層		シルト		
SK45-a	F-7区	A	92×82	32.3	1層 10YR2/2 黑褐色		シルト	
SK45-b	F-7区	-	76×()	15.8	1層 10YR5/6・10YR2/1 ブロック		シルト	
SK46	G-7区	E	92×76	25.6				
SK47	G-7区	D	302×142	24.3	1層 10YR2/2 黑褐色		シルト	
				2層 10YR2/2 黑褐色		シルト		
				3層 10YR3/4 黑褐色		シルト		

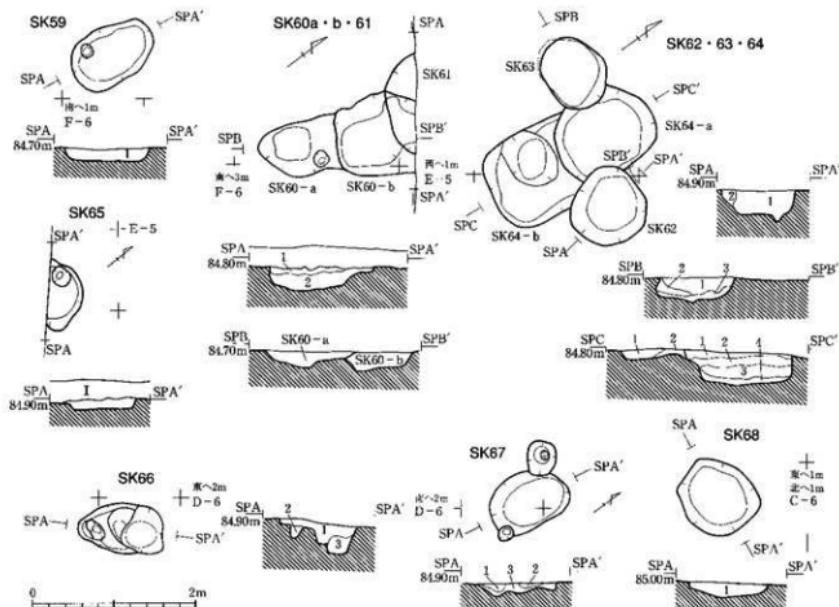
第24図 土坑 (4)



地 坂 名	位置 (Ghd)	平面形	実測 (長×幅×高 cm)	壁高 (cm)	堆上高	土	色	土 性	備 考
SK48	G-7区	A	88×78	20.5	1層	10YR3-2	暗褐色	シルト	
SK49	G-7区	A	92×82	25.6	1層	10YR2-2	黒褐色	シルト	
				2.3	10YR3-2	暗褐色	シルト		
				3.0	10YR2-2	黒褐色	シルト		
				4.5	10YR2-2	暗褐色	シルト		Pit140付近
SK50	G-7区	-	59×()	31.8	1層	10YR2-2	暗褐色	シルト	
				2.0	10YR2-2	黒褐色	シルト		
				3.0	10YR2-2	暗褐色	シルト		
				4.0	10YR2-2	暗褐色	シルト		
SK51-a	G-8区	A	185×170	42.2	1層	10YR2-2	暗褐色	シルト	
SK51-a・Pit1				1.0	10YR2-2	暗褐色	シルト		
SK51-b	G-8区	-	100×()	45.2	1層	10YR2-2	暗褐色	シルト	
SK52	G-8区	A	136×160	48	1層	10YR2-2	暗褐色	シルト	
				2.0	10YR4-2	にふい黄褐色	シルト		
SK53	G-8区	C	112×80	43.4	1層	10YR2-2	暗褐色	シルト	
SK54	G-8区	-	116×()	45.3	1層	10YR2-2	黒褐色	シルト	
				2.0	10YR2-2	黒褐色	シルト		
				3.0	10YR2-2-1	10YR4-6 ブロック層	シルト		
				4.0	10YR2-1	黒褐色	シルト		
SK55	E-3区	C	90×82	14.4	1層	10YR2-1	黒褐色	シルト	
SK56	E-3区	-	116×()	22.3	1層	10YR2-1	黒褐色	シルト	
SK56・Pit1				1.0	10YR2-1	黒褐色	シルト		
SK56・Pit2				1.0	10YR2-2	暗褐色	シルト		
SK56・Pit3				1.0	10YR2-2	暗褐色	シルト		
SK57	E-5区	A	94×84	37.5	1層	10YR2-2	暗褐色	シルト	
				2.0	10YR2-2	暗褐色	シルト		
				3.0	10YR3-1	暗褐色	シルト		
				4.0	10YR4-1-10YR4-6 ブロック層				
SK58	E-5区	B	134×65	36	1層	10YR2-3	暗褐色	シルト	
				2.0	10YR2-3	暗褐色	シルト		
SK221	G-8区	D	60×()	39.3	1層	10YR2-2	暗褐色	シルト	
				2.0	10YR2-2	暗褐色	シルト		

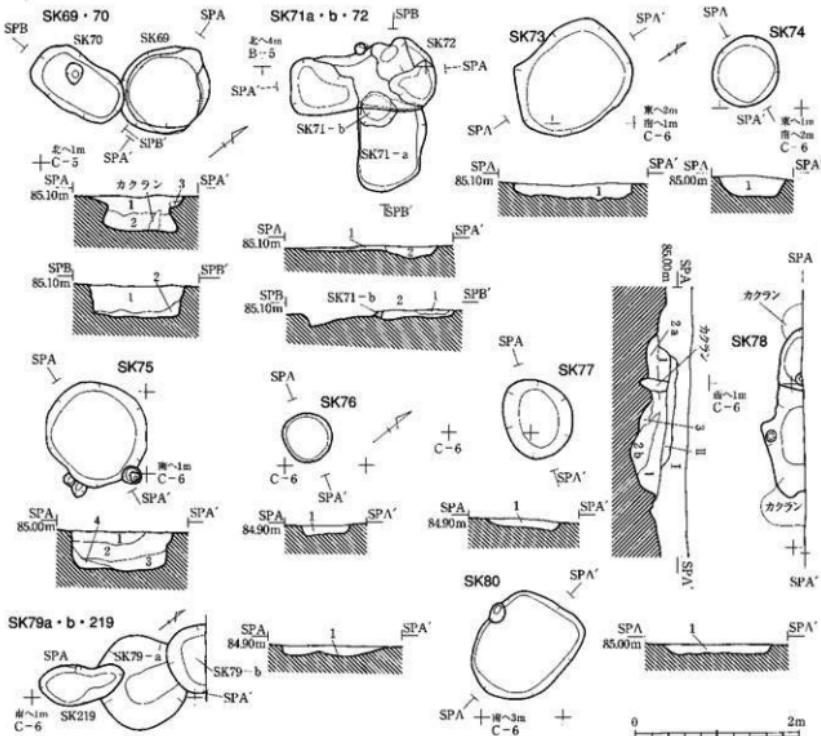
第25図 土坑 (5)

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



施設名	位置 (Gobd)	平面形	規模 (長×幅×高・cm)	壁高 (cm)	厚さ (cm)	土	色	特	性	備考
SK59	E-6区	B	108×70	257	1層	J0V R3/2	黒褐色	シルト		
SK60-a	E-6区	-	74×()	335	1層	J0V R2/3	黒褐色	シルト		
SK60-b	E-6区	-	124×()	20	1層	J0V R2/2	黒褐色	シルト		
SK61	E-6区	-	124×()	20	1層	J0V R2/1	黒色	シルト		
SK62	D-E-5区	A	98×92	319	1層	J0V R2/2	黒褐色	シルト		
SK63	D-E-5区	B	92×72	323	1層	J0V R2/2	黒褐色	シルト		
SK64-a	D-E-5区	C	122×()	411	1層	J0V R3/1	黒褐色	シルト		
					2層	J0V R2/3	黒褐色	シルト		
					3層	J0V R2/2	黒褐色	シルト		
					4層	J0V R3/4	暗褐色	シルト		
SK64-b	D-E-5区	-	112×()	301	1層	J0V R3/3	暗褐色	シルト		
					2層	J0V R3/2	黒褐色	シルト		
SK65	E-4区	-	84×()	245	1層	J0V R3/1	黒褐色	シルト		
SK66	D-5区	E	104×62	435	2層	J0V R2/2	黒褐色	シルト		
					3層	J0V R2/3	黒褐色	シルト		
					2層	J0V R2/2	黒褐色	シルト		
SK67	C-6区	B	98×69	137	1層	J0V R3/2	黒褐色	シルト		
					2層	J0V R2/2	黒褐色	シルト		
					3層	J0V R3/3	暗褐色	シルト		
SK68	C-5区	A	100×90	213	1層	J0V R2/1	黒色	シルト		

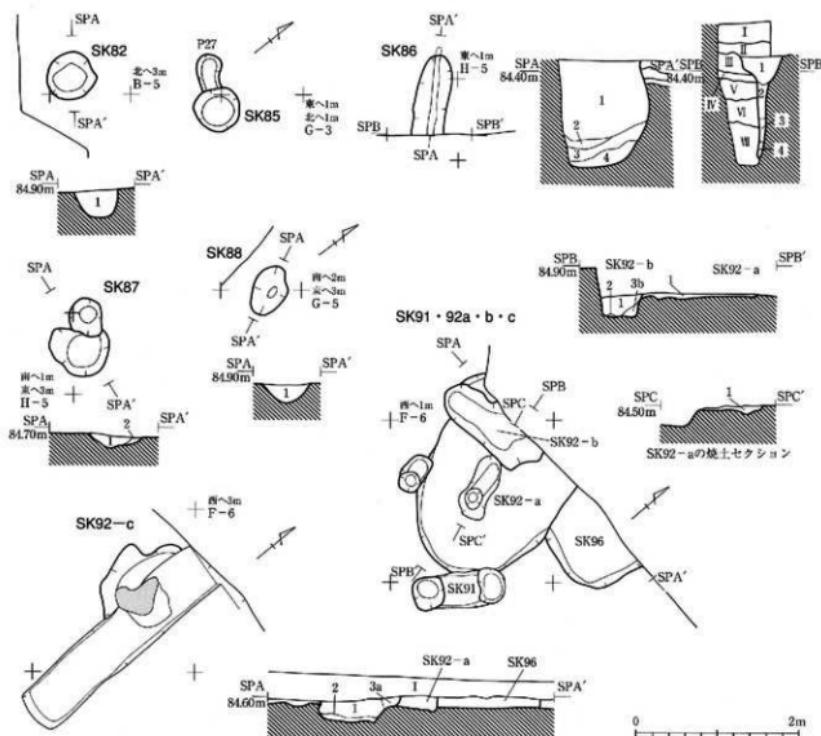
第26図 土坑 (6)



番号名	位置 (Grid)	平面形	規模 (真丈×横) (cm)	深度 (cm)	sondage (土質)	土性 (色)	土性 (色)
SK69	B-C-5区	A	115×106	45.0	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR3-2 黑褐色 3層 10YR4-3 剥色 4層 10YR2-2 黄褐色 5層 黄褐色	シルト	シルト
SK70	B-C-5区	D	118×67	55.6	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR3-2 黑褐色 3層 10YR4-3 剥色 4層 10YR2-2 黄褐色 5層 黄褐色	シルト	シルト
SK71-a	B-5区	-	80×()	29.6	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR3-2 黑褐色 3層 10YR4-3 剥色 4層 10YR2-2 黄褐色 5層 黄褐色	シルト	シルト
SK71-b	B-5区	-	43×()	14.6	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR3-2 黑褐色 3層 10YR4-3 剥色 4層 10YR2-2 黄褐色 5層 黄褐色	シルト	シルト
SK72	B-5区	D	176×66	25.1	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR3-2 黑褐色 3層 10YR4-3 剥色 4層 10YR2-2 黄褐色 5層 黄褐色	シルト	シルト
SK73	B-5区	H	151×124	17.6	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR2-2 黄褐色 3層 10YR3-2 黑褐色 4層 10YR2-1 黄色 5層 10YR4-1 灰色 6層 10YR2-2 黄褐色 7層 黄褐色	シルト	シルト
SK74	B-5区	A	96×82	23.8	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR2-2 黄褐色 3層 10YR3-2 黑褐色 4層 10YR2-1 黄色 5層 10YR4-1 灰色 6層 10YR2-2 黄褐色 7層 黄褐色	シルト	シルト
SK75	B-5区	A	128×122	52.1	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR3-2 黑褐色 3層 10YR4-3 剥色 4層 10YR2-2 黄褐色 5層 黄褐色	シルト	シルト
SK76	B-6区	A	60×57	18.0	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR2-2 黄褐色 3層 10YR3-2 黑褐色 4層 10YR2-1 黄色 5層 10YR4-1 灰色 6層 10YR2-2 黄褐色 7層 黄褐色	シルト	シルト
SK77	B-6区	B	100×83	11.4	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR2-2 黄褐色 3層 10YR3-2 黑褐色 4層 10YR2-1 黄色 5層 10YR4-1 灰色 6層 10YR2-2 黄褐色 7層 黄褐色	シルト	シルト
SK78	B-C-4区	-	-	36.4	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR3-2 黑褐色 3層 10YR4-3 剥色 4層 10YR2-2 黄褐色 5層 黄褐色	シルト	シルト
SK79-a	B-6区	A	114×114	13	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR2-2 黄褐色 3層 10YR3-2 黑褐色 4層 10YR2-1 黄色 5層 10YR4-1 灰色 6層 10YR2-2 黄褐色 7層 黄褐色	シルト	シルト
SK79-b	B-6区	-	83×()	0.9	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR2-2 黄褐色 3層 10YR3-2 黑褐色 4層 10YR2-1 黄色 5層 10YR4-1 灰色 6層 10YR2-2 黄褐色 7層 黄褐色	シルト	シルト
SK80	B-6区	D	137×112	17.3	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR2-2 黄褐色 3層 10YR3-2 黑褐色 4層 10YR2-1 黄色 5層 10YR4-1 灰色 6層 10YR2-2 黄褐色 7層 黄褐色	シルト	シルト
SK219	B-6区	E	104×35	14	1層 10YR2-3 黄褐色 2層 10YR2-2 黄褐色 3層 10YR3-2 黑褐色 4層 10YR2-1 黄色 5層 10YR4-1 灰色 6層 10YR2-2 黄褐色 7層 黄褐色	シルト	シルト

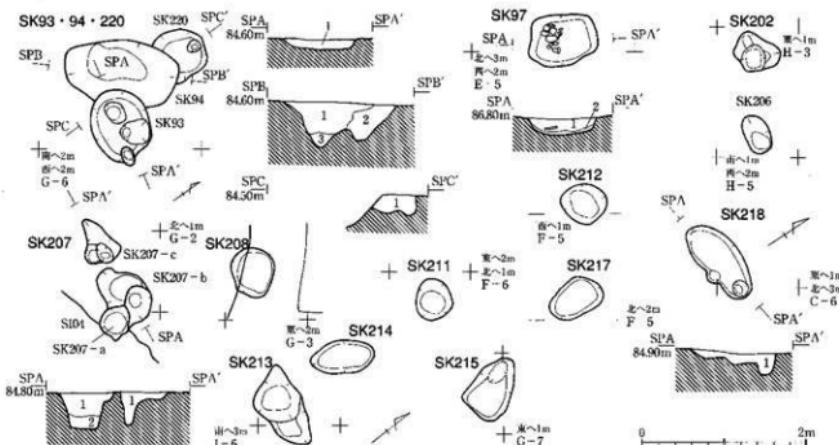
第27図 土坑 (7)

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



若編名	位置 (Grid)	平面圖	規模 (長×幅×高・cm)	標高 (cm)	地上部位	上色	土性	備考
SK82	B-4区	A	58×60	27.5	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
SK85	G-2区	A	54×34	11.1	1層	10YR2/2 淡褐色	シルト	
SK86	H-4区	-	42×()	75.2	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
					2層	10YR4/3 にほい青褐色	シルト	
					2層	10YR2/3 淡褐色	シルト	
					4層	10YR1/3 淡褐色	シルト	
SK87	G-4区	E	96×70	16.9	1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/3 時褐色	シルト	
SK88	F-4区	B	61×42	26.8	1層	10YR2/2 淡褐色	シルト	
SK91	F-6区	D	112×44	26.9	1層	10YR2/2 淡褐色	シルト	
SK92-a	F-6区	()	174×()	12	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
SK92-a焼土	F-6区		80×30	11	1層	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	
SK92-b	F-6区		130×()	24	1層	10YR2/2 淡褐色	シルト	
					2層	7.5YR2/2 黑褐色	シルト	
					3a層	10YR3/1 淡褐色	シルト	
					3b層	10YR2/2 黑褐色	シルト	
SK96	F-6区	() × ()	()	9.2	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	

第28図 土坑 (8)



地 勘 名	位置 (Grid)	平面図	底面 (直径 × 高さ · cm)	壁高 (cm)	壁上部位	土 性	上 性	備 考
SK93	F-6区	B	90×72	52	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK93-Pal-3						HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK94	F-6区	B	80×()	54	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
					2号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
					3号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK97	E-5区	D	80×63	236	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
					2号	HOTR2/4 深褐色	シルト	
SK202	H-2区	E	54×43	33.6	1号	HOTR3/3 黒褐色	シルト	
SK206	G-1区	B	50×39	23.3	1号	HOTR2/3 黒褐色	シルト	
SK207-a	G-1区	E	40×35	62	1号	HOTR3/3 黒褐色	シルト	
SK207-b	G-1区	E	75×50	66.8	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
					2号	HOTR3/1 黒褐色	シルト	
SK207-c	G-1区	E	60×42	42.8	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK208	F-2区	A	58×33	18.1	1号	HOTR3/1 黒褐色	シルト	
SK311	F-5区	A	51×46	16.7	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK322	E-5区	A	52×45	16.5	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK213	H-6区	E	69×51	18.3	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK214	B-4区	B	79×41	14.6	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK215	F-6区	E	77×59	25	1号	HOTR3/3 黒褐色	シルト	
SK217	F-4区	B	67×43	8.4	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK218	C-3区	B	107×37	33.3	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	
SK220	F-4区	-	60×()	22.8	1号	HOTR2/2 黒褐色	シルト	

第29図 土坑 (9)

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）

Pt NO	位置 (Grid)	形	長×幅 (cm)	深さ (cm)	層	Pt NO	位置 (Grid)	形	長×幅 (cm)	深さ (cm)	層
1	G-1K	C	22×22	137	A	81	F-4区	C	36×37	37.5	D
2	G-2K	B	23×17	236	A	82	F-4区	B	37×21	26.2	D
3	G-2K	C	20×20	148	B	83	F-4区	H	43×28	16.6	D
4	G-2K	D	23×18	142	B	84	F-5区	C	21×21	17.5	A
5	G-2K	B	35×20	10.0	A	85	F-5区	B	22×17	16.0	D
6	G-2K	B	38×32	4.2	B	86	G-5区	A	38×35	22.6	A
7	G-2K	D	42×33	135	A	87	F-5区	C	27×27	21.0	C
8	G-2K	C	26×27	25.1	B	88	F-5区	(32) × (16)	16.2	C	
9	G-2K	B	34×25	39.8	B	89	F-5区	A	25×25	24.2	A
10	G-2K	A	28×25	55.7	B	90	G-5区	-	(46) × 4.5	20.1	D
11	G-2K	B	62×48	29.8	R	91	G-5区	A	(27) × 125	19.6	A
12	G-2K	B	29×24	28.1	S	92	G-5区	A	30×20	25.2	A
13	G-2K	B	23×20	45.5	S	93	G-5区	R	32×22	17.0	A
14	G-2K	B	59×42	61.7	C	94	G-5区	B	27×20	8.4	D
15	G-2K	C	34×34	58.1	C	95	G-5区	A	20×20	16.3	A
16	-	-	-	-	-	96	G-6区	D	42×38	16.0	D
17	H-2区	D	(36) × (21)	47.0	B	97	G-6区	A	19×17	21.2	D
18	H-2区	D	34×29	15.5	A	98	G-6区	A	21×19	24.3	C
19	H-2区	C	22×20	25.5	B	99	G-6区	D	31×20	29.5	D
20	G-2R	D	44×38	50.7	A	100	G-6区	A	20×21	23.8	D
21	G-2K	D	37×31	30.0	R	101	G-6区	D	45×33	30.0	D
22	G-2K	D	73×37	44.8	A	102	G-6区	B	34 × (21)	11.7	D
23	G-2K	D	64×41	70.3	B	103	G-6区	R	32×28	46.6	D
24	G-2K	D	44×24	33.0	B	104	G-6区	U	31×23	39.4	D
25	G-2K	+R	-	-	-	105	F-6区	D	103×29	20.8	A
26	G-2K	R	32×26	33.7	B	106	G-6区	A	40×37	21.4	A
27	G-2K	-	(44) × 27	7.5	B	107	F-6区	A	54×32	43.1	A
28	F-2R	B	39×24	13.8	B	108	F-6区	-	(24) × 29	3.7	D
29	F-2K	A	16×15	9.3	R	109	F-6区	C	16×15	34.0	D
30	F-2K	B	20×19	10.0	B	110	F-6区	B	26×20	33.8	D
31	F-2K	-	(13) × 22	36.5	B	111	F-6区	A	24×23	33.3	D
32	F-2K	B	18×14	6.6	U	112	G-6区	D	50×36	33.2	A
33	F-2K	-	16×(12)	4.9	B	113	F-6区	A	18×18	14.1	A
34	F-2K	B	34×25	-	B	114	F-7区	A	26×34	11.2	A
35	F-2K	B	42×33	21.0	-	115	F-7区	A	18×16	30.4	A
36	F-2K	-	(48) × (27)	11.8	A	116	F-7区	R	43×40	24.0	A
37	G-2R	D	26×22	24.6	C	117	G-7区	A	19×12	10.0	A
38	G-2H	A	30×30	25.5	C	118	G-7区	R	29×18	16.8	A
39	G-3区	C	17×16	41.5	A	119	G-6区	D	43×26	18.1	D
40	G-3K	D	36×28	15.5	C	120	G-6区	A	21×19	30.5	D
41	G-3区	U	30×26	19.1	C	121	G-6区	D	45×40	28.1	D
42	G-3R	C	23×19	28.3	C	122	G-6区	C	26×30	12.7	D
43	-	-	-	-	-	123	G-6区	A	28×29	41.7	B
44	-	-	-	-	-	124	G-7区	B	56×40	23.7	B
45	G-3K	D	50×27	23.0	C	125	G-7区	D	47×28	24.5	B
46	G-2区	D	40×33	20.7	A	126	G-6区	B	34×27	28.0	A
47	H-2K	B	59×35	20.5	C	127	G-7区	A	12×12	30.1	D
48	G-2区	A	33×28	48.0	C	128	G-7区	D	37×30	11.0	D
49	G-3R	C	30×27	61.1	A	129	G-7区	A	33×32	36.2	A
50	G-1K	A	17×17	54.0	A	130	G-7区	B	69×35	6.9	A
51	G-3区	B	45×23	61.2	C	131	G-7区	A	(44) × 45	36.8	D
52	G-1K	A	25×22	21.0	C	132	G-7区	B	40×(29)	33.9	C
53	G-3区	B	22×18	28.8	C	133	G-7区	A	36×20	31.1	D
54	G-3R	C	23×22	28.8	C	134	G-7区	A	37×32	32.3	A
55	G-3区	B	27×18	33.0	C	135	G-7区	R	28×29	23.2	D
56	G-3区	D	35×18	23.3	A	136	G-7区	A	31×25	25.4	A
57	G-3K	D	31×21	7.1	A	137	G-7区	C	20×18	15.4	A
58	G-4区	A	22×21	18.4	A	138	G-7区	A	34×28	18.1	A
59	G-4K	D	35×33	44.9	C	139	G-7区	D	45×39	31.8	A
60	G-4区	A	31×39	9.8	C	140	G-7区	R	25×18	32.6	D
61	G-4R	B	35×30	18.9	C	141	G-8区	A	25×25	21.7	D
62	G-4K	A	18×17	17.0	C	142	G-8区	C	34×28	31.6	D
63	-	-	-	-	-	143	G-8区	A	18×17	15.8	D
64	G-4K	R	26×38	18.4	C	144	G-8区	A	15×14	54.6	D
65	G-4区	-	(34) × 28	29.6	A	145	G-8区	A	(20) × 17	12.6	D
66	F-4K	R	25×18	-	A	146	G-8区	A	25×25	13.5	D
67	F-4K	C	22×17	13.0	A	147	G-8区	A	30×28	23.3	D
68	F-4R	C	34×34	27.0	C	148	G-8区	A	25×24	30.9	C
69	C-4区	A	19×17	12.7	A	149	G-8区	B	60×30	15.7	C
70	G-4区	D	36×25	25.9	C	150	G-8区	B	38×30	22.8	A
71	F-4K	R	43×28	56.7	C	151	G-8区	A	18×15	11.2	A
72	F-4区	B	19×17	14.8	C	152	G-8区	D	58×58	33.4	A
73	F-4K	D	45×30	-	C	153	F-8区	-	(19) × 20	12.0	A
74	F-5区	D	30×22	40.0	C	154	F-8区	-	(36) × (27)	32.6	A
75	F-5区	C	18×17	13.3	C	155	G-6区	B	30×16	42.5	D
76	G-5区	C	26×25	25.2	C	156	G-6区	C	26×19	14.4	D
77	G-4R	A	22×17	32.7	D	157	H-6区	B	26×19	9.5	D
78	G-5区	A	18×14	11.6	D	158	H-6区	A	27×25	8.4	D
79	G-3R	D	62×31	41.9	D	159	H-6区	A	25×24	10.0	D
80	F-4K	C	25×23	12.5	D	160	H-6区	B	34×27	9.6	D

1次調査ピット集計表 (1)

I 八木山緑町道路（第1・2次調査）

Pit NO.	位置(Grid)	形	長×幅(cm)	深さ(cm)	埋下	Pit NO.	位置(Grid)	形	長×幅(cm)	深さ(cm)	埋下
161	D - 6区	D	58×(50)	14.0	D	241	D - 6区	B	24×21	16.3	D
162	H - 6区	C	31×25	17.5	A	242	D - 6区	B	27×16	-	D
163	H - 6区	A	20×20	15.1	A	243	C - 6区	D	49×34	14.2	D
164	H - 6区	D	29×22	10.1	D	244	C - 6区	B	23×18	33.6	D
165	H - 5区	A	29×14	20.8	D	245	C - 6区	C	22×18	12.2	D
166	H - 5区	D	26×30	12.8	D	246	C - 6区	A	22×21	20.0	A
167	H - 6区	A	26×21	18.5	D	247	C - 6区	(28)×20	18.7	D	
168	H - 6区	A	29×28	24.1	D	248	C - 6区	A	18×18	16.2	D
169	H - 6区	A	31×31	38.3	D	249	C - 6区	B	20×17	31.9	D
170	H - 6区	A	22×22	12.5	D	250	C - 6区	A	21×19	18.6	A
171	H - 6区	B	46×23	22.1	D	251	C - 6区	B	53×46	32.5	A
172	H - 5区	B	26×30	12.7	D	252	C - 6区	B	53×39	23.4	D
173	H - 5区	C	34×33	20.1	D	253	C - 6区	B	42×33	34.3	D
174	H - 5区	H	38×31	21.6	D	254	D - 5区	-	(32)×30	8.7	D
175	H - 5区	A	16×16	14.4	D	255	D - 4区	-	36×30	16.3	D
176	H - 5区	R	30×24	17.5	A	256	C - 5区	B	33×26	24.0	D
177	H - 5区	B	23×20	12.5	A	257	C - 5区	H	23×18	9.3	D
178	H - 5区	C	26×24	32.2	A	258	C - 5区	B	25×18	30.6	D
179	F - 4区	D	30×30	11.2	A	259	C - 5区	A	17×15	16.5	D
180	F - 5区	A	21×21	7.5	A	260	C - 6区	B	24×21	19.4	D
181	F - 5区	B	35×27	22.5	A	261	C - 6区	A	15×13	15.5	D
182	F - 5区	B	24×13	12.8	D	262	B - 5区	D	26×21	20.9	D
183	F - 6区	A	27×27	35.8	A	263	B - 5区	B	32×25	7.1	D
184	F - 6区	A	22×30	15.8	D	264	B - 5区	-	(18)×(16)	11.3	D
185	F - 6区	B	33×25	20.9	D	265	C - 5区	A	24×25	21.7	D
186	E - 3区	A	26×27	8.8	D	266	C - 5区	B	27×16	21.7	D
187	E - 5区	R	50×38	9.4	A	267	C - 5区	A	20×23	7.4	D
188	K - 5区	C	35×34	32.4	A	268	-	-	-	-	-
189	E - 5区	-	24×(16)	11.5	A	269	-	-	-	-	-
190	K - 4区	B	25×16	27.9	A	270	B - 5区	H	32×22	8.6	C
191	E - 5区	B	26×19	9.3	A	271	B - 5区	B	15×12	22.3	F
192	D - 5区	H	23×18	21.7	A	272	B - 5区	H	20×23	40.9	A
193	E - 5区	B	60×45	27.6	A	273	B - 5区	B	40×36	31.6	D
194	E - 5区	A	20×19	26.0	D	274	B - 5区	B	56×32	17.2	D
195	E - 5区	B	45×27	22.1	A	275	B - 5区	H	27×18	45.2	D
196	E - 6区	B	60×43	16.5	D	276	B - 5区	B	46×28	13.0	D
197	E - 5区	B	27×22	26.6	D	277	B - 5区	A	25×23	29.6	A
198	E - 5区	D	57×25	33.4	D	278	B - 5区	A	17×17	3.1	D
199	E - 5区	A	19×19	12.4	A	279	B - 6区	B	21×18	3.4	D
200	E - 6区	D	63×36	23.5	D	280	B - 6区	B	36×35	19.8	A
201	F - 4区	H	51×(25)	16.9	A	281	B - 6区	A	16×15	17.5	A
202	F - 4区	B	34×24	5.8	A	282	B - 5区	B	24×21	7.8	A
203	F - 4区	D	26×17	5.8	A	283	A - 6区	A	18×18	10.8	A
204	F - 4区	-	28×(20)	9.4	A	284	A - 6区	C	27×26	37.8	A
205	K - 5区	D	29×20	-	B	285	A - 6区	B	41×32	17.0	D
206	E - 5区	C	23×18	-	B	286	B - 6区	A	32×32	11.7	B
207	F - 6区	B	39×32	32.9	D	287	A - 5区	-	34×(22)	13.8	C
208	F - 4区	C	26×24	45.5	D	288	A - 5区	D	(49)×(38)	18.1	C
209	F - 6区	A	22×23	21.2	D	289	A - 5区	-	(22)×22	14.6	C
210	-	-	-	-	B	290	A - 5区	C	27×24	10.3	C
211	E - 3区	D	50×34	-	D	291	A - 3区	A	31×29	26.9	D
212	N - 2区	B	37×30	29.4	D	292	A - 3区	A	31×28	9.4	D
213	D - 4区	B	24×30	17.1	D	293	A - 4区	A	19×17	-	D
214	D - 4区	B	37×29	10.5	D	294	B - 3区	H	22×16	15.5	D
215	D - 4区	B	23×18	18.4	D	295	B - 5区	A	16×15	15.7	D
216	D - 5区	D	37×30	10.8	A	296	B - 5区	B	26×17	6.3	C
217	D - 5区	A	19×17	11.9	A	297	B - 5区	B	22×18	15.8	D
218	D - 6区	B	45×30	-	D	298	H - 5区	A	20×19	16.6	D
219	D - 5区	B	34×24	15.9	D	299	B - 5区	B	30×23	13.6	C
220	D - 5区	B	25×21	-	A	300	H - 5区	-	30×(22)	11.0	A
221	D - 5区	H	27×23	19.1	D	301	B - 5区	A	15×12	19.6	C
222	D - 5区	A	26×24	-	D	302	B - 5区	-	20×(15)	-	A
223	D - 5区	C	36×36	-	D	303	B - 5区	B	22×18	12.7	A
224	E - 5区	B	22×13	-	A	304	B - 4区	A	17×15	10.8	A
225	E - 6区	B	48×32	5.5	A	305	D - 5区	C	18×17	22.7	D
226	D - 6区	B	22×16	10.6	D	306	C - 5区	B	17×14	14.1	D
227	D - 5区	B	27×15	11.5	D	307	C - 5区	C	20×16	12.8	D
228	D - 5区	B	24×18	17.0	D	308	B - 5区	B	23×20	23.6	D
229	D - 5区	D	79×24	10.8	D	-	-	-	-	-	-
230	D - 5区	A	20×19	22.4	D	-	-	-	-	-	-
231	D - 5区	B	27×16	9.8	A	-	-	-	-	-	-
232	D - 5区	B	16×15	8.9	A	-	-	-	-	-	-
233	D - 5区	C	19×19	37.2	D	-	-	-	-	-	-
234	D - 1区	D	44×23	6.1	D	-	-	-	-	-	-
235	D - 1区	B	20×30	10.2	D	-	-	-	-	-	-
236	D - 1区	B	38×27	14.1	A	-	-	-	-	-	-
237	D - 1区	D	51×33	31.1	D	-	-	-	-	-	-
238	D - 1区	C	21×20	10.7	D	-	-	-	-	-	-
239	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
240	D - 1区	B	43×33	21.3	D	-	-	-	-	-	-

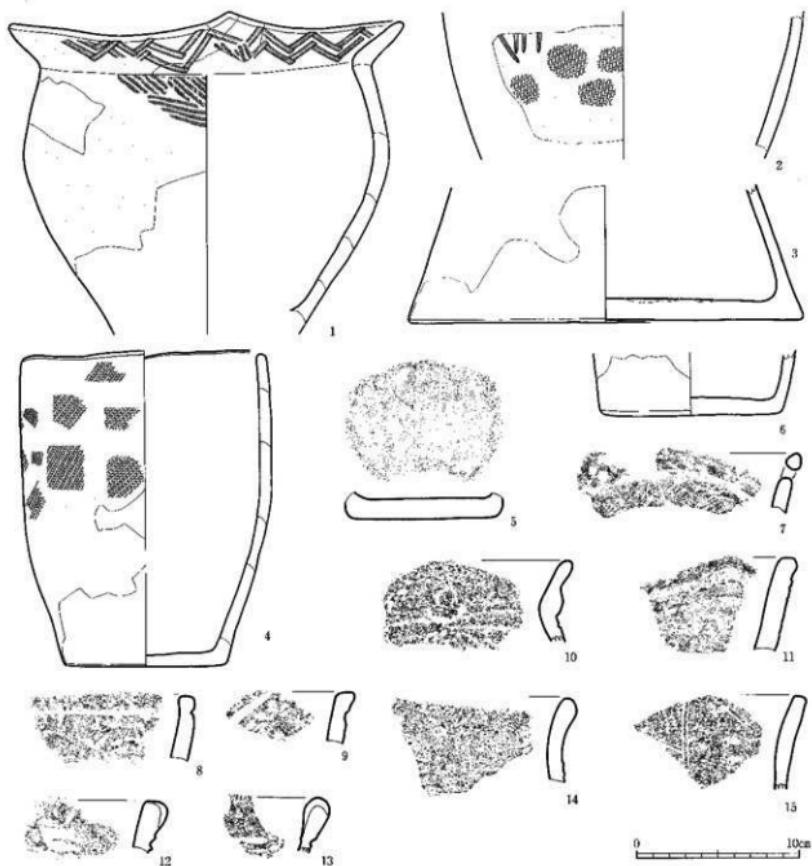
1次調査ピット集計表(2)

I 八木山緑町道路（第1・2次調査）



回数	番号	出土地點	器種	厚さ	径	高さ	断面	文様の特徴	備考	参考文献
30-1	A-47	SK21	绳文上器	2mm	25mm	2mm	凸状			参考52
30-2	A-38	SK5	绳文上器	2mm	25mm	2mm	凸状	斜切刃縞文		参考53
30-3	A-39	SK5	绳文上器	2mm	25mm	2mm	凸状	ボタン附付文、縦縞併列文		参考53
30-4	A-60	SK5	绳文上器	2mm	25mm	2mm	凸状	斜切刃縞文、带狀點付文		参考53
30-5	A-41	SK5	绳文上器	2mm	25mm	2mm	凸状	斜切刃縞文、單縞、瓦縞		参考53
30-6	A-37	SK5	绳文上器	2mm	25mm	2mm	凸状	斜切刃縞文、施化疔側文		参考53
30-7	A-81	Pt29 沼原	绳文上器	2mm	25mm	2mm	凸状		発合(方形区画)	参考53
30-8	A-72	SK75	壺底	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞、網縞		参考53
30-9	A-79	SK92-G	壺底	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞、斜縞		参考53
30-10	A-43	SK18	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞		参考53
30-11	A-87	Pt29 沼原	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	斜切		参考53
30-12	A-53	SK28	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞		参考53
30-13	A-63	SK57	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞		参考53
30-14	A-70	SK25	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞		参考53
30-15	A-83	Pt22	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞、斜切		参考53
30-16	A-36	SK3	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	凸状口縫	沈縞が太く、くっきりしている	参考53
30-17	A-76	SK75	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞		参考53
30-18	A-71	SK75	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞、陰窓		参考53
30-19	A-61	SK51	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞		参考53
30-20	A-60	SK38	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞		参考53
30-21	A-62	SK51	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞		参考53
30-22	A-45	SK18	壺唇	2mm	25mm	2mm	凸状	沈縞		参考53

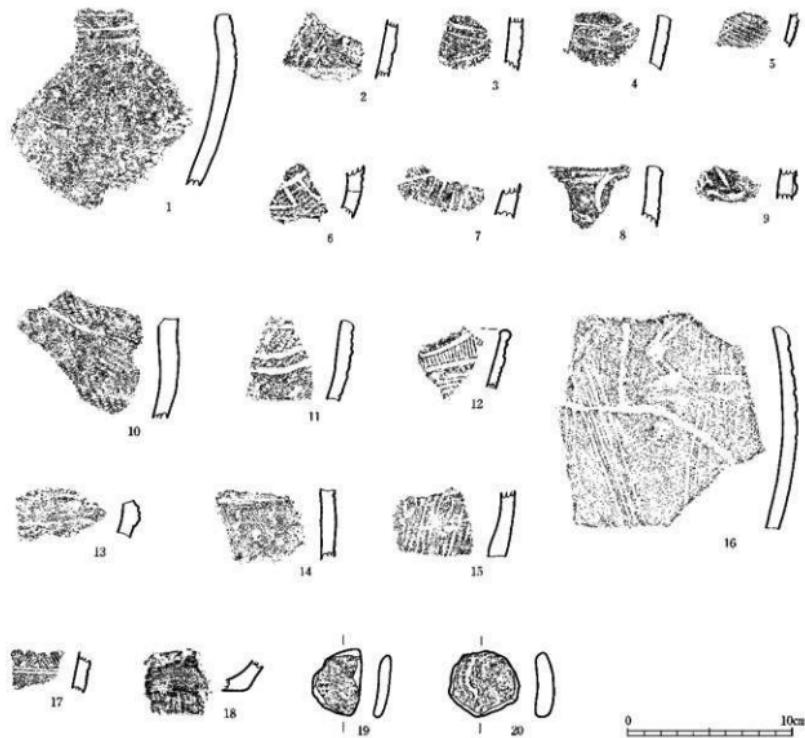
第30図 土坑出土土器（1）



開拓No.	愛稱No.	出土地点	層位	種別	記号	文様の行数	参考		写真番号
							地質	特徴	
31-1	A-119	SK10	陶土土器	口縁一部		無地文或、沈珪文、大筋マツメ	粘土中に大きめの砂粒が多い		写真54
31-2	A-117	SK75	陶土土器	側面		網文七筋	網文		写真54
31-3	A-120	SK97	陶土土器	底盤		火をかけて 灰厚	粘土中に砂粒が多い		写真54
31-4	A-116	SK17	陶土土器	口縁一部		網文七筋	RJ純文		写真54
31-5	A-81	SK94	陶土	底盤		網文上筋	灰厚		写真54
31-6	A-115	SK19	陶土土器	底盤		網文七筋	人面マツメ、底葉ナラ	粘土中に砂粒が多い	写真54
31-7	A-75	SK75	陶土			網文土器	1横3列		写真54
31-8	A-90	SK94	陶土			網文上筋	口縁部	沈珪、陳細	写真54
31-9	A-77	SK46	陶土			網文十筋	口縁部	沈珪、削尖	写真54
31-10	A-88	SK21	陶土			網文上筋	口縁部	剪先、沈珪、薄細	写真55
31-11	A-73	SK75	陶土			網文十筋	口縁部	陳細	写真55
31-12	A-68	SK73	陶土			網文七筋	口縁部	乾毛	写真55
31-13	A-80	Pt228	陶土			網文上筋	口縁部	沈珪	写真55
31-14	A-51	SK21	陶土			網文十筋	口縁部	底葉	写真55
31-15	A-49	SK21	陶土			網文上筋	口縁部	沈珪	写真55

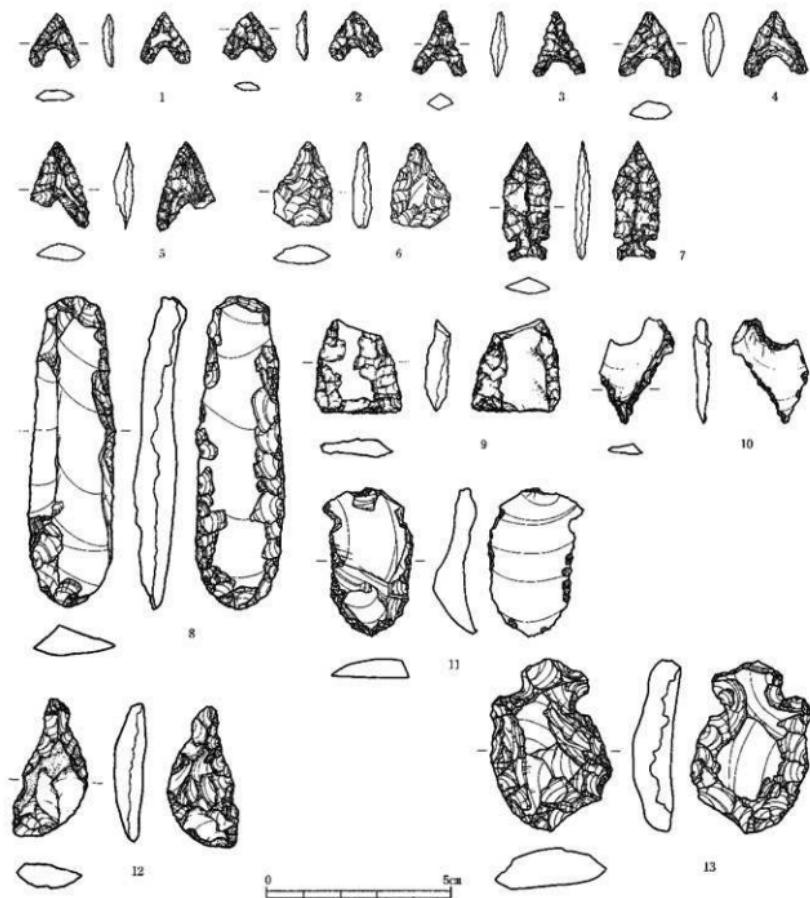
第31図 土坑出土土器（2）

1 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



地點番号	出土品名	出土地点	樹 住	種 類	部 位	文様の特徴	備 考	参考文献
32-1	A-46	SK21	坪原	陶文土器	体部	沈縞		参考文献
32-2	A-54	SK29	塙原	陶文土器	体部	沈縞		参考文献
32-3	A-55	SK29	坪原	陶文土器	体部	沈縞		参考文献
32-4	A-44	SK18	塙原	陶文土器	体部	平行沈縞	器上中に斜縞が多い	参考文献
32-5	A-39	SK33	塙原	陶文土器	体部	江波		参考文献
32-6	A-63	SK6	塙原	陶文土器	体部	捺縞、沈縞、網文		参考文献
32-7	A-37	SK31	塙原	陶文土器	体部	沈縞、網文		参考文献
32-8	A-32	SK26	坪原	陶文土器	体部	沈縞、摩縞		参考文献
32-9	A-65	Pt18		陶文土器	体部	網文		参考文献
32-10	A-36	SK30	坪原	陶文土器	体部	網文		参考文献
32-11	A-30	SK21		陶文土器	体部	沈縞、網文		参考文献
32-12	A-66	SK66	塙原	陶文土器	口縁部	沈縞		参考文献
32-13	A-78	SK92-C	坪原	陶文土器	体部	斜文文、沈縞		参考文献
32-14	A-82	Pt10	塙原	陶文土器	体部	沈縞		参考文献
32-15	A-74	SK75	坪原	陶文土器	体部	網文		参考文献
32-16	A-69	SK75	塙原	陶文土器	体部	沈縞		参考文献
32-17	A-67	SK72	坪原	陶文土器	体部	沈縞、斜縞		参考文献
32-18	A-58	SK32	塙原	陶文土器	体部	網文十格		参考文献
32-19	A-42	SK42	塙原	土器底			上部円錐	参考文献
32-20	A-64	SK57	坪原	土器底			下部円錐	参考文献

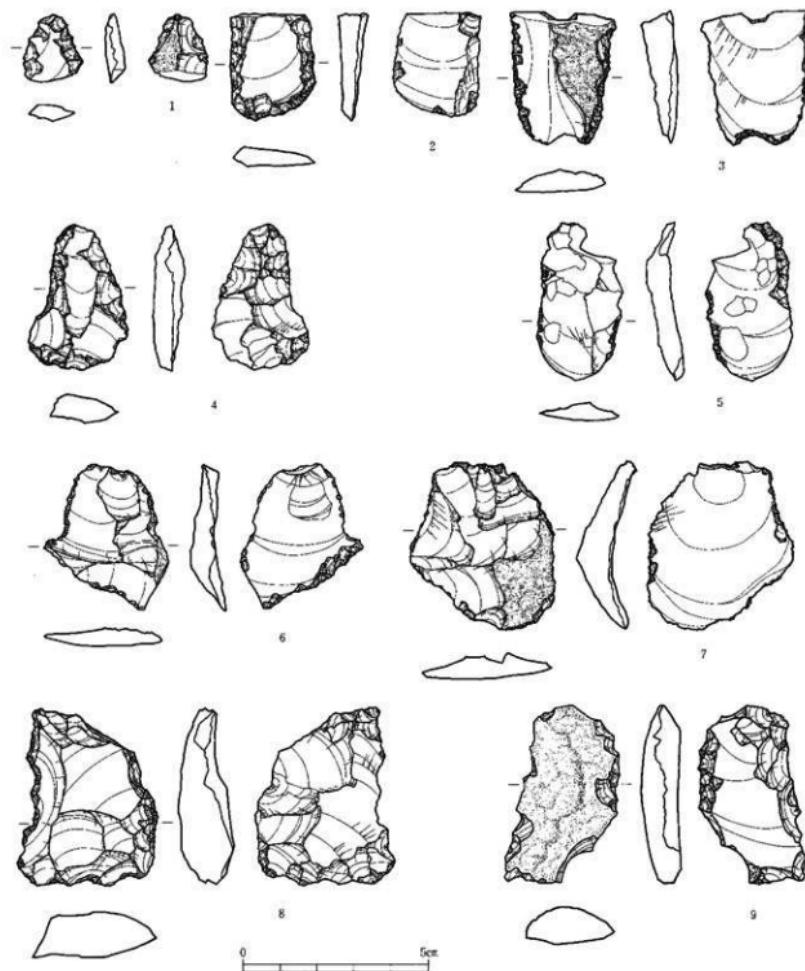
第32図 土坑出土土器（3）



試験No.	番号	出土地名	層位	器種	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	写真別紙
33-1	A-27	SK604b		石鏃	16.0	15.0	2.3	0.5	珪質頁岩		写真58
33-2	A-18	SK11		石鏃	15.0	15.5	2.7	0.5	珪化泥灰岩		写真58
33-3	A-20	SK21		石鏃	19.5	15.5	4.5	0.7	珪化泥灰岩		写真58
33-4	A-57	SK21		石鏃	19.5	19.0	5.8	15	珪化泥灰岩		写真58
33-5	A-98	SK21		石鏃	27.0	17.5	5.1	15	珪質頁岩		写真58
33-6	A-32	SK201		石鏃	27.0	19.0	5.6	2.1	デイサイト		写真58
33-7	A-19	SK17	埴生土	アメリカ式石鏃	36.0	14.5	3.8	2.0	チャート		写真58
33-8	A-29	SK75		石鏃	95.5	26.5	10.3	28.1	珪化泥灰岩		写真58
33-9	A-18	SK15		スクレイパー	28.5	25.5	6.0	4.6	珪化泥灰岩		写真58
33-10	A-63	SK44		不定形石器（ドリル？）	31.0	23.0	4.0	2.1	珪質頁岩		写真58
33-11	A-30	SK75		スクレイパー？	45.0	28.0	9.5	9.7	珪質頁岩		写真58
33-12	A-16	SK12		石鏃	42.5	21.5	7.4	7.1	チャート		写真58
33-13	A-32	SK302		石鏃	50.0	40.0	11.5	23.2	珪質頁岩		写真58

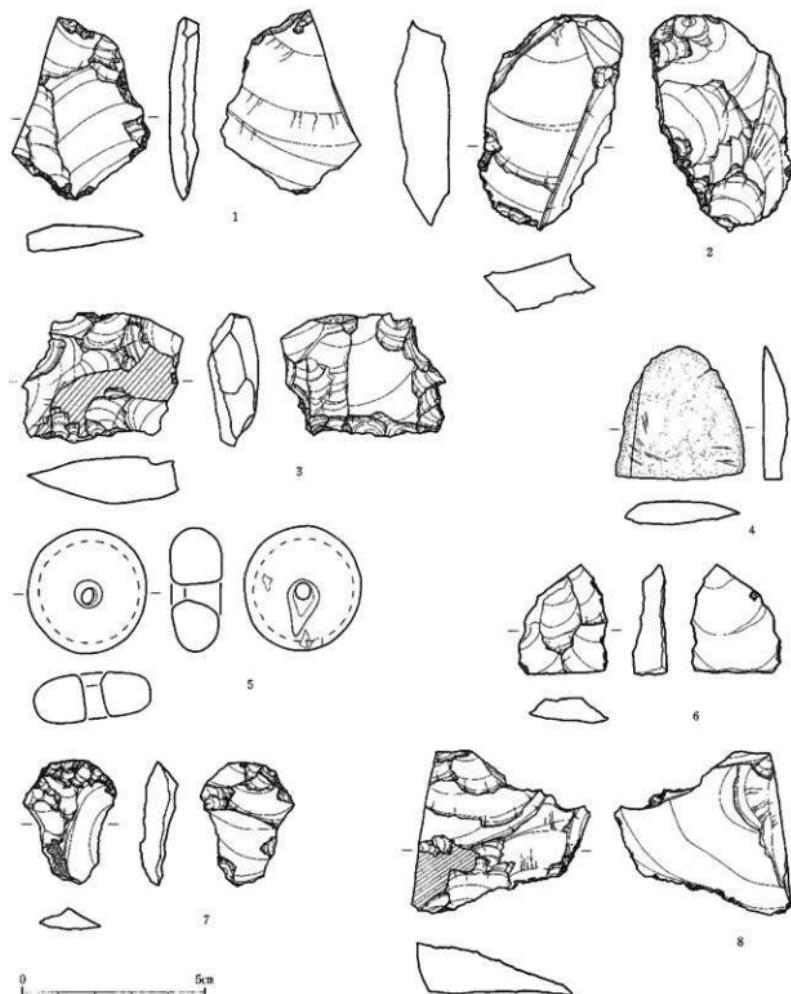
第33図 土坑出土石器（1）

T 八木山林町遺跡（第1・2次調査）



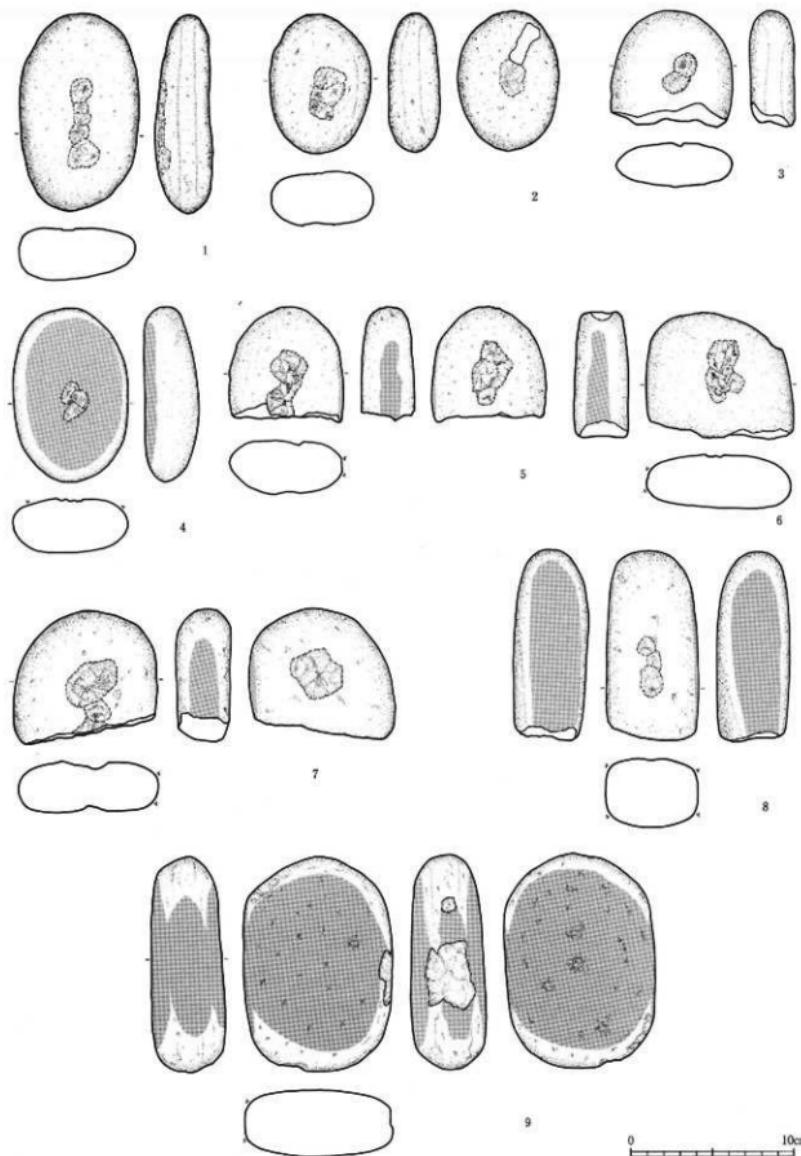
測定番号	基準No	出土地点	時代	種類	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	参考文献
34-1	A-61	SK17		不定形石器	30.0	18.0	5.2	15	赤鐵質 風化鐵灰岩		参考文献36
34-2	A-14	SK6		不定形石器	32.0	26.0	6.6	7.3	風化鐵灰岩		参考文献38
34-3	A-25	SK44		不定形石器	40.0	32.5	7.6	12.5	硅質貝岩		参考文献36
34-4	A-17	SK15		不定形石器	44.0	28.0	7.5	9.5	風化鐵灰岩		参考文献38
34-5	A-56	SK21		不定形石器	47.0	26.0	6.6	6.3	硅質貝岩		参考文献30
34-6	A-64	SK30		不定形石器	45.0	37.5	7.2	7.8	風化鐵灰岩		参考文献39
34-7	A-62	SK21		不定形石器	53.0	44.0	12.0	18.9	赤鐵質石		参考文献30
34-8	A-21	SK28		不定形石器	36.0	42.0	13.1	29.0	風化鐵灰岩		参考文献39
34-9	A-23	SK28		石器	34.5	34.5	11.3	30.3	赤鐵質石		参考文献39

第34図 土坑出土石器（2）

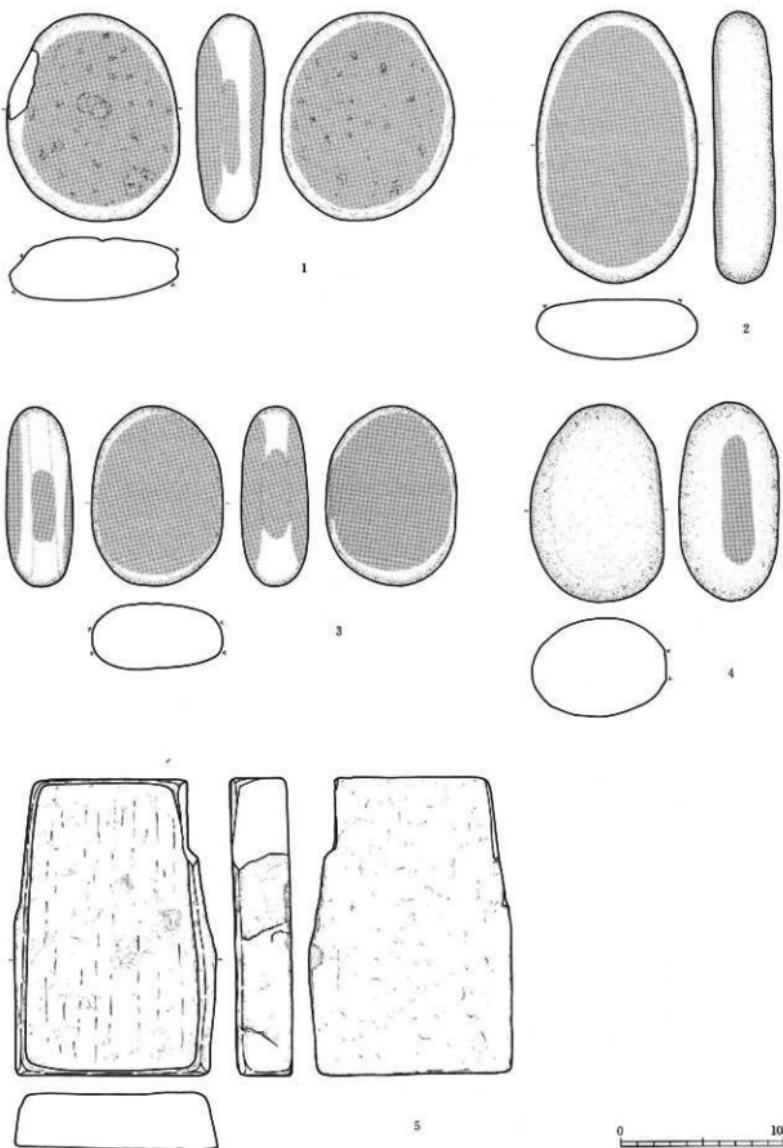


試験番号	発見場所	遺物	種類	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考	参考文献
35-1	A-25	SK28	不定形石器	66.0	42.0	6.5	148	ダイサイト		参考文献
35-2	A-22	SK26	コア?	67.0	38.5	24.1	58.1	珪化樹木岩		参考文献
35-3	A-31	SK75	不定形石器	40.0	50.0	14.5	27.9	透青閃長岩		参考文献
35-4	A-24	SK28	骨形のコア?	41.0	38.0	7.1	14.4	珪化樹木岩		参考文献
35-5	A-28	SK68	石器	36.5	36.0	15.9	34.9	珪化樹木岩		参考文献
35-6	A-35	G-21X	不定形石器	35.0	26.0	9.1	6.1	ダイサイト		参考文献
35-7	A-34	PB20	不定形石器	37.5	27.0	7.5	6.1	ダイサイト		参考文献
35-8	A-36	G-21X	剥片	40.0	61.0	12.5	29.5	透青閃長岩		参考文献

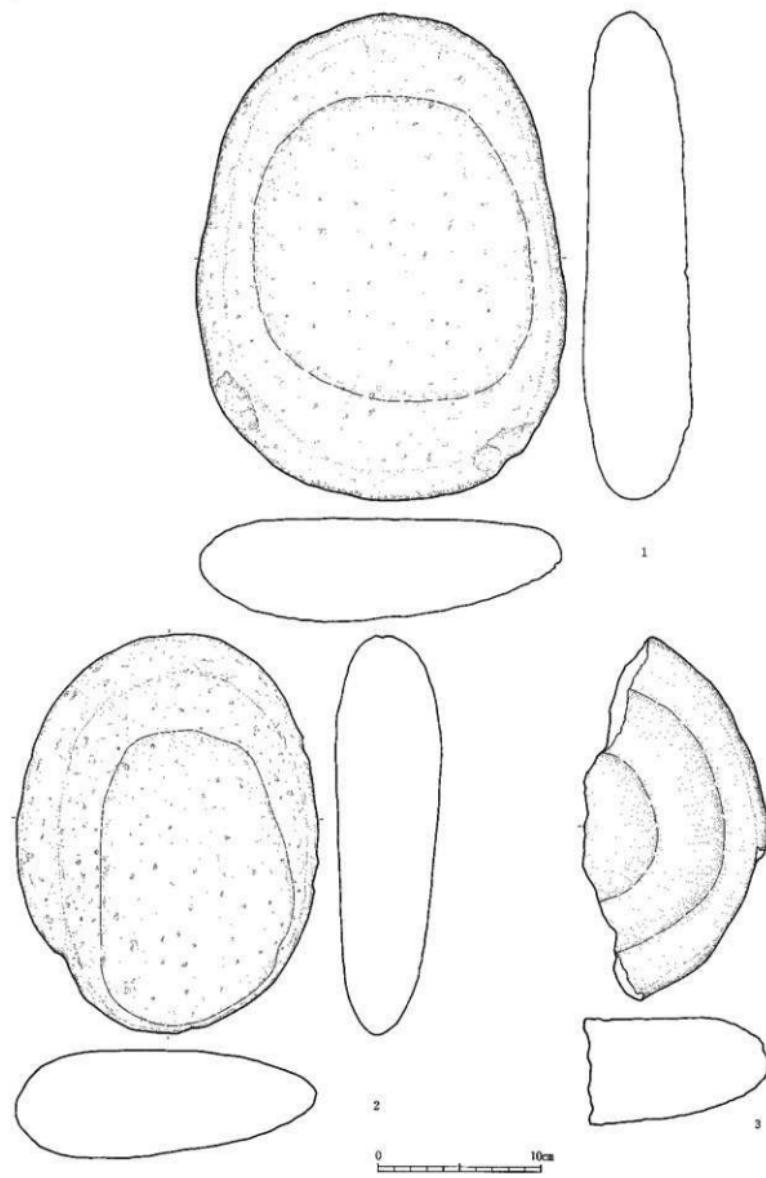
第35図 土坑出土石器（3）



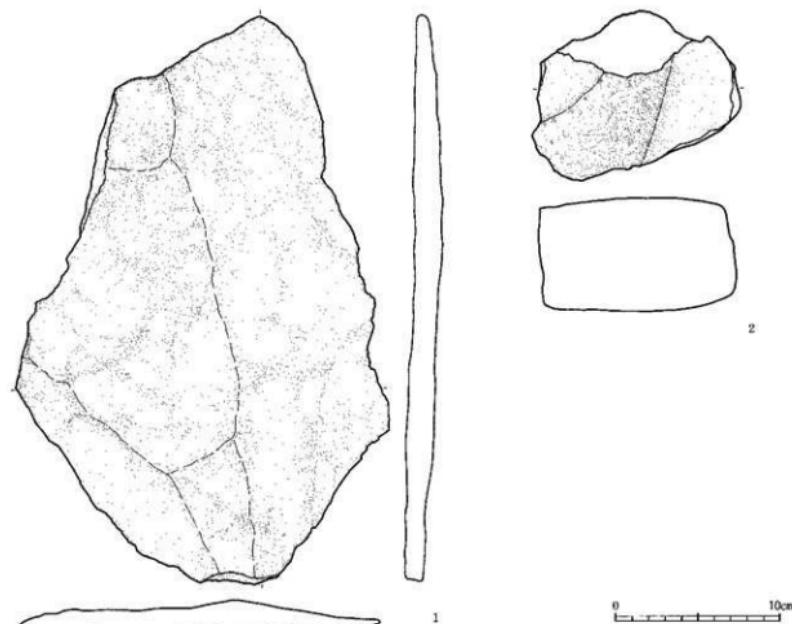
第36図 土坑出土石器（4）



第37図 土坑出土石器（5）



第36図 土坑出土石器（6）



第39図 土坑出土石器（7）

回数	発見No.	出土地点	部位	形状	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	写真回数
36 - 1	B-21	SK 2		凹石	1230	740	355	450	安山岩		写真60
36 - 2	B-30	SK19		凹石	660	630	320	240	安山岩		写真60
36 - 3	B-43	SK32-b		凹石	720	750	310	230	安山岩	四片剥、反対側敲打痕	写真60
36 - 4	B-45	SK30-b		凹石	1080	715	340	390	安山岩		写真60
36 - 5	B-27	SK18		凹石	710	700	330	240	安山岩		写真60
36 - 6	B-31	SK21		扁平石	790	910	340	335	安山岩		写真60
36 - 7	B-22	SK10		凹石	820	900	350	330	石英安山岩 ティサイト		写真60
36 - 8	B-26	SK10		凹石	1175	370	450	540	安山岩		写真60
36 - 9	B-24	SK12		扁平石	1330	940	470	880	安山岩		写真60
37 - 1	B-36	SK30		凹石	1280	1030	420	760	安山岩		写真60
37 - 2	B-37	SK30		扁平石	1670	1000	380	1020	安山岩		写真60
37 - 3	B-28	SK21		凹石	1120	800	420	630	安山岩		写真61
37 - 4	B-40	SK44		扁平石	1220	830	660	930	ティサイト		写真61
37 - 5	B-33	SK21		石製品	1540	1250	390	1560	石英安山岩質變質岩		写真61
38 - 1	B-26	SK30		石屋	3150	2280	670	5380	安山岩		写真61
38 - 2	B-35	SK21		石屋?	2470	1855	650	2790	安山岩		写真61
38 - 3	B-29	SK21		石屋?	2590	1140	675	1800	安山岩		写真61
39 - 1	B-14	SK21		石製品?	3510	2280	270	2790	安山岩		写真61
39 - 2	B-32	SK21		石製品?	1050	1280	720	2130	安山岩		写真61

土坑出土石器（4）～（7）観察表

I 八木山縁町遺跡（第1・2次調査）

(4) 接合資料・両極剥離石器（第40・41図）

G-5区に位置しているSK17・SK18・SK19から、両極剥離のある楔形石器とその接合資料が出土している。ほとんどはSK17からのもので、接合資料5点と楔形石器2点が出土している。SK18とSK19からは楔形石器がそれぞれ1点出土している（A-72・A-73）。石材はいずれもチャートをもちいている。接合資料については、SK17と他の上坑との石器間に接合関係はない。

品目No.	番号	出土地点	層序	種類	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	写真番号
40-1	A-65	SK17	両極剥離	38.5	23.0	10.0	19.4	チャート		写真52	
40-2	A-68a	SK17	両極剥離	26.0	31.0	10.0	9.1	チャート		写真52	
40-3	A-68b	SK17	両極剥離	35.0	28.5	7.8	7.6	チャート		写真52	
40-4	A-68c	SK17	両極剥離	22.5	17.0	8.5	2.7	チャート		写真52	
40-5	A-66	SK17	両極剥離	33.0	31.5	10.9	10.7	チャート		写真52	
40-6	A-66a	SK17	両極剥離	29.0	26.5	7.5	5.2	チャート		写真52	
40-7	A-66b	SK17	両極剥離	31.5	29.0	8.8	5.5	チャート		写真52	
40-8	A-70	SK17	両極剥離	28.0	26.0	7.1	5.4	チャート		写真52	
40-9	A-71	SK17	両極剥離	24.0	7.5	4.0	1.2	チャート		写真52	
40-10	A-72	SK18	両極剥離	26.0	11.5	9.0	1.7	チャート		写真52	
40-11	A-73	SK19	両極剥離	28.0	19.5	5.5	3.8	チャート		写真52	
41-1	A-67	SK17	両極剥離	29.5	25.0	15.8	10.7	チャート		写真52	
41-2	A-67a	SK17	両極剥離	29.5	21.0	8.4	4.5	チャート		写真52	
41-3	A-67b	SK17	両極剥離	30.0	22.0	7.7	6.2	チャート		写真52	
41-4	A-68	SK17	両極剥離	28.5	41.0	10.1	9.4	チャート		写真52	
41-5	A-69a	SK17	両極剥離	23.0	33.0	6.9	5.6	チャート		写真52	
41-6	A-69b	SK17	両極剥離	28.5	19.5	7.2	3.8	チャート		写真52	
41-7	A-69	SK17	両極剥離	29.0	15.0	14.3	4.8	チャート		写真52	
41-8	A-69a	SK17	両極剥離	26.0	9.0	10.5	2.1	チャート		写真52	
41-9	A-69b	SK17	両極剥離	29.0	9.0	10.6	2.6	チャート		写真52	
41-10	A-69c	SK17	両極剥離	13.0	6.4	3.4	0.1	チャート		写真52	

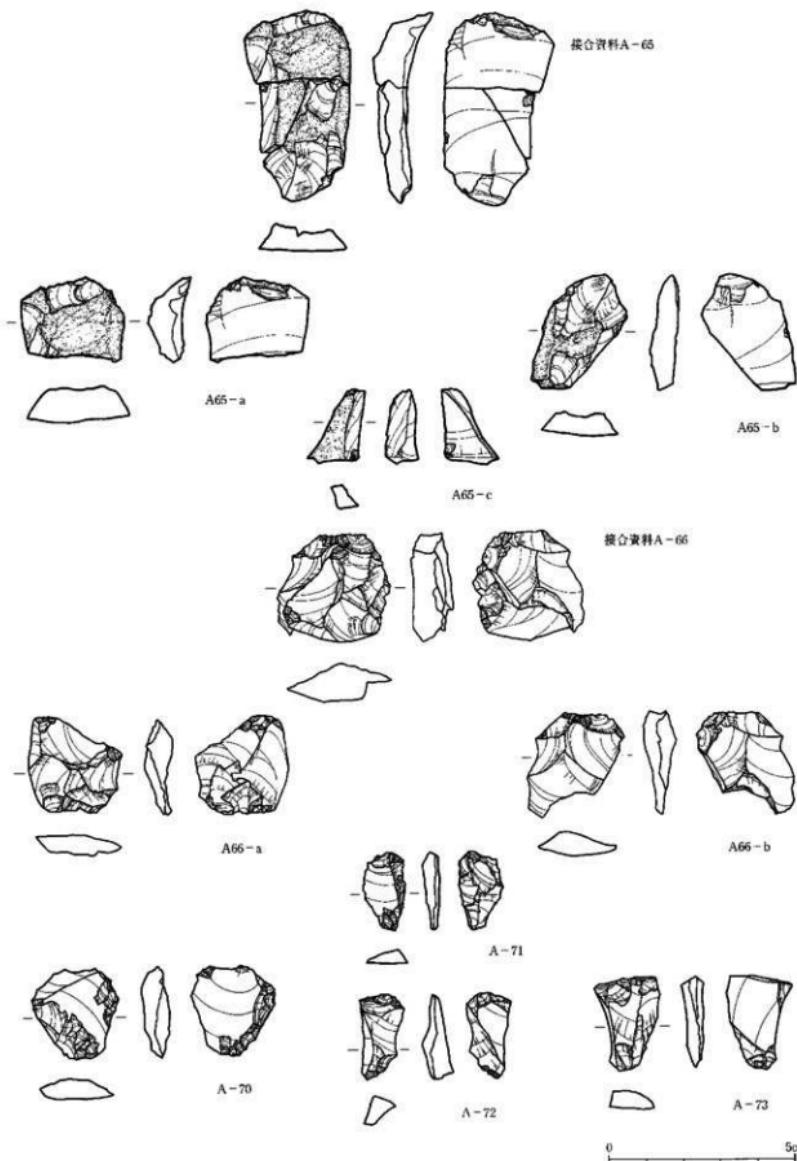
両極剥離石器観察表

(5) 基本層出土遺物（第42・46図）

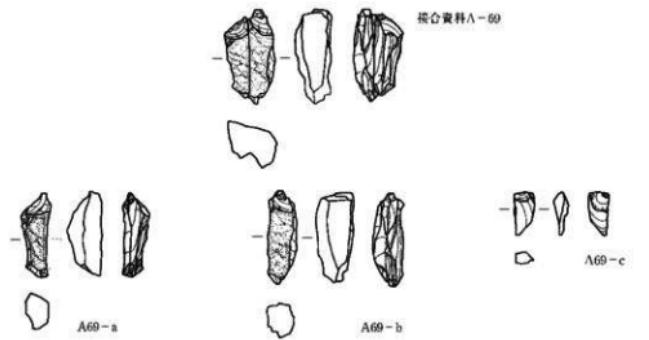
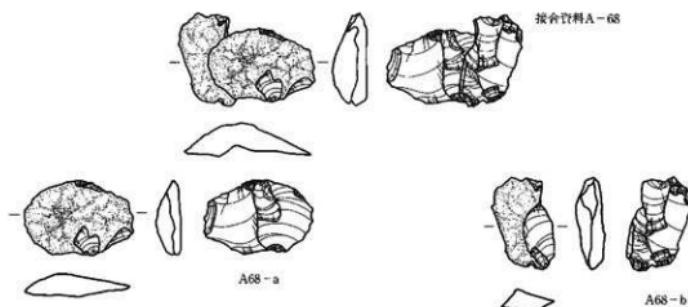
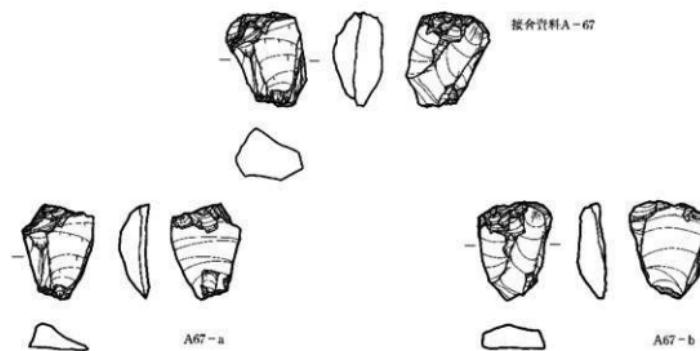
基本層出土とした遺物のほとんどは表土またはII層中からのものであり、一部にピットや遺構検出面であるIII層からのものや表探などを含んでいる。ここでは、縄文土器のほか、石錐2点、石錐1点、石窓2点、石匙1点、不定形石器9点、剥片3点、磨石6点、磨凹石1点、凹石1点を図示している。このうち第45図3・4は、下層調査時にIV層中から出土した剥片と不定形石器であり、第46図1・8の縄文石器はピットから出土している。

品目No.	番号	出土地点	層序	種類	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	写真番号
43-1	A-46	II区	I・II層	石錐	24.5	11.5	7.5	1.9	柱状輝石岩		写真62
43-2	A-45	II区	I・II層	石錐	25.0	15.5	4.8	1.4	柱状輝石岩		写真62
43-3	A-40	II区	石窓	23.0	17.0	3.7	1.4	チャート		写真62	
43-4	A-39	II区	I・II層	石錐	79.0	36.5	15.5	46.6	柱状輝石岩		写真62
43-5	A-48	II区	I・II層	石錐	73.0	34.0	9.7	18.9	柱状輝石岩		写真62
43-6	A-52	II区	I・II層	石窓	79.0	37.5	16.1	41.1	柱状輝石岩		写真62
43-7	A-42	II区	I・II層	石錐	38.5	50.0	9.1	14.7	チャート		写真62
43-8	A-51	II区	I・II層	不定形石器	27.5	17.5	4.2	2.3	柱状輝石岩		写真62
43-9	A-50	II区	I・II層	不定形石器	57.0	56.5	8.7	21.7	柱状輝石岩		写真62
43-10	A-41	II区	3層	不定形石器	21.5	25.0	7.4	4.6	柱状輝石岩		写真62
44-1	A-47	II区	I・II層	不定形石器	64.5	46.0	12.5	36.8	柱状輝石岩		写真62
44-2	A-38	II区	I・II層	剥片	78.5	41.5	23.4	63.5	柱状輝石岩		写真63
44-3	A-53	II区	I・II層	不定形石器	62.5	43.0	13.2	31.1	柱状輝石岩		写真63
44-4	A-37	II区	I・II層	剥片	54.0	37.5	15.8	22.4	柱状輝石岩		写真63
44-5	A-43	II区	I・II層	不定形石器	47.5	79.5	17.4	61.0	柱状輝石岩		写真63
45-1	A-44	II区	I・II層	不定形石器	77.0	64.0	21.0	86.5	チャート		写真63
45-2	A-39	II区	不定形石器	62.0	61.0	15.1	44.2	柱状輝石岩		写真63	
45-3	A-55	II区	剥片	68.0	73.5	22.6	134.9	柱状輝石岩		写真64	
45-4	A-54	II区	剥片	58.5	36.0	14.8	35.2	成枚石		写真64	
46-1	R-18	II区	II-III層	磨凹石	120.0	105.5	34.0	66.0	安山岩		写真64
46-2	B-12	II区	西石	95.0	60.0	27.2	17.5	石英安山岩質灰岩		写真64	
46-3	B-9	II区	磨石	115.0	93.5	38.0	57.0	チャート		写真64	
46-4	B-13	II区	I・II層	磨石	125.0	102.0	37.8	61.0	チャート		写真64
46-5	B-16	II区	I・II層	磨石	87.0	104.0	37.5	35.0	安山岩		写真64
46-6	H-14	II区	I・II層	磨石	130.0	102.5	39.0	70.0	安山岩		写真64
46-7	B-10	II区	表表	磨石	152.5	69.5	46.0	65.0	安山岩		写真64
46-8	R-18	II区	Pu-7	磨石	88.0	79.0	46.0	41.0	チャート		写真64

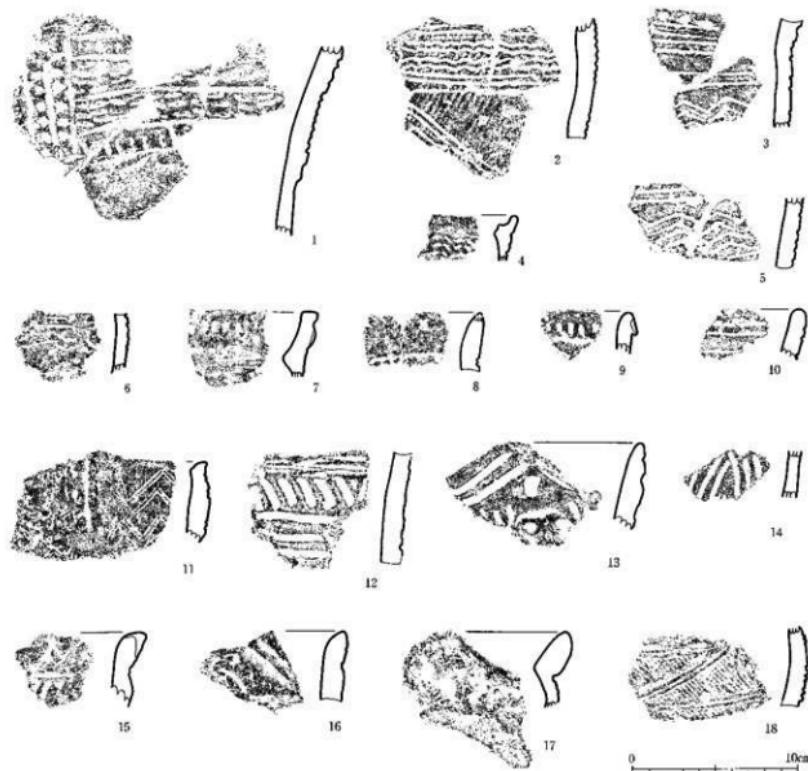
基本層出土石器(1)～(4)観察表



第40図 接合資料（1）両極剝離石器

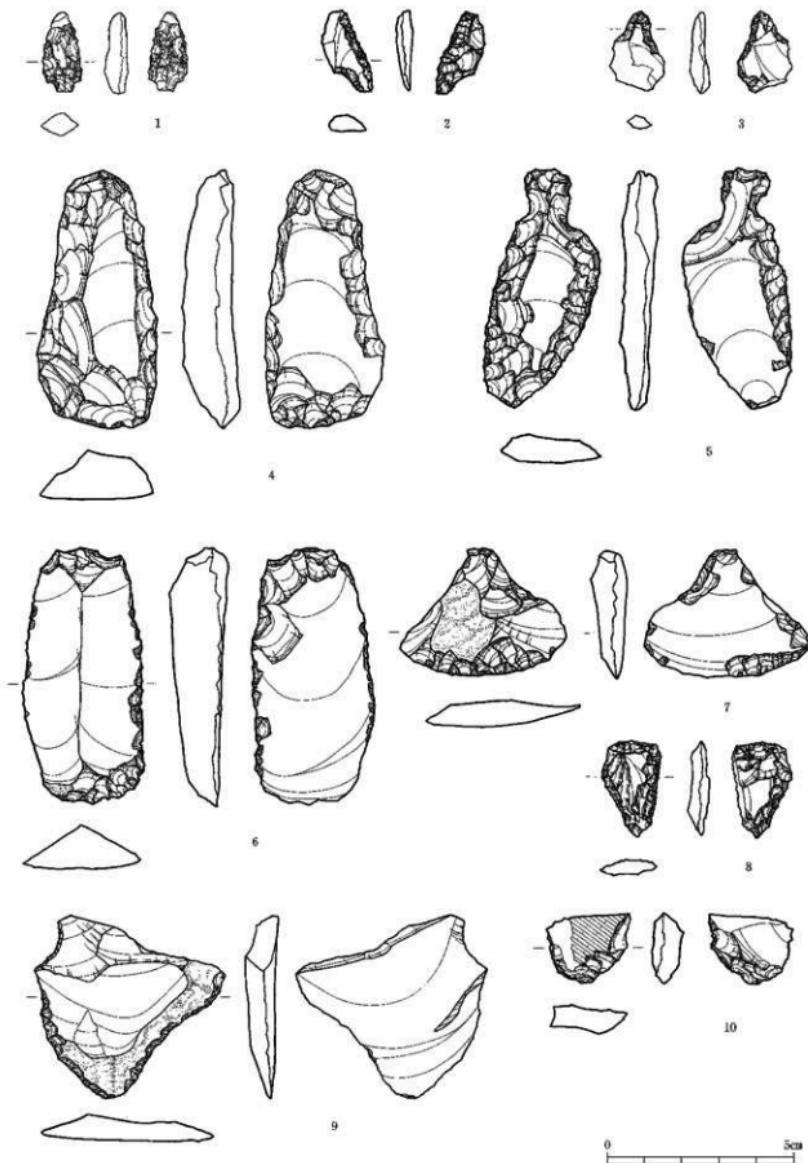


第41図 接合資料（2）両極剥離石器

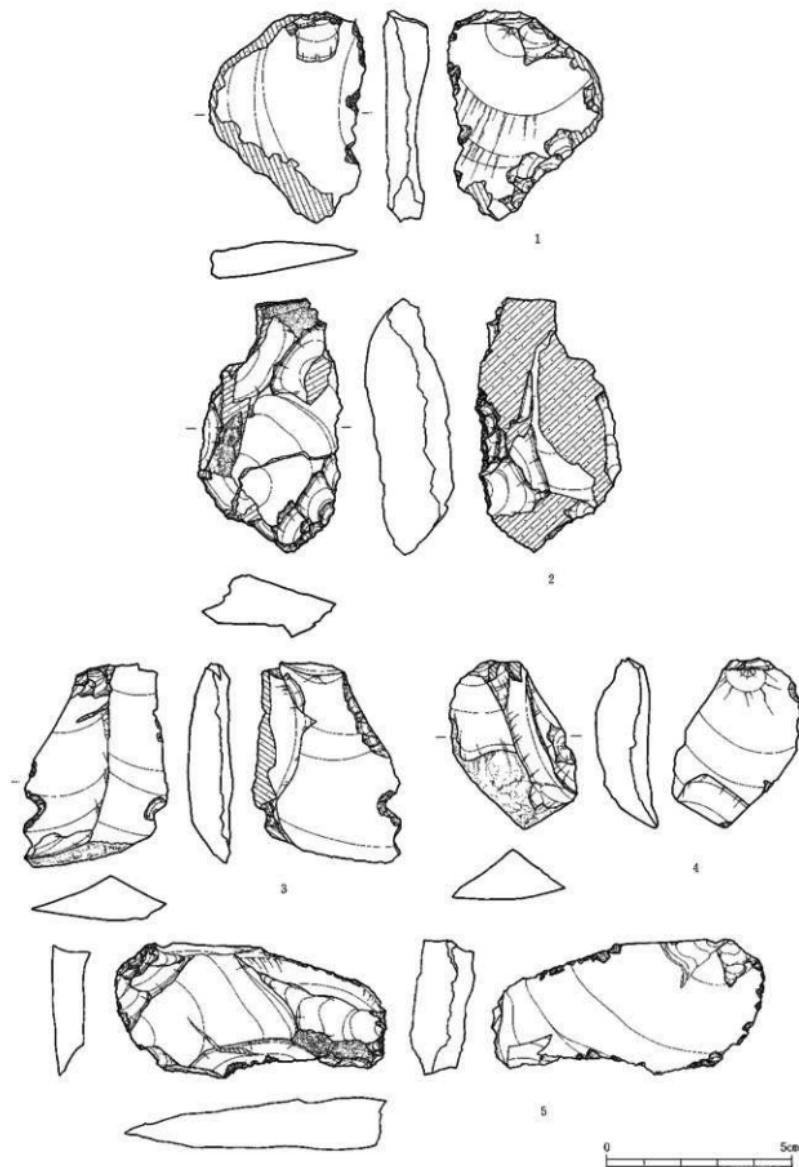


房号No.	登錄No.	出土地点	剖面	種別	部位	文様の特徴		備考	写真箇所No.
						文様	特徴		
42-1	A-103	I・II層	横文上唇	休部	沈底、斜尖、腹帶				写真537
42-2	A-106	Ⅲ層	横文上唇	休部	沈底				写真537
42-3	A-111		横文上唇	休部	沈底	粗目引文、沈底		試掘調査出土	写真537
42-4	A-106		横文上唇	口縁部	休部	粗目引文			写真537
42-5	A-110		横文上唇	休部	沈底			試掘調査出土	写真537
42-6	A-90		横文上唇	休部	沈底				写真537
42-7	A-89	I・II層	横文上唇	口縁部	沈底				写真537
42-8	A-97	I・II層	横文上唇	口縁部	斜尖支				写真537
42-9	A-104	I・II層	横文上唇	口縁部	通底斜尖支				写真537
42-10	A-109		横文上唇	口縁部	沈底			試掘調査出土	写真537
42-11	A-93	I・II層	横文上唇	口縁部	沈底、斜尖				写真537
42-12	A-100	I・II層	横文上唇	休部	沈底				写真537
42-13	A-112		横文上唇	口縁部	沈底、斜尖、斜引文、粗沈底			試掘調査出土	写真537
42-14	A-107	Ⅲ・Ⅳ層	横文上唇	休部	沈底				写真537
42-15	A-92	I・II層	横文上唇	口縁部	沈底				写真537
42-16	A-95	I・II層	横文上唇	口縁部	沈底				写真537
42-17	A-88	I・II層	横文上唇	口縁部	沈底				写真537
42-18	A-91	I・II層	横文上唇	休部	沈底、斜底、圓文				写真537

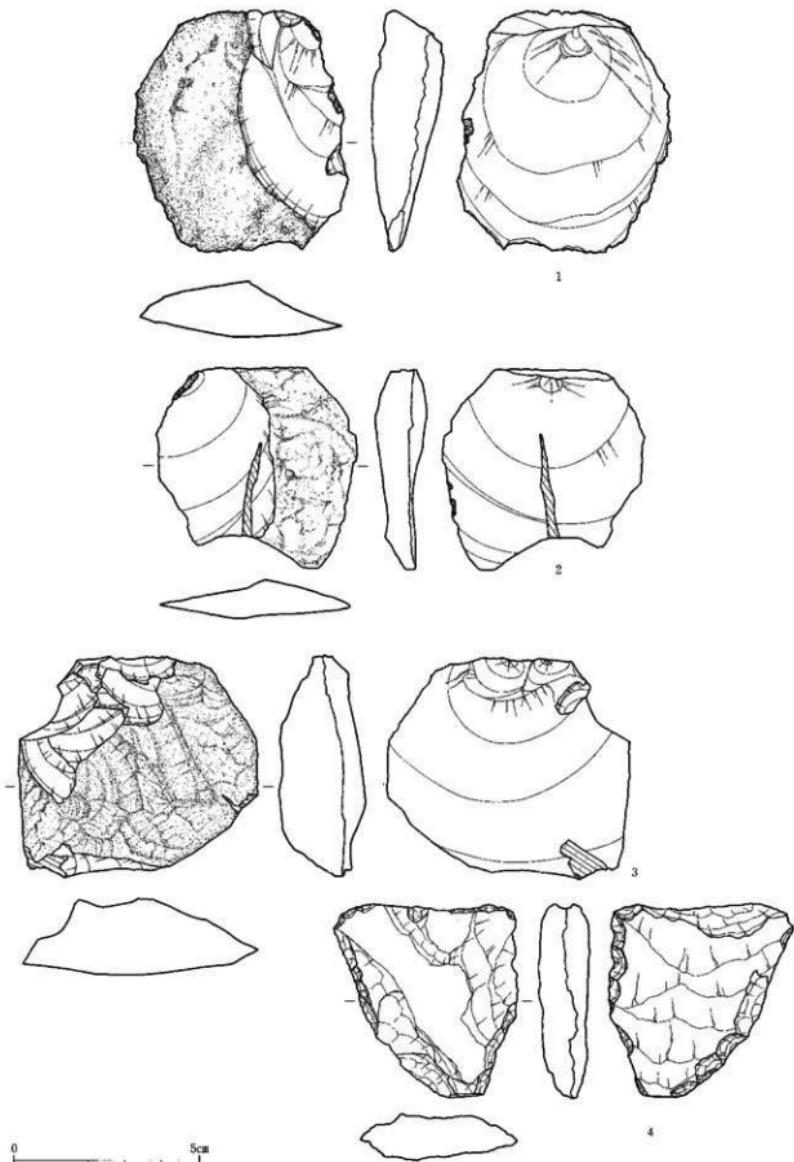
第42図 基本層出土土器



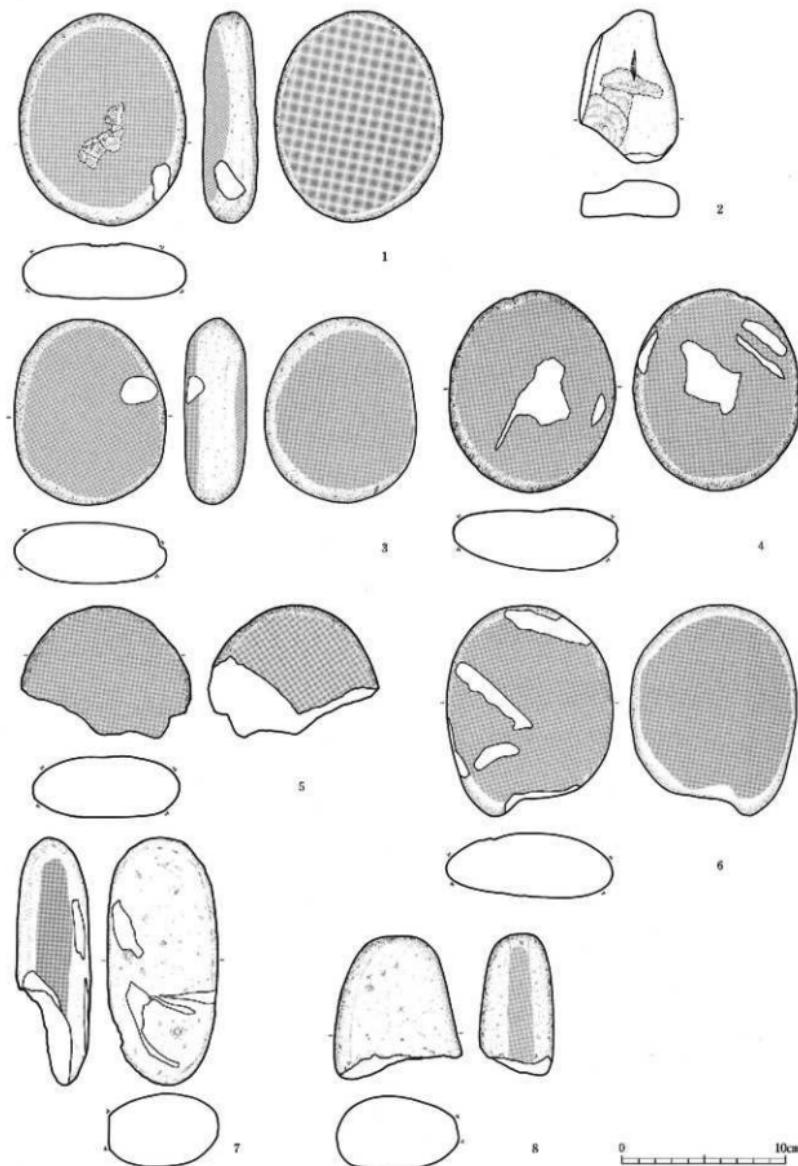
第43図 基本層出土石器（1）



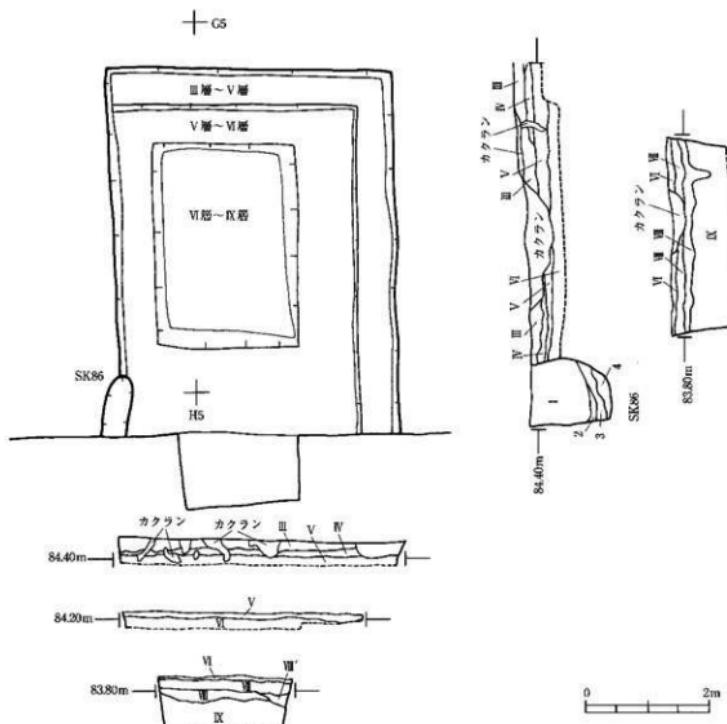
第44図 基本層出土石器（2）



第45図 基本層出土石器（3）



第46図 基本層出土石器（4）



第47図 下層調査区

(6) 下層調査 (第47図)

遺構調査終了後、G-5[4]に6m×4.5m程度の下層調査区を設定し、調査区を縮小しながら2m近く掘り下げを行ない、III層以下の基本層序を確定させた。下層からの遺物の出土はなかった。

I層：10YR2/2黒褐色シルト。しまりのないボソボソした土。

II層：10YR3/3暗褐色シルト。層厚10cm前後、しまりのないボソボソした土。

III層：7.5YR3/4暗褐色シルト。層厚10～20cm。遺構検出面になっている。

IV層：10YR5/4にぶい黄褐色シルト。層厚10cm前後。

V層：10YR4/3にぶい黄褐色シルト。層厚25cm前後。

VI層：7.5YR4/4褐色シルト。層厚25cm前後。

VII層：7.5YR4/3褐色粘土質シルト。層厚15～20cm。

VIII層：10YR5/6黄褐色砂質シルト。風化した1cm大程度の小砾を含む。層厚15～25cm。

IX層：10YR5/8黄褐色小砂砾層。層厚60cm以上。

2.まとめ

- (1) 八木山緑町遺跡は、JR仙台駅南西の標高80数mの八木山丘陵上（通称）に位置している。今回の調査は、宅地造成に伴うもので、道路計画部分を対象として実施した。
- 調査の結果、縄文時代前期末葉から中期初頭の堅穴住居跡5軒（SI1・4・7・8・9）、弥生時代後期の堅穴住居跡2軒（SI2・3）のほか、土坑120基、ピット300基などが発見された。
- (2) 縄文時代の堅穴住居跡はあまり残存状況はよくなかったが、住居跡の平面形は方形を呈し、地床炉をもっている。住居跡から出土した土器については、良好な資料はすくなかったが、これらの住居跡の時期については、出土遺物から前期末葉の大木6式から中期初頭7a式期のものと考えられる。
- (3) 今回の出土遺物のうち、SI9住居跡とSK10土坑から出土した土器について編年的な位置付けを考えてみたい。SI9住居跡から出土した土器のうち第19図1は、口縁上部を欠いているが、沈線文と縦位短沈線文によって区画されたなかに三角形の彫去が入っている。頸部は「く」の字状にくびれ、球状に膨らんだ胴上部には沈線文と三角形の彫去が施文され、胴下半部はRL縄文の結節文が施文されている。第19図4は、外反する口縁部には沈線による孤状文と刺突文が施文され、頸部との間を横位の隆帯と楕円形貼付文によって区画している。SK10出土した土器第31図3は、口縁部は波状口縁で外傾し、頸部が「く」の字状にくびれ、胴中位から上部にかけて膨らむ器形で、いわゆる「金魚鉢形深鉢」である。
- このような土器の県内の類似資料としては、北前遺跡（仙台市）・小梁川遺跡（七ヶ宿町）長根貝塚（涌谷町）などの出土資料があり、それぞれ大木7a式期及び大木6式期としてとらえることができる。
- (4) 弥生時代の堅穴住居跡の平面形は楕円形を呈し、地床炉をもっている。柱穴は柱柱穴となる可能性が高い。八木山緑町遺跡の周辺で弥生時代の堅穴住居跡が発見されている遺跡としては、八木山丘陵南西部の宮沢低地に向かって張り出した、標高60数mの台地上に位置する土手内遺跡がある。平成元年に実行なわれた調査によって、堅穴住居跡1軒と土坑1基が発見されている。住居跡の規模は、長軸3.6m×短軸2.8mで、平面形は楕円形を呈し、床面の中央に炉跡とおもわれる焼け面をもっている。時期的には、出土遺物から後期の天王山式期に位置付けられている。弥生時代の住居跡について仙台市内では調査例が少なく、今回の調査は貴重な調査例となった。
- (5) SI2住居跡から出土した土器については、口縁部から胴上部にかけては条間のあいた縄文によって羽状に施文され、胴下半部は縦位に施文されている。地文のみの構成であり、編年的な位置付けについては弥生時代後期に比定される資料としておきたい。
- (6) 土坑については様々な形態のものがあり、断面の形状も様々である。なかには、落し穴状のものや貯蔵穴状の形態をもつものや土壙幕の可能性のあるものもある。時期的には出土遺物から、ほとんどの土坑は縄文時代前期末葉から中期初頭のものと思われる。

[2] 第2次調査

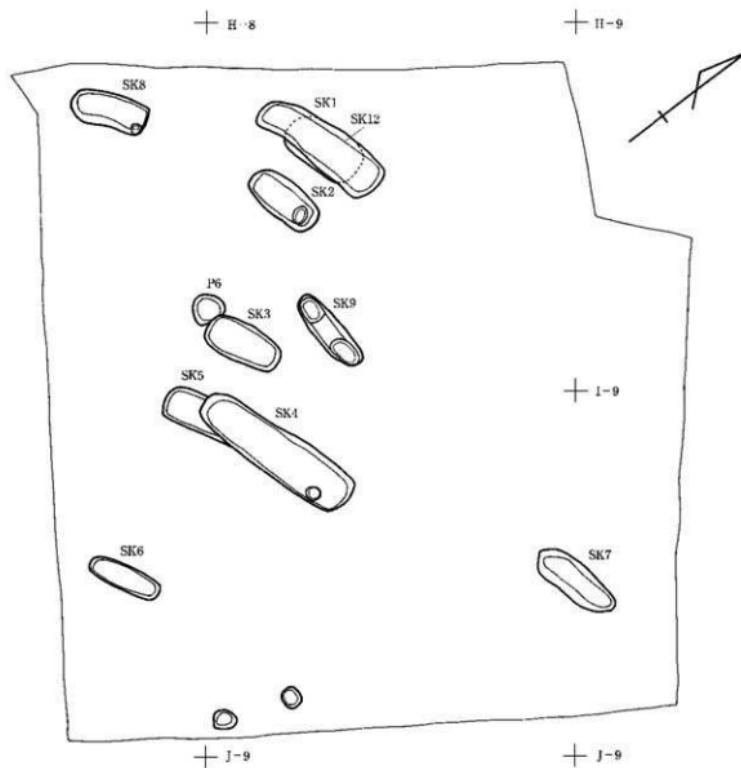
1. 発見遺構と出土遺物

平成11年度の発掘調査では、調査地点が平成7年度の調査区を挟んでいることから、それぞれ東区・西区と呼称している（第4図）。発見された遺構としては、土坑12基とピット5基がある。これらの土坑のうちSK1・10の2基からは菅玉が出土していることや、形態・規模・主軸方位・埋土状況に類似性がみられることから弥生時代の上墳墓である可能性が高いと考えられる。

7年度に発見されている土坑の中にも同様の形状を示すものもあり、周辺の土坑の中からも土墳墓となる可能性が考えられる。以下、各遺構と遺物の詳細について述べたい。

(1) 土 坑

検出された土坑は、東区9基、西区3基の計12基で、前述のとおり、2基の土坑から菅玉がそれぞれ6点ずつ合計12点出土している。土坑の形態からみると、楕円形を呈するSK11以外はすべて隅丸長方形を基調としている。またその規模からみると、長軸1.80m以上となるSK1・4・10の3基以外は、1.30～1.50mと比較的小規模といえ



第48図 東区平面図

る。土坑間の重複状況についてみると、SK 1 と SK 12、SK 4 と SK 5 に切り合いがある。また、主軸方向や埋土の堆積状況については、ほぼ長軸方向を東西に同じくしていることや、埋土の観察からは、大小のブロック状の土壤が混入しているといういわゆる人為的な堆積状況を示している。これらのことなどから弥生時代の土壤幕である可能性が高いと考えられる。

管玉の出土した2基の土坑の堆積土については、すべて持ち帰りその後水洗選別を行なったが、土器の細片が数点出土したのみであった。その他の出土遺物としては、剥片石器4点と櫛石器2点があるが、土器については、著しい磨滅により文様不明のものや、無文土器の小片が出土しているだけで図示できるものはなかった。

①東区土坑（第48・49図）

SK 1 土坑

位 置：II - 8 区南西部に位置している。土坑底面から SK 12 が検出された。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向は N - 75° - E となっている。

規 模：長軸2.27m、短軸0.54mで、検出面からの深さは約13cm程度と削平が激しく、浅い。

堆 積 土：暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：上坑底面西側から管玉6点が出土している（第52図）。素材はいずれも碧玉である。穿孔はいずれも両端から穿かれている。

SK 2 土坑

位 置：II - 8 区南西部に位置し、SK 1 の東側に隣接している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向は N - 78° - E と、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規 模：長軸1.27m、短軸0.60mで、検出面からの深さは約20cm程度である。

堆 積 土：極暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK 3 土坑

位 置：II - 8 区南東部に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向は N - 65° - E となっている。

規 模：長軸1.30m、短軸0.62mで、検出面からの深さは約13cm程度である。

堆 積 土：極暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK 4 土坑

位 置：I - 8 区南西隅に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、SK 5 を切っている。長軸方向は N - 75° - E となっている。

規 模：長軸2.80m、短軸0.70mで、検出面からの深さは25cmである。

堆 積 土：埋土は4層に分けられた。いずれも地山の黄褐色土をブロック状に含んでいる。

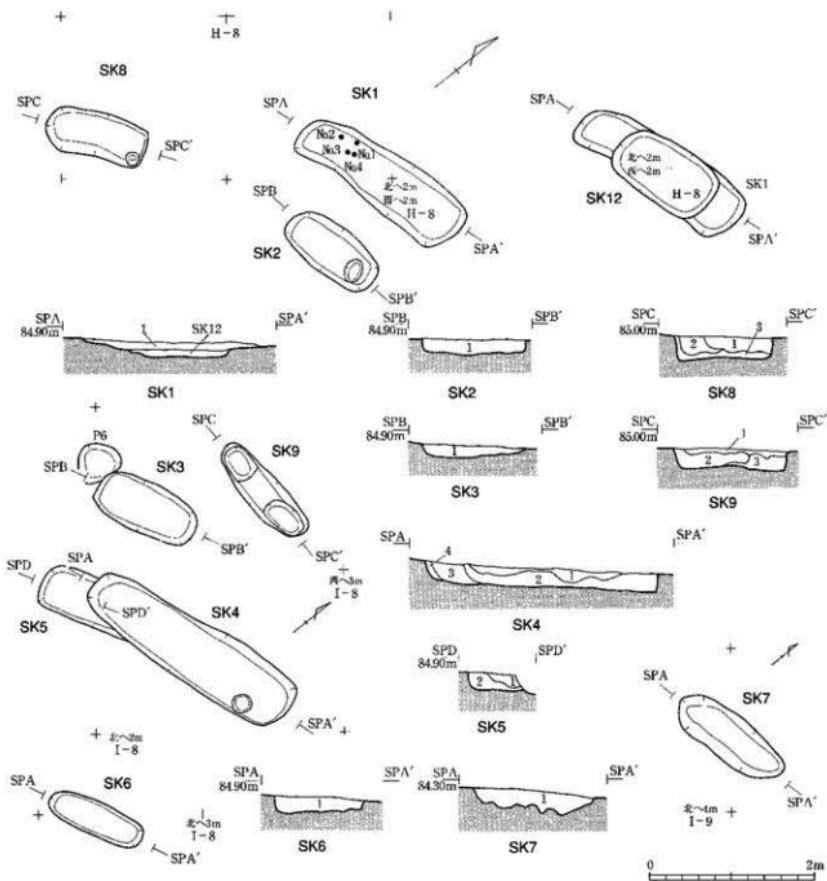
出土遺物：出土遺物は無かった。

SK 5 土坑

位 置：I - 7 区北西隅に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、SK 5 に切られている。長軸方向は N - 60° - E となっている。

1 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



施構名	座標 (GRHd)	平面形	実測 (長×幅・cm)	壁厚 (cm)	地土切片	上 色	上 性	備 考
SK 1	II-8区	南北長方形	227×54	13	1層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 2	H-8区	南北長方形	127×60	20	1層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 3	H-8区	南北長方形	130×62	13	1層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 4	H-8区	南北長方形	280×70	25	1層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (幅1~2cm) 少量含む
					2層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (幅1~2cm) 少量含む
					3層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (幅1~2cm) 少量含む
					4層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (幅1~2cm) 少量含む
SK 5	I-7区	南北長方形	() × 38	20	1層	10YR3/5 暗褐色	粘土質シルト	10YR2/2 黒色シルト混入
					2層	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	10YR4/6 黑色シルト混入
SK 6	I-7区	南北長方形	120×40	24	1層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 7	I-8区	南北長方形	153×33	25	1層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 8	H-8区	南北長方形	124×51	28	1層	7SYR2/3 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
					2層	7SYR2/4 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
					3層	7SYR2/4 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 9	II-8区	南北長方形	143×40	34	1層	7SYR4/3 暗褐色	粘土質シルト	7SYR3/4 グリット質粘土混入
					2層	7SYR3/2 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
					3層	7SYR3/3 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK12	H-8区	南北長方形	132×73	18	1層	7SYR3/2 暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
					2層	10YR4/4 暗褐色	粘土質シルト	10YR3/6 粘土ブロックに混在

第49図 東区土坑

規 模：長軸1.50m以上、短軸0.58mで、検出面からの深さは20cmである。

堆 積 土：埋土は4層に分けられた。いずれも地山の黄褐色土をブロック状に含んでいる。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK 6 土坑

位 置：I - 7 区に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN - 65° - Eとなっている

規 模：長軸1.20m、短軸0.40mで、検出面からの深さは24cmである。

堆 積 土：暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK 7 土坑

位 置：I - 8 区に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN - 77° - Eと、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規 模：長軸1.53m、短軸0.53mで、検出面からの深さは25cmである。

堆 積 土：暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物としては、摩滅して文様不明の土器片が2点ある。

SK 8 土坑

位 置：H - 8 区に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN - 57° - Eとなっている。

規 模：長軸1.24m、短軸0.51mで、検出面からの深さは28cmである。

堆 積 土：埋土は3層に分けられた。いずれも地山の黄褐色土をブロック状に含んでいる。人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK 9 土坑

位 置：H - 8 区南東に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN - 91° - Eと、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規 模：長軸1.43m、短軸0.40mで、検出面からの深さは34cmである。土坑底面の両端がわずかにくばんでいる。

堆 積 土：埋土は3層に分けられた。いずれも地山の黄褐色土をブロック状に含んでいる。人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK12 土坑

位 置：H - 8 区南西部に位置し、SK1の底面から検出している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN - 77° - Eと、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規 模：長軸1.32m、短軸0.73mで、検出面からの深さは約13cm程度である。

堆 積 土：褐色の粘土質シルトの単層で、黄褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

1 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）

②西区土坑（第50・51図）

SK10土坑

位 置：F-7区北西部に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN-85°-Eと、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規 模：長軸1.82m、短軸0.76mで、検出面からの深さは27cmである。

堆 積 土：埋土は3層に分けられた。

出土遺物：摩滅して文様不明の土器片が9点あるが、図示できるものはなかった。土坑底面西側から菅玉6点が出土している（第52図）。素材はいずれも碧玉である。穿孔はいずれも両端から穿かれている。

SK11土坑

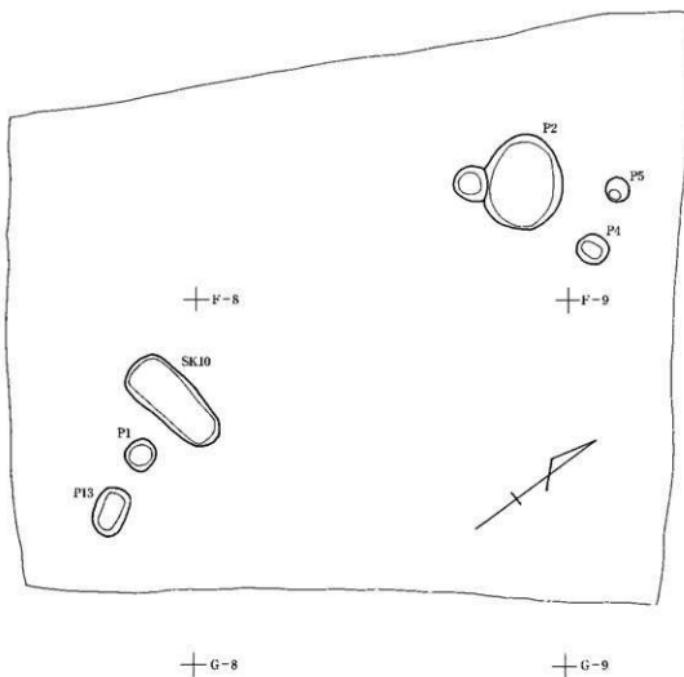
位 置：E-8区南東部に位置している。

平 面 形：楕円形で、長軸方向はN-52°-Eである。

規 模：長軸1.55m、短軸1.22mで、検出面からの深さは25cmである。

堆 積 土：埋土は2層に分けられた。埋1層中には、炭化物粒や焼土粒が含まれている。

出土遺物：摩滅して文様不明の土器片が5点あるが、図示できるものはなかった。礫石器が2点出土している（第53図6・7）。6は磨凹石で、使用痕跡としての磨面と凹部が両面にみとめられる。7は凝灰岩



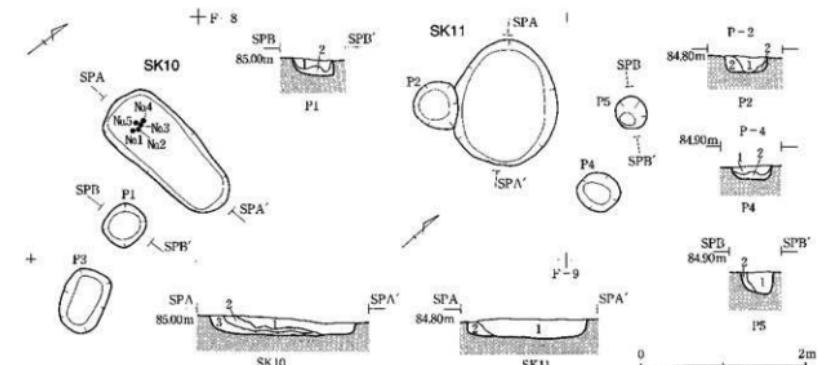
第50図 西区平面図

質の石材をもちいた石製品である。断面形は扁平で、小さな凹凸のある自然面の片面に使用痕跡としての磨面がみられる。磨面は凸部のはば全面にひろがっているのにたいし、凹部には見られないことから、幅広の比較的大きな素材を繰り返し研磨した結果と考えられる。大きさ・重さ・形態などからみて、据え置いてなんらかの加工物を研磨したいわゆる「砥石」のようなものと考えたい。

(2) ピット

ピットは、東区で2基、西区で5基検出されているだけであり、周辺で検出されている土坑との関係を含めてその性格については不明である（第48・50図）。

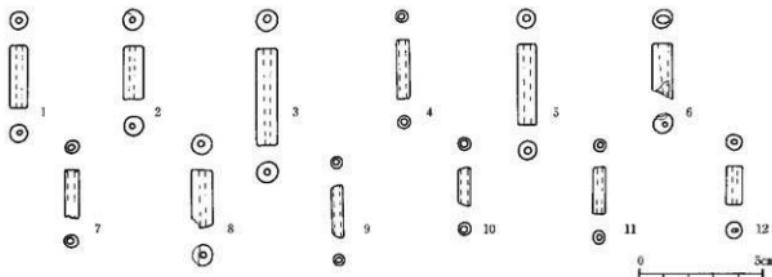
出土遺物としては、土器はいずれも著しい摩滅により文様不明のものか、無文土器の細片であり図示できる資料はなかった。石器は5点出土している（第53図）。1・2は石匙で、ともに両側面から抉りを入れることによって作り出されたつまみ部をもっている。1は、下半部が折れているが、横長剥片を素材としており、打面にこだわらずに刃部を作り出している。2は、刃部が曲線・直線により構成され、尖端部をもたない。3・4はともに二次加工のある剥片素材の石器で、このうち3は、腹面の一部に受熱による焼けはじけがみられる。5は、表土中から出土した凹石で、使用痕跡としての凹部が両面にみとめられる。



施設名	位置 (GRd)	平面形	掘深 (m × m · cm)	奥行き (cm)	堆土量 (t)	上 色	下 生	備考
SK10	F-7区	楕円形	182×76	27	1t			
					2t			
					3t			
SK11	E-8区	楕円形	155×122	25	1t	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	10YR4/6 黄土ブロックを投入
					2t	10YR4/4 暗色	粘土質シルト	10YR3/2 浸入
Pit 1	E-7区	円形	51×46	17	1t	10YR2/2 暗褐色	粘土質シルト	炭化物埋蔵入
					2t	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	7.5TDS/5 枝条投入
Pit 2	E-8区	円形	58×54	19	1t	10YR3/4 暗褐色	シルト	E-7 10YR2/2 投入
					2t	7SYR4/5 細色	粘土質シルト	10YR2/4(4)の上に盛入
Pit 3	F-7区	楕円形	80×53	11	1t	7SYR3/3 暗褐色	粘土質シルト	人為的な複層状成
Pit 4	E-9区	円形	50×47	17	1t	7SYR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
					2t	7SYR4/4 暗色	粘土質シルト	上層のブリックを看守台
Pit 5	E-9区	円形	40×36	27	1t	10VK2/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブリック含む、炭化物と土投入
					2t	7SYR4/4 暗色	粘土質シルト	地山と削取

第51図 西区土坑・ピット

I 八木山線町遺跡（第1・2次調査）



第52図 土坑出土遺物（1）

出土地点	地盤	形質	長 (mm)	寛 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	写真番号
SK1	原土	筒瓦	25.5	—	7.5	2.4	滑石		写真20
SK2	原土	筒瓦	21.5	—	8.2	2.6	滑石		写真20
SK3	原土	筒瓦	30.5	—	8.5	3.3	滑石		写真20
SK4	原土	筒瓦	24.5	—	4.8	1.2	滑石		写真20
SK5	原土	筒瓦	33.2	—	7.7	2.4	滑石		写真20
SK6	原土	筒瓦	22.6	—	5.4	1.1	滑石		写真20
SK7	原土	筒瓦	19.9	—	5.3	1.0	滑石		写真20
SK8	原土	筒瓦	24.2	—	5.5	3.0	滑石		写真20
SK9	原土	筒瓦	21.7	—	4.9	0.9	滑石		写真20
SK10	原土	筒瓦	16.0	—	5.0	0.8	滑石		写真20
SK11	SK10	原土	19.3	—	5.2	1.0	滑石		写真20
SK12	SK10	筒瓦	16.0	—	6.8	1.3	滑石		写真20
PK4	原土	石器	58.6	34.1	11.0	21.9	麻化過塗器		写真21
PK1	石器	石器	49.2	50.0	6.5	8.9	滑石貝殻		写真21
PK3	Pk3	石器	49.1	34.8	12.5	19.3	麻化過塗器		写真21
PK4	PK1	原土	68.5	3.5	12.0	36.5	ダイヤモンド		写真21
PK2	原土	内石	156.1	67.5	20.5	461.0	安山岩		写真22
PK1	SK11	四角（砂）	124.1	77.8	34.4	500.0	安山岩		写真22
PK1	SK11	—	285.0	152.0	28.9	1600.0	—		写真22

土坑出土遺物観察表

(3) 遺構外出土遺物

遺構外の出土遺物としては、土器はいずれも著しい摩滅により文様不明のものか、無文土器の細片であり図示できる資料はなかった。第53図3は、表土中から出土した凹石で、使用痕跡としての凹部が両面にみとめられる。

2.まとめ

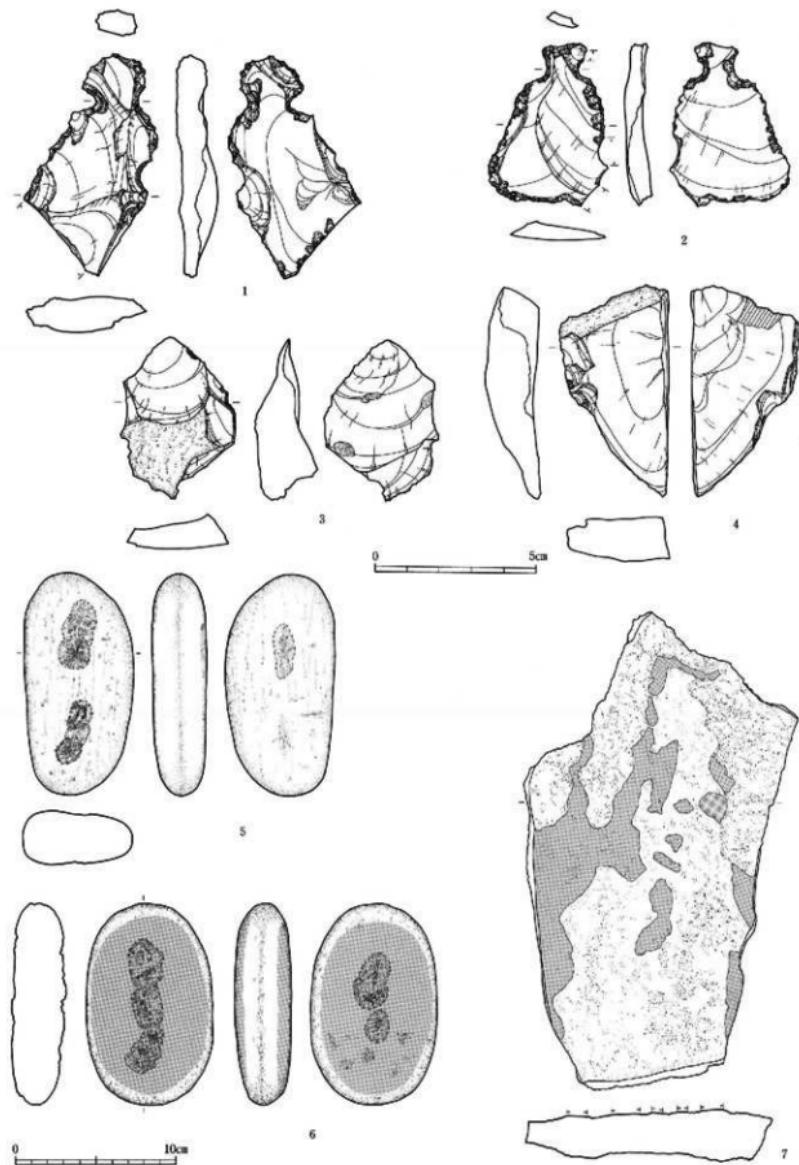
(1) 2次調査は、土地利用計画の変更に伴い実施されたもので、調査区は1次調査区東側部分を挟んでいる。

測量基準点については1次調査時に設定した測量杭を基準としている。

(2) 今回の調査で発見された遺構は、土坑12基、ピット5基である。これらの土坑の形態についてみると、SK11が楕円形を呈する以外は隅丸長方形のものである。規模については、長軸が2m以上となるSK1・4以外のものは長軸1.3~1.8mの中におさまる。主軸方位については、真北から70°~90°東に振れているグループと、50°~65°東に振れているグループに大別されるが、真北からみるとほとんど東西方向に並んでいるといえる。

土坑の形態、規模、長軸方向、配列などにある程度規則性がみられることや、大小のブロック状の土塊が混入しているという埋土状況などから、これらの土坑については、弥生時代の土壙墓と考えられる。

(3) 土坑からの出土遺物は、SK1・10の2基の土坑から管玉がそれぞれ6点ずつ出土した以外、SK11からの砾石器がある程度である。これ以外の遺物がないことから今回発見された土壙墓が弥生時代の中でどの時期に位置付けられるかは不明である。



第53図 土坑出土遺物（2）

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）

八木山緑町遺跡の周辺において弥生時代の墓域が発見されている遺跡としては、丘陵南東部の沖積地にある下ノ内浦遺跡から後期の土塙墓と土器棺墓が、西台畠遺跡から舟形円式期の土器棺墓などが発見されている。

(4) 1次調査において、弥生時代後期の天王山式段階に比定される時期と思われる堅穴住居跡2軒が発見されていたことから、今回の土塙墓とともに八木山丘陵上における弥生時代の様相の一端があきらかになった。

引用参考文献

- 佐藤・斎野（1982） 「北前遺跡」『仙台市文化財調査報告書第36集』
- 渡部・紀（1989） 「北前遺跡－第3次調査報告書－」『仙台市文化財調査報告書第129集』
- 黒谷・主浜（1992） 「土手内・土手内窓跡、土手内横穴B地点発掘調査報告書－」『仙台市文化財調査報告書第165集』
- 工藤督司（1996） 「中在家南遺跡他」『仙台市文化財調査報告書第213集』
- 宮城県教育委員会（1969） 「押蔵文化財緊急発掘調査概報－長根貝塚－」『宮城県文化財調査報告書第19集』
- 宮城県教育委員会（1986） 「小栄川遺跡遺物包含層上答編」『宮城県文化財調査報告書第117集』
- 丹羽・茂（1981） 「大木式土器」『縄文文化の研究4』雄山閣出版
- 縄文文化検討会（1988） 「東北地方の弥生土器の編年について」
- 弥生時代研究会（1990） 「「天正山式期をめぐって」の検討会記録集」

写真1
遺跡全景
東方上空より



写真2
1次調査区全景





写真3
1次調査区全景
(I ~ II区)



写真4
1次調査区全景
(II区)



写真5
1次調査区全景
(III区)

写真6

S101・04・07

竪穴住居跡

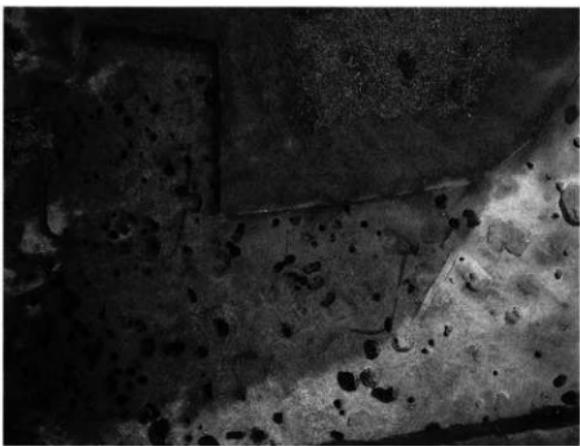


写真7

S102

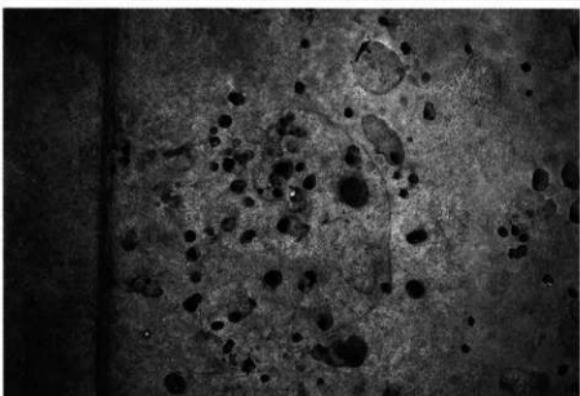
竪穴住居跡



写真8

S103

竪穴住居跡



I 八木山緑町道路（第1・2次調査）



写真9 調査前状況（西より）



写真10 調査前状況（南より）



写真11 I区遺構検出状況（東より）



写真12 I区完掘全景（東より）



写真13 II区遺構検出状況（南より）



写真14 II区完掘全景（南より）



写真15 III区遺構検出状況（西より）



写真16 III区完掘全景（西より）



写真17 I・II区完掘全景（北より）



写真18 II・III区完掘全景（東より）



写真19 SI01床面検出状況（西より）



写真20 SI01床面完掘全景（東より）



写真21 SI02掘り方検出状況（西より）

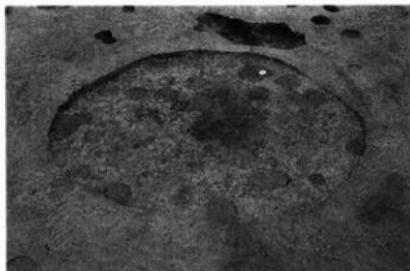


写真22 SI02床面検出状況（東より）

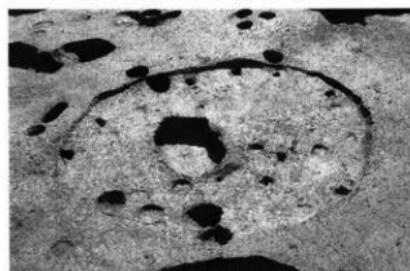


写真23 SI02床面完掘全景（北より）

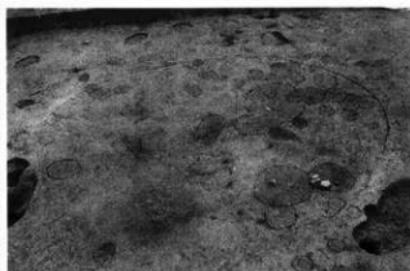


写真24 SI03床面検出状況（北より）

I 八木山緑町道路（第1・2次調査）

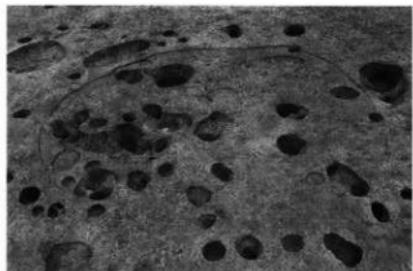


写真25 SI03床面完掘全景（南より）

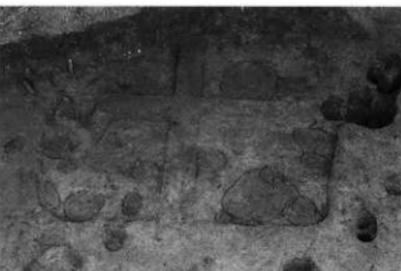


写真26 SI04床面検出状況（東より）

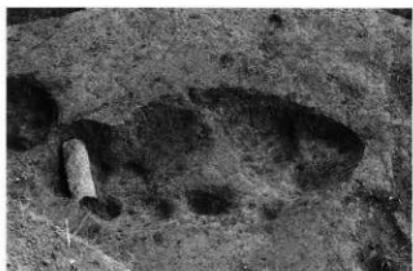


写真27 SI04・SK2石棒出土状況（南より）



写真28 SI04床面完掘全景（東より）

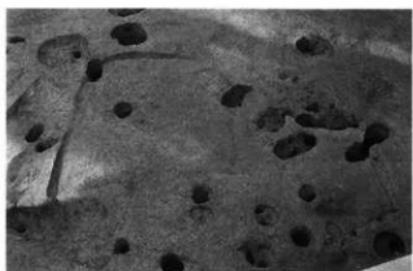


写真29 SI07床面完掘全景（西より）



写真30 SI08床面完掘全景（西より）



写真31 SI09土器出土状況（南より）



写真32 SI09床面完掘全景（西より）



写真33 III区発掘全景（東より）



写真34 SK47~52全景（北より）

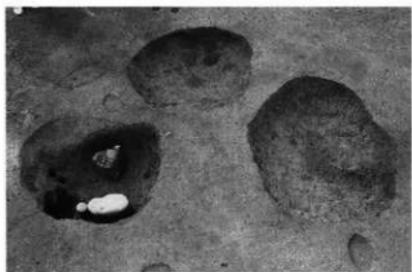


写真35 SK16・17・18全景（東より）



写真36 SK17全景（東より）



写真37 SK21全景（北より）



写真38 下層調査区全景（東より）



写真39 下層調査区西壁断面



写真40 下層調査区南壁断面

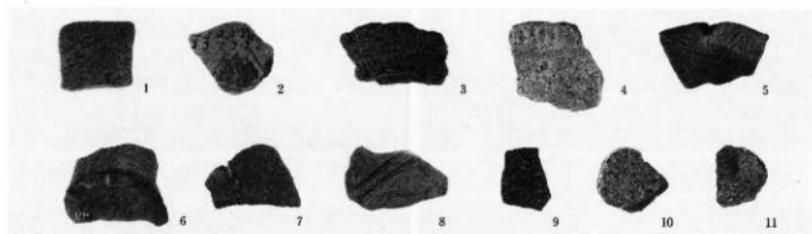


写真41 SI01出土土器（第7図）

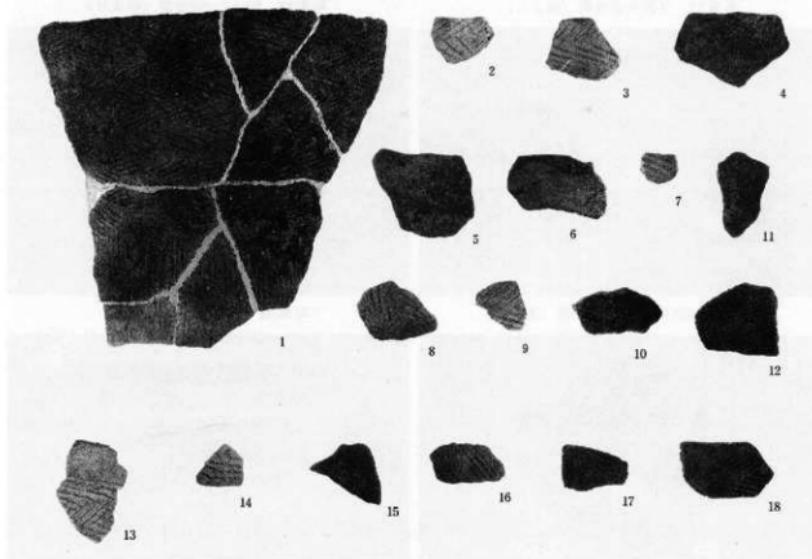


写真42 SI02出土土器（第9図）



写真43 SI03出土土器（第11・15・17図）

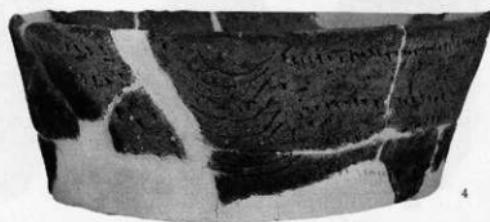


写真44 SI09出土土器（第19図）



写真45 SI01出土石器（1）（第7図）

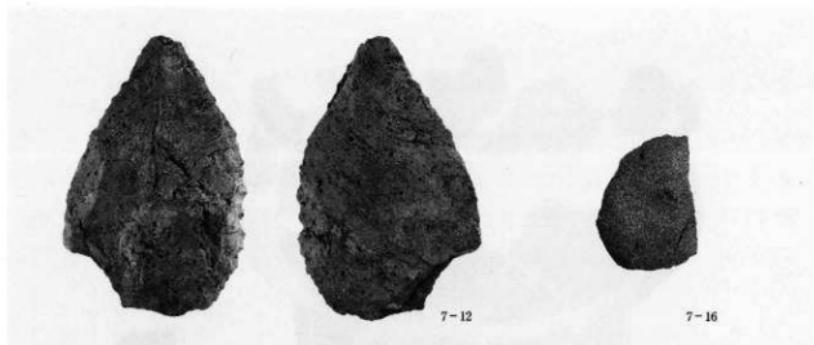


写真46 SI01出土石器（2）第7図

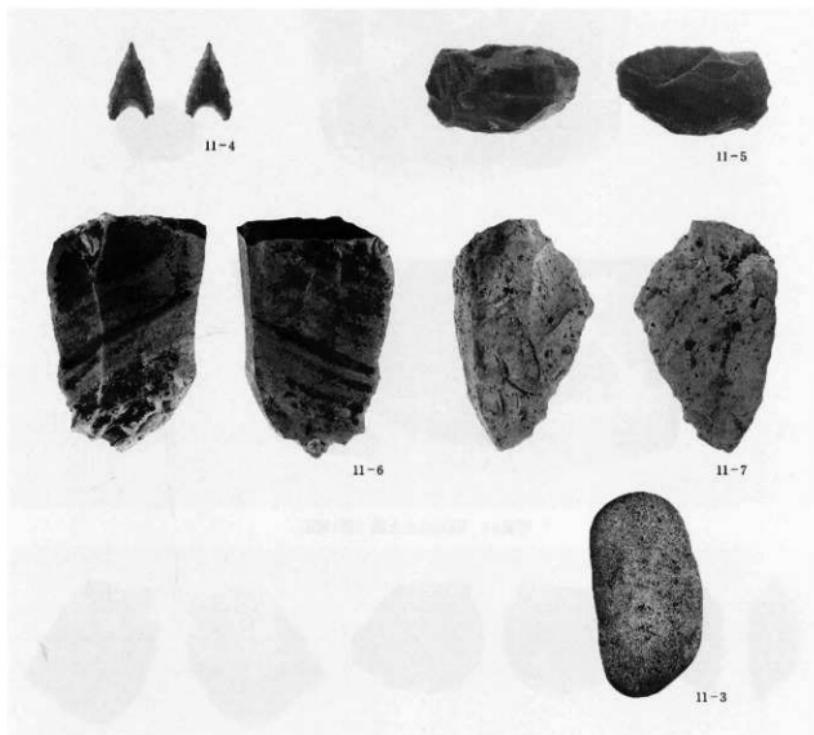


写真47 SI03出土石器 第11図

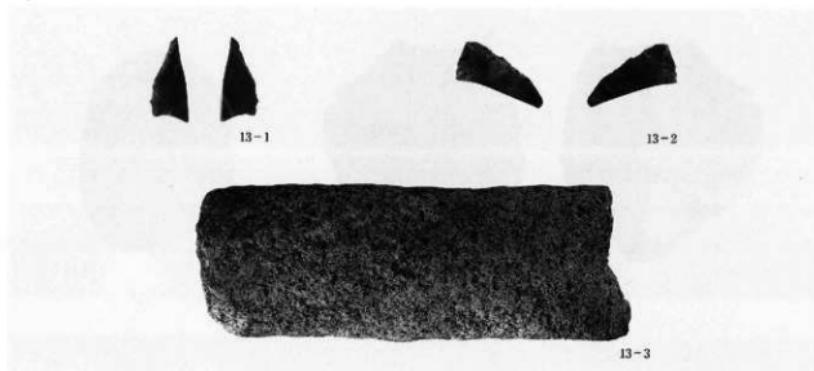


写真48 SI04出土石器 第13図

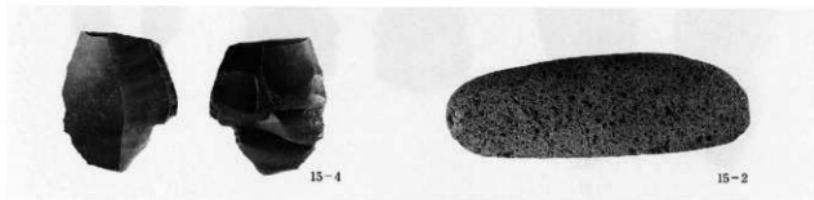


写真49 SI07出土石器 第15図

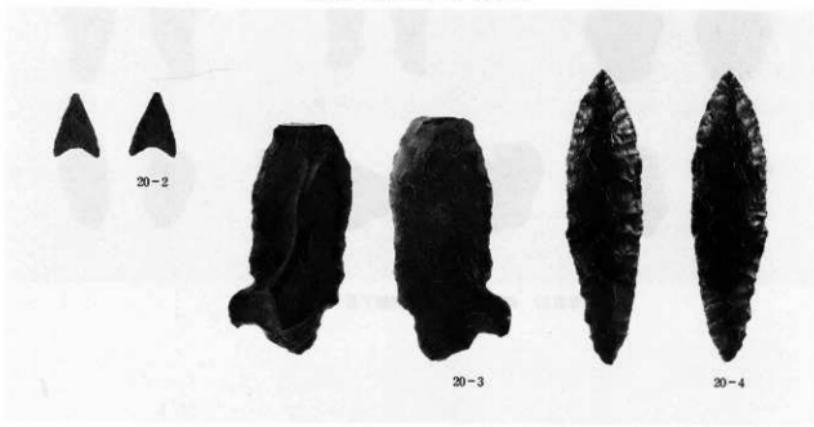


写真50 SI01出土石器（1）第20図



写真51 SI09出土土器（2）第19・20図

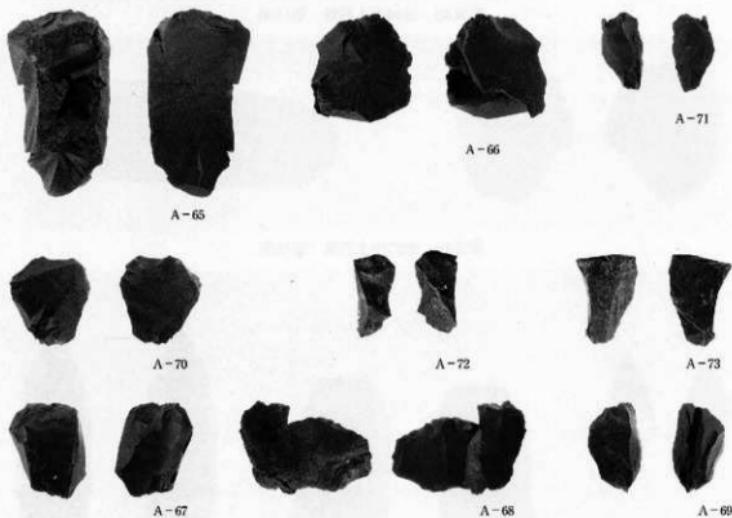


写真52 接合資料・両極剥離石器 第40・41図

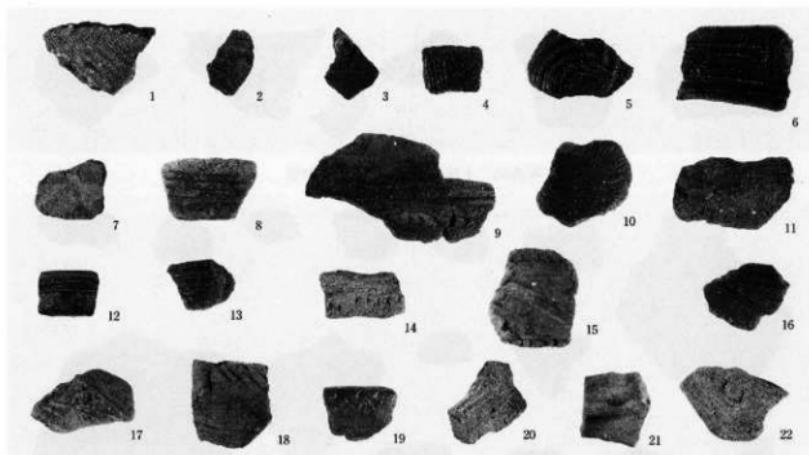


写真53 土坑出土土器（1）第30図

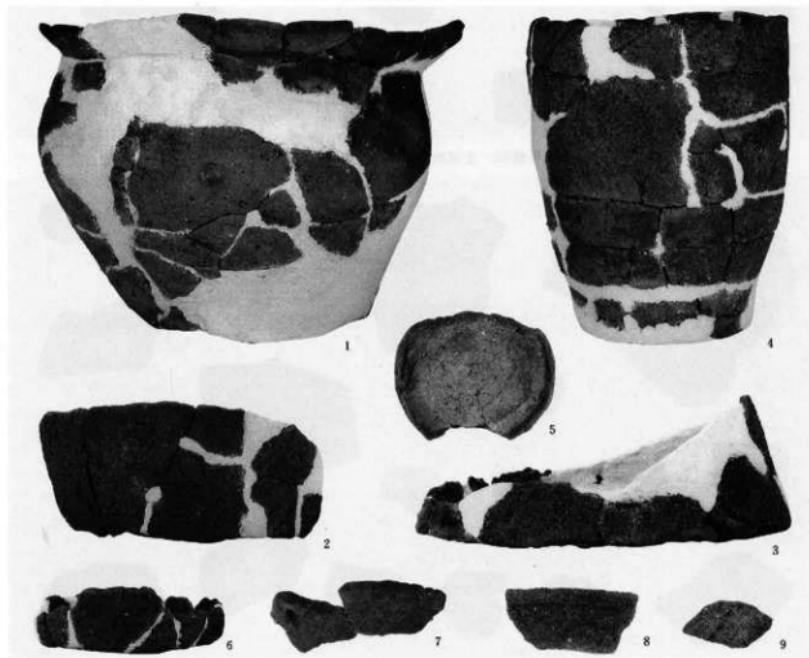


写真54 土坑出土土器（2）第31図



写真55 土坑出土土器（2）第31図

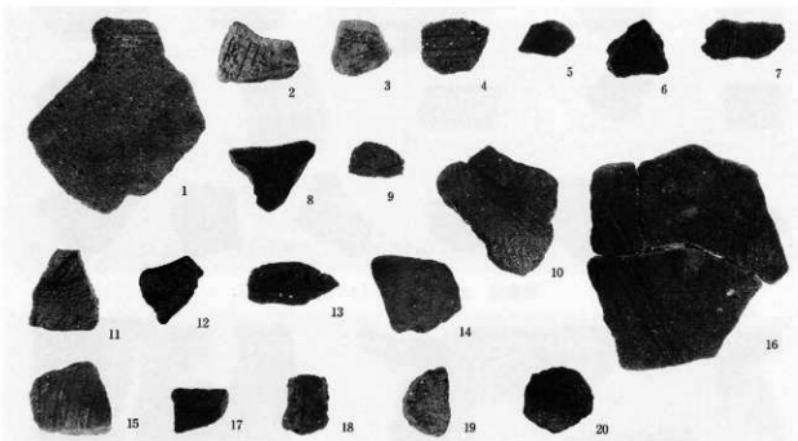


写真56 土坑出土土器（3）第32図

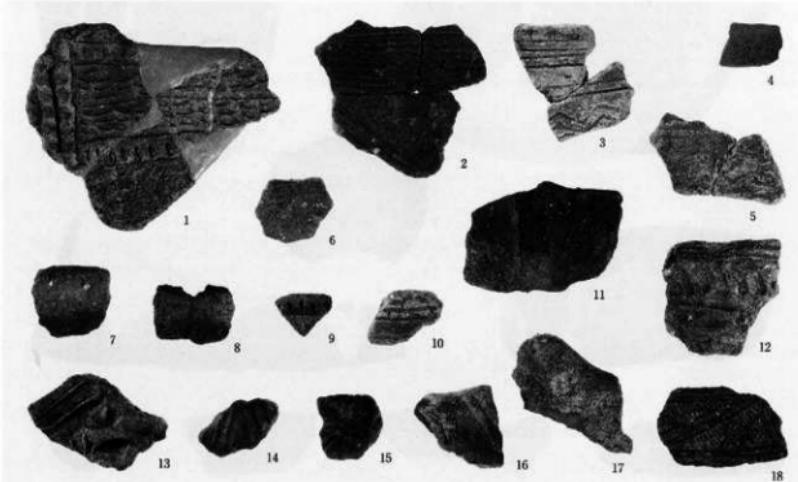


写真57 基本層出土土器 第42図

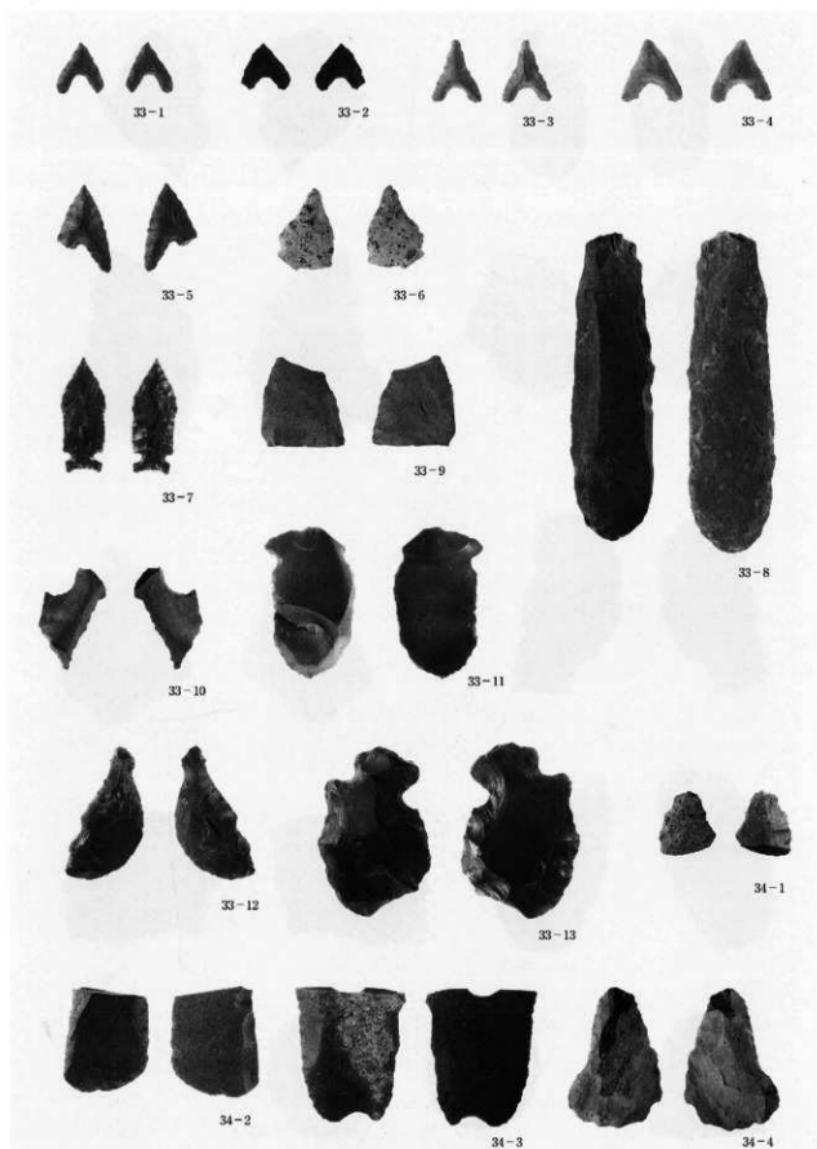


写真58 土坑出土石器（1）第33・34図 剥片石器 S=2/3

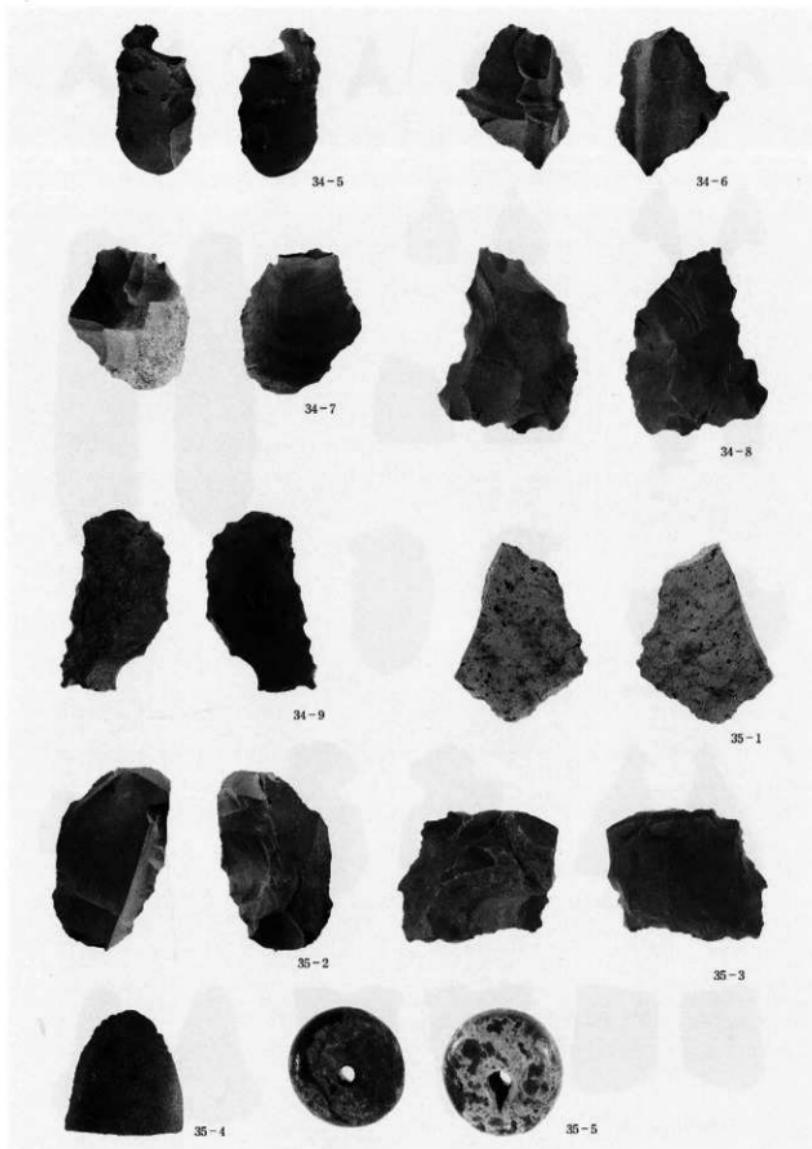
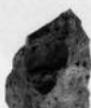


写真59 土坑出土石器（2）第34・35図 剥片石器 S=2/3



35-8

35-7



36-6



36-2



36-3



36-4



36-5



36-6



36-7



36-8



36-9



37-1



37-2

写真60 土坑出土石器（3）第35・36・37図 剥片石器 S=2/3 磨石器 S=1/3

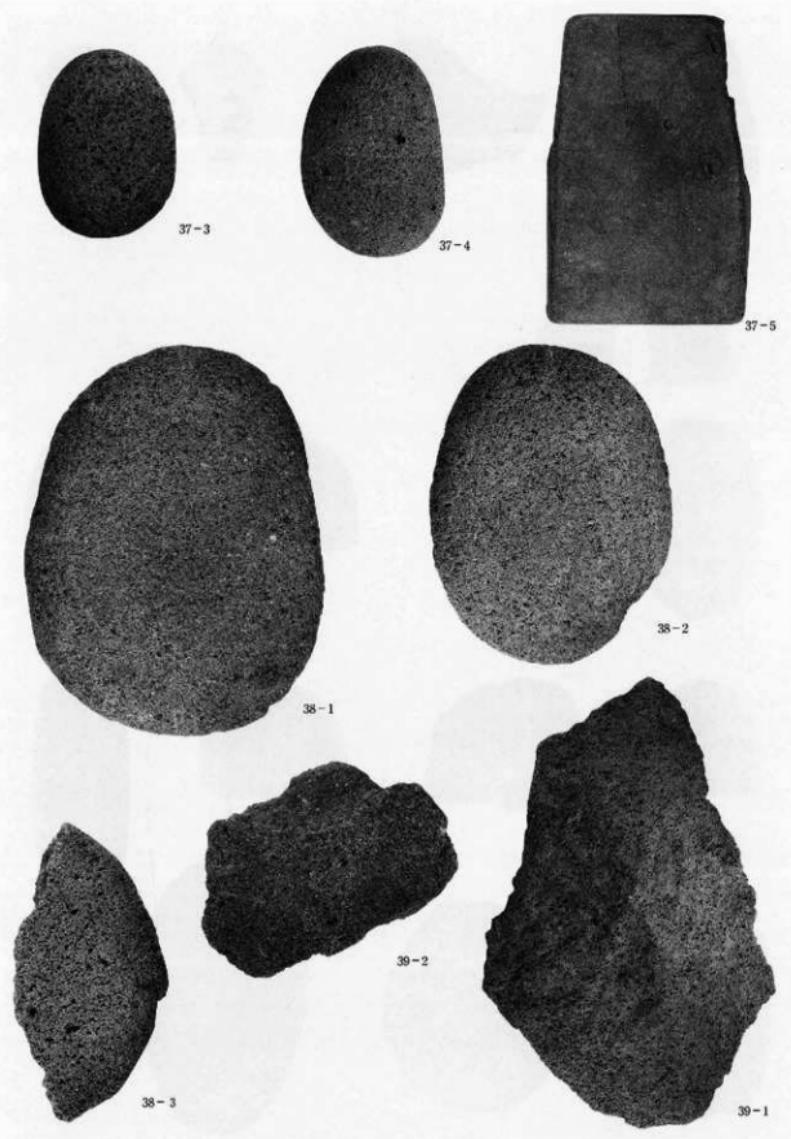


写真61 土坑出土石器（4）

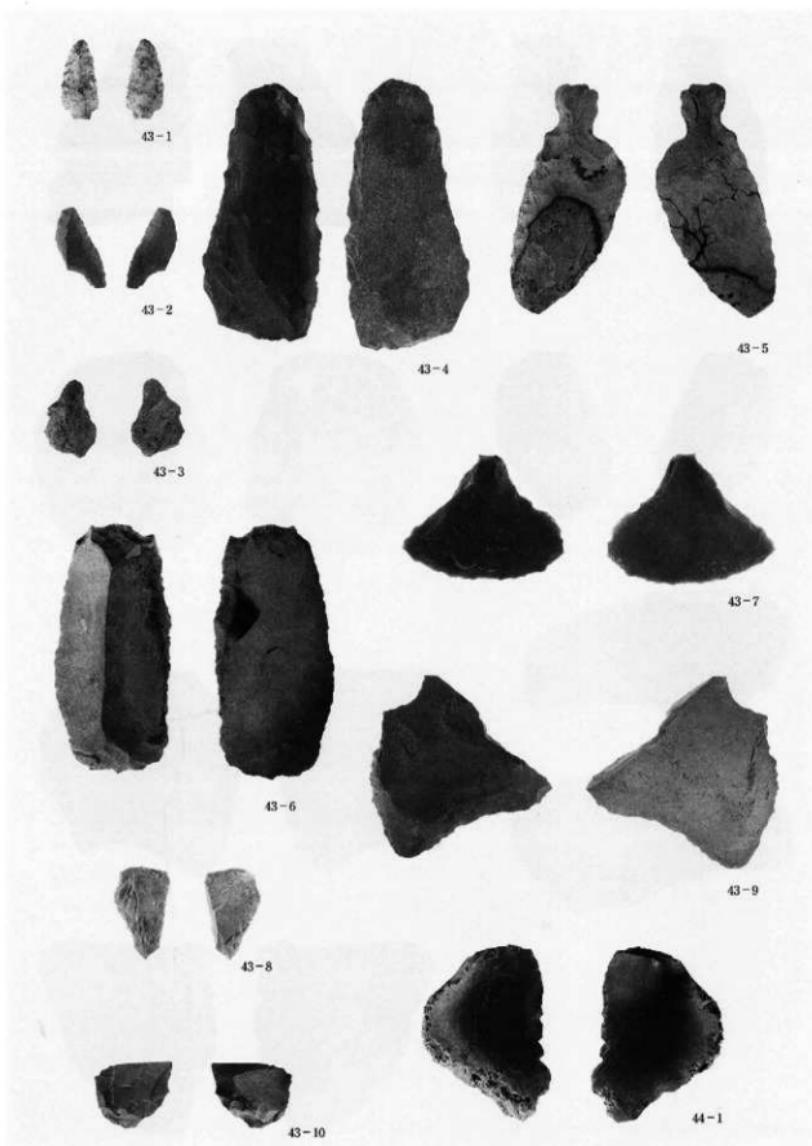


写真62 基本層出土石器（1）第43・44図 S=2/3



44-2



44-3



44-4



45-1



45-2



45-3

写真63 基本層出土石器（2）第44・45図 S=2/3

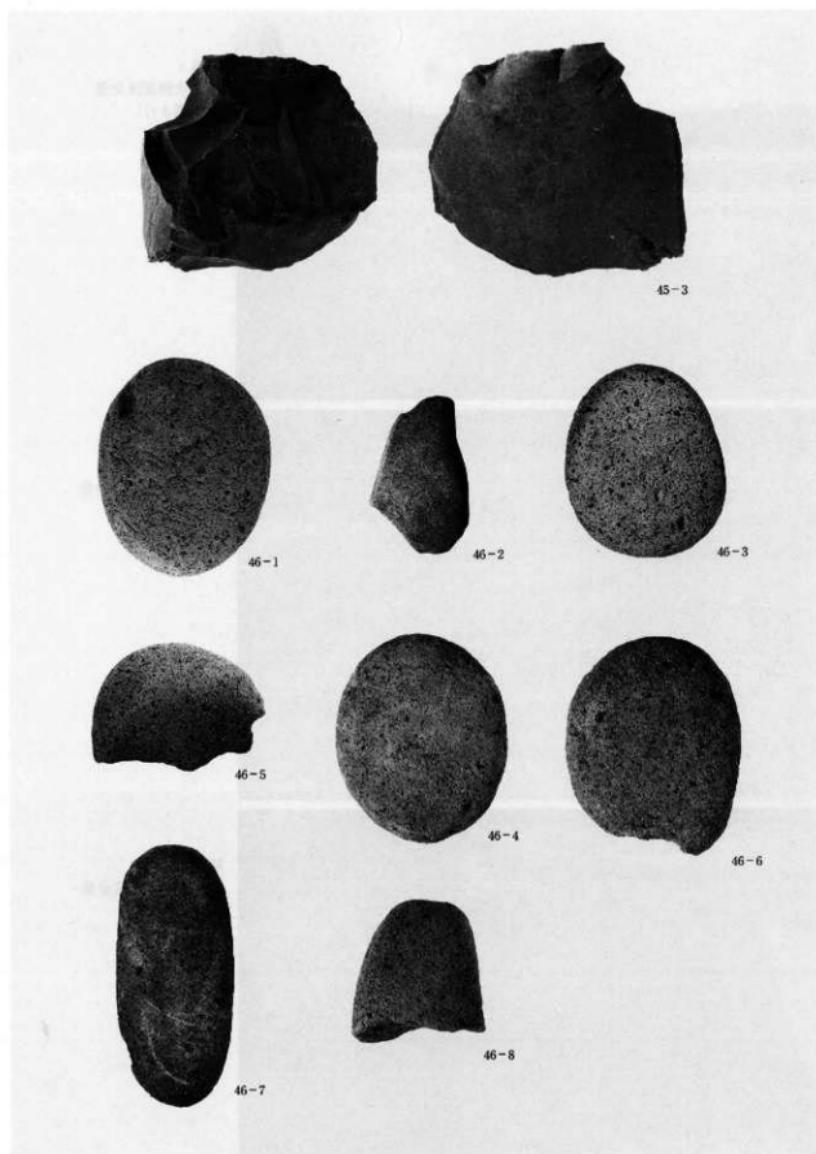


写真64 基本層出土石器（3）第45・46図

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



写真1
2次調査区全景
(西より)



写真2
2次調査東区全景
(西より)



写真3
2次調査西区全景
(南より)



写真4 東区構造検出状況（西より）



写真5 東区土坑群全景（北より）

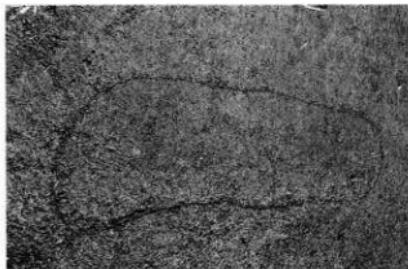


写真6 SK1検出状況（南より）



写真7 SK1完掘全景（南より）

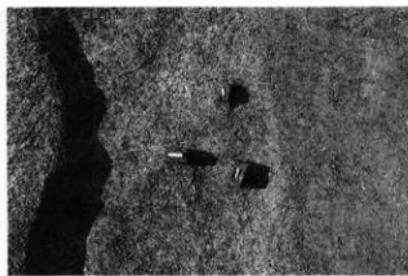


写真8 SK1管玉出土状況（東より）



写真9 SK1・2・12完掘全景（東より）



写真10 SK3・4完掘全景（東より）



写真11 SK4・5完掘全景（南より）

I 八木山緑町遺跡（第1・2次調査）



写真12 西区遺構検出状況（南より）



写真13 西区土坑群全景（東より）



写真14 SK10管玉出土状況（北より）



写真15 SK10管玉出土状況（東より）



写真16 SK10管玉出土状況（北より）

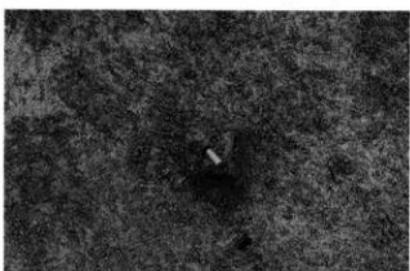


写真17 SK10管玉出土状況（東より）



写真18 SK10完掘全景（東より）

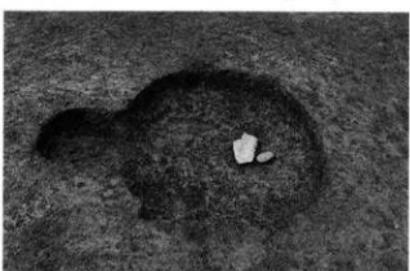


写真19 SK11完掘全景（東より）

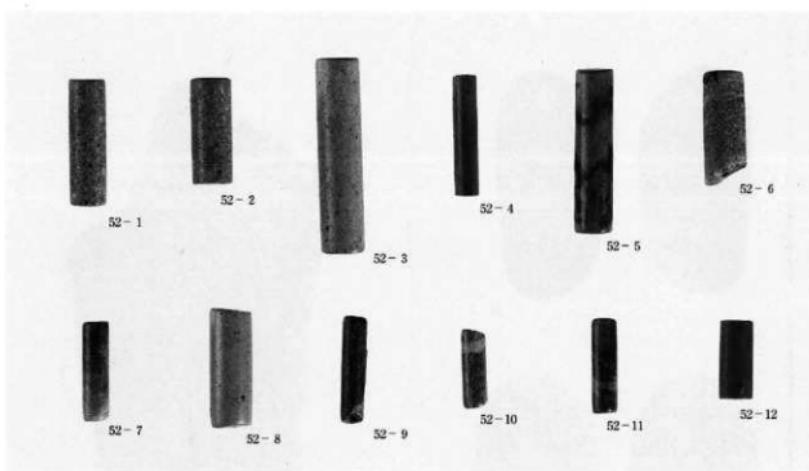


写真20 SK 1・10出土管玉（第52図） S=1/1

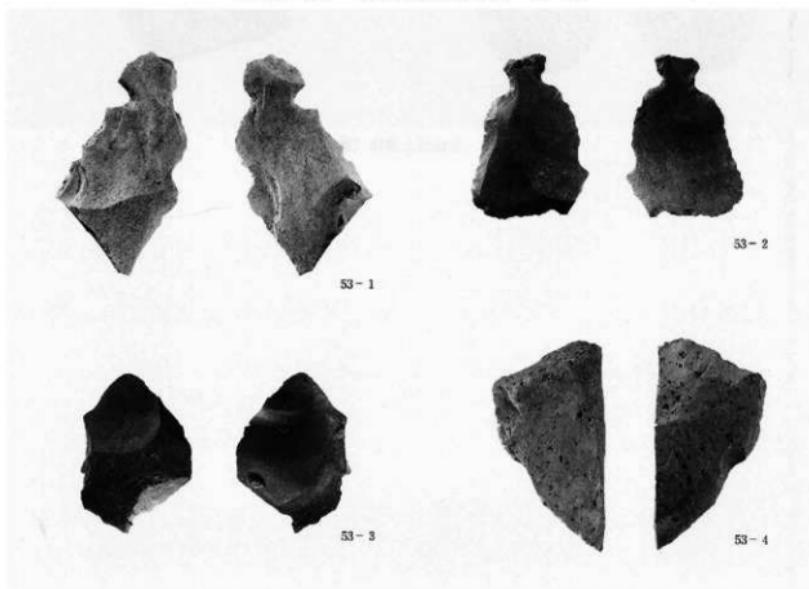


写真21 土坑出土遺物（第53図） S=2/3

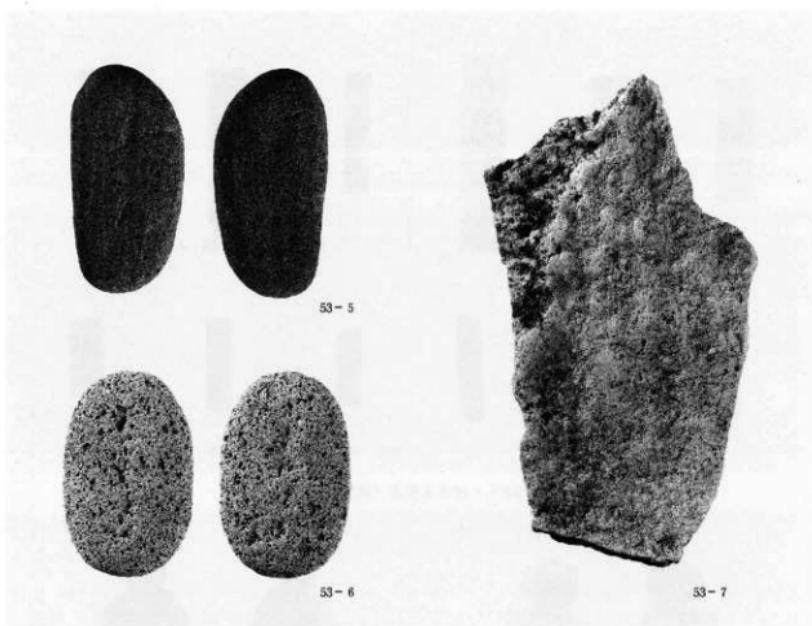


写真22 土坑出土遺物（第53図）

II 洞ノ口遺跡

[1] 第3次調査

1. 調査要項

遺跡名 洞ノ口遺跡（宮城県遺跡番号01372）

調査地点 仙台市宮城野区岩切字青津目・分台外他

調査原因 仙台市岩切駅東土地区画整理事業

調査面積 84,800m²

調査面積 2,435m²

調査期間 平成11年10月4日～平成12年1月24日 平成12年4月17日～平成12年11月17日

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育委員会文化財課

担当職員（確認調査）篠原信彦 主浜光朗（本調査）佐藤 洋 主浜光朗 吉田和正 村上秀樹

調査参加者 佐藤洋子 石川カツ子 佐藤優子 森谷愛子（以上整理も含む）菱沼みのり 山並明夫 永野くみ子 千葉恒男 加藤友治 藤江勝子 吉田公治 三浦貢 小野寺達重 吉田やえよ 宮城富子 小松千代子 石井千代子 青木吉次 阿部みのる 須賀栄子 板橋栄子 阿部敬子 小川良子 鈴木きぬ子 三浦たか子 奥山妙子 奥山祐子 斎藤喜恵子 武田典子 山田惣治 田村健三 菊池よしえ 鈴木秀典 三浦喜代 平賀千律子 横山美代子 内田節子 大槻明美 佐藤悦子 高崎弘子 相沢美佐子 上野美子 佐藤としあ 郷湖静子 佐々木和江

整理参加者 及川のり子 小山つるよ 若生洋子 小林由美

申請者（1年次）仙台市・多賀城市・岩切駅東土地区画整理準備委員会 委員長 加藤久雄
(2年次) 仙台市岩切駅東土地区画整理組合 理事長 加藤久雄

2. 遺跡の位置と環境

洞ノ口遺跡は、仙台市の北東約9kmの地点、宮城野区岩切字洞ノ口・洞ノ口東・青津目・分台外他の地区に位置する遺跡である。遺跡南面には、奥羽山系から東に延び、遺跡付近から次第に南流して仙台港に注ぐ七北田川が横たわっている。七北田川は、上流から下流までほとんど同一幅の谷底平野を有し、段丘面の間を蛇行を繰り返して下流し、自然堤防を発達させている。遺跡は七北田川の左岸の自然堤防並び



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

にその後背湿地に立地している。標高は5m～8mで、七北田川沿いが高く北東に向かって徐々に低くなっている。

本遺跡周辺には、古墳時代以降の遺跡が数多く分布しており、そのほとんどは七北田川両岸の丘陵面と自然堤防上に集中している。特に本遺跡付近には「たかのこう（多賀の国府）」があったという説もあり、七北田川の右岸には「国府の津」に由来するとも言われる鶴巣遺跡・今市遺跡、左岸には史跡岩切城・東光寺遺跡・若宮前遺跡などの中世の遺跡が多く分布している。また、陸奥国府であった多賀城が東部に位置していたことから、岩切から多賀城跡にかけての自然堤防上には、新田遺跡・山王遺跡・市川橋遺跡などの古代から中世にかけての遺跡が分布している。新田遺跡及び山王遺跡北部の後背湿地は、留守氏によって大規模な新田開発が行われたという説もあり、水田跡も確認されている。

3. 調査の方法と経過

(1) 調査に至る経過

洞ノ口遺跡の北東部に隣接する、後背湿地に広がる水田地帯において土地区画整理事業が実施されることになった。仙台市教育委員会は、申請者と協議の上、工事において掘削を伴う部分について事前に確認調査を実施することとした。洞ノ口遺跡では、土地区画整理事業に伴う宅地予定地内で1次調査が行われ、中世の城館及び溝跡、井戸跡、水田跡などが発見されている。また、都市計画道路泉塙釜線予定地内の2次調査では、中世の城館及び溝跡、墳墓などが発見されている。平成10年10月に行われた確認調査の結果、後背湿地全体に水田跡が広がっていることが確認された。そのため、洞ノ口遺跡の範囲が拡張され、区画整理地内の掘削を伴う工事部分について本調査を実施することとした。

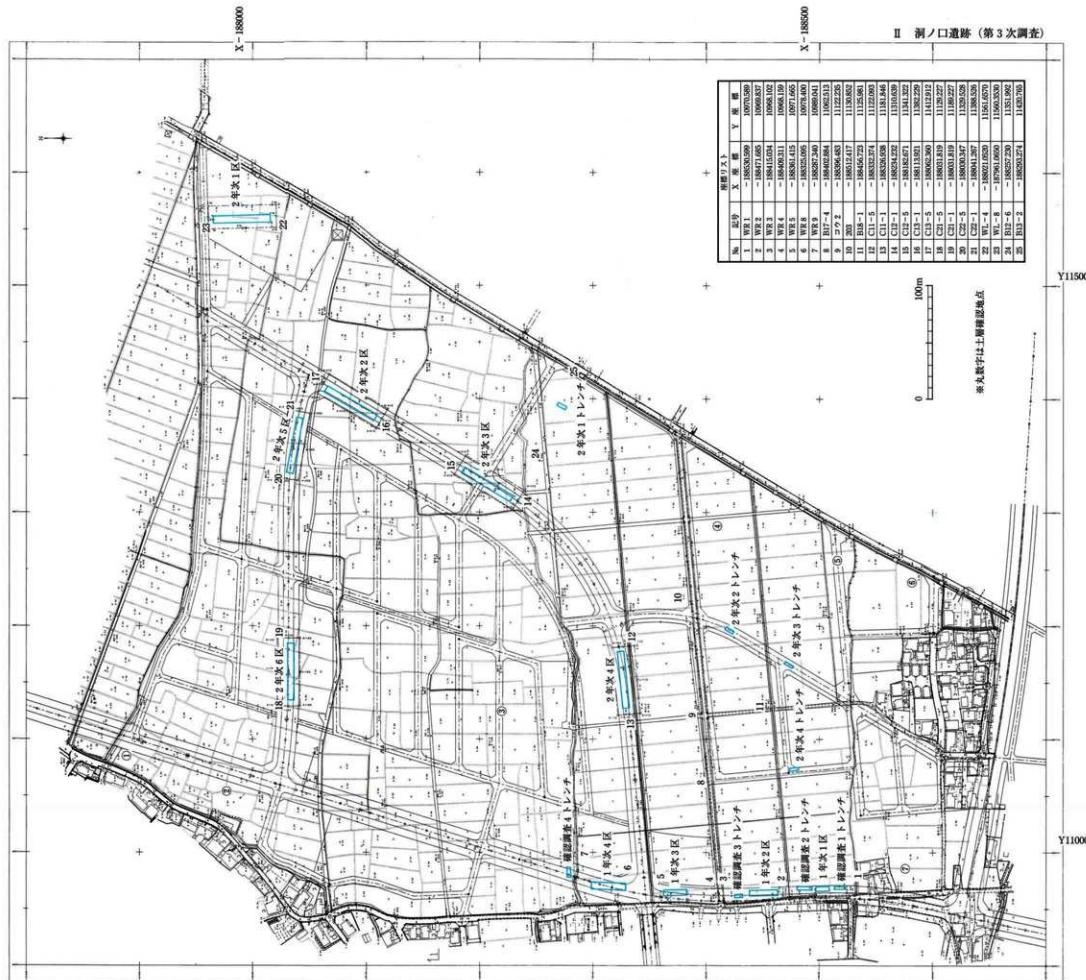
(2) 調査方法

区画整理地内のほとんどの地域が盛土を伴う開発になるため、都市計画道路岩切駅前線予定地の調査結果から道路部分の調査の実施を検討することとし、当初都市計画道路岩切駅前線予定部分に調査区を設定した。確認調査においては、都市計画道路岩切駅前線予定部分に4ヶ所のトレチを設定した。1トレチについては3m×12m、2トレチについては3m×15m、3トレチについては3m×8m、4トレチについては3m×9mである。その調査結果、1トレチから3トレチで水田跡と思われる遺構が確認された。本調査の1年次は調査区を都市計画道路岩切駅前線予定地に1区～4区まで設定した。1区については4m×12m、2区については5m×25m、3区については5m×20m、4区については6m×25mとした。2年次は調査区を区画整理地内に1～6区まで設定した。調整池部分を1区、都市計画道路岩切1号線部分を2区・3区・4区、都市計画道路岩切2号線部分を5区・6区とし、各区とも6m×50mとした。さらに暗渠工事に伴う調整池部分に1ヶ所（1トレチ）、区画整理地内南部の道路予定部分について3ヶ所（2～4トレチ）の調査区を設定した。1トレチと4トレチについては3m×8m、2トレチと3トレチについては2m×8mである。いずれの調査も重機による掘り下げを行い、人力によって精査し、水田跡の把握・上層断面の図化・イネのプランツオバール分析試料の採取を主とする調査を実施した。

また、本調査2年次においては、調査区内の暗渠工事に伴う上層確認調査を6カ所、旧水道管撤去箇所における土層確認調査を1カ所で実施した。

4. 基本層序

調査区が広範囲にわたるため、土性・色調などに違いは見られるが、I層からⅩ層までの層位が確認された。すべての地点で、すべての層位が確認できたわけではなく、地点によっては層序に違いがみられる。基本層序については1年次調査と2年次調査に分けて記述する。



（1年次調査）

I層は、主に褐色系の粘土質土壤で6層に細分される。小礫を含む層がある。現耕作土を含む現代の水田作土と考えられる。

II層は、主に褐色系の粘土質土壤で8層に細分される。鉄分・マンガンが多く含む層がある。近代水田作土を含む層と考えられる。

III層は、粘土質の土壤で9層に細分される。鉄分を含む層、マンガンを斑に含む層、白色風化礫を含む層がある。近世の水田作土を含む層と考えられる。

IV層は、粘土質の土壤で8層に細分される。鉄分を含む層、白色風化礫を含む層がある。中世の水田作土を含む層と考えられる。

V層は、黒色系の粘土質土壤で5層に細分される。一部の層をのぞいて灰白色火山灰を小ブロック状あるいは斑に含んでいる。古代の水田作土を含む層と考えられる。

VI層は、黒色系の粘土質土壤で4層に細分される。鉄分・砂を少量含む層がある。古墳時代の土壤と考えられる。

VII層は、自然堆積の層で砂質土壤と粘土質土壤からなる。砂質土壤は1層、粘土質土壤は3層確認された。

（2年次調査）

I層は、粘土質の土壤で8層に細分される。酸化鉄を含む層が見られる。現耕作土を含む現代の水田作土と考えられる。

II層は、粘土質の土壤で5層に細分される。近代の水田作土を含む層と考えられる。

III層は、粘土質の土壤で7層に細分される。酸化鉄・酸化した石を含む層がある。近世の水田作土を含む層と考えられる。

IV層は、粘土質の土壤で11層に細分される。1区・5区では確認できない。酸化鉄・白色小礫を含む層が見られる。下層の巻き上げが見られる層もある。中世の水田作土を含む層と考えられる。

V層は、黒色系の粘土質土壤で4層に細分される。灰白色火山灰を小ブロック状あるいは斑に含んでいる。1区では一部層状に確認された。古代の水田作土を含む層と考えられる。

VI層は、灰色系の粘土質土壤で5層に細分される。4区、3トレンチ、4トレンチのみで確認された。4区で土師器の壺が出土したことから古墳時代の土壤と考えられる。

VII層は、自然堆積の層で、18層に細分され、砂質土壤2層と粘土質土壤16層からなる。黒色土壤と灰色土壤の互層が多く見られる。粘土質土壤のほとんどは泥炭層で北東部に寄るほど植物遺体の占める割合が多くなり、1区と5区では植物遺体のみの層が確認された。砂質土壤については4区と2トレンチで確認された。

今回の調査で確認された灰白色火山灰は、10世紀前半に降灰したと言われている十和田a火山灰である。分析結果の詳細については仙台市文化財調査報告書第250集「郡山遺跡21 郡山遺跡・仙台平野の遺跡群 平成12年度発掘調査概報」を参照頂きたい。

5. 発見遺構と出土遺物

（1）確認調査

都市計画道路岩切駅前線予定部分に、調査区を4カ所、南から順に1～4トレンチとして設置した。確認調査の結果、III層では、1～4トレンチの全ての調査区で水田跡と考えられる土層が確認された。特に2トレンチでは調査区南部で、南側に傾きを持つ落ち込みが確認され、落ち込みの堆積上は2層である。この落ち込みは水田跡の可能性がある。3トレンチでは、V層を巻き上げたと考えられる灰白色火山灰が確認された。IV層では、1トレン

III 洞ノ口遺跡（第3次調査）

チ・2トレンチ・4トレンチで水田跡と考えられる土層が確認された。いずれからもV層を巻き上げたことによる灰白色火山灰が確認された。V層の下層は、自然堆積と考えられる植物遺体を含む互層であり、2トレンチのみで確認された。

（2）本調査1年次

I層・II層上面及び層中で検出された遺構については、新しい時期のものと考えられたため、記述から除いた。

1区 III層上面及びIV層上面から溝跡3条が確認された。また、IV層中から東西方向の大溝跡と考えられる遺構が検出された。水田跡と考えられるIII層は、S-8より北側で2層確認され、V層はIV層中検出の溝跡を挟んで南北両側で1層確認された。

2区 III層及びIV層において水田跡が検出された。また、IV層上面の南東部角及びIV層中の南部には溝状遺構が検出された。V層は残りが悪く明確ではないが、水田跡が検出された。遺物はIV層において、須恵器の壺の転用硯・須恵器片・土師器片が出土している。

3区 機械による南北方向の轆があり、南部ではIV層にまで及んでいる。III層・IV層・V層において畦畔を伴う水田跡が検出された。

4区 III層は現代の溝や比較的新しい時期の水田により削平されており、南部中央部分にのみ畦畔を伴う水田跡が検出された。現代の溝は、IV層まで及んでおり、一部畦畔を削平している。IV層では畦畔の残りがよく、区画の小さい水田跡が検出された。V層では畦畔を伴う比較的大きい水田跡が検出された。遺物は、I層において陶器の拂り鉢の破片を利用したと考えられる陶器製円盤が出土している。

①III層検出遺構

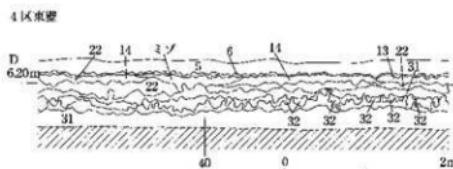
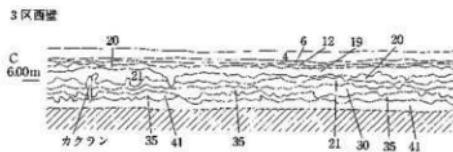
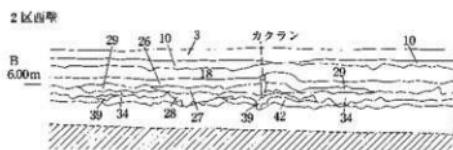
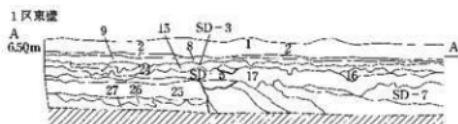
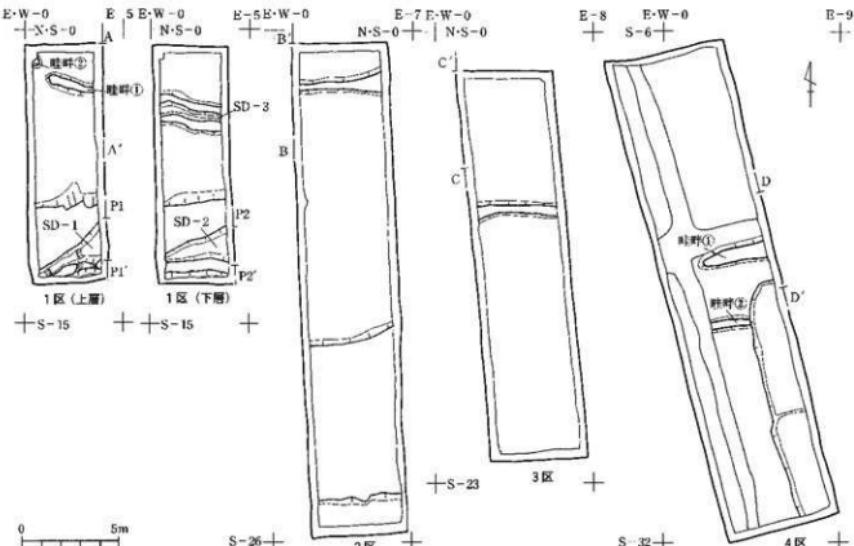
III層水田跡 1区北部において畦畔が2条確認された。いずれも調査区外へ延びている。畦畔①はS-2～3付近に位置し、E-2付近からE-13°-Sの方向へ延びている。上幅は30～40cm程度、下幅は80～90cm程度であり、高さは3cm程度である。畦畔②はS-3付近に位置し、E-2付近からW-34°-Sの方向へ延びており、その東端のみ確認された。確認された範囲での上幅は40cm程度、下幅は60cm程度であり、高さは2～3cm程度である。畦畔①と畦畔②の間は水口と考えられる。また、南部には高まりが確認された。高まりの方向はE-20°-Nとほぼ東西方向であり、調査区外へ延びているため、正確な形状・規模は不明である。高さは10cm程度である。非耕作域であることから、大畦と考えられる。この大畦と考えられる高まりの北側が水田跡と考えられる。

また、この下層において調査区北部と南部に高まりが2ヶ所確認された。北部の高まりは、E-10°-Sとほぼ東西方向であり、調査区外へ延びている。上幅は140cm前後、下幅は160～180cm、高さは3cm程度の畦畔である。中央部には同方向にSD-3が位置している。南部の高まりは上層の大畦の下部に位置する。方向はE-10°-Nとほぼ東西方向であり、調査区外へ延びている。上幅は340～380cm、下幅は確認できる箇所で440cm程度、高さは10cm程度の畦畔である。中央部には同方向にSD-2が位置している。III層でこの2条の畦畔に挟まれた範囲及び南北両側に水田跡が広がっていると考えられる。

2区では、北部S-3付近にE-1°-Nと東西方向の畦畔が確認された。上幅は15～50cm、下幅は40～70cm程度であり、高さは4cm前後である。また、南部に幅の広い高まりが確認された。方向はE-10°-Nと東西方向である。上幅は400cm程度、下幅は420cm程度、高さは北側で10cm前後、南側で7cm前後の大畦と考えられる。この大畦の北側は水田跡と考えられる。

3区では、調査区のほぼ中央部にE-10°-Nと調査区を東西に横切る畦畔が確認された。上幅は20～30cm、下幅は40～60cmであり、高さは北側で5cm程度、南側で2cm程度である。この畦畔の南北両側が水田跡と考えられる。

4区では、中央部にはほぼ東西方向の畦畔を2条確認した。畦畔①はS-17付近に位置し、E-2付近からE-16°-Nの方向で延びている。E-2付近で途切れており、水田と考えられる。上幅は30～40cm程度、下幅は60cm



種	名	生	性	生	性	備	考
I	1 25Y4/2 黒斑色	シルト質土	砂	小灌木を含む。			
	2 25YH4/2 黒斑色	シルト質土	砂	小灌木、灰斑物、碎木を含む。			
I	3 25YR3/2 黒斑色	砂	砂	砂質を含む。			
	4 10YR3/2 黒斑色	砂土	砂	砂質を含む。			
	5 10YR3/4 オリーブ斑色	粘土	砂	小灌木、灰斑化物等を含む。数分は上部に多い。			
	6 10YR4/4 黑斑色	砂土	砂	数分を含む。			
	7 10YR4/2 黑斑色	シルト質土	砂	砂質、灰分、灰斑物を含む。			
	8 25Y3/2 黑斑色	砂土	砂	砂質、灰分、灰斑物を含む。			
	9 10YR3/1 黒斑色	砂土	砂	砂分多く、マングジン含む。			
	10 15Y3/1 オリーブ斑	粘土	砂	数分、灰斑化物、マンゴジン少々。樹根多量に含む。			
	11 10YR4/1 黒斑色	砂土	砂	砂質、マンゴジン多量。灰斑化物少量を含む。			
	12 25Y3/2 黑斑色	粘土	砂	砂分多く、樹根、砂を含む。			
	13 10YR4/1 黒斑色	粘土	砂	砂分多く、樹根、砂を含む。			
	14 25Y3/2 黑斑色	砂土	砂	砂質、白炭化物、北緯、北風でマングジンが多少見れる。			
	15 10YR2/1 黒斑色	粘土	砂	砂質、マンゴジン、灰分、灰斑物、砂を含む。			
	16 25YR1/2 黑斑色	シルト質土	砂	砂質、マンゴジンを含む。			
	17 25Y3/1 黑斑色	粘土	砂	砂分、マンゴジンを灰分に含む。			
	18 15Y3/1 オリーブ斑色	粘土	砂	砂分、灰斑化物を含む。			
	19 25Y3/2 黑斑色	粘土	砂	砂分、白炭化物少量化。			
	20 25Y3/2 灰斑色	粘土	砂	砂分、白炭化物少量化。			
	21 25Y3/2 灰斑色	粘土	砂	砂分多く、白炭化物少量化。			
	22 25Y3/2 黑斑色	粘土	砂	砂分、白炭化物少量化。			
	23 10YR4/1 黑斑色	粘土	砂	砂分少量化。			
	24 25Y3/2 黑斑色	粘土	砂	砂分を多く含む。マンゴジンを灰分に少量化。			
	25 HCV2/1 灰斑色	粘土	砂	上部に砂分多い。灰斑化物、小灌木を含む。			
	26 25Y3/2 雨風色	砂土	砂	砂分多量。マンゴジン少量化。			
	27 25Y3/2 黑斑色	粘土	砂	砂分を多く含む。			
	28 25Y3/1 黑斑色	シルト質土	砂	砂質、灰斑物を含む。			
	29 25Y3/2 黑斑色	粘土	砂	砂質、白炭化物灰分ブロックを少量化。			
	30 15Y3/1 オリーブ斑色	粘土	砂	白炭化物を含む。灰分を少量化。			
	31 25V3/1 黑斑色	粘土	砂	砂分を少量化。北緯で白色化粧が多い。			
	32 25ZV3/1 黑斑色	粘土	砂	砂分を少量化。ヒートで白色化粧が多い。			
	33 15V3/1 黑斑色	粘土	砂	砂分を少量化。北緯で白炭化灰分を少量化。			
	34 10YR7/1 黑斑色	粘土	砂	砂分を少量化。ヒートで白色化粧が多い。			
	35 25ZV3/1 黑斑色	粘土	砂	砂分を少量化。ヒートで白色化粧が多い。			
	36 10YK7/1 黑斑色	粘土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	37 25ZV3/1 用途色	粘土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	38 15G1/1 黑斑色	砂土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	39 15G1/1 黑斑色	砂土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	40 25ZV3/1 黑斑色	粘土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	41 15V3/1 黑斑色	粘土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	42 25G3/1 黑斑色	砂土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	43 25Y3/2 喜雨色	砂土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	44 25C4/1 黑オリーブ斑	粘土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	45 25G4/1 オリーブ斑色	粘土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	SD-3 1 25Y3/1 黑斑色	シルト質土	砂	しまりがない。砂は見られない。			
	SD-3 2 25Y3/1 黑斑色	砂土	砂	しまりがない。			
	SD-3 3 25Y3/1 黑斑色	砂土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			
	SD-3 4 25Y3/1 黑斑色	砂土	砂	老石灰岩灰火成岩。ブロックを含む。			

第3図 1年次3層水田跡・土層断面図

II 剣ノ口遺跡（第3次調査）

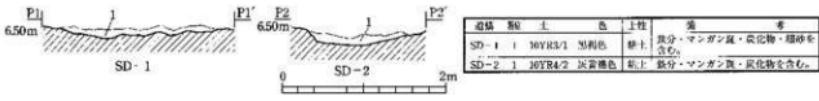
前後であり、高さは北部で10cm前後、南部で3cm前後である。畦畔②はS-21付近に位置し、E-2付近では現代の溝に、E-5付近では1層の落ち込みに切られており、その一部のみ確認された。畦畔②の方向はE-7°-Nの方向で、上幅は20cm前後、下幅は40cm前後であり、高さは2cm前後である。この畦畔を含む現代の溝と上層の落ち込みに囲まれた範囲が水田跡と考えられる。

III層の水田跡は、耕作土は10cm前後であり、1区では2層、2区・3区・4区では1層確認された。下面の凸凹は2区を除いて顯著に見られる。土師器片・須恵器片・陶器片・中国製の青磁碗・永楽鉢・鐵製品・種子が出土している。中世から近世の水田跡と考えられる。また、3区の水田跡と考えられる層の下部及び4区の現代の溝に切られている北側の層も水出跡の可能性がある。

SD-1溝跡 1区南東部角の大畦上、ほぼSD-1の下部に位置し、E-40°-Nの方向に大畦に伴うように延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は60~140cm、底面幅は20~100cmである。断面形は浅い皿型である。深さは一定しておらず、確認面からの深さは浅い箇所で3~4cm、深い箇所で15cmである。底面レベルは一定せず、東に寄るにしたがって深さが増している。堆積土は単層であり、Ⅲ層水田耕作土と同層である。遺物は出土していない。

SD-2溝跡 1区南東部大畦上、ほぼSD-1の下部に位置し、E-25°-Nの方向に大畦に伴うように延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は40~190cm、底面幅は20~100cmである。断面形は浅い皿型である。確認面からの深さは浅い箇所で5cm、深い箇所で10cm程度である。東へ寄るにしたがって幅及び深さが増している。堆積土は単層であり、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SD-3溝跡 1区北部の畦畔上、S-4付近に位置し、E-20°-Sの方向に畦畔に伴うように延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は80~120cm、底面幅は30~70cmである。断面形は浅い皿型である。確認面からの深さは5cm程度である。堆積土は単層であり、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。



第4図 SD-1・SD-2断面図

②IV層検出構造

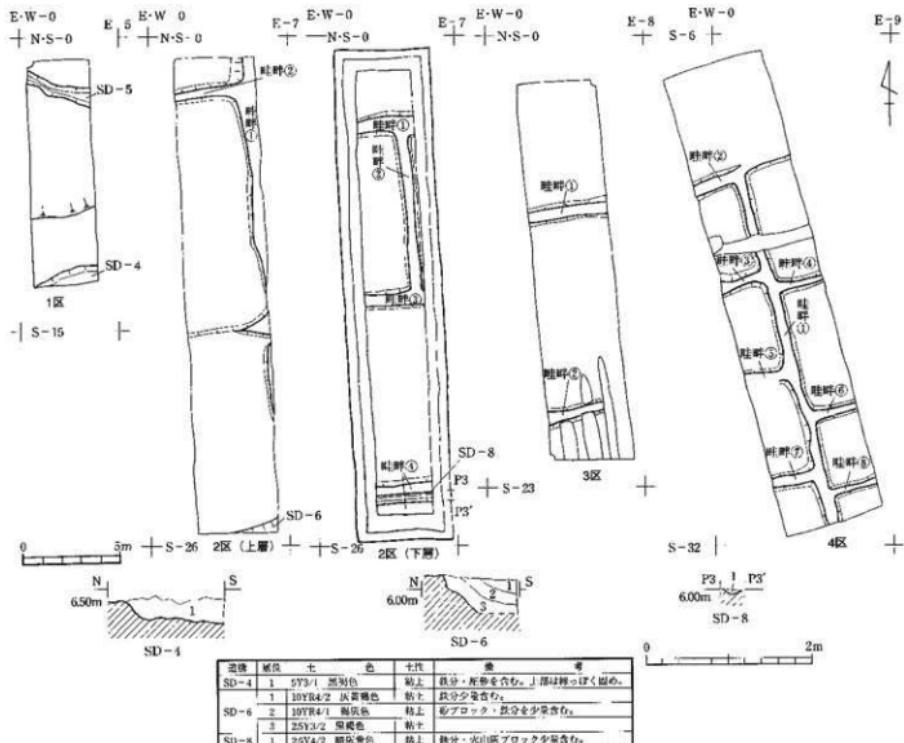
IV層水田跡 2区において、S-3付近とS-25付近に亘る疑似畦畔が1条ずつ確認された。この直下において、S-15より北部にN-6°-Wの方向の畦畔①及び、畦畔①とS-3付近で接するE-9°-Nの方向の畦畔②の2条が確認された。2条とも調査区外へ延びている。畦畔①の上幅及び下幅は不明であるが、高さは北部で10cm前後、南部で5cm前後である。畦畔②の上幅は40cm程度、下幅は80cm程度であり、高さは10cm前後である。また、S-15付近及びS-16~S-20の東部に段差が確認された。S-15付近の段の方向はE-10°-Nとはほぼ東西方向であり、比高差は2~5cm程度で北側が低くなっている。この段落は、畦畔が削平されたことによって、段落のみが残ったものと考えられる。調査区東の段の方向はN-8°-Wとはほぼ南北方向であり、比高差は2~5cm程度である。

また、この下層において畦畔が4条確認された。S-4付近の調査区をE-3°-Nの方向に横切る畦畔①は、上幅は60~80cm程度、下幅は90~130cm程度であり、高さは2~5cm程度である。畦畔①とE-4付近で接するS-6°-Eの方向の畦畔②は、上幅は40~60cm程度、下幅は70~80cm程度であり、高さは3cm前後である。南北方向の畦畔③とS-13付近で接し、E-1°-Nと調査区を東西方向に横切る畦畔④は、上幅は60~70cm程度、下幅は90cm程度であり、高さは3cm前後である。S-23付近でE-1°-Nと調査区を東西に横切る畦畔⑤は上幅は

150cm以上、下幅は170cm以上であり、調査区の南側に延びている。高さは北側で4~7cm、前後である。畦畔上S-23付近に同方向のSD-8がある。

3区において畦畔が2条確認された。S-9付近でE-9°-Nと調査区を東西に横切る畦畔①は、上幅は50~60cm程度、下幅は90~110cm程度であり、高さは2~5cm程度である。また、S-19付近のE-16°-N方向で調査区西側から東側へ延びる畦畔②は、上幅は40~80cm程度、下幅は70~120cm程度であり、高さは2~5cm程度である。機械耕作による辙の跡が南北方向に畦畔に乗り上げる形で残っているが、畦畔は固いためくぼまずに残っている。しかし、E-6付近の辙は畦畔を切っており、そこから東側には畦畔は確認できず、削平を受けたものと考えられる。

4区では畦畔が8条確認された。畦畔①はE-1~E-6付近にかけてN-15°-Wの方向に延びており、上幅は25~60cm程度、下幅は100cmであり、高さは3cm前後である。また、S-16付近において上層で確認された東西方向の現代の溝に切られている。畦畔②はS-13付近で南東方向の畦畔に接してE-26°-Nと調査区をほぼ北東に横切っている。E-2より東側では畦畔の北側は確認できなかったが、上幅は50cm程度、下幅は90~100cmであり、高さは1~2cm程度であるが、調査区東端では4cmである。畦畔③はS-18付近で南東方向の畦畔に接してW-21°-Nとほぼ西へ延びており、上幅は40~60cm程度、下幅は80~120cmであり、高さは5cm前後である。畦畔④はS-19付近で南東方向の畦畔に接してE-14°-Nとほぼ東へ延びており、上幅は20~50cm、下幅は60~90cm



第5図 IV層水田跡、SD-4・SD-6・SD-8断面図

II 洞ノ口遺跡（第3次調査）

であり、高さは北側で2cm前後、南側で4cm前後である。畦畔⑤はS-23付近で南東方向の畦畔に接してE-5°-Nとほぼ西へ延びている。北側の輪郭のみ確認され、規模は不明である。畦畔⑥はS-25付近で南東方向の畦畔に接してE-18°-Nとほぼ東へ延びており、上幅は30~50cm程度、下幅は60~90cm程度であり、高さは3cm前後である。畦畔⑦はS-28付近で南東方向の畦畔に接してE-10°-Nとほぼ西へ延びており、上幅は40~50cm、下幅は80~100cmであり、高さは3cm程度である。畦畔⑧はS-29付近で南東方向の畦畔に接してE-16°-Nとほぼ東へ延びており、上幅20~30cm、下幅50~60cmであり、高さは1~3cmである。

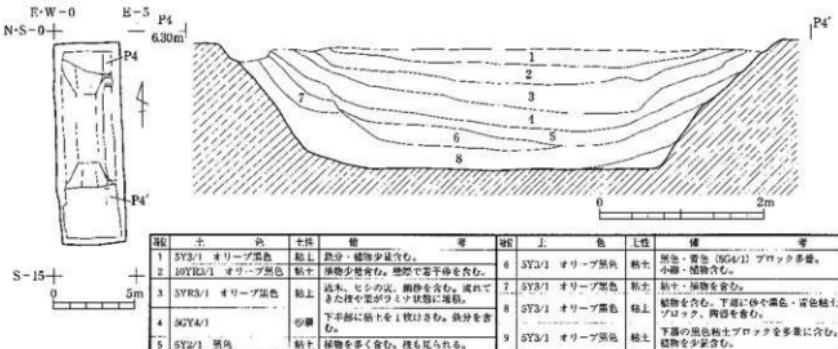
IV層の水田跡は、耕作土は10cm前後であり、2区で2層、3区・4区では1層確認された。下面の凸凹は顕著に見られる。土師器片・須恵器片・常滑陶器をはじめとする陶器片・木製品・鉄製品・種子が出土している。中世の水田跡と考えられる。4区の畦畔跡から判断すると、中世における水田は比較的小さい区画ながら、整然と区画されていた様子が伺える。また、4区の水田跡の下層も、残りはよくないが、水田跡の可能性がある。

SD-4溝跡 1区南端に位置しE-15°-Nの方向に延びていると考えられる。調査区外へ延びており検出されたのは北壁の一部であり、形状・規模は不明であるが、調査区内での状況は、確認面からの最深部の深さは20cm程度になる。底部はほぼ平坦であると考えられ、壁は約60°の角度で立ち上がっている。堆積土は単層であり、上部はグライして固くなっているが、自然堆積と考えられる。近世の水田の土層とは異なっており、中世の溝跡と考えられる。遺物は出土していない。

SD-5溝跡 1区S-2からS-4にかけて、E-19°-Sの方向に延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は40~100cmで、底面幅は10~50cmである。断面形は浅い皿型である。確認面からの深さは10~20cm程度である。土師器が出土している。堆積土は2層である。

SD-6溝跡 2区南東部角をE-20°-Nの方向で横切っており、検出されたのはその北壁一部のみである。形状・規模は不明である。堆積土は、検出した範囲内では自然堆積と考えられる3層が確認できた。さらに深くなると考えられ、大溝の可能性も考えられる。

SD-7溝跡 1区S-2からS-10にかけて、N-90°-Eと調査区をほぼ真東西に横切るように延びており、検出されたのはその一部である。上幅は約680cmで、底面幅は約410cmである。断面形は台形で、確認面からの深さは160cm程度である。底面は平坦で、壁は約60°の角度で立ち上がっている。堆積土は自然堆積と考えられる9層からなるが、1~3層までの上層と4層以下の下層に大別できる。下層部分では6層の堆積が7・8層を切っており、1度掘り返した形跡が確認できる。上層では木鉢の一部・性格不明の木製品1点・土師器片・須恵器片・陶器片・



第6図 SD-7

様子が出土しており、下層では土師器片・須恵器片・陶器片・磁器片・木製品・石製品・種子・骨が出土している。特に底面付近からは木杭・木鉢が出土している。

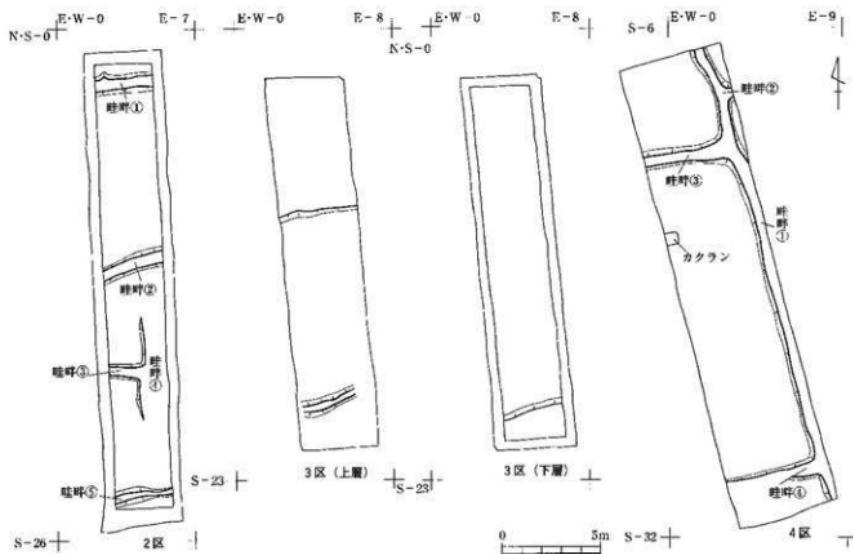
SD-8溝跡 2区 S-24付近に位置し、畦畔上で検出された。E-2°-Nと畦畔に伴うように延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は約20cmで、底面幅は約10cmである。断面形は浅い皿型である。確認面からの深さは2~8cmである。堆積土は直上の層である。

③V層検出遺構

V層水田跡 1区のV層はSD-7によって、南北に分かれて分布しているが、IV層の下層の下面に凸凹が顕著に現れており、その状況から水田跡の可能性があるが、明確な判断はできない。

2区においては、畦畔状の高まりが5条確認された。いずれも正確な形状・規模は不明である。S-3付近のE-10°-Nの方向の畦畔①は、上幅は40~70cm程度、下幅は90~120cm程度であり、高さは3~7cm程度である。S-12付近のE-20°-Nの方向の畦畔②は、上幅は50~60cm程度、下幅は80~100cm程度であり、高さは3cm前後である。S-17付近のW-6°-Nの方向の畦畔③は、上幅は40~50cm程度、下幅は70~80cm程度、高さは2cm前後であり、E-4付近でN-2°-Wの方向の畦畔④に接している。畦畔④はS-15~S-20にかけて西側の段差のみ確認された。比高差は3cm前後である。S-24付近の東西方向の畦畔⑤は、上部の幅は20~40cm程度、下幅は40~80cm程度で、高さは1cm前後である。これらの畦畔状の高まりを確認した層は残存状況が悪く、上層の聚似畦畔の可能性もあるため、水田跡であるかどうかについては明確な判断はできない。

3区のS-10付近で南側へ下がる段差が確認された。段の方向はE-11°-Nであり、高さは2~6cmあり、東へ寄るにしたがって高さが大きくなる。段差の北側S-9付近に段差と同方向の土色の違いが確認された。畦畔の輪郭と考えられることから、この段差は畦畔が削平され、段差のみになったものと考えられる。段差から畦畔の輪郭までの幅は70~100cm程度である。S-19付近でE-21°-Nの畦畔を確認した。一部のみの検出である。上幅は



第7図 1年次V層水田跡

II 剣ノ口遺跡（第3次調査）

20~40cm程度、下幅は60~90cm程度であり、高さは3~6cm程度である。

この下層のS-19付近において北側へ下がる段差が確認された。段の方向はE-19°-Nで、高さは3cm前後である。また、この層の下面のS-5~8付近のE-3より東側で若干の高まりが確認された。水田区画を反映したものであるかどうかは不明である。

4区では、畦畔が4条確認された。いずれも調査区外へ延びている。畦畔①はE-1~8の範囲に位置し、N-17°-Wの方向に調査区を縦断する畦畔である。S-13付近から南の範囲では畦畔の西側のみ確認された。確認された範囲では、上幅は20~70cm程度、下幅は70~100cmであり、高さは2~5cmである。畦畔②はS-9付近からE-17°-Nの方向へ延びており、一部のみ確認された。上幅は40cm程度、下幅は90cmであり、高さ差は4cm前後である。畦畔③はS-12付近からW-8°-Sの方向で延びており、上幅は50~80cm程度、下幅は90~140cmであり、高さは3~5cm程度である。畦畔④はS-29付近からW-15°-Sの方向へ延びており、E-6より西側では畦畔の北側のみ確認された。上幅は40~70cm程度、下幅は70~100cm程度であり、高さは2cm前後である。S-17付近の西端部には、上層で確認された擾乱坑が残存している。

V層における水田跡は、3区で2層、4区では1層確認され、耕作土は10cm前後である。1・2区については明確に水田跡とは判断できなかった。灰白色火山灰が含まれている。下面の凸凹は顕著に見られる。遺物は須恵器片が出土しており、中世の遺物が皆無であることから、古代（平安期）の水田跡と考えられる。

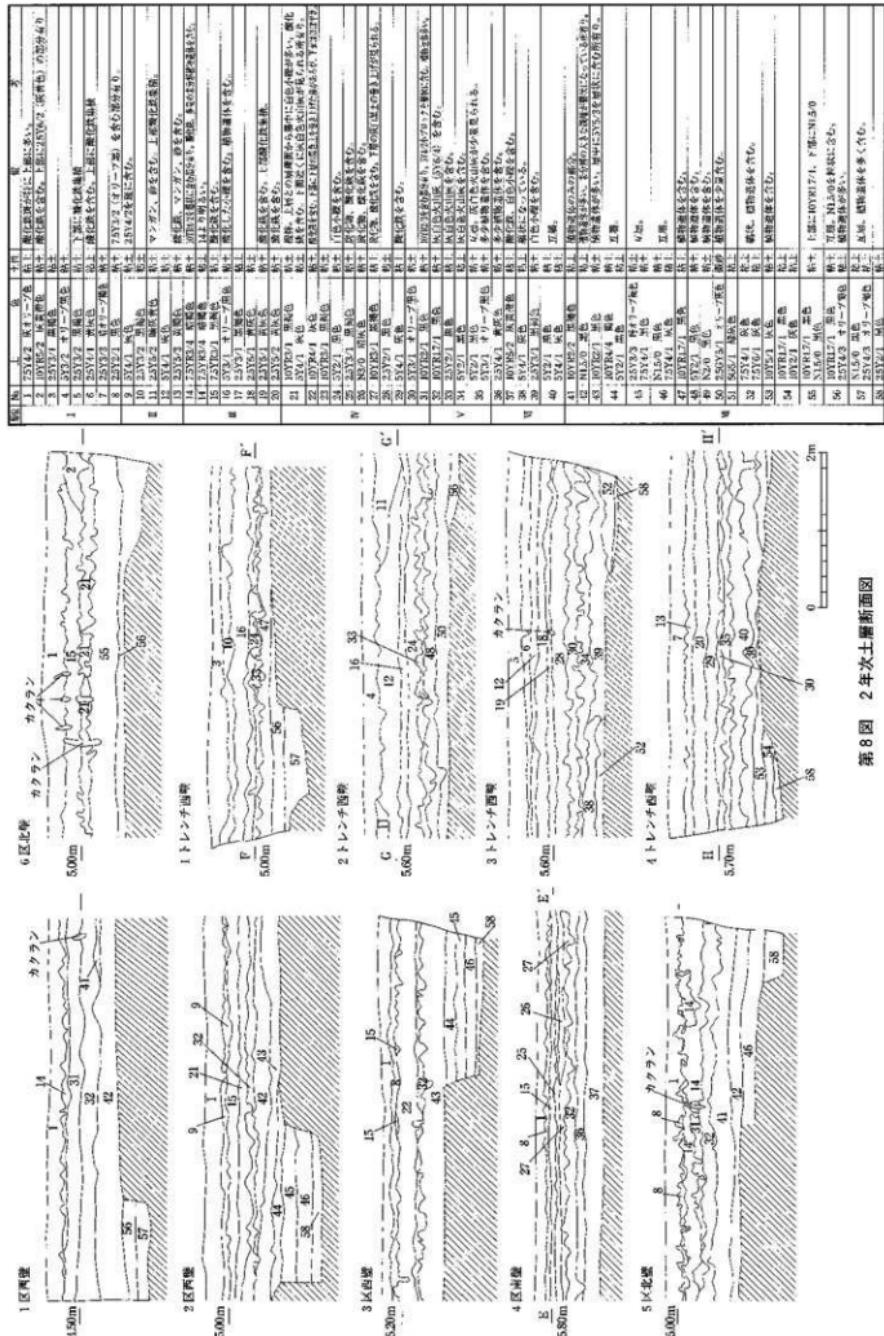
(3) 本調査2年次

I層・II層上面及び層中で検出された遺構については、新しい時期のものと考えられたため、記述から除いた。1区・5区 III層は多量の未分解植物遺体を多量に含む粘土層であり、その下層は灰白色火山灰をブロックに含むV層となっている。さらにその下層は植物遺体のみの泥炭層となっている。近世以前の水田跡と考えられる層は確認できなかった。1区V層直上でロクロ使用の土師器の高台付坏片が、V層で内面に黒色処理がしてある土師器の坏片が出土した。また、5区のV層（泥炭層）北壁に南北方向に倒れた状態で、上端が二股になっている約2.3mの杭状の木製品が出上している。

2区 IV層において畦畔が3条確認された。南北方向の畦畔からは、性格不明の木製品、杭の先端部と考えられる木製品が出土した。また、東西方向の畦畔の下層にあたるV層上面において溝状遺構が確認された。溝状遺構からは、杭の一部と考えられる木製品が2点出土している。また、溝状遺構の延長部に当たる西壁中からも木製品が1点出土している。灰白色火山灰を含むV層の下層は植物遺体を多く含む泥炭層になっている。水田跡と考えられる層はIII層及びIV層であり、中世より古い時期の水田跡と考えられる層は確認できなかった。遺物は、V層の下層から、内面に黒色処理されている土師器の坏片が出土している。

3区 III層上面、調査区中央部において土坑1基及び調査区南部に南に向かって傾きを持つ性格不明の落ち込みが確認された。IV層上面では調査区中央部には北方向の畦畔が1条確認された。また、III層調査区中央部に性格不明の上坑状の落ち込みが確認された。調査区南半の西側セクションにこの落ち込みとほぼ同様の落ち込みが確認された。調査区の北西部から垂直に立った状態で四角形の断面を持つ杭が出土した。水田跡と考えられる層は、III層とIV層で確認された。遺物は、I層において土鉢が、II層・III層からは土師器片・須恵器片・陶磁器片が出土している。灰白色火山灰を含むV層より下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっている。

4区 調査区の西半部は2年次調査の他の調査区と比較すると土層の数が多く、1年次調査の調査区とほぼ同様の土層分布が見られる。東半部は2年次の2区・3区・5区・1トレンチ・2トレンチ・3トレンチとほぼ同様の土層分布が見られる。II層中では、疑似畦畔が4条確認され、水田跡と考えられる。また、水田跡と考えられる層が、III層で1層、IV層で3層、V層で1層確認された。III層は近世の水田跡、IV層は中世陶器片が出土していることから中世の水田跡と考えられる。遺物は、III層から陶器片、IV層からは中世陶器片・須恵器片・ロクロ使用の土師器



第8図 2年次土層断面図

II 洞ノ口遺跡（第3次調査）

の坏片が出土している。灰白色火山灰を含むV層の下層にあたるVI層からは、底部に木葉痕が見られるロクロ非使用の土師器の壺が出土している。古墳時代のものと考えられる。VI層の下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっており、さらに下層は砂層となっている。南側溝から杭が垂直に立った状態で出土した。

6区 水田跡と考えられる層は、調査区の断面の状況からIV層で1層確認された。調査区のE-10より西側は、地下水位が高いため湧水が苦しく精査が困難な状態であったため、IV層下層の調査は断念した。遺物は、砾石・土師器片・須恵器片・陶器片が出土している。灰白色火山灰を含むV層より下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっている。

1トレンチ・2トレンチ・3トレンチ・4トレンチ IV層において、1トレンチで1条、2トレンチで3条の畦畔が確認された。水田跡と考えられる層は、Ⅲ層では1トレンチ・2トレンチ・4トレンチで1層、3トレンチで2層、IV層では全てのトレンチで1層、V層では4トレンチで1層確認された。中世より古い時期の水田跡と考えられる層は4トレンチのみで確認された。V層は灰白色火山灰を含んでおり、1～3トレンチV層の下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっている。但し、2トレンチのさらに下層には砂層も確認された。4トレンチは灰白色火山灰を含むV層の下にVI層が確認され、その下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっている。遺物は、3トレンチⅡ層から内面に黒色処理されている土師器の坏片、1トレンチV層から土師器片が出土している。また、4トレンチⅢ層上面で性格不明の落ち込み（SX-4）が確認された。

①Ⅲ層検出遭構

Ⅲ層水田跡 6区において畦畔状の遭構が2条確認された。調査区の東側E-21～25にかけてN-27°-Eの方向に延びている畦畔は、上幅は約80～120cm、下幅は約150～190cmであり、高さは約15～19cmである。調査区外へ延びている。E-3～12、S-1～4にかけて位置するE-16°-Nの畦畔は、上幅は約20～40cm、下幅は約50～80cmであり、高さは約10～13cmである。これらの畦畔状の遭構は、疑似畦畔と考えられるため水田跡の可能性は低い。

Ⅲ層における水田跡と考えられる遭構は、2区・3区・4区・1トレンチ・2トレンチ・4トレンチで1層、3トレンチで2層確認された。耕作土は約10～15cmであり、下面の凸凹は比較的顕著に現れており、水出しとして耕作したと考えられる形跡が見られる。遺物は陶器片が出土しており、その状況から近世の水田跡であると考えられる。

SX-2 土坑 3区の中央部西寄り、N-S-0、W-2の付近に位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸約110cm、短軸約90cmのはば格円形であり、底面までの深さは50cmである。断面形は浅い把鉢状を呈しており、壁は底面から約25°の角度で立ち上がり、確認面付近で約60°の角度になる。堆積土は2層に分けられ、自然堆積である。遺物は陶器片が出土している。性格不明の土坑である。

SX-1 落ち込み 3区の南寄り、S-6付近から南に位置している。Ⅲ層上面で、W-1°-Nと調査区をほぼ東西方向に横切るように南北方向への落ち込みが確認された。北壁のみが確認され、調査区外へ延びておらず、正確な形状・規模は不明である。確認面から底部までの比高差は40cm前後である。堆積土は4層に分けられ、自然堆積である。遺物は土師器片が出土している。水田跡の可能性もあるが、明確な判断はできない。性格不明の遭構である。

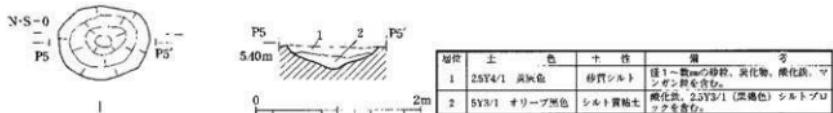
SX-4 落ち込み 4トレンチのⅢ層で確認された。調査区のE-2付近から東方向への落ち込みである。方向はN-2°-Wとほぼ真北方向である。調査区外へ延びているため、正確な形状・規模は不明である。確認面から底面までの深さは約110cmである。底面は北から南へ2つの段差を持っている。壁は、底面から約20cmでテラス状になり、その上部では約60°、確認面付近では約30°の角度になる。堆積層は3層からなる上層と4層からなる下層の2層に大別できる。下層からは、木片・種子・馬の頭の骨が出土している。明確な判断はできないが、形状からSX-2と同様の性格を持つ遭構と考えることも可能であるが、1年次調査のSD-7と同様の大溝の一部である可能性も考えることもできる。遭構の一部のみの確認であり、詳細は不明である。

②IV層検出遺構

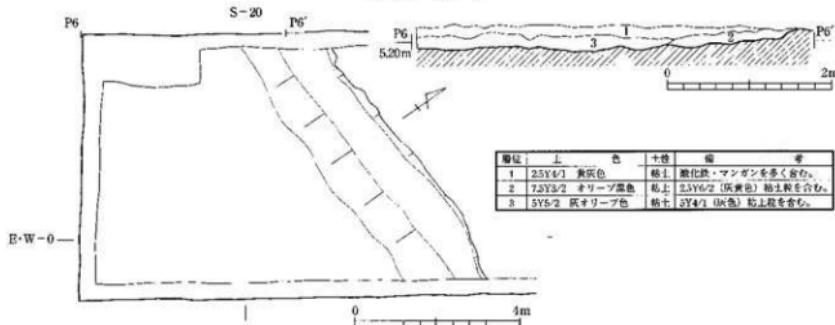
IV層水田跡 2区において畦畔が3条確認された。3条とも調査区外へ延びており、正確な形状・規模は不明である。畦畔①は調査区の北側N-16から北壁にかけて位置しており、真北方向である。上幅は約100~120cm、下幅は約130~160cmであり、高さは約8~10cmである。畦畔②はN-2~11付近に位置し、N-2付近で畦畔③に接する。畦畔②の方向は畦畔①と同方向であり、真北方向である。上幅は約50~80cm、下幅は約90~110cmであり、高さは約7~10cmである。畦畔②からは、板状の木製品1点、杭1点、性格不明の木が2点出土している。畦畔③はN-2~S-2付近に位置し、E-1°~Nの方向である。上幅は約80~100cm、下幅は約170~200cmであり、高さは約10~20cmである。

3区のはば中央部に畦畔が2条確認された。N-3~S-4付近に位置する畦畔①の方向はN-2°~Eとほぼ真北方向である。南部は調査区外に延びているが、北部はN-3~W-4付近で途切れる。上幅は約20~60cm、下幅は約70~130cmであり、南に寄るに従い幅が狭くなる。高さは約5~10cmである。S-16~21付近に位置する畦畔②は、E-20°~Nの方向である。上幅は約40~100cm、下幅は約110~140cmであり、高さは約2cmである。S-

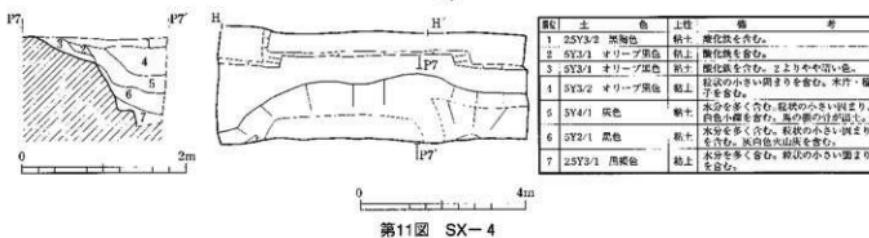
NW-3



第9図 SK-2



第10図 SX-1



第11図 SX-4

II 洞ノII遺跡（第3次調査）

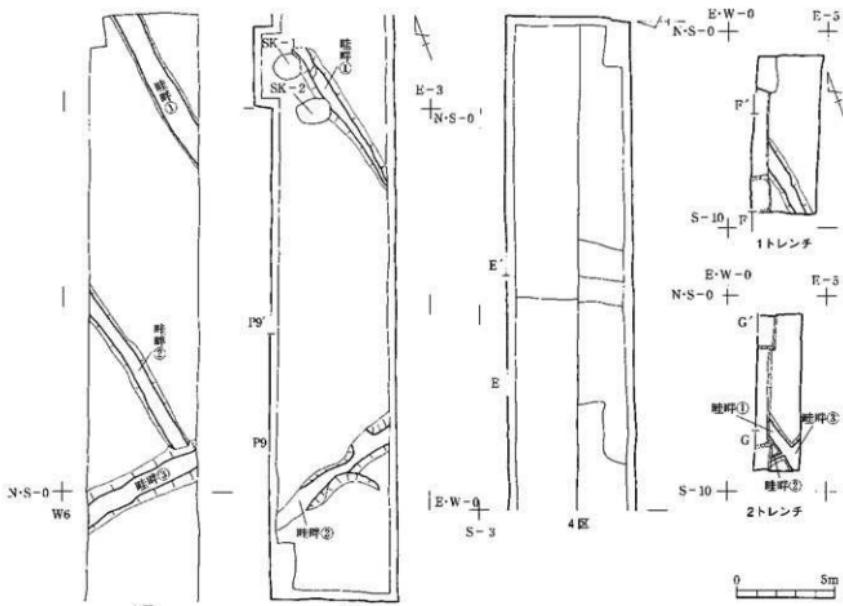
17付近で北方向に延びていくような形跡はあるが、削平を受けているため確認できない。また、この下層も断面の状況から水田跡と考えられる。

1 トレンチにおいて、N-3°-Eとほぼ真北方向の畦畔が1条確認された。調査区外へ延びている。畦畔の上幅は約40~70cm、下幅は約100~120cmであり、高さは約4~10cmである。

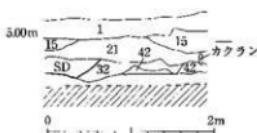
2 トレンチにおいて畦畔が3条確認された。調査区外へ延びている。畦畔①はS-6~9付近に位置しており、N-7°-Wとほぼ真北方向である。上幅は約50cm、下幅は約90cmであり、高さは約3~8cmである。畦畔②はS-8~9付近に位置する畦畔で、方向はW-8°-Nであり、S-8付近で畦畔①に接している。上幅は約10cm、下幅は約40cmであり、高さは約3~8cmである。畦畔③はS-7付近で一部のみ確認された。S-8付近で畦畔①に接している。上幅及び下幅は不明である。高さは約8cmである。

IV層における水田跡は、2区・6区・1トレンチ・2トレンチ・3トレンチで1層、3区・4トレンチで2層、4区で3層確認された。耕作土は10cm前後であり、下面の凸凹は顕著に現れており、水田として耕作したと考えられる形跡が見られる。遺物は中世陶器片が出土しており、中世の水田跡と考えられる。

SX-2 落ち込み 3区中央部、S-3~8付近に位置している。3区IV層中で確認された。造構の北西部は調査



第12図 2年次IV層水田跡



第13図 2年次IV層畦畔断面図

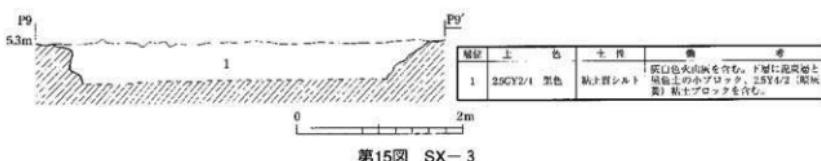
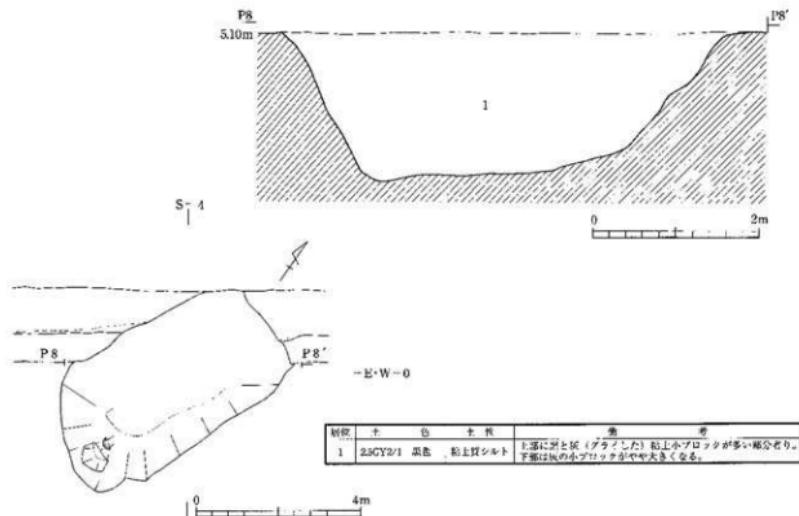
順番	名	色	特徴
1	7.23YR8/2	黒モリーブ色	粘土化鉄鉬が時に上部に多い。
15	7.23YR8/1	黒褐色	褐色化粘土を含む。
21	10YR7/1	田舎色	粘土と砂質の水田鉄鉬。上層との層界面から層中に白色小塊が多い。褐色化粘土を含む。下層近くに砂質の水田鉄鉬が見られる所存り。
22	10YR17/1	黑色	灰白色の火山灰 (5%~4%) を含む。
42	215.5-0	黑色	植物遺体が多い。未分解の大まな根株が解剖になっている所存り。

区外へ延びており、正確な形状・規模は不明である。平面形は、長軸約570cm、短軸約300cmの不整な長方形で、長軸方向はほぼ真北方向である。確認面から底面までの深さは190cm程度とかなりの深さを持っており、断面は台形を呈している。底面はほぼ平坦である。壁の角度は約60°と急角度で立ち上がっている。南東部角の塀の部分には、2段のテラス状の段差が確認できた。確認面からの深さは上部のテラスまでは74cm、下部のテラスまでは135cmとなっている。堆積土は人為堆積と考えられる単層である。遺物は須恵器片が出土している。泥炭層採掘のための土坑の可能性があるが、泥炭層より下層部にまで掘り込みが見られるため、明確な判断はできない。性格不明の遺構である。実際の掘り込み面は、確認面から8~10cm上部のIV層上面になる。

SX-3 落ち込み 3区S-12~16付近の西壁セクションで土坑状の落ち込みが確認されたが、平面上では確認できなかった。正確な形状・規模は不明である。堆積土は人為堆積と考えられる単層であり、SX-2と同層である。明確な判断はできないが、セクション図の状況から判断するとSX-2とはほぼ同様の規模であると考えられる。性格不明の遺構である。

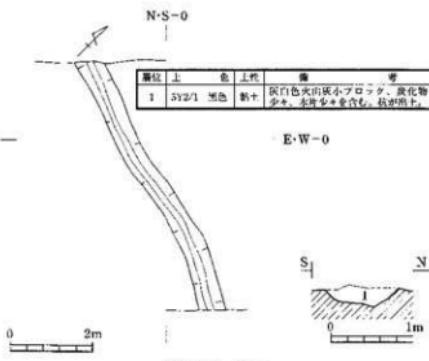
③V層検出遺構

V層水田跡 セクション図の状況及び1年次調査から、水田跡と考えられる層が1区・4トレンチで1層確認された。1区では下層の巻き上げが頭著に現れており、耕作した形跡が確認された。4トレンチでは2種類の上層が混在しており、下層を巻き上げたと考えられる形跡が確認された。いずれの調査区も下面の凸凹は頭著に見られる。遺物は上部器片が出土しており、1年次調査のV層と同時代である古代の水田跡と考えることができる。



II 溝ノ口遺跡（第3次調査）

溝跡 2区のV層上面、調査区中央部N-1～S-2にかけて咲畔の南側に平行して接する形で確認された。溝の方向はW-3°-Nの方向で、調査区の外側へ延びている。上幅は30cm前後、底面幅は10cm前後である。断面形は馬蹄型であり、確認面からの深さは約25cmである。調査区の標高が北東に向かって低くなるのに対し、底面は西へ向かって傾斜している。堆積土は自然堆積による単層で、木杭が2点出土している。また、調査区西壁中から木杭が1点出土している。底面が西方へ傾く理由については不明である。



第16図 溝跡

④区画整理地内の土層状況

調査区内の7カ所を土層確認対象箇所とした。灰白色火山灰を含むV層は、北西端部・北部・中央部・旧水道管撤去溝の各調査箇所で確認されている。灰白色火山灰が確認された土層のレベルは一定ではなく、調査区の北西部においては地表から浅いレベルで確認され、東部に寄るにしたがい確認レベルが深くなっている。南西端部の調査では古代の層まで確認したが、灰白色火山灰を確認することはできなかった。粘土層の下層の状態については、調査区北西部では砂層となっており、北西部から5mほど東に寄ると地表から同レベルの深さでは砂層は確認できず、泥炭層が広がっている。旧水道管撤去溝では、泥炭層の下層に砂層が確認された。また、本調査の成果から、水田跡と考えられる土層が各調査箇所で確認された。Ⅲ層近世水田跡と考えられる土層は、各調査箇所で1層ずつ確認された。Ⅳ層中世水田跡と考えられる土層は、北西部・南西端部・旧水道管撤去溝で1層、中央部で2層確認された。V層古代水田跡と考えられる土層は、南西端部において2層確認された。遺物は、南西端部の調査において



層位	No.	上色	土性	備考	層位	No.	上色	土性	備考	層位	No.	上色	土性	備考
I	1	5Y3/1 オリーブ褐色	砂質		II	14	25Y4/2 黄褐色	シルト質 マンガン含む。		VII	23	25Y3/3 オリーブ褐色	粘土	
I	2	25Y4/2 灰褐色	粘土		III	15	25Y4/1 黄褐色	粘土		24	HOT12/1 黑色	粘土	泥炭層	
I	3	25Y4/2 灰褐色	粘土	下より少しおい色。	IV	16	25Y3/1 黑褐色	粘土	機械。	25	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	互層	
I	4	25Y3/2 黑褐色	粘土		V	17	25Y3/1 黑褐色	粘土	少ししまった土。	26	HOT4/1 黑色	粘土	互層	
I	5	25Y3/2 黑褐色	粘土		VI	18	25Y3/2 黑褐色	シルト質	マンガンを含む。	27	5Y3/2 黑色	粘土	植物遺体を含む。	
I	6	25Y4/2 黑褐色	粘土	腐化鉄を含む。	VII	19	25Y2/1 黑色	粘土	灰白色火山灰を含む。	28	5Y3/2 黑色	粘土	上部に白い土を含む。	
I	7	25Y3/2 灰褐色	粘土	腐化鉄を含む。	VIII	20	25Y4/1 黑褐色	粘土	とても多い粘土。	29	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	植物遺体を含む。	
I	8	25Y3/2 黑褐色	粘土		IX	21	25Y4/1 黑色	粘土	機械。	30	25Y3/3 黑褐色	粘土		
I	9	25Y3/1 黑褐色	粘土		X	22	25Y3/1 黑褐色	粘土		31	25Y4/2 灰褐色	粘土		
I	10	5Y3/1 黑色	粘土		XI	23	25Y4/1 黑褐色	粘土		32	25Y4/1 黑色	砂質	グレイシング。	
II	11	25Y3/1 オリーブ褐色	粘土	腐化鉄を含む。										
II	12	25Y4/2 灰褐色	粘土	やや白っぽい。										
II	13	25Y4/2 灰褐色	粘土	下よりやや白い色。										

第17図 区画整理地内の土層状況

て、IV層から土師器の高壺の脚が出土した。古代の土層と考えられるV層の上部で出土していることから、河川の氾濫により流されてきたものと考えることもできる。

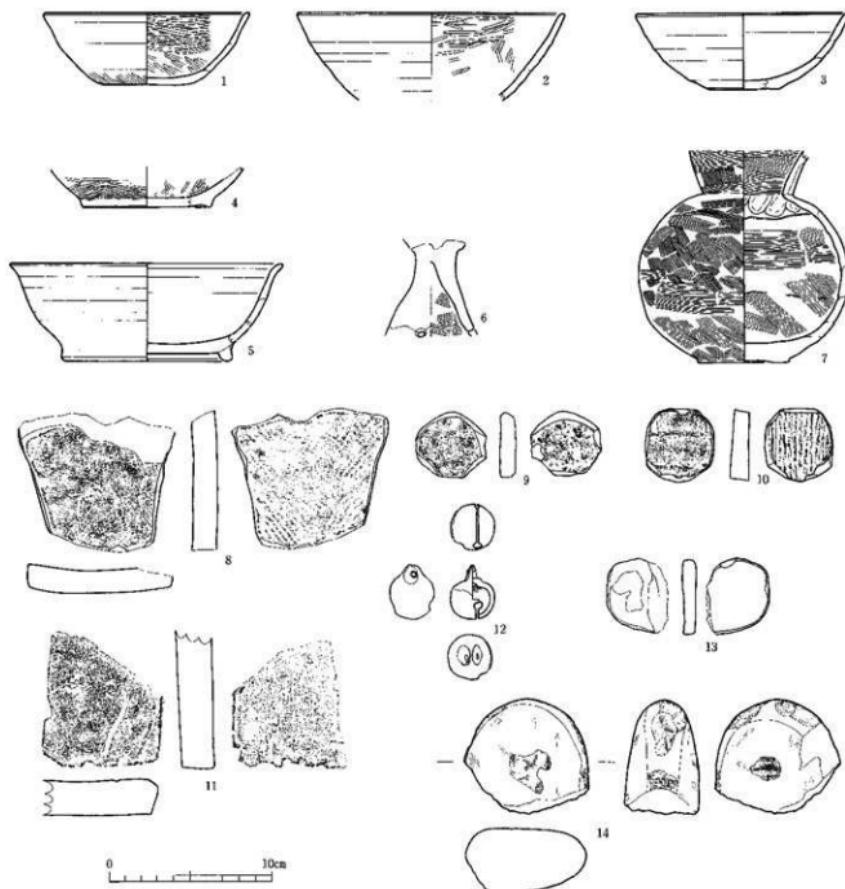
6.まとめ

- (1) 今回の調査は、洞ノ口遺跡の北東部で行われた。標高は、4.8m～6.8m程度である。
- (2) 調査対象地域の水田跡は、大きく3つの地域に分けることができる。2年次調査の1区及び5区では、近世以前の水田跡は確認できず、近代以降になって水田耕作が行われるようになったことが考えられる。ただし、プラントオパール分析の結果、1区のIV層では水田耕作が行われていた可能性が高く、中世のある時期には北東側にも水田が広がっていた可能性が考えられる。2年次調査の2区・3区・4区の東半部・1トレンチ・2トレンチ・3トレンチでは、中世・近世・近代の3～4層の水田跡が確認された。確認調査の1～4トレンチ・1年次調査の1～4区・2年次調査の4区の西半部・4トレンチでは古代・中世・近世・近代の5～6層の水田跡が確認された。各調査区で確認された畦畔は、いずれもほぼ東西南北の方向性を持っており、比較的整然と区画されていたことが伺える。調査対象地域の水田跡の下層は、泥炭層と砂質土壤の層の2つに大別できる。主に2年次調査の4区から西側及び2年次調査の1トレンチと2トレンチの間より南側では砂質土壤が分布しており、調査対象地域の北東部については泥炭層が分布している。特に北東部に寄るほど植物遺体の占める割合が増している。したがって、比較的新しい時期まで調査対象地域の北東部は著しい湿地帯となっており、水田耕作にはあまり適さない土地であったと考えられる。以上のことから、自然堤防に近い地域では古代から水田耕作が行われており、時代を下がるにつれて、また農耕技術の進歩に伴って本格的な水田耕作地帯が北東方向に広がっていたものと考えられる。
- (3) その他の遺構として、溝跡、土坑、性格不明の遺構がある。遺物は少量である。陶磁器、土師器、須恵器、木製品、金属製品、石製品、古錢、骨が出土している。中でも遺構内出土の遺物は極めて少ない。時期の判明する遺物としては、古墳時代の非クロロ使用の土師器の壺、古代の内面に黒色処理してある土師器の壺、中世陶器が出土している。また、中国製の青磁の碗が出土していることも併せて記述しておく。遺構の時期については遺物が極めて少なく詳細は不明であるため、十層の状況から判断せざるを得ない。調査で確認された溝跡は、中世から近世の遺構で水田耕作に関連した水路跡と考えることができる。そのうち、1年次調査では大溝跡と考えられる遺構SD-7溝跡が確認されている。しかし、SD-7は1次調査で確認された城館に伴う大溝跡の推定される延長線上にはない。大溝跡が方向を転換してSD-7溝跡の位置に至る可能性も考えられる。また、2年次調査で確認されたSX-4についても堆積土の状況がSD-7と類似しており、大溝の一部である可能性も考えられる。しかし、SX-4については遺構の一部のみの確認にとどまっているため、明確な判断はできない。SX-1は南方への性格不明の落ち込みであるが、堆積土の状況およびプラントオパール分析の結果から水田跡の可能性も考えられる。また、SX-2及びSX-3は中世の遺構と考えられる性格不明の遺構であるが、泥炭層を掘削していることから泥炭採掘跡の可能性が考えられる。SK-2土坑は比較的新しい時期の遺構で、古くても近世以降の上坑である。性格は不明である。
- (4) 今回の調査では、中世に留守氏がその所領で行ったとされる新田開発の範囲が確認される可能性があり、「留守家文書」にみられる「岩切分荒野七町」の絵図に描かれている沿地の確認がその判断の根拠になると考えられた。調査区内で確認された中世の水田跡は、絵図に記された水田の範囲内に位置する可能性もあるが、絵図中の沼地跡と考えられる遺構をはじめ、区画を示す遺構等については確認されなかった。

II 洞ノ口遺跡（第3次調査）

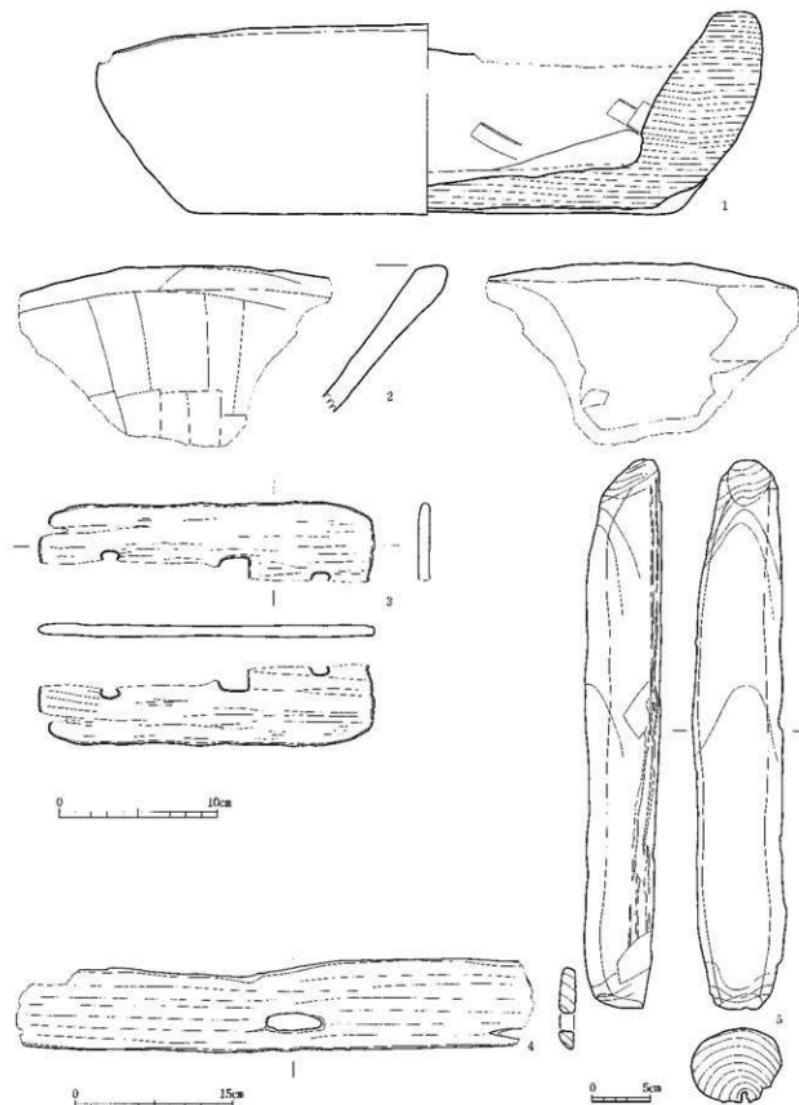
参考文献

- 全森・松本・工藤・古川・伊藤（1988）「東光寺遺跡 第1・2次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第112集 仙台市教育委員会
- 全森 安孝（1990）「東光寺遺跡第3次報告書」仙台市文化財調査報告書第142集 仙台市教育委員会
- 主浜・松本（1999）「山田条里遺跡（第2次・第3次調査）」「陸奥国分尼寺跡ほか」仙台市文化財調査報告書第238集 仙台市教育委員会
- 竹田 幸司（1999）「北日城跡（第2次調査）」「陸奥国分尼寺跡ほか」仙台市文化財調査報告書第238集 仙台市教育委員会
- 工藤・竹田・結城（1999）「北星敷遺跡（第2次調査）」「陸奥国分尼寺跡ほか」仙台市文化財調査報告書第238集 仙台市教育委員会
- 相澤・車田（平成12年）「西沢遺跡－第8次調査報告書－」多賀城市文化財調査報告書第58集 多賀城市教育委員会
- 平間・吉田（2000）「山田条里遺跡（第4次・第5次調査）」「五本松窯跡ほか」仙台市文化財調査報告書第247集 仙台市教育委員会
「仙台市史 通史編Ⅱ 古代中世」 仙台市史編纂委員会
- 田中 利和「川沿いの埋蔵群」「よみがえる中世？」P.93～P.98



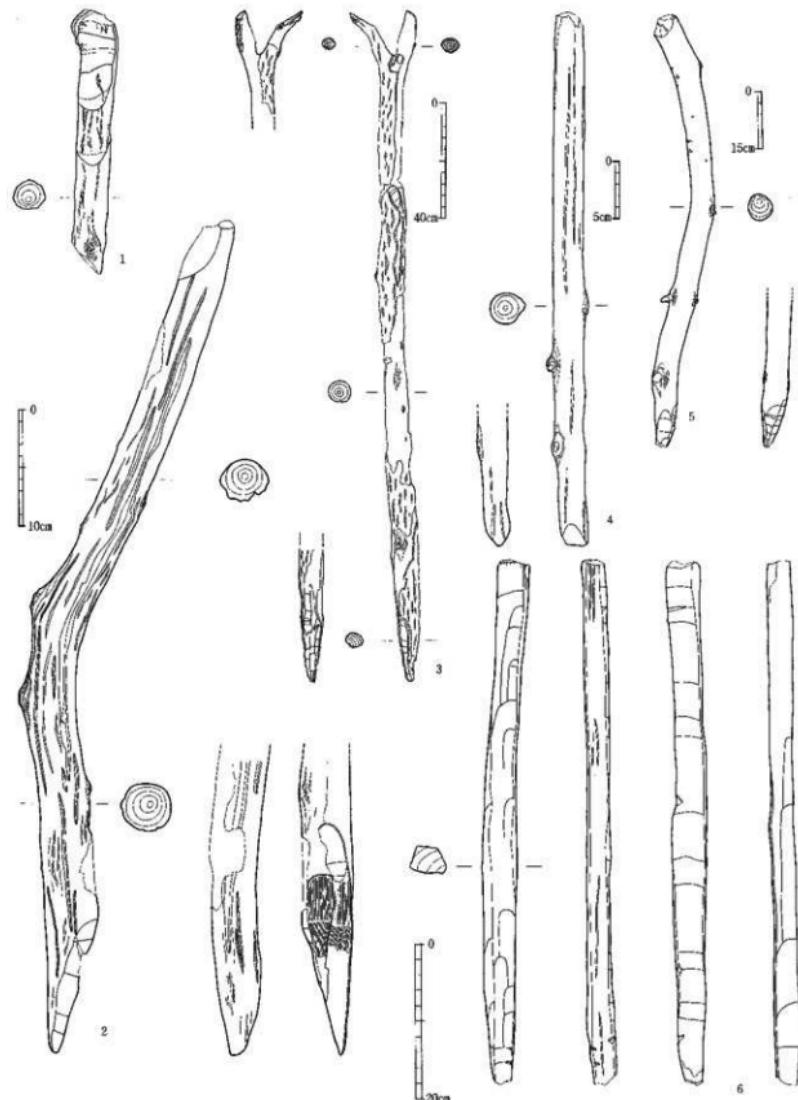
番号	種別	部品	出土場所	特徴	参考文献
1	土器	杯	2年次1区	V形 外面-7SYR6/3(にぶい黄色)、ロクロ、ミガキ 内面-擦れ処理、ミガキ	22
2	土器	杯	1年次2区北端	背面-外側-10YR7/1(灰白色)、ロクロ、ナメ 内面-黑色處理、ミガキ	23
3	土器	杯	2年次4区	背面-外側-10YR6/2(灰白色)、ロクロ 内面-10YR6/2(灰白色)、ロクロ	24
4	土器	杯	2年次3トレンチ	裏面-外側-10YR7/2(にぶい黄褐色)、ミガキ 内面-黑色處理、ミガキ	25
5	土器	高台杯	2年次1区	裏面-外側-10YR7/2(明黄色)、ロクロ 内側-10YR7/6(薄黃褐色)、ロクロ	26
6	土器	高台杯	2年次4区西端部	背面-7.5YR8/4(浅黃褐色) 内面-10YR5/2(灰白色)、ナメ	28
7	土器	高台杯	2年次4区北東端	背面-10YR6/1(灰白色) 上端部-ハケヌ、ロコナヌ 体部-ハケヌ、ナメ 北部-木製底	29
8	土器	高台杯	1年次2区	内側-10YR6/2(灰白色) 体部-ナメ 体部-擦れえ、ナメ	30
9	瓦		表掛		33
10	陶製割り皿		出土場所	形状	参考文献
11	陶製割り皿		1年次1区SD-7	上端 44.0×40.0×10.0 下端 32.4 空腹。空腹底。	31
12	土器	上鉢	1年次4区	1個 45.0×41.0×11.0	32
13	土器	上鉢	2年次3区	1個 34.0×22.0×8.0 内側-10YR6/2(灰白色)	35
14	石製刃物		2年次4区	直径 47.0×38.0×8.0 内側-10YR6/2(灰白色)	36
	石	刀	1年次4区	V形 70.0×75.0×45.0 内側-10YR6/2(灰白色)	

第18図 出土遺物(1)



施	機	器種	出	土	遺	点	層位	特	徵	等級
1	木製品	木鉢	1年次	I	KSD-7	上部	木鉢。口径(319cm) 番号132の底型(30cm)			53
2	木製品	木鉢	1年次	I	KSD-7	M-N	木鉢の底面。番号(117cm)			54
3	木製品	板材	1年次	I	KSD-7	上部	中央部に穿孔を3つ以上押つとおさられる。			55
4	木製品	板材	2年次	I	KSD-7	N-S	中央部に穿孔を1つ持つ。穿孔は人「」のものか溝が抜けたものか不明。			56
5	木製品	板	1年次	I	KSD-7	下部	中央部に穿孔を1つ持つ。穿孔は人「」のものか溝が抜けたものか不明。両端はなめらかになっている。			57

第19図 出土遺物（2）



No.	種別	器種	出土地点	層位	特徴	参考文献	写真番号
1	木製品	杖	2年次2区溝跡		表面が1面加工された杖。		
2	木製品	杖	2年次2区歩行跡跡		光面部分が1面加工された杖。		
3	木製品	杖	2年次5区北壁		表面が2面加工。中央部に杖の切削痕あり。上端部は二段に分かれているが、両方とも先に加工もあり。	38	
4	木製品	杖	2年次4区南側溝跡		光面部分が2面加工された杖。		
5	木製品	杖	3年次1区SD-7		表面部分が3面加工された杖。		59
6	木製品	角杖	2年次3区西側溝跡		4面に加工された角杖。2面を生かした状態で先端部が細くなっている。		60

第20図 出土遺物（3）

II 洞ノ口遺跡（第3次調査）

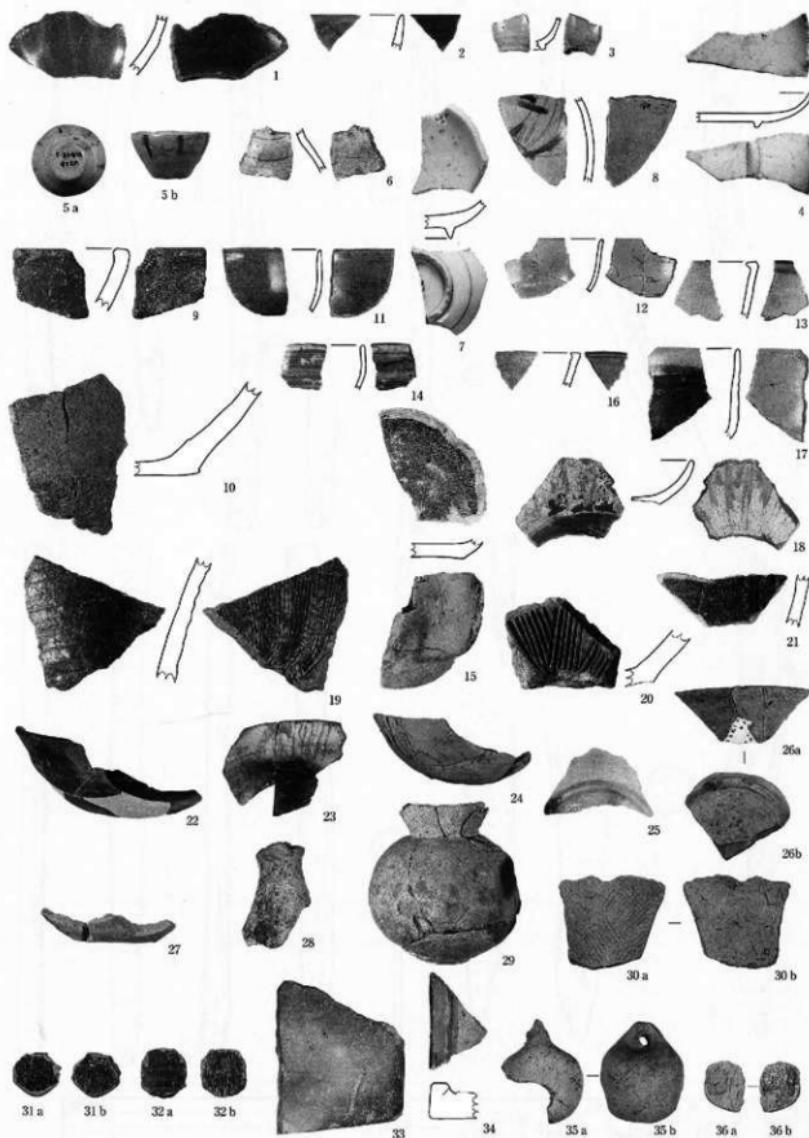
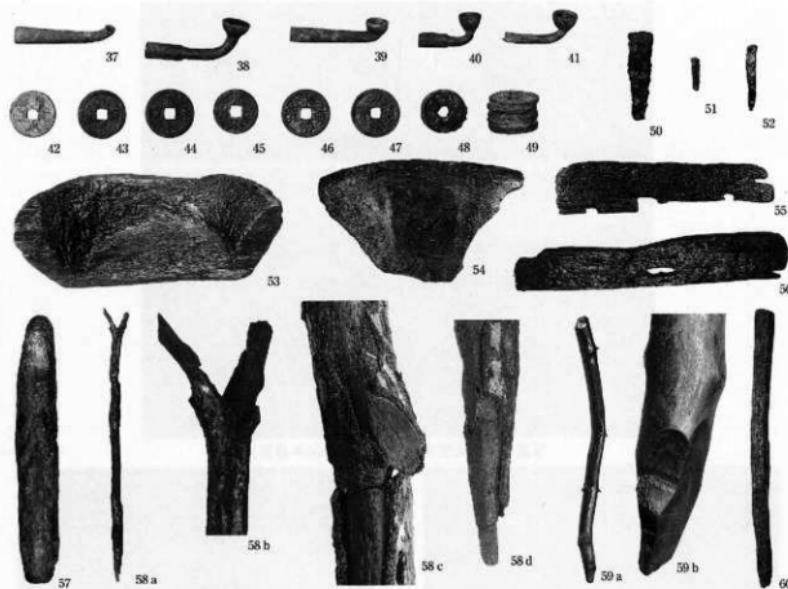


写真1 出土遺物（1）

II 洞ノ口遺跡（第3次調査）



写真図版	出土地点	目次	種別	器種	年代	時	期
1	1年次3区南端	董	青銅	鏡	地盤裏	13-14世紀	鎌倉文
2	1年次2区SD-7	墳土下層	青銅	鏡	地盤裏	13-14世紀	鎌倉文
3	2年次5区	董	白磁(?)	小杯	地盤裏	17-18世紀	
4	2年次5区	董	白磁	小杯	地盤(?)	明治時代(?)	(19世紀)
5	2年次5区レント	董	白磁	小杯	地盤(?)	明治時代(?)	(19世紀)
6	2年次4区	董	白磁	小杯	地盤	江戸時代(17-18世紀)	上絵付松葉
7	2年次4区	董	白磁	小杯	地盤	江戸時代	上絵付切妻形用
8	2年次5区	董	白磁	小杯	地盤	江戸時代	圓錐、高台の中に蓋がある。
9	2年次4区	董	白磁	小杯	地盤	江戸時代	圓錐
10	2年次4区	董	白磁	小杯	地盤	江戸時代	13世紀後半-14世紀前半
11	2年次5区	董	白磁	小杯	地盤	江戸時代	13世紀後半-14世紀前半
12	1年次1区	董	白磁	小杯	地盤	大和朝馬	灰釉
13	1年次1区	董	白磁	香炉	古窯戸	14世紀-15世紀	白開通
14	1年次2区	董	白磁	碗	地盤	肥前	灰釉
15	1年次2区南半	董	白磁	重口杯	古窯戸	14世紀-15世紀	ハケ口文
16	1年次2区	董	白磁	香炉	古窯戸	14世紀-15世紀	灰釉
17	1年次3区北部	董	白磁	碗	地盤	18世紀前半	かけ分け(火鉢と灰釉)、黒向背
18	2年次6区	董	白磁	碗	地盤	16世紀後半-17世紀前半	灰釉
19	2年次5区	董	白磁	碗	地盤	江戸時代(18世紀後半)	灰釉
20	2年次6区	董	瓦質土器	引手鉢	地盤	16世紀後半	灰釉
21	2年次6区	董	瓦質土器	深鉢	地盤	江戸時代	火鉢の可能性あり
写真図版	種別	出土地点	種別	長さ cm	重量 g	備考	
37	副鉄	2年次3区	日輪	(6.5)	62		
38	副鉄	2年次5区	日輪	6.5	11.6		
39	副鉄	1年次3区	日輪	6.2	7.6		
40	副鉄	1年次4区	日輪	4.0	6.5		
41	副鉄	1年次2区南端内	地盤	(4.0)	5.6		
写真図版	種別	出土地点	種別	長さ mm	重量 g	備考	
42	副鉄	2年次6区	日輪	2.4	3.2	対水通宝	
43	副鉄	2年次2区	日輪	2.5	2.6	対水通宝	
44	副鉄	1年次3区	日輪	2.6	2.6	対水通宝	
45	副鉄	1年次3区	日輪	2.3	2.6	対水通宝	
46	副鉄	1年次2区	日輪	2.5	2.7	水幣通宝(折銭1408年)	
47	副鉄	1年次2区	日輪	2.5	2.1	水幣通宝(折銭1408年)	
48	副鉄	1年次2区	日輪	2.3	4.5	対水通宝(折銭1408年)	
49	副鉄	1年次2区	日輪	2.4	28.1	対水通宝(折銭1408年)	
写真図版	種別	出土地点	種別	長さ mm	重量 g	備考	
50	刀	2年次3区	表	6.1×12×1.1	37.9		
51	刀	1年次2区北半	表	(2.0)×9.6×0.4	0.9		
52	刀	1年次3区	表	4.6×8.7×0.3	3.6		

写真2 出土遺物(2)



写真3 区画整理区域全景（2000年撮影）



写真4 1年次1区SD-1（南より）



写真5 1年次1区Ⅲ層水田跡



写真6 1年次1区SD-5（西より）



写真7 1年次1区SD-7（南より）

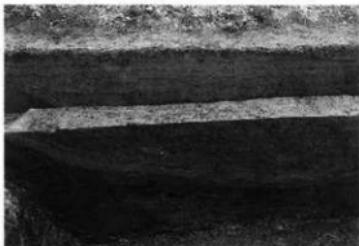


写真8 1年次1区SD-7東壁土層断面



写真9 1年次2区Ⅳ層水田跡（南より）

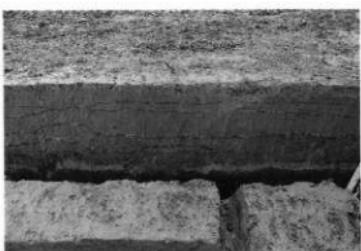


写真10 1年次2区西壁土層断面



写真11 1年次3区IV層水田跡（南より）



写真12 1年次3区V層水田跡（南より）



写真13 1年次3区西壁土層断面



写真14 1年次4区III層水田跡（南東より）



写真15 1年次4区IV層水田跡（南東より）



写真16 1年次4区V層水田跡（南東より）

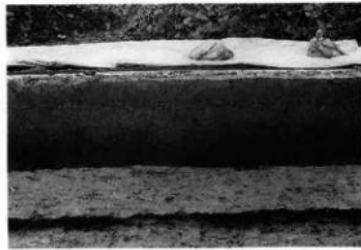


写真17 1年次4区東壁土層断面

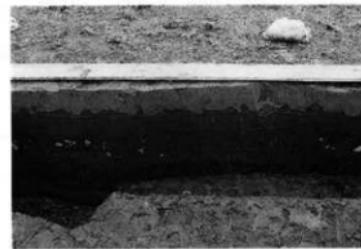


写真18 2年次1区西壁土層断面

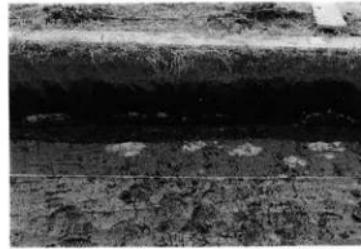


写真19 2年次1区灰白色火山灰検出状況

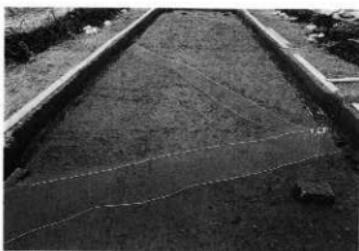


写真20 2年次2区IV層水田跡（南西より）



写真21 2年次2区中央畦畔木製品出土状況



写真22 2年次2区溝跡杭出土状況

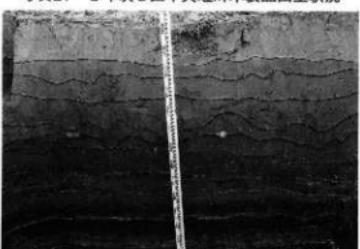


写真23 2年次2区西壁土層断面



写真24 2年次5区北壁杭出土状況



写真25 2年次3区SK-2断面

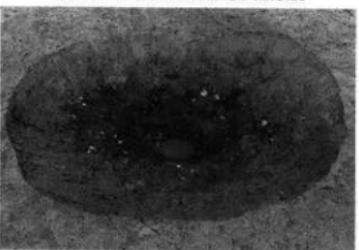


写真26 2年次3区SK-2完掘状況



写真27 2年次3区SX-1完掘状況（南西より）



写真28 2年次3区西壁土層断面



写真29 2年次3区SX-2断面



写真30 2年次3区SX-2(北西より)

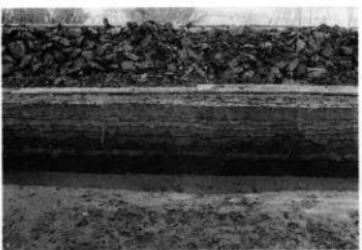


写真31 2年次4区南壁土層断面



写真32 2年次2トレンチIV層水田跡(南西より)



写真33 2年次4トレンチSX-4(南より)



写真34 2年次2区溝跡(東より)



写真35 2年次4区N層水田跡(西より)



写真36 2年次1トレンチIV層水田跡(南より)



写真37 2年次4区北側溝土筋器の出土状況



写真38 2年次3区北側溝杭の出土状況



写真39 2年次4区南側溝杭の出土状況

7. プラント・オパール分析

仙台市、洞ノ口遺跡第3次調査におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

(1) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山、1984）。

洞ノ口遺跡第3次調査でも、複数の層準において水田耕作層の可能性が認められた。そこで、プラント・オパール分析を行い、耕作跡の可能性について検討を行うことになった。

(2) 試料

本遺跡における試料採取地点および分析試料は、1区西壁の3層（試料No.1）と4層（試料No.2）、2区西壁の3層（試料No.3）と4層（試料No.4）、3区西壁の4層（試料No.5）と5層（試料No.6）、3区西壁S X - 1の②層（試料No.7）と④層（試料No.8）、4区南壁の4層（試料No.9）、5層（試料No.10）および6層（試料No.11）、5区北壁の3層（試料No.12）、6区北壁の3層（試料No.13）と4層（試料No.14）、1トレーンチ西壁の4層（試料No.15）、2トレーンチ西壁の4層（試料No.16）と5層（試料No.17）、3トレーンチ西壁の5層（試料No.18）、6層（試料No.19）および7層（試料No.20）、4トレーンチ西壁の5層（試料No.21）、6層（試料No.22）および7層（試料No.23）の計11地点23試料である。

(3) 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1 gに直径約40 μmのガラスピーブを約0.02 g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20 μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡で行った。計数は、ガラスピーブ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1 g中のプラント・オパール個数（試料1 gあたりのガラスピーブ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピーブの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10~5 g）を乗じて、単位面積で畠厚1 cmあたりの植物体生産量を算出した。ヒエ属（ヒエ）の換算係数は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75である。

(4) 分析結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ジユズダマ属、タケナワ科（ネザサ節型、クマザサ属型、その他）および未分類等である。これらの分類群について定

量を行い、その結果を第1表、および第21図に示した。

(5) 考察

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行うにあたっては、通常、イネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作の行われていた可能性が高いと判断している。ただし、仙台平野ではこれまでの調査において密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは基準値を3,000個/gとした。また、当該層においてプラント・オパール密度にピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくいくことから、密度が基準値に達していない場合であっても稲作跡である可能性が考えられる。これらのこととを基準として、以下に稲作の可能性について検討を行う。また、その結果を図21にまとめた。

①1区西壁

3層と4層について分析を行った。その結果、両層よりイネのプラント・オパールが検出された。したがって、本地点ではこれらの層において稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、3層ではプラント・オパール密度が1,200個/gとやや低いことから、あるいは他所の水田から混入したものであるかもしれない。

②2区西壁

本地点でも3層と4層について分析を行ったところ、両者からイネのプラント・オパールが高い密度あるいは比較的高い密度で検出された。したがって、それぞれにおいて稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

③3区西壁

ここでは4層と5層について分析を行った。その結果、いずれもイネのプラント・オパールが3,000個/g以上の高い密度で検出された。よって、本地点ではこれらの層が稲作跡である可能性が高いと考えられる。

④3区西壁SX-1

①層と④層について分析を行った。両者よりイネのプラント・オパールが検出されたことから、当該層堆積時に本地点もしくは近傍において稲作が行われていたと考えられる。

⑤4区南壁

4層、5層、6層について分析を行った。その結果、すべての層よりイネのプラント・オパールが検出された。このうち、5層と6層ではプラント・オパール密度が3,000個/g以上と高い値であり、4層でも2,400個/gと比較的高い値である。よって、本地点ではこれら各層において稲作の行われていた可能性が高いと考えられる。

⑥5区北壁

3層について分析を行った。イネのプラント・オパールは検出されたものの、1,000個/g未満と低い密度である。したがって、本地点の3層では稲作の行われていた可能性を否定することはできないが、他所からイネのプラント・オパールが混入した可能性が高い。

⑦6区北壁

3層と4層について分析を行った。ここでは3層のみでイネのプラント・オパールが検出された。ただし、密度は1,400個/gとやや低い値である。よって、3層では本地点で稲作の行われていた可能性が考えられるものの、他所からの混入の危険性も否定できない。

⑧1トレンチ西壁

ここでは4層について分析を行った。その結果、イネのプラント・オパールは検出されたが、1,400個/gとやや低い密度である。したがって、本地点の4層で稲作の行なわれていた可能性は考えられるものの、他所からの混入の危険性も否定できない。

⑨2トレンチ西壁

4層と5層について分析を行った結果、両者よりイネのプラント・オパールが検出された。いずれも密度が3,000

II 洞ノ口遺跡（第3次調査）

例/g以上と高い値であることから、本地点では4層と5層の両層で稲作の行われていた可能性が高いと考えられる。

⑩ 3トレンチ西壁

5層、6層、7層について分析を行った。その結果、すべての試料からイネのプラント・オバールが検出された。このうち、6層では密度が3,000個/gと高い値であることから、稲作跡である可能性が高いと考えられる。また、5層でも2,500個/gと比較的高い密度であることから、稲作の行われていた可能性が考えられる。7層については密度が1,000個/gとやや低いことから、稲作の行われた可能性は考えられるものの、上層あるいは他所からイネのプラント・オバールが混入した危険性も否定できない。

⑪ 4トレンチ西壁

5層、6層、7層について分析を行った。ここでもすべての試料よりイネのプラント・オバールが検出された。7層では、密度が3,000個/gと高い値でありピークが認められる。したがって、本地点の7層では稲作の行われていた可能性が高いと考えられる。なお、5層と6層でも稲作の行われた可能性が考えられるものの、密度がいずれも1,200個/gとやや低いことから他所からの混入である危険性も否定できない。

以上のことから、本遺跡において稲作跡の存在が考えられるのは、2区近辺の3層、1区、2区、3区、4区および2トレンチ帯の4層、3区、4区、2トレンチおよび3トレンチ辺りの5層、4区と3トレンチ近辺の6層、4トレンチ近辺の7層である。

なお、3区西壁の5層、1トレンチの4層および4トレンチの6層ではヨシ属が非常に高い密度で検出されており卓越している。また、1区西壁の4層、2区西壁の3層と4層、6区北壁の4層および2トレンチの5層でも比較的高い密度である。こうしたことから、これらの層では当該地点近辺は湿地あるいはそれに近い環境であったと推定される。なお、周辺にはネザサ節型やクマザサ属型、さらにスキ属型もみられたと推定される。

文献

杉山真二（1987）タケモ科植物の機動細胞壁酸体、富士竹類植物園報告、第31号、p.70-83。

杉山真二（2000）植物壁酸体（プラント・オバール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213。

杉山真二、松田隆二、藤原宏志（1988）機動細胞壁酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追究のための基礎資料として－、考古学と自然科学、20、p.81-92。

藤原宏志（1976）プラント・オバール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の壁酸体標本と定量分析法－、考古学と自然科学、9、p.15-29。

藤原宏志、杉山真二（1984）プラント・オバール分析法の基礎的研究（1）－プラント・オバール分析による水田址の探査－、考古学と自然科学、17、p.73-85。

第1表 仙台市、洞ノ口遺跡第3次調査のプラント・オバールの分析結果

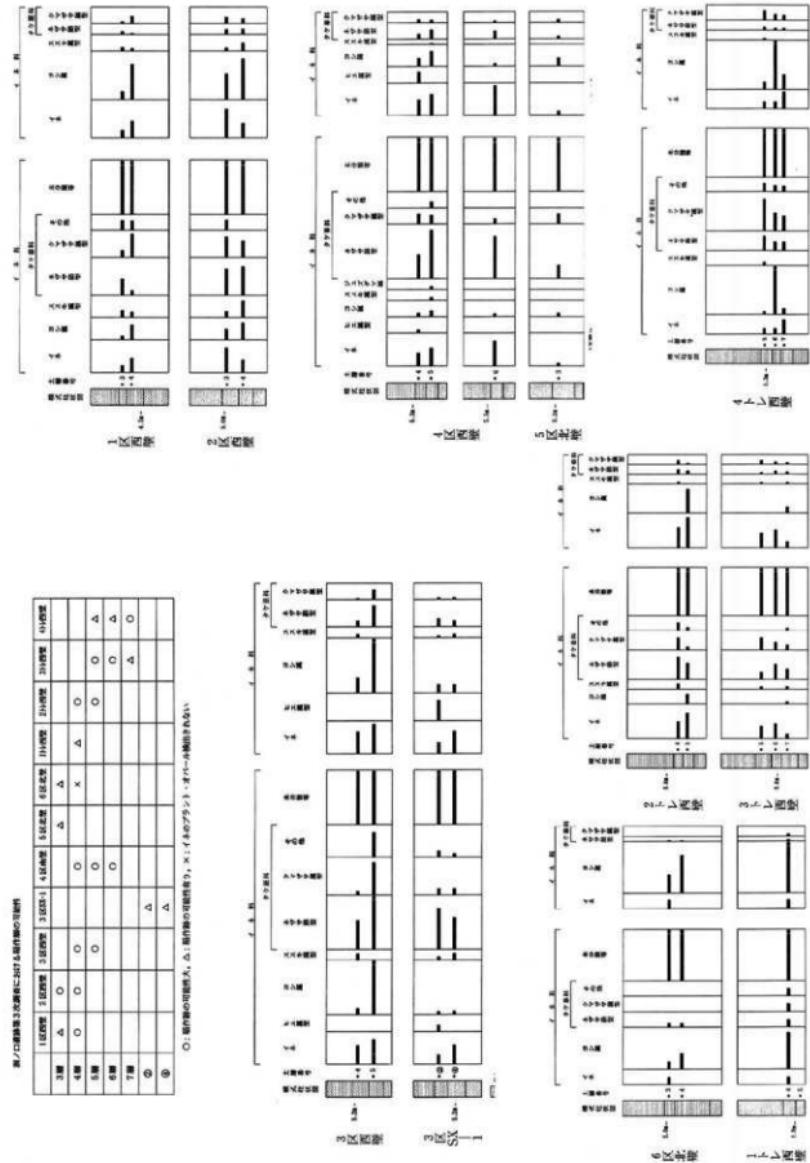
検出密度（単位：×100個/g）

分類群（学名・学名）／試料	1区西壁			2区西壁			3区SK-1			4区南壁			5区南壁			6区北壁			7区近辺			2トレンチ			3トレンチ			4トレンチ			
	3	4	3	4	4	5	①	④	4	5	6	3	5	4	4	5	6	7	5	6	7	5	6	7	5	6	7	5	6	7	
イネ科 Gramineae (Grasses)																															
イネ Oryza sativa (domestic rice)	12	26	45	23	34	45	17	36	26	33	46	6	14		14	35	52	25	30	10	12	12	12	30							
ヒコモ属 Echinochla type												11	6																		
ヨシ属 Phragmites (reed)	6	26	19	30	11	126	6	6	6	11	3	6	14	26	70	19															
スキモ属 Miscanthus type	32	9	11	36	11		6	12		5																					
リゾグサ属 Coir																															
タケモ科 Poaceae (Bamboo)																															
ネザサ節型 Pleoblastus sec. Nezasa type	30	9	49	33	52	150	75	58	43	88	77	24	7	7	14	45	32	15	30	21	29	18	18								
タマザサ節型 Sasa (except Miyakozasa) type	12	43	38	30	6	60	11	12	16	16	19	18				14	25	6	25	15	10	64	36	30							
その他 Others	19	17	19		45	11	6	11																							
木立類等 Unknown	261	405	170	375	224	825	281	167	110	170	201	137	203	246	279	292	263	194	188	149	111	126	171								
プラント・オバール合計	279	534	351	341	339	1260	419	294	207	340	340	190	237	282	404	420	370	363	362	305	244	330	272								

おもな分類群の検出生産量（単位：kg/m²·cm）

イネ Oryza sativa (domestic rice)	0.35	0.76	1.33	0.67	1.61	1.32	0.51	1.02	0.72	0.97	1.36	0.17	0.40		0.41	1.02	1.53	0.73	0.82	0.30	0.34	0.35	0.87							
ヒコモ属 Echinochla type												0.96																		
ヨシ属 Phragmites (reed)	0.38	1.63	1.19	1.92	0.72	8.22	0.36	0.36	0.38	0.69	0.33	0.38	0.85	1.82	4.39											0.32	0.37	2.96	0.33	
スキモ属 Miscanthus type	0.15	0.11	0.14	0.36	0.14		0.07	0.14		0.07																				
ネザサ節型 Pleoblastus sec. Nezasa type	0.14	0.01	0.04	0.26	0.25	0.72	0.36	0.28	0.20	0.42	0.37	0.11	0.03	0.03	0.07	0.21	0.16	0.06	0.06	0.07	0.14	0.10	0.14	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	
タマザサ節型 Sasa (except Miyakozasa) type	0.09	0.32	0.28	0.23	0.04	0.45	0.09	0.09	0.14	0.12	0.06	0.13				0.10	0.19	0.02	0.11	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08

第21図 プラント・オバール分析結果



II 洞ノ口遺跡（第3次調査）

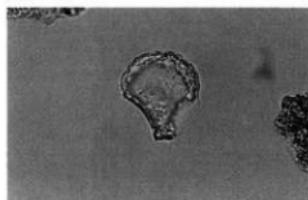


写真40 イネ
2年次2区西壁 3層

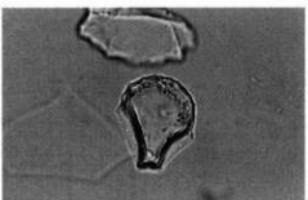


写真41 イネ
2年次3区西壁 5層

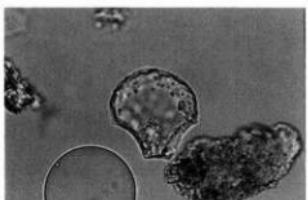


写真42 イネ
2年次2トレンチ西壁 5層

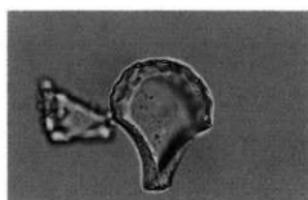


写真43 イネ
2年次4トレンチ西壁 7層

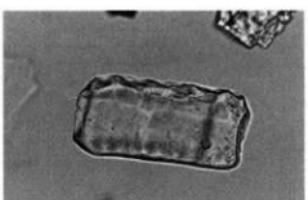


写真44 ヒ工属型
2年次3区SX-1 ②

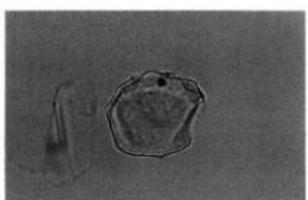


写真45 ジュズダマ属
2年次4区南壁 5層

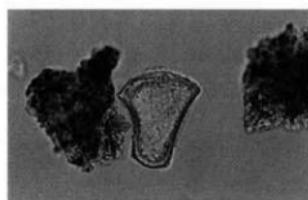


写真46 ウシクサ族（ススキ属）
2年次2区西壁 4層

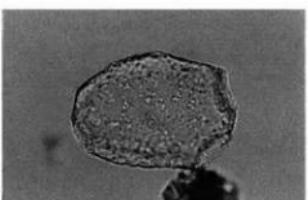


写真47 ヨシ属
2年次3区西壁 5層



写真48 タケ亜科（ネザサ節型）
2年次1区西壁 3層

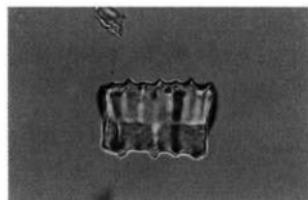


写真49 タケ亜科（ネザサ節型）
2年次2区西壁 4層

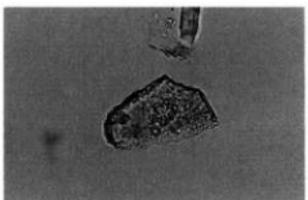


写真50 タケ亜科（ネザサ節型）
2年次2区西壁 4層

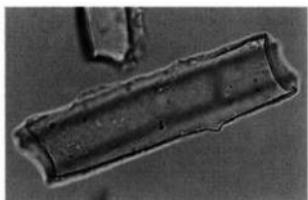


写真51 不明
2年次3区西壁 4層

プラント・オバール（植物珪酸体）の顕微鏡写真

[2] 第6次調査

1. 調査要項

調査名 洞ノ口遺跡第6次調査
 所在地 仙台市宮城野区岩切字洞ノ口103
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 164m²
 調査面積 26m²
 発掘調査参加者 上野美子 小野寺美伊子 小山裕美 郷瀬静子 佐々木和江 庄子善昭
 整理作業参加者 相沢美佐子 佐藤悦子 零石良子 高橋弘子

調査期間 平成12年8月24日～8月30日
 調査主体 仙台市教育委員会
 調査担当 仙台市教育委員会文化財課
 担当職員 吉岡恭平、平間亮輔
 調査協力 加藤友男
 発掘調査参加者 上野美子 小野寺美伊子 小山裕美 郷瀬静子 佐々木和江 庄子善昭
 整理作業参加者 相沢美佐子 佐藤悦子 零石良子 高橋弘子

2. 遺跡の概要

遺跡の地理的位置及び歴史的環境については本書「第3次調査」に記述があるので、ここでは補足的に触れておくこととする。

本遺跡は城館の頃跡が地表面で顯著に認められる（写真1）遺跡として知られてきた。城館の西方約200mの位置には「奥大道」が南北に走り、南側には奥大道から分かれて南宮・塩釜方面へ向かう七北田川北岸の道があったと推定されている交通の要衝でもある。城館は留守氏関連の居館と考えられてきたが、最近では中世多賀国府の正庁とする説もあり、南側の道の両側には市場が広がっていたと考えられている。

なお、平成4年からは区画整理事業が行われて宅地化が進み、現在はその歴史的景観を見ることはできない。同事業に伴って実施された第1次調査の結果、地表面で見える痕跡は実際に堀の跡であり、中世後半の城館がほぼ予想された通りに存在することが確認された。さらにその後の道路建設に伴う第2次調査では城館の西側にも堀で仕

切られた別の区画が存在することが判明し、第4次調査では、第1次調査時には不明確であった城館の東辺と考えられる堀跡を発見している。なお、城館の面の下層では古代の集落跡や畠跡が調査され、北側の後背湿地では古代～近世にかけての水田跡が重層的に確認されている^{〔1〕}。



第1図 周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代
1	洞ノ口遺跡	集落・城郭 聚落・水田・畠	古墳～近世
2	岩切城跡	城館	中世
3	東光寺遺跡	城館・寺社 石積丘・墓葬 積砂墓・板碑群	中世～近世
4	若宮前遺跡	城館・填高 包合地	平安～近世
5	羽黒前遺跡	包合地	中世～近世
6	化粧坂遺跡	城館	中世
7	新田遺跡	集落・聚落	平安～中世
8	港ノ差遺跡	集落・聚落 水田	平安～中世
9	今市遺跡	墓葬	平安～中世

表1 周辺の遺跡地名表

3. 基本層序

基本層は盛土下に4層確認したが、遺構面は1・2次調査とほぼ対応すると判断できたためにこれらと共に層名を使用することとした。このためこの6次調査区ではⅡ・Ⅲ層を欠いている。

I層 10YR2/2 黒褐色粘土。木炭粒を多量に含む。盛土以前の畑の耕作土

IVa層 10YR3/1 黒褐色粘土。木炭粒を少量含む。上面は中世後半の遺構面。

IVb層 10YR2/1 黒色粘土。10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。木炭粒を少量含む。上面は中世前半の遺構面。

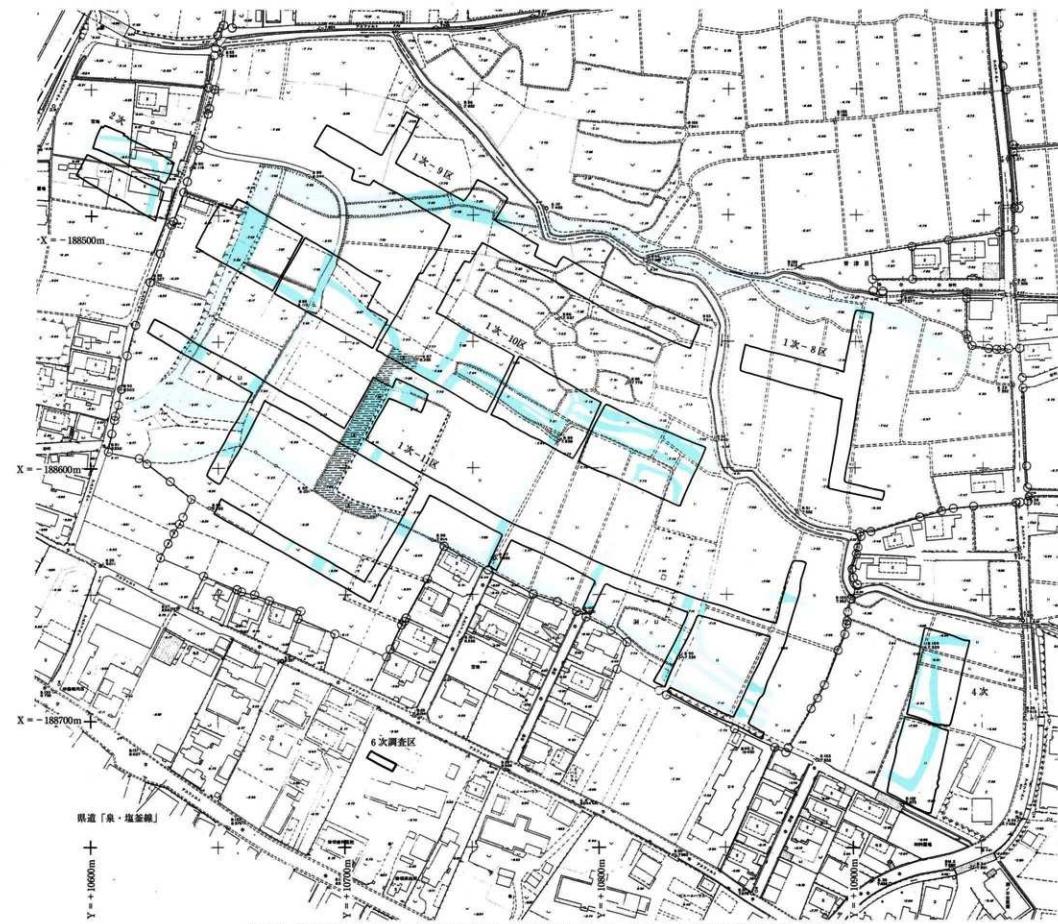
V層 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト、層中に灰白色火山灰ブロックを少量含む。古代の畑の耕作土である。

調査区・調査区	調査面積	調査 領 図	調査範囲	主な遺構	参考
1次調査	試掘	-	平成4年5月29日～平成4年8月24日	古代～近世の水田跡	
	1～3号・5号	(約 2.10ha)	平成4年8月25日～平成5年9月14日	古代～古の水田跡、中世の城郭跡	
	4号・6～9号	(約 4.90ha)	平成5年9月14日～平成5年12月20日	土地区画整理事業	未報告
	10号	(約 5.20ha)	平成6年1月15日～平成6年12月26日	古代の水田跡・畑地、中世の城郭跡	
	11号	(約 2.50ha)	平成7年3月6日～平成7年10月9日	古墳時代以前の水田跡、古代の水田跡・耕作、中世の城郭跡	
2次 調査	2号・調査全	(約 700m ²)	平成11年9月5日～平成11年12月24日	道路建設	未報告
	3号	(22ha)	平成11年10月4日～平成12年1月20日	古代～近世の水田跡	未報告
3次調査	1号次	(約 1.80ha)	平成12年4月17日～平成12年11月17日	土地区画整理事業	本書
	2号次	(約 1.80ha)	平成12年4月17日～平成12年11月17日	古代～近世の水田跡	未報告
4次 調査	-	1,600m ²	平成12年4月18日～平成12年12月27日	道路建設	古代～近世の水田跡、古代の水田跡・耕作、中世の城郭跡
5次 調査	-	半幅13年度耕作手配	道路建設	-	未報告
6次 調査	25ha	平成12年8月24日～平成12年8月30日	個人住宅建設	古代の水田跡(?)、中世の城郭跡	本書

表2 洞ノ口遺跡調査次数表



写真1 洞ノ口遺跡付近の空中写真（1961年、国土地理院撮影）



第2図 遺跡全体図 青色のアミ点は規模の大きな溝（堀）を示す。薄いアミ点は推定部分を示す。(1/1500)

4. 調査の方法

調査区は建物の方向にあわせて東西方向に長く3.5×11.5mに設定したが、壁面の崩落防止のために勾配をつけ、涌水対策のために側溝を掘ったので、実際に精査できたのは25×10.5mの範囲（約26m²）である。

盛土層及びI層を重機で除去した後、IVa層・IVb層上面で精査を行った。それぞれの面では土坑やピットらしい落込みを数ヵ所確認したが、プランが明瞭でなかったことと調査日程の制約のため細かな遺構確認作業は断念し、さらに重機による掘り下げを続けた。最終的に遺構を確認したのはV層上面である。

なお、個人住宅のために調査期間の制約があったことからV層以下の精査は行わなかった。

5. 発見遺構と出土遺物

確認できた遺構は土坑20基、ピット36基である（第3図、表4・5）。なお、遺構Noは確認後すぐに付け、掘り込んだ結果によって遺構とは認定しがたいものは外したため矢番が多くある。

先に述べたように遺構はすべてV層上面で確認しているが、これらの中には本来IVa層やIVb層上面から掘り込まれた遺構も混在していることが予想される。ピットの中には柱痕跡が認められるものもいくつか認められることから掘立柱建物の存在が予想されるが、本来の掘り込み面が不明確なことと調査区の制約により建物の詳細は不明である。土坑についても性格は不明である。

遺物はロクロ上師器・須恵器・土師質土器・中世陶器・磁器・石製品などが183点出土し⁽³⁾、このうち29点が図化できた（第4・5図、表3）。遺物のうち土器類は171点あるがその大部分は古代・中世のもので、その割合は古代が1/3、中世が2/3である。なお、中世の土器のうち最も多いのが常滑・深瀬を含む東海地方産の無釉の陶器で全体の1/2を占め、次に多いのが在地の陶器で全体の1/3を占める。残りが土師質土器・中国産の磁器・国産の施釉陶器である。

6.まとめ

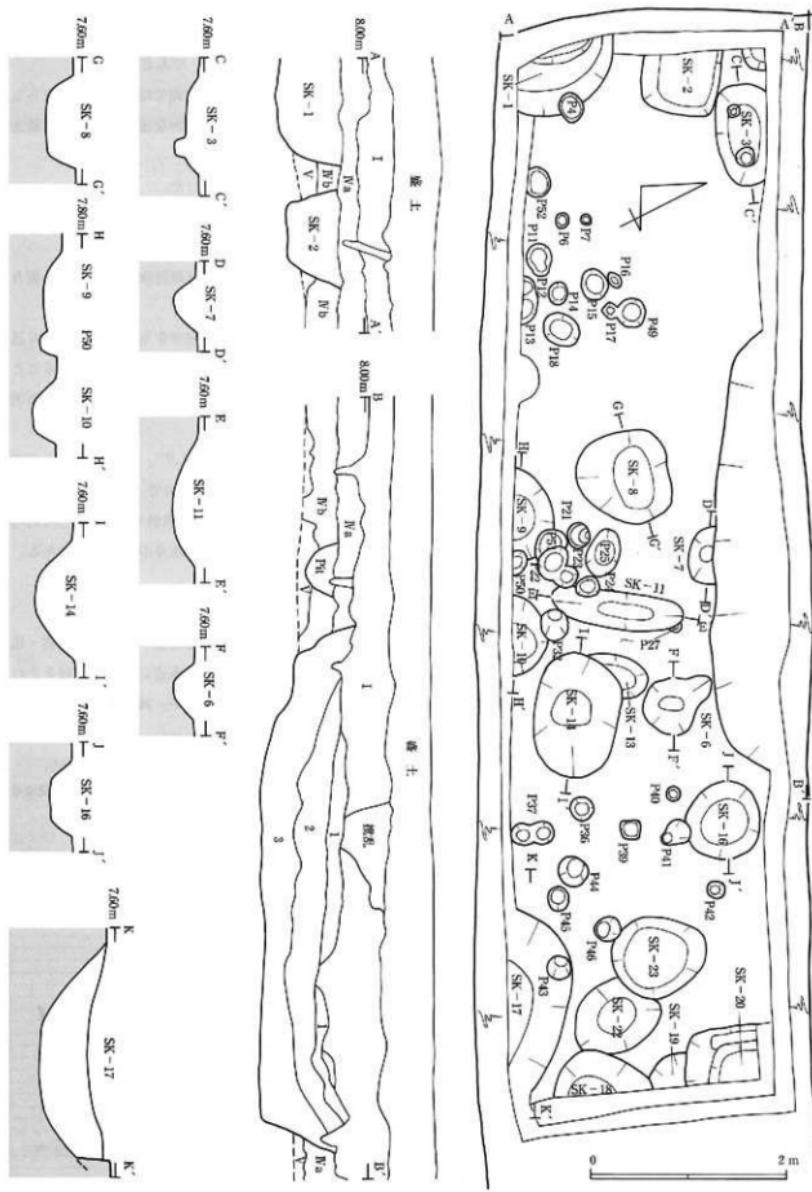
現在のところ城館の外郭南辺については確定できていないが、南側を走る県道「泉・塩釜線」が中世の南宮・塩釜方面へ向かう道を断続しており、その両側に町家が存在していたとすれば、城館の外郭南辺は県道の北側をそれと並行して走る道路付近に求められる。今回の6次調査区はこの道路の南側に位置するので、城館外部の町家部分に該当する可能性が高いと考えられるが、遺構・遺物からそれを裏付けることはできなかった。

（註1）1次調査については文献2～4に記載があるが本報告書は未刊。2次調査は未報告、4次調査は今年度調査のため未報告。

（註2）今回は重機でIV層を除去したが、他の調査区ではIV層中にかなりの量の遺物が含まれていることからすると、本来の遺物量はさらに多かったと考えられる。

遺構 位置	ロクロ 上師器	須恵器	土師質土器	中世陶器						磁器 （中国）	石製品	その 他	
				瓦	瓦 蓋	瓦 底	瓦 縫	单 耳	单 耳 底				
SK1	6	1	2					1	1		2		
SK2	3	5	1					1	1		2		
SK5								2	2		5		
SK6											1	1	
SK7													
SK14	1	1									1		竹林小形の御用器
SK17													
SK18													
SK20													
SK23													
P4	1										2		
P11													
P16													
P24													
P25													
P41													
P50													
IV層	2	10	3	7	1	3		2	1	23	3	6	1
IVb層		1	2	1						2			
瓦	2									4			
21	5	26	7	17	1	5	1	2	1	31	5	8	3
22											34	7	1
23											7		

表3 遺物集計表



第3図 V層上面遺構全体図・断面図

地名	面積	大きさ	土	種	人	物	備考
1 円形?	105以上	65	10YR2/1 黒褐色土	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P13上から水の振り込み、P14に切られる。		
2 方形?	82×67以上	36	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P15部分が削除され外		
3 圓形?	53×57×105	(13)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P16上から水の振り込み		
			①10YR2/2 黑褐色土 10YR2/3 に多い黒褐色砂質シルト 10YR2/1 黑褐色土上	ブロックの混入			
5 ?	430以上×?	85	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 に多い暗褐色砂質シルトブロック 10YR2/1 黑褐色土上	SK7を切る		
			②10YR2/1 黑褐色土 25Y/1 黑褐色土上	黒褐色、シルトブロック少量	大部分が高点より外		
6 等んだ円形? 80×60	(30)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量				
7 等円形? 60×263以上	(29)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK5に切られる			
8 金んだ円形? 95×95	(27)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P50・51に切られる			
9 円形?	75×?	(16)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P52に切られる。薄葉が跡を残す		
10 円形?	80×?	(22)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P53に切られる。薄葉が跡を残す		
11 等円形? 60×138	(26)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 暗褐色土上	P54を切る。P23・24に切られる			
12 等円形? 62×65以上	(16)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK14に切られる			
13 等円形? 25×130	(40)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK13に切る			
14 等円形?	75×130	(26)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P41に切られる		
16 円形? 75×80	(26)	10YR2/2 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量	P42に切られる			
17 ?	190以上×?	(33)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P43に切る。大部分が削除され外		
18 円形?	100以上×?	?	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK15を切る		
19 ?	?	?	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK16・20に切られる		
20 円形?	75×11	?	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK17を切る。大部分が削除され外		
21 等円形? 85×95	?	?	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK22を切る		
22 等円形? 74×90	?	?	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK21に切られる		
			①10YR2/1 黑褐色土上 ②10YR2/2 黑褐色土上	木炭灰多量			
23 ?	200以上×?	(66)	10YR2/1 黑褐色土上 23Y/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK17・18・21・22・P33・43・46に切られる。大部分が削除され外		

表4 土坑 (SK) 一覧表

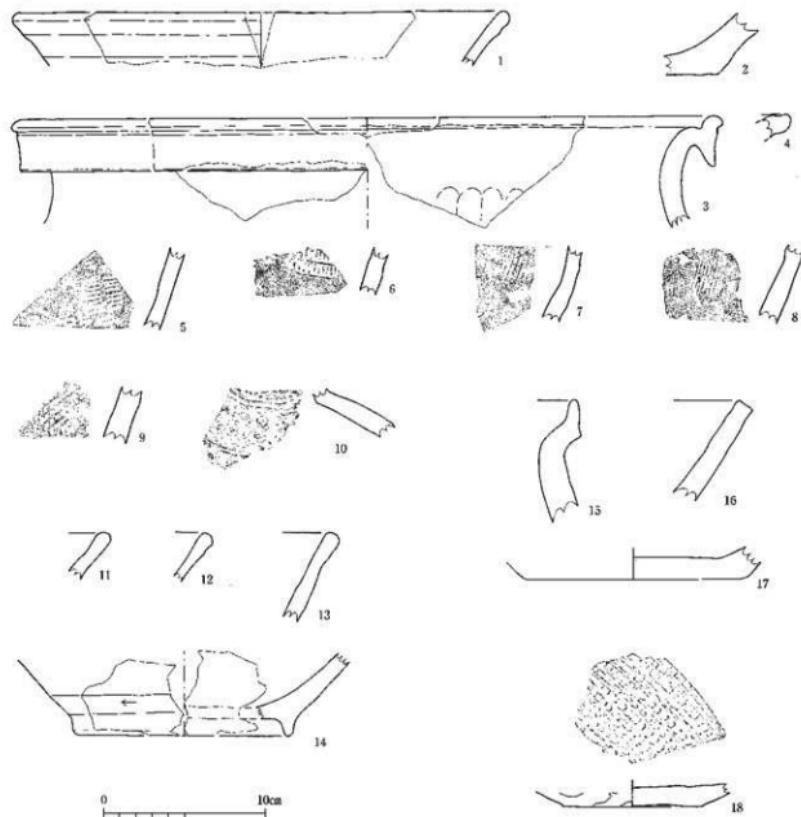
※欠番 SK 4・12・15。単位はcm。深さの()は標高面からの深さ

地名	大きさ	深さ	土	種	人	物	備考
1 円形?	直径22×1	(30)	10YR2/1 黑褐色土上 10YR2/2 黑褐色砂質シルト	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			一部が削除され外
2 等円形?	20×20	(28)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK1を切る		
6 等円形?	13×16	(11)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
7 円形?	12	(1)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
11 等円形?	26×34	(24)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
12 円形?	12	(10)	10YR2/1 五稜形粘土	10YR2/2 暗褐色粘土ブロック少量、木炭灰多量	F13と重複。新開闢地不明。 -般が削除され外		
13 円形?	径 30	(16)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P32と重複。新開闢地不明。 -般が削除され外		
14 円形?	12	(14)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上セリック少量、木炭灰多量			
15 等円形?	28×33	(17)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
16 等円形?	12×16	(13)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
17 方形?	15×18	(11)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
18 等円形?	34×40	(17)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
24 円形?	径 25	(52)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
22 楕円形?	25×40	(26)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P53を切る。		
23 等円形?	22×28	(26)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK11を切る。		
24 楕円形?	22×26	(23)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 暗褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P22を切る。新開闢地不明。		
25 等円形?	直径約 12	(16)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK12を切る。		
27 円形?	26×33	(18)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK13に切られる。		
32 等円形?	直 径 22	(41)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK10を切る。		
36 円形?	22	(22)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK11に切られる。		
37 円形?	24	(34)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P33と重複。新開闢地不明。		
38 円形?	25	(33)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	P27と重複。新開闢地不明。		
39 方形?	20×20	(22)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
40 円形?	15	(20)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
41 等円形?	28×34	(26)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
42 円形?	20	(21)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK16を切る。		
43 円形?	25	(34)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			
44 円形?	32	(34)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK17に切られる。		
45 円形?	26	(22)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK18を切る。		
46 円形?	26	(39)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK20を切る。		
47 円形?	12	(40)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK21を切る。		
49 円形?	21	(36)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK22を切る。		
50 円形?	25	(15)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK23を切る。		
51 楕円形?	30×40	(34)	10YR2/1 黑褐色土上	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量	SK24を切る。		
52 楕円形?	24×32	(17)	10YR2/1 黑褐色土	10YR2/2 黑褐色土上ブロック少量、木炭灰多量			

表5 ピット (P) 一覧表

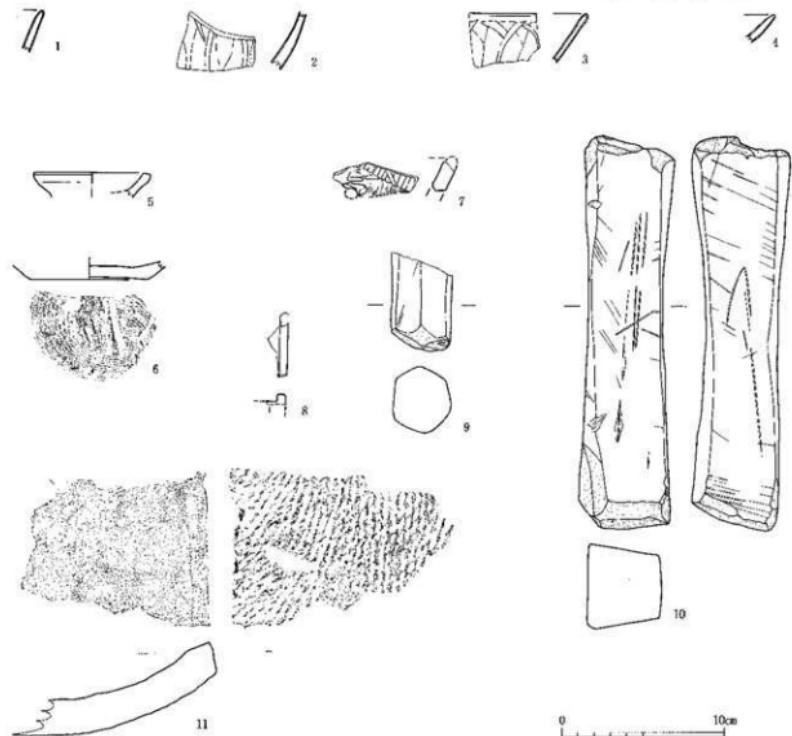
※欠番 P2・3・5・8～10・19・20・26・29～31・33
-35。単位はcm。深さの()は認証面からの深さ

II 洞ノ口遺跡（第6次調査）



No.	器物類別	測定 寸法	種類(产地)	器種	状 態	遺 墓	色 質	測量・特徴	年 代
1	16-1 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	複元口径4.0cm	口端部1.9	内:に赤い赤褐色、外:に赤い赤褐色	内:細胞骨化によるナゲ	13世紀後半	
2	16-2 S骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤い赤褐色	外:骨質により變態、外:細胞骨化によるナゲ		
3	16-3 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	復元口径43.6cm	口端部1.0	内:赤い赤褐色	外:口端部はコナギ、体部ナゲ	13世紀後半	
4	16-4 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤い赤褐色	内:自然無骨化から	12世紀後半	
5	16-5 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:に赤い赤褐色、外:褐色	外:ナゲ、外層に細胞骨化		
6	16-6 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤褐色	外:ナゲ、外層に細胞骨化		
7	16-7 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:に赤い赤褐色、外:に赤い赤褐色	外:ナゲ、外層に細胞骨化		
8	16-8 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤褐色	外:ナゲ、外層に細胞骨化		
9	16-9 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤褐色	外:ナゲ、外層に細胞骨化		
10	16-10 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤褐色	外:ナゲ、外層にヘマチド沈積		
11	16-11 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤褐色	外:口端部1.7によるナゲ、山茶樹脂系		
12	16-12 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤褐色	外:口端部1.7によるナゲ、山茶樹脂系		
13	16-13 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤褐色	外:細胞骨化によるナゲ、山茶樹脂系		
14	16-14 S骨	13.8cm	骨器(骨器) 鮫	復元口径13.8cm	奥部1/8	外:灰色	内:細胞骨化によるナゲ、外:体部山茶樹脂系	13世紀後半	
15	16-15 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:赤褐色、口端部内面判区別	外:ナゲ、山茶樹脂系		
16	16-16 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	?	?	内:褐色	外:口端部1.7によるナゲ、内:細胞骨化によるナゲ、外:細胞骨化によるナゲ	13世紀後半	
17	16-17 S骨	13.2cm	骨器(骨器) 鮫	復元口径13.2cm	奥部1/5	外:灰色	内:使用により着底、外:ナゲ、豆光透底、白苔を被覆含む		
18	16-18 N骨	?	骨器(骨器) 鮫	復元口径6.6cm	奥部1/3	内:灰褐色、外:ロクロ、底面部赤色切り知溝型	内:褐色、外:ロクロ、底面部赤色切り知溝型		

第4図 出土遺物（1）



No.	発見場所	測定	種別(実地)	器種	法	測定	色	測定	特徴	年代
1	16-19 N壁		古縫(鹿島空系) 細	?	LH	8cm	内外:オリーブ黃色			13世紀
2	16-20 N側		青縫(鹿島空系) 細	?	柱脚内		内外:黃色		縫道付文	13世紀
3	16-21 S.K.14		青縫(鹿島空系) 線?	?	LH	8cm	内外:灰オリーブ色		縫道付文	13世紀
4	16-22 S.K.5		白縫(小綱) 細	?	LH	8cm	内外:灰白色		LH	13世紀
5	16-23 F.25		土師質十繩 小丸	椎先口径7.2cm	口幅7.4cm	当:にがい縫、外:褐色			内:ロクロ	
6	16-24 S.K.8		土師質上巻 細	底径 7.2cm 瓶口2/3		内外:にがい縫			内:ロクロ、外:底面に板状の圧痕、同面斜切削調整	
7	16-25 F.25		土師質 細	口径 5.2cm 遂行長 5.2cm	側刃付	-			赤石、穿孔1ヶ所、表面に壓痕時の工具痕	
8	16-26 壁		石質品	直徑 3.9cm 高さ 1.5cm	側刃付	-			點狀器	
9	16-27 S.K.5		石質品	直徑 3.5cm 高さ 1.5cm	瓶口のみ	-			縫道以外の側面を全面使用、132g	
10	16-28 S.K.2		石質品	全高 24.0mm 直徑 3.5cm	変形					
11	16-29 P60		半瓦	?	小片	灰色			内面:青目——溶ナメ、無釉付近ハラケツリ、片面:薄印字	

第5図 出土遺物 (2)

参考文献

- 入間山宣夫・大村直正編1992「よみがえる中世7」平凡社
 仙台市教育委員会1993・1994「洞ノ口遺跡 現地説明会資料」
 仙台市教育委員会1994「洞ノ口遺跡」「平成6年度宮城県遺跡発表会要旨」
 仙台市史編さん委員会1995「仙台市史 特別編2 考古資料」仙台市
 田中則和 1993「仙台市洞の口遺跡の地表跡を追憶」「六軒丁中世史研究 第1号」東北学院大学中世史研究会
 日本福祉大学知多半島総合研究所1994「中世常滑燒をおとて 資料集」
 野崎 卓 1979「中世宮城郡内の若干の考古資料——留守氏関係の遺跡・遺物——」「東北文化研究所紀要10」東北文化研究所

II 洞ノ口遺跡（第6次調査）



写真2 調査前の状況（東より）



写真3 IV層上面の遺構確認状況（東より）



写真4
V層上面の遺構確認状況（東より）

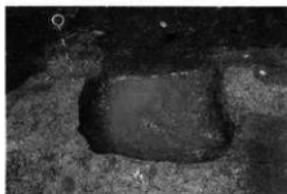


写真5
SK2完堀状況（東より）



写真6
SK3完堀状況（南より）

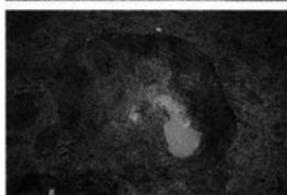


写真7
SK8完堀状況（東より）



写真8
SK14完堀状況（西より）



写真9
SK16完堀状況（東より）



写真10
SK20完堀状況（北より）



写真11 V層上面作業風景（西より）



写真12 西部V層上面遺構完掘状況（南より）



写真13 中央部V層上面遺構完掘状況（南より）



写真14 東部V層上面遺構完掘状況（南より）



写真15 V層上面遺構完掘状況（東より）

II 洞ノ口遺跡（第6次調査）

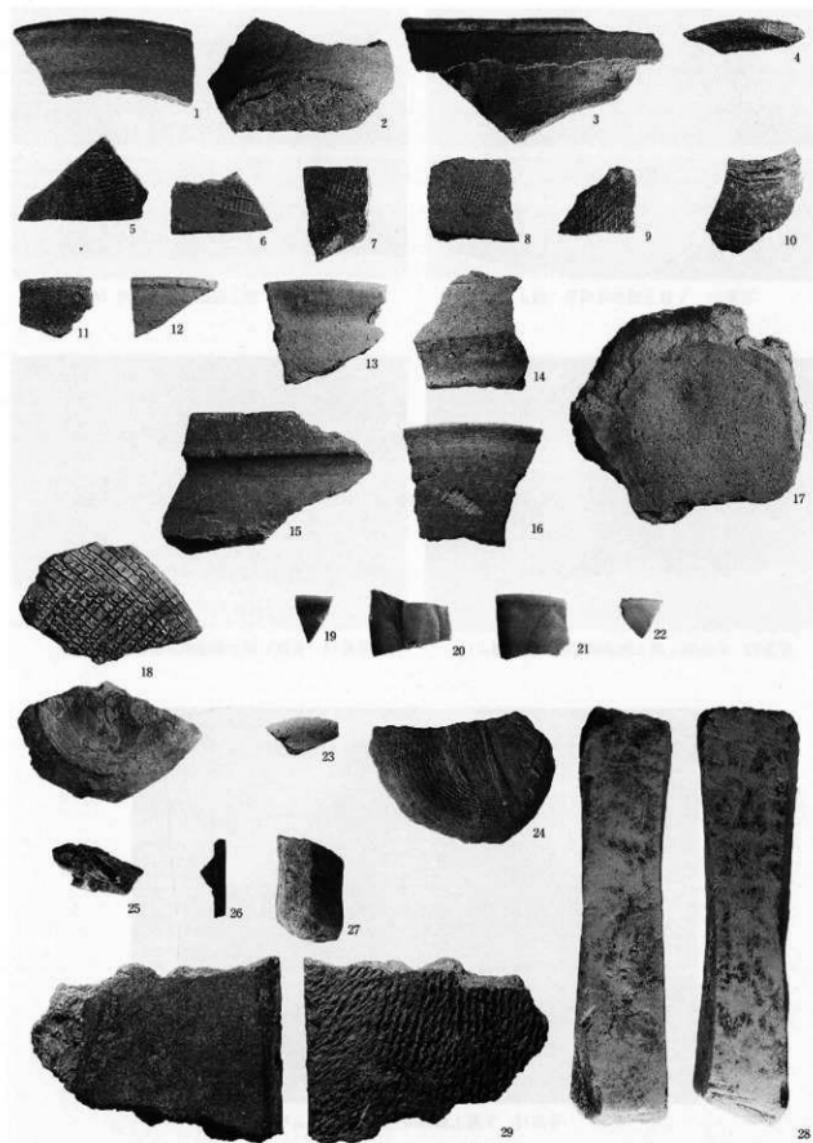


写真16 出土遺物

III 南小泉遺跡

[1] 第33次調査区

1. 調査要項

遺跡名 南小泉遺跡（宮城県遺跡番号012021）

調査地点 仙台市若林区南小泉二丁目40-46・107

調査原因 個人住宅建設

調査対象面積 約110m²

調査面積 約60m²

調査期間 平成12年10月23日～10月27日

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育委員会文化財課

担当職員 吉岡 勝平 根本 光一 渡部 弘美

調査参加者 土屋みどり 伊藤はるよ 小野 栄子

佐藤すみ子 佐藤よし子 峯岸 安好

吉田アキヨ 渡辺 貞子 三浦 陽子

遠藤 清子 芦野ヒデ子 三浦 市子

葛西 郁子

申請者 林田 勝巳

2. 遺跡の環境と位置

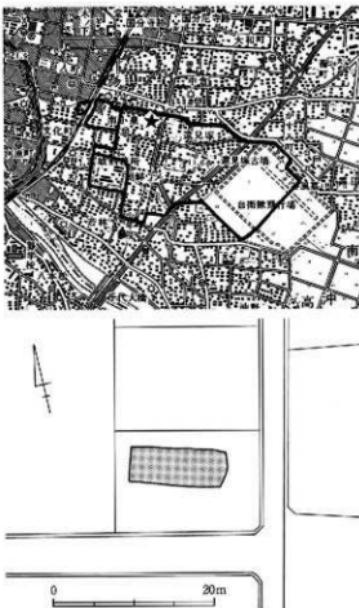
南小泉遺跡は市内東部の若林区南小泉・遠見塚地区に位置する。東流する広瀬川の北岸の自然堤防上に立地する遺跡である。昭和10年代にはその存在が周知されていたが、本格的な調査が開始されたのは昭和50年代に入ってからで今回で33回目を数える。各調査で縄文時代から近世にわたる遺構・遺物が確認されているが、発見された主たる遺構をみると大きく各地域で時代的な違いがみられる。これは中心となる地域が時間的な経緯とともに移動していることに起因しているものと考えられる。今回の調査区は遺跡北西部に位置し、奈良時代の住居跡群が数多く検出されている地域である。

3. 調査の方法と経過

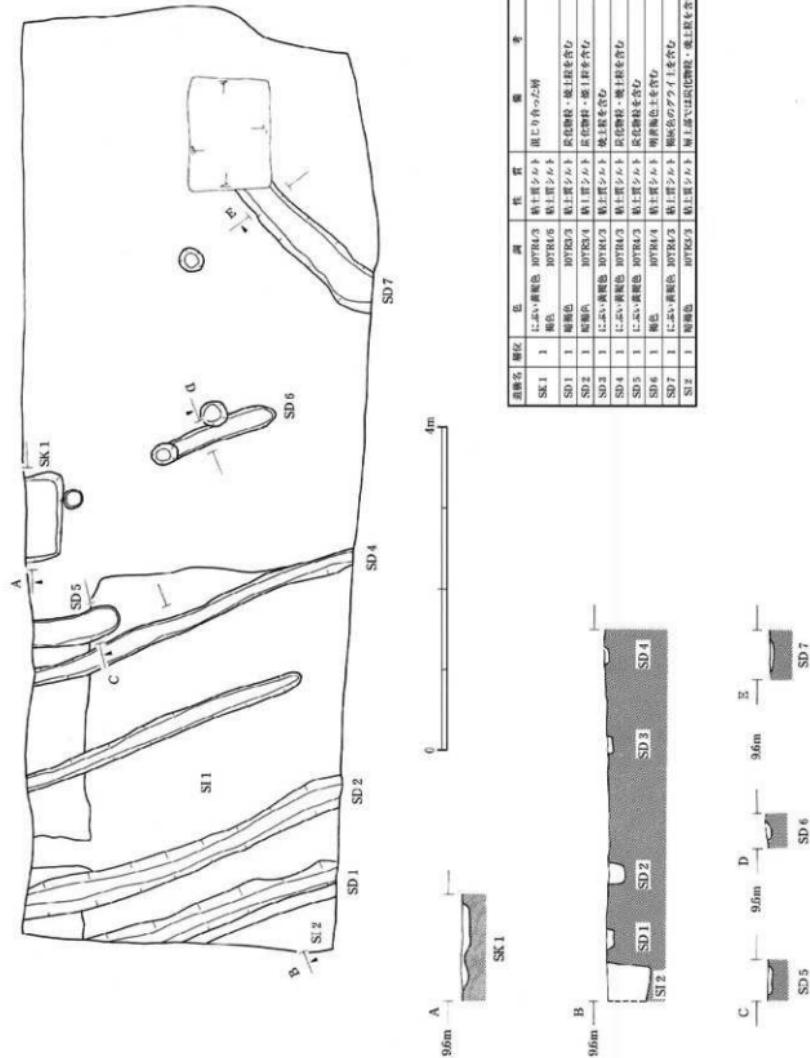
平成12年8月23日付で上記地内において一般住宅建設に伴う発掘届が提出された。基礎構築の段階で地盤改良を行なう方法であったため、建物予定地に12×4mのトレンチを設定し確認調査を実施した。結果、住居跡及び溝跡等が確認され、トレンチ内の遺構に関して調査を実施することになった。

4. 基本層序

I層は住宅構築時の盛土で最大層厚60cmを計る。II層は黒褐色土で旧耕作土と考えられる。層厚は最大で60cmである。III層は粘土質の暗褐色土で層厚は20～30cmを計る。壁面確認であるがSD7が掘り込まれており、溝跡群の確認面となりうる。IV層は粘土質および砂質の褐色土である。今回調査の地山面となる。



第1図 調査地点及び調査区配置



第2図 検出遺構全体図

5. 発見遺構と出土遺物

検出遺構には溝跡7条、竪穴住居跡1軒、堅穴造構1軒、土坑1基、ピット4個がある。遺物は整理箱2箱程で殆どのものは住居跡出土のものである。

(1) 3層面確認遺構

SD1 溝跡 南北方向に直線的に延びる。確認長3.3m、上端幅50cm、下端幅10~15cm、深さ最大で10cmを測る。断面形はゆるい逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層で暗褐色の粘土シルトである。土師器片が出土している。

SD2 溝跡 南北方向に直線的に延びるがやや蛇行気味である。確認長4.1m、上端幅30~50cm、下端幅15~20cm、深さ最大で21cmを測る。断面形はU字形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層で暗褐色の粘土質シルトである。土師器片・須恵器片が出土している。

SD3 溝跡 南北方向に直線的に延びる。確認長3.7m、上端幅18~28cm、下端幅8~16cm、深さ最大で7cmを測る。断面形は浅い逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層でぶい黄褐色の粘土質シルトである。土師器片・須恵器片が出土している。土師器片壊の中にロクロ使用のものがある。

SD4 溝跡 南北方向に直線的に延びるがややゆるく屈曲をみる。確認長4.2m、上端幅17~27cm、下端幅8~20cm、深さ最大で6cmを測る。断面形は浅い逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層でぶい黄褐色の粘土質シルトである。土師器片が出土している。

SD5 溝跡 南北方向にやや屈曲気味に延びる。確認長1.1m、上端幅35~45cm、下端幅25~30cm、深さ最大で5cmを測る。断面形は浅い逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層でぶい黄褐色の粘土質シルトである。土師器片が出土している。

SD6 溝跡 南北方向に直線的に延びる。ピットに切られている。確認長1.3m、上端幅25~30cm、下端幅15~18cm、深さ最大で7cmを測る。断面形は浅い逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層で褐色の粘土質シルトである。遺物はない。

SD7 溝跡 東西方向に直線的に延びる。確認長2.3m、上端幅40~50cm、下端幅26~33cm、深さ最大で9cmを測る。断面形はU字形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層でぶい黄褐色の粘土質シルトである。遺物はない。

(2) 4層面確認遺構

SI1 住居跡 調査区西端に位置し、住居全体の4分の1程の確認である。溝跡・性格不明遺構と重複しておりすべてに切られている。平面形は方形を呈すると考えられ、北辺は45m、東辺は32mまで確認した。北壁にカマドが構築されており柱穴との位置関係から判断して、本来7m四方の規模をもつ住居跡と考えられる。東辺の方向はほぼ真北を向く。堆積土はカマド部・周溝を含めて5層確認した。褐色系の粘土質シルトで自然堆積である。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、残りのよい地点では35cm程を測る。床面はほぼ平坦であるが部分的に凹面もみられる。部分的な残存であったが白色系粘土の貼床も確認されている。周溝は二辺で確認されており全周しているものと判断される。幅は15~20cm程で床面からの深さは15cm程である。ピット類は7個確認したが、位置関係からP1が柱穴と判断される。柱痕跡等は確認されなかつたが深さ最大56cmを測る。その他のピットには柱穴を切るもの、周溝に切られるものもあるが、すべてのピット堆積土に焼土・炭化物・土器片が含まれており、施業穴・ゴミ穴としての性格が考えられる。カマドは住居北壁に設置されている。煙道部は筒状で北側へ延び確認長82cmを測る。幅は35cm程で底面は緩く北側へ傾斜している。燃焼部は油のみの確認である。底面は緩く立ちあがり奥壁で段となり煙道へ続く。底面幅60cm程、奥行き90cmを測る。袖窓部に凝灰岩の切石がみられ、組み石の焼口部が想定される。遺物は床面・周溝・各ピット・堆積土から出土している。種類として土師器(壊・甕)・須恵器(壊・甕)・礫がある。土師器類はすべてロクロ不使用である。

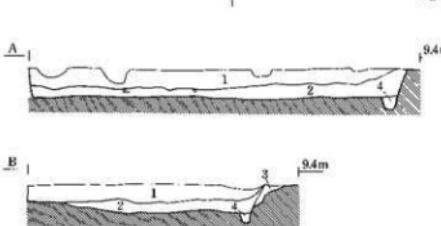
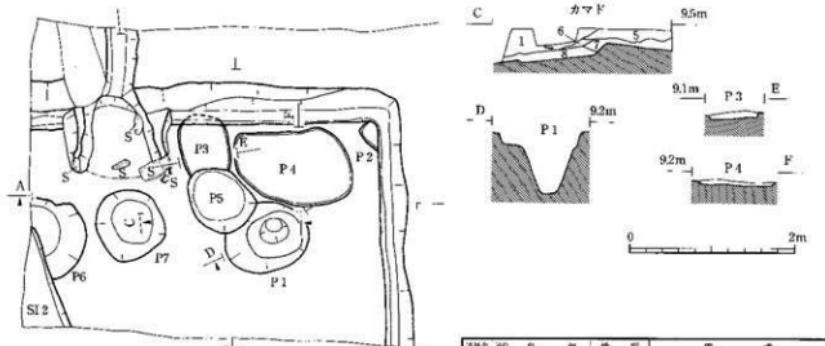
SI2 堅穴造構 調査区南西端に位置する。東壁一部分のみの確認である。壁はきつく立ちあがり、底面は平坦である。施設等が確認されないが炭化物面もみられることから堅穴住居跡の可能性もある。堆積土は暗褐色の粘土質

III 南小泉遺跡（第33次調査）

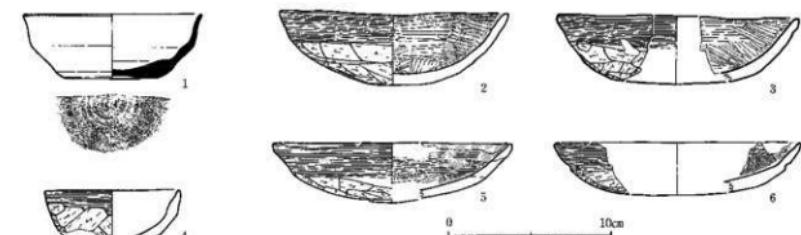
シルトである。自然堆積土と考えられる。遺物には土師器類があるが底面からロクロ不使用の坏が出土している。

SK1 土坑 北壁に掛っており全体形状は不明であるが方形を基調とする。東西輪105cm、南北輪幅認取45cm、深さ最大で10cmを測る。断面形は不整な逆台形で底面は凹凸面となっている。堆積土はにぶい黄褐色と褐色の粘土質シルトの混じった層である。遺物はない。

ピット類 径30cm程のもので深さも30cm弱を測る。組み合わせも不能で性格は不明である。P1・P2から上部器片が出土している。



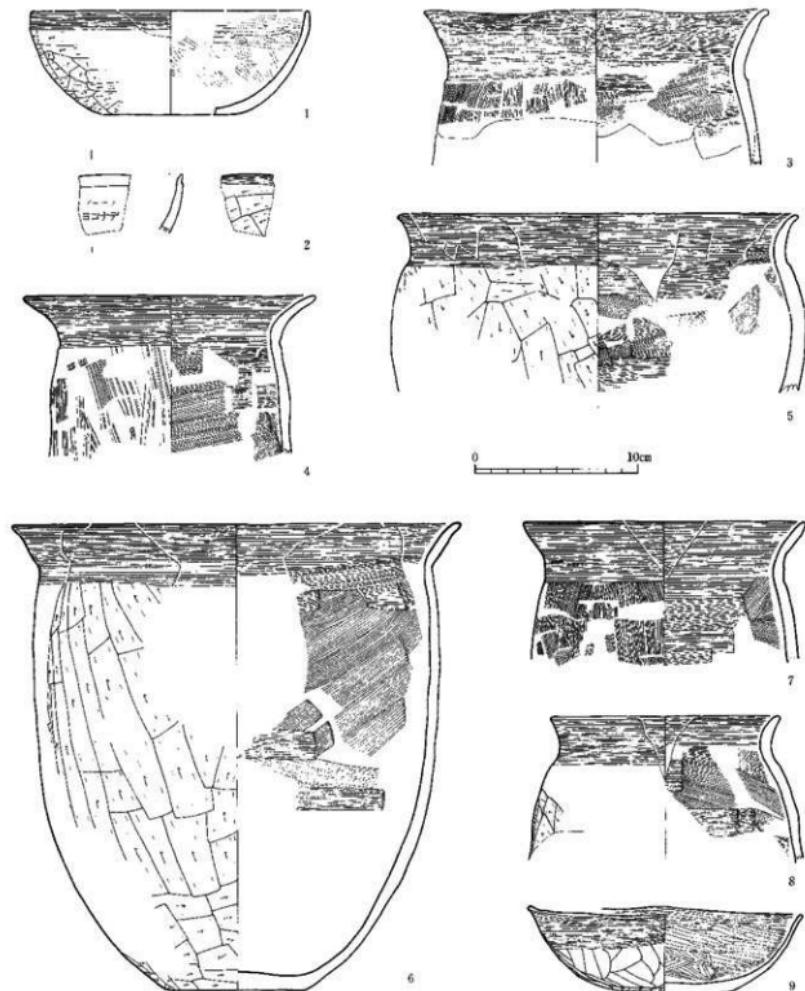
第3図 SI1住居跡全体図



番	施	丸十形跡	底	縁	縁脚	器種	外観	内観	口径	腹径	脚径	残厚	備考
4-1	SI1	底面	底面	片	ロクロ無	ロクロ無	ロクロ無	ロクロ無	110	60	40	1/2	切り離し・同様ヘラ切り
4-2	SI1	底面	底面	片	ロクロ無	ロクロ無	ロクロ無	ロクロ無	141	46	3/4	丸底	外観・辺縁部と体部の境にかたい筋
4-3	SI1	3寸×5 上輪沿	片	L輪沿	ロコナテ	体部・ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(150)	-	-	1/3	丸底・口縁と体部の境にへり状(底での変曲)
4-4	SI1	P4	底面	片	ロクロ無	ロクロ無	ロクロ無	ロクロ無	83	200	36	1/3	平底・再融化
4-5	SI1	底上	上輪沿	片	L輪沿	ロコナテ	体部・ヘラケズリ	ヘラケズリ	144	-	-	1/3	丸底・外観・口縁部と体部の境にかたい筋
4-6	SI1	丸十	十形跡	片	ロクロ無	ロコナテ	ロクロ無	ロクロ無	(132)	-	-	1/4	丸底・外観・辺縁部と体部の境にへり状

第4図 SI1住居跡出土遺物

手元：()は推定



第5図 SI 1住居跡出土遺物2

固・倉	瓦上端	瓦下端	縫隙	外表面	内表面	内面	底	底	底	備考
5-1	SI 1	瓦上	土面器	片	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	ヘラミガタ・同色處理	(170)	(80)	64	1/3 平底、口縫隙: やや内傾
5-2	SI 1	壁上	土面器	片	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	ヨコナダ	-	-	-	赤陶器系土器 瓦片、口縫隙: 程々外反
5-3	SI 1	床直	土面器	片	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハテメ	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	(210)	-	-	西洋式段、口縫隙: 外側向外
5-4	SI 1	カマド	土面器	片	山縫隙: ヨコナダ 体縫: ハテメ	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	(178)	-	-	別部に成、山縫隙: 外反気味
5-5	SI 1	カマド	土面器	片	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	(244)	-	-	腰部に段、口縫隙: 独立気味
5-6	SI 1	カマド	土面器	片	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	(272)	(80)	266	腰部に小穴、口縫隙: 独立気味、基盤に蒙灰の気味
5-7	SI 1	下6	土面器	片	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハテメ	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	(172)	-	-	腰部に段、口縫隙: 外傾気味
5-8	SI 1	壁上	土面器	片	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ハラケズリ	(170)	-	-	11号部: 外傾気味、河濱北
5-9	SI 2	底面	土面器	片	口縫隙: ヨコナダ 体縫: ナダ	ヘラミガタ・同色處理	167	79	53	2/3 口底、内縫隙: 程々内傾、底部: ハラケズリ

6.まとめ

(1)出土遺物について

遺物は住居跡出土のものが大半を占めており、ここでは住居跡出土の土器類に着目し特徴を記す。

土師器壺=すべてロクロ不使用で底と丸底のものがある。底のものは体部が内窵しながらややきつく立ちあがり、口縁部は直立気味・内傾気味・外反気味のものがある。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリないしナデ、内面はヘラミガキ・黒色処理である。小型品が含まれるが全体として大振りである。丸底のものは全体として緩やかな立ち上がりの円弧状の器形である。外面中位に所謂段となる変曲点がみられるが、太めの沈線及び稜となっている。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリで、内面はヘラミガキ・黒色処理のものとヘラミガキのみの二者がある。後者のものは少数であるが他と較べても胎土が木目細かく色調も赤褐色を呈し区別される。再職化も認められず本来ヘラミガキのみの調整であったと判断される。なお、内面が全面ヨコナデ調整となる非在施系の破片資料がある。体部は内窵気味にきつく立ち上がり、口縁部は短くきつく外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリである。

土師器壺=大きさに大小の2種が認められ、頸部有段（段をもつもの・緩い稜となるもの）と無段のものがある。口縁部がくの字に屈曲するものと緩く立ち上がるものがある。調整は口縁部外面ともヨコナデ、体部内面はヘラミナデである。体部外面はハケメないしヘラケズリで破片資料も含めてみるとヘラケズリ調整が主体を占める。

須恵器壺=破片資料を含めて2点の出土である。図示資料は平底で体部下半は外傾気味に立ち上がり中央部に稜をもち口縁部が外反気味となる稜輪形のものである。底部切り離しは回転ヘラ切りで無調整である。

須恵器壺=体部破片資料が少量ある。内外面ともロクロ調整のもの、外面に平行叫き目がみられるものがある。

これらの土器群のなかで土師器類は特徴から土器編年の国分寺下層式に位置づけられるものである。壺・壺の段の形態化、平底壺の組み合わせ等からみて8世紀中頃の年代が考えられる。

(2)溝跡について

7条確認した。これら溝跡のなかでSD1～6は南北方向に延び並行するもので、幅・深さ等を含めるとSD1・3・4・6は一群の溝跡と判断される。これらの溝群は小溝状遺構と称された畠跡に関係するものと考えられ、出土遺物から平安時代頃の時期が考えられる。他も同様の性格をもつものかと思われたが明らかに出来なかった。

(3)土坑について

1基のみの確認である。出土遺物もなく性格・時期等不明である。

(4)住居跡について

SI2も含めると2棟の確認となる。部分的な確認であり詳細は不明であるが、SI1・2とも奈良時代後半の時期が想定される。本調査区の北側での調査（南小泉28次）で同時期の住居跡が数多く確認されており一群のものと判断されるが、一辺7mを超す住居跡は数少なく注意される。



写真1 溝跡・土坑・ピット掘り上げ状況（西より）



写真2 SD 2溝跡断面（南より）



写真3 SD 3溝跡断面（南より）



写真4 SI 1住居跡検出状況（西より）



写真5 SI 1住居跡ベルト断面状況（南より）



写真6 SI 1住居跡カマド精査状況（南より）



写真7 SI 1住居跡床面検出状況（南より）

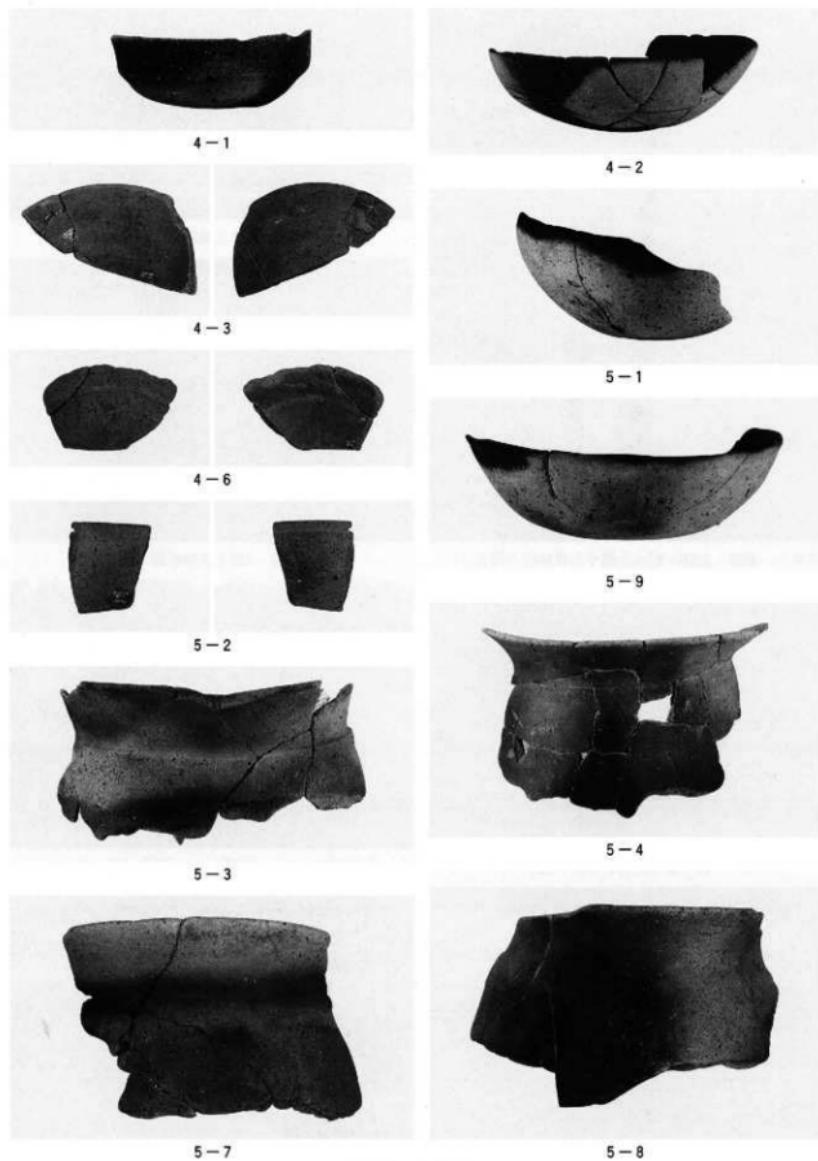


写真8 出土遺物

[2] 第34次調査

1. 調査要項

遺跡名	南小泉遺跡（宮城県遺跡番号012021）		
調査地点	仙台市若林区遠見塚一丁目220、222地内		
調査原因	R C 共同住宅建設工事		
調査対象面積	約177m ²		
調査面積	約123m ²		
調査期間	試掘：平成12年10月5・6日 本調査：平成12年11月6日～11月15日		
調査主体	仙台市教育委員会		
調査担当	仙台市教育委員会文化財課		
担当職員	試掘：古岡恭平 佐藤淳 本調査：渡部弘美 加藤徳明		
調査参加者	土屋みどり	伊藤はるよ	小野 栄子
	佐藤すみ子	佐藤よし子	峯岸 安好
	吉田アキヨ	渡辺 貞子	三浦 陽子
	遠藤 清子	芦野ヒデ子	三浦 市子
	葛西 郁子		
申請者	沼田千代志		

2. 遺跡の位置と環境

南小泉遺跡は若林区南小泉・遠見塚地区に位置する。広瀬川北岸の自然堤防上に広がる縄文時代から近世にわたる複合遺跡

である。今までに三十数の調査が実施されているが、大きく各地域で主たる構造にまとまりがみられ、遺跡内の時代的な移り変わりによる変遷がみられる。今回の調査区は遺跡中央部に位置し、中近世の屋敷跡が数多く確認されている地点にあたる。

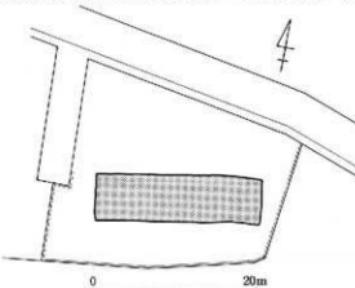
3. 調査の方法と経過

平成12年10月に上記地内の共同住宅建設に係る申請が提出された。当該地近接地において中近世の屋敷跡等が確認されており試掘を行い状況を確認することとした。結果、2条の溝跡が確認されたため申請者と協議を行い記録保存としての本調査を実施することとなり、同年10月31日付で発掘届が提出された。調査は建物予定地内に21×6.5mのトレンチを設定した。実質8日間の調査であった。

4. 発見構造と出土遺物

溝跡2条の検出である。遺物は整理箱で1箱である。基本層は3層確認した。I層は農園時の盛土で40～50cmの厚さ、II層は水田及び畑の旧耕作土で25～30cmの厚さを計る。III層は褐色および黄褐色の砂質シルトで今回調査の遺構確認面となる。

SD 1 溝跡 北側部のみの部分的な確認であるが東西方向に直線的に延びる。SD 2 を切っている。上端ラインが

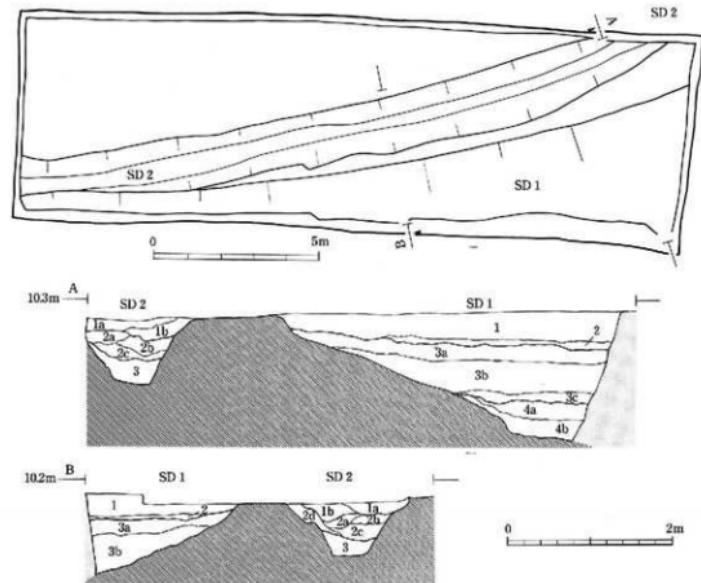


第1図 調査地点及び調査区配置

III 南小泉遺跡（第34次調査）

北側へやや屈曲をみるが北辺の確認長は20.6mを測る。底面は南東部のみでの確認であるが、かるい凹凸面で南側へ緩く傾斜している。壁面は20~30度の傾斜面で緩い立ち上がりである。断面形は緩く口のひらく逆台形を呈すると考えられる。残存部から判断して上幅は10mを超えるものと思われる。堆積土は大別で3層確認した。自然堆積である。全体的に砂質で下部につれて砂層となる。下部はグライ化している。遺物は各層から各種（土師器・須恵器・陶器・磁器・土師質土器・瓦・トリベ・鉄滓・砥石・礫・石器・繩文土器・骨等）・各時代のものが混在して出土している。各層の中で時期的に下るものに着目すると、1層では肥前の伝飯具・皿・志野の菊皿、3層では常滑の甕・岸窯の擂鉢、4層では龍泉窯系の青磁碗がある。

SD 2 溝跡 調査区西側でSD 1と重複するが、ほぼ並行し東西方向に延びている。確認長20m、上端幅1.6~1.9m、下端幅40~70cm、深さ最大で80cmを測る。底面はほぼ平坦で東西間の底面高に違いはない。断面形は逆台形を呈する。堆積土は大別で3層確認した。褐色系の砂質シルト層で最下層は砂層である。自然堆積である。遺物は土師器・須恵器のみの出土である。土師器は細片で器種不明であるが須恵器には壊・高台付壊・甕がある。



第2図 検出遺構全体図

5.まとめ

発見遺構は2条の溝跡にとどまる。SD 1は上幅10mを超す、大形の堀跡と考えられた。部分的な確認で出土遺物も少なく詳細は明らかでないが、各層の出土遺物から判断して中世~近世初頭頃まで機能していたものと考えら

遺構名	部位	色	調	性	質	施	考	遺構名	部位	色	調	性	質	施	考
SD 1	1	褐灰黄色	2.5Y4/2	シルト	やや粘張	1層以下酸化鉄を含む		1 a	褐灰黄色	2.5Y4/2	シルト	明黄褐色を小ブロックを含む	1層以下酸化鉄を含む		
	2	浅灰色	2.5Y7/4	シルト		黄灰色土を含む		1 b	オリーブ褐色	2.5Y4/3	砂質シルト	明黄褐色土小ブロックを点的に含む			
	3 a	褐灰黄色	2.5Y5/2	砂質シルト	やや粘張	2層以上: 黒褐色土を含む		2 a	オリーブ褐色	2.5Y4/4	砂質シルト				
	3 c	褐灰黄色	2.5Y5/2	砂質シルト	やや粘張	2層以上: 黒褐色土を含む		2 b	オリーブ褐色	2.5Y4/4	砂質シルト	2a層に較めて黄褐色土を多く含む			
	4 a	オリーブ褐色	2.5Y4/3	砂	堅密な土	2層以上: 黒褐色土を含む		2 c	オリーブ褐色	2.5Y4/6	砂質シルト	2 a, 2 b 層に比較的多く含む			
	4 b	褐色	2.5Y4/3	砂	堅密な土	2層以上: 黒褐色土を含む		2 d	褐灰黄色	2.5Y4/2	シルト	やや砂質			
	5 b	褐灰黄色	2.5Y4/2	砂	堅密な土	2層以上には黄褐色土との互換性がある		3	褐色	10YR4/6	砂	粗粒	褐灰黄色土を主体に含む		

れる。当地域周辺では同時期頃の屋敷跡が点在しており一群の性格をもつものとも考えられるが、規模の点からみても大形であり、性格も含めて今後の解明が期待される。SD 2 の堆積土からは土器器・須恵器のみが出土しており大きく平安時代の遺構と判断される。性格については部分的な確認でもあり不明である。



図・番	出土遺物	地盤・層	検出	種類	備考	図・番	出土遺物	地盤・層	検出	種類	備考
3-1	SD 1	堆土	土器片一部	瓦	0.7m	3-8	SD 1	3層	陶器	柱	直角柱上に「吉田御内裏」を記した印形 12c 中世
3-2	SD 1	堆土	陶器	表?	13c 楕手	3-9	SD 1	3層	陶土器	直	丸頭 大斜人? 広口の燈?
3-3	SD 1	1号	破器	直	17c	3-10	SD 1	3層	石製品	不明	形状不明、裏面に彫られた文字が3箇所ある。裏面に細かい溝がある。
3-4	SD 1	1号	陶器	直	13c 片	3-11	SD 1	4層	骨器	直	圓筒状直、片切端、鋸介刃 12c~13c
3-5	SD 1	1号	須恵器	丸	13c 瓦	3-12	SD 2	尾土	須恵器	丸	口縁部片
3-6	SD 1	古瓦	瓦	13c	長さ: 30cm 厚: 25mm 最大厚: 10mm 全面使用	3-13	SD 2	4層	須恵器	丸	瓦端片 長さ: 13mm 外側側面: 平打印・ハラキアリ
3-7	SD 1	3号	石製品	塊石	長さ: 30mm 厚: 25mm 最大厚: 10mm 全面使用						

第三圖 出土遺物

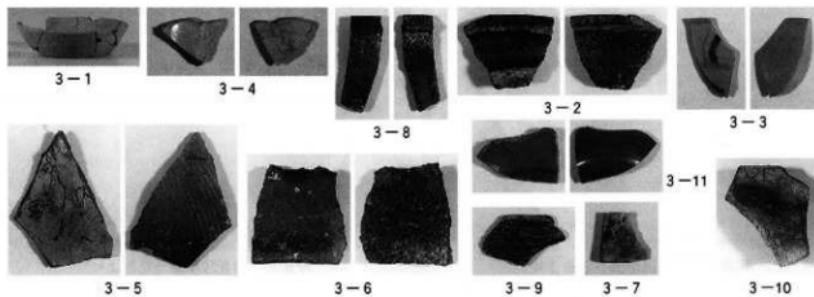


写真1 出土遺物



写真2 溝跡検出状況（北西より）



写真3 SD 1 溝跡掘り上げ状況（西より）



写真4 SD 1 溝跡断面（東より）



写真5 SD 2 溝跡断面（東より）



写真6 溝跡重複断面状況（東より）



写真7 溝跡断面状況（東より）



写真8 調査区全景（北東より）



写真9 調査区全景（北西より）

IV 大原一里塚

1. 調査要項

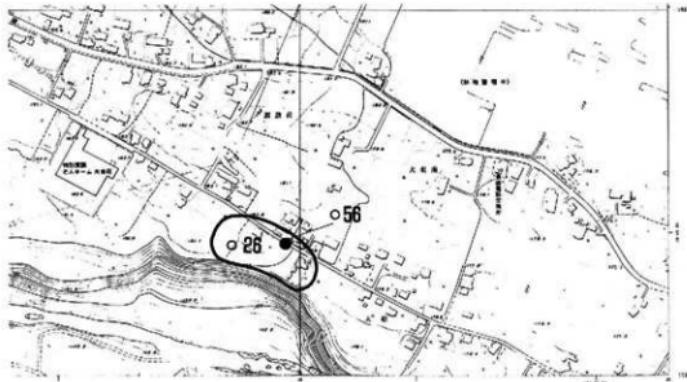
遺跡名 大原一里塚（宮城県遺跡番号16056）
 調査地 仙台市太白区秋保町長袋字清水久保114地先外
 調査原因 市道大原野中線改良工事
 調査対象面積 150m²
 調査面積 44m²
 調査期間 平成12年7月3日～平成12年7月5日
 調査主体 仙台市教育委員会
 調査担当 仙台市教育委員会文化財課
 担当職員 吉岡恭平 渡部 紀
 調査参加者 浅見禮子 斎藤慶子 菅井清子 渡辺洋子
 申請者 仙台市長
 調査協力 太白区秋保総合支所建設課

2. 遺跡の位置と環境

大原一里塚は、秋保町長袋地区の名取川北岸の河岸段丘上にある。県道仙台山寺線の南側を併行して走る細い道路沿いにあり、秋保総合支所から西へ約700mの地点に位置する。塚は道の両側に約4m離れて存在し、南の塚は高さ約70cm程のマウンド状になっているが、北の塚は民家の庭先の一部を占有するような状態になっている。北の塚は市有地となっており、一里塚の標柱が立っている。

3. 調査の方法と経過

市道大原野中線改良工事による道路拡幅のため大原一里塚に影響が及ぶこととなり、迂回できぬかの検討を重ねた。しかし、用地買収や既存住宅との位置関係などから南北両塚の迂回は困難となり、協議の結果北の塚を保存し、南の塚を調査することになった。発掘通知は平成12年4月20日に提出されている。



第1図 調査地点 (56: 大原一里塚、26: 青木遺跡)

また、周辺は青木遺跡にあたることから、確認調査も併せて実施した。なお、市道大原野中線改良工事は平成9年度から開始され、平成9年度は、大原遺跡において確認調査を実施し、遺構遺物は検出されていない。

塚はすでに頂部南側を幅約50cmで東西に横断するように溝状の削平を受けている。調査区はその削平部分を利用し、塚を東西に横断する1.5×7mの第1トレンチと、塚の西側に1.5×6mの第2トレンチを設定した。塚部は東西断面を終了後、北側へ拡張している。

4. 基本層序

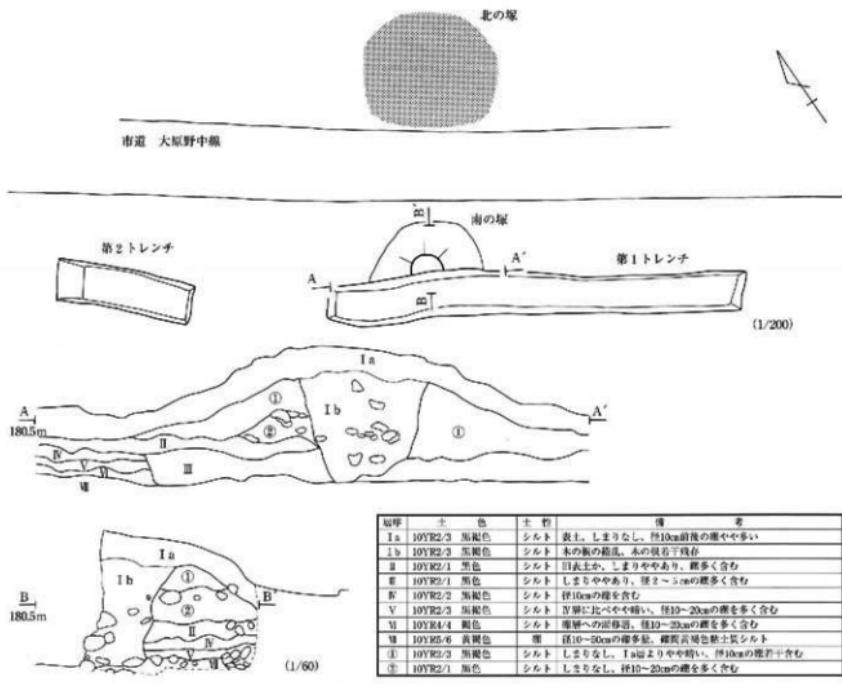
基本層は7層確認されている。礫層までおおむね黒色系の礫を含むシルト層である。

I層は、Ia層とIb層に細分される。Ia層は、塚部および現地表面の表土である。黒褐色シルトでしまりなく、径10cm前後の礫がやや多い。層厚は30~40cmである。Ib層は、塚頂部に生育していた木の根の攪乱部分で礫層まで達している。木の根が若干残存し、しまりなくボサボサしている。下部に礫が多い。

II層は、塚積み土の下部にのびており、旧表土と考えられる。黒色シルトでややしまり、礫をやや含む。層厚15~20cmである。

III層は、IV~VI層を切るように落ち込むが東側での立ち上がりがなく、耕作等の深度による影響と考えられる。黒褐色シルトでややしまり、径2~5cmの礫を多く含む。層厚は20~40cmである。

IV層は、暗褐色シルトである。径10cmの礫を含む。層厚は10~20cmである。



第2図 平面図・断面図

V層は、黒褐色シルトで、IV層に比べ、やや暗い。径10~20cmの礫を多く含む。層厚は5~15cmである。
 VI層は、褐色シルトで、礫層への漸移層。径10~20cmの礫を多く含む。層厚は5~20cmである。
 VII層は、礫層で径10~50cmの礫からなり、礫間には黄褐色粘土質シルトがある。

5. 調査成果

南の塚は、南北約3.5m東西4.5mの円形で、高さは70~80cmである。頂部南側を東西方向に幅約50cmで溝状に削平を受けていた。表土のIa・Ib層を含め塚を構成する層は4層である。①層は黒褐色シルトで径10cmの礫を若干含む。②層は黒色シルトで径10~20cmの礫を多く含む。ともに地山ブロックを含まず、しまりのない土層である。Ib層下部と②には礫が多く見られ、塚の中央下部にやや集中している観がある。ほかに積み土の順序やつき固めたような痕跡、掘りこみなど構築法を示すものは認められなかった。また、出土遺物もない。

以上のような状況から構築法を推定してみると、礫層まで掘り込むことなく黒色土と層中に含まれる礫を集め、旧表土上にまず礫をいくらか積み上げ、その上に強固につき固めることもなく黒色土を盛ったということになる。しかし、塚の構成土にしまりがないのは、頂部中央の木の根による擾乱あるいはその抜根などの影響による可能性も考えられる。

第1トレーニチ、第2トレーニチの他の箇所でも遺構遺物は全く発見されなかった。

6.まとめ

今回の調査では出土遺物がなく、大原一里塚の築造年代を遺物等から推定することは困難である。

秋保町史（秋保町1976）によれば、この一里塚のある道路は、「もともとは秋保氏が諏訪神社へ参詣に来るための道路として設けられたもので、（中略）二口峠を越えて山形方面に行く道は、殆んどこの道を用いて運ばれていたという。」ものである。秋保氏の居城であった長柄城の入口から西の馬場の集落までの約3kmのほぼ中間に塚は位置している。「高さ〇・五メートルで直径約五メートルの円型をなし、かなり河原石を混入する。」とあり、礫がかなりあったことが想定されるが、今回の調査結果をみると、構築後の崩壊や修復、削平など後世手が加えられた可能性を考えられる。さらに町史によれば、「齊ては、この上に一本杉（南側）と桜（北側）が生えていた」という。塚中央で確認された木の根による擾乱はその一本杉によるものかもしれない。北の塚には現在も桜が生えている。

参考文献

秋保町1976 「秋保町史 本編」



写真1 南の塚（北より）



写真2 南の塚（西より）



写真3 南北の塚（南の塚が削られている。東より）



写真4 北の塚（南より）



写真5 東西断面



写真6 南北断面



写真7 調査区北へ拡張（東より）



写真8 第1トレンチ全景（東より）



写真9 第2トレンチ全景（東より）



写真10 調査風景（西より）

V 山田条里遺跡（第6次調査）

1. 調査要項

遺跡名 山田条里遺跡（宮城県遺跡番号01367）
 調査名 山田条里遺跡第6次調査
 調査地 仙台市太白区山田字田中前53-1
 調査理由 ガソリンスタンド建設
 原因者 伊藤惣十郎
 調査主体 仙台市教育委員会
 調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課調査第二係
 担当職員 佐藤 浩
 調査面積 100m²（敷地面積：2433m²・調査対象面積：340m²）
 調査期間 平成12年9月13日～10月2日
 調査参加者 井筒 孝子 伊藤 幸子 植野美登子 小田嶋祥子 莉地あき子 清水 直子
 閑谷 栄子 日野きみ子
 整理参加者 閑谷 栄子 米沢 俊子
 調査協力 株式会社東北エンジニアリング

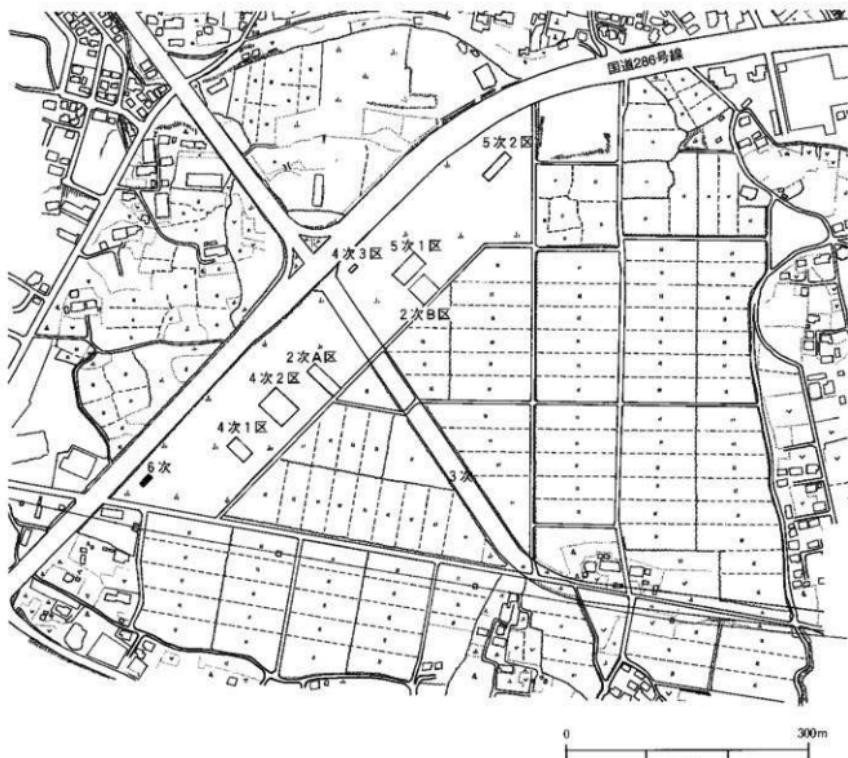
2. 遺跡の位置と環境

山田条里遺跡は仙台市街地の南西部、JR長町駅の西方約4kmの地点にあり、太白区山田及び鈎取地区に所在している。遺跡の範囲は東西・南北共に約900mに及び、仙台市内でも有数の広さを誇る遺跡となっている。

遺跡の北側には標高約200mの青葉山丘陵が東西に延び、南側には奥羽山脈より東流する名取川を挟んで高鈎丘陵が位置している。遺跡はこれら丘陵間に流れる名取川により形成された平坦な河岸段丘上に位置し、さらにこの地区は青葉山丘陵より名取川に注ぐ小河川による堆積作用で扇状地形となっていることから、遺跡の西側と東側では堆積土層に違いが認められる。遺跡内の標高差は約8mである。現在、遺跡の現況はそのほとんどが平成元年から行われた農業整備事業により新しく区画された水田となっているが、かつてこの地区は仙台市内で唯一、東西・南北方向の畦畔や水路により整然と区画された古代から続くとみられる条里型土地割が残る地区であった。

周辺の遺跡を概観してみると、北西側の丘陵上には縄文時代中期の大規模な集落跡である山田上ノ台遺跡や早期の堅穴住居跡が発見された北前遺跡などがあり、これらの遺跡ではさらに下層から前期及び後期旧石器時代の石器が多数出土している。東側の小高い段丘上には上野遺跡があり、ここでもまた縄文時代中期の土器が多量出土している。また本遺跡と名取川に挟まれた低位段丘上には船渡前遺跡があり、ここではかつて弥生時代中期の土器が出土した他、近年の調査では近世の建物跡や水路跡などが発見されている。

本遺跡の調査は平成元年より行われている。第1次調査では基盤整備により改変され、消滅する条里型土地割を測量により記録保存した他、調査では近世～近代と平安時代の水田跡を複数か所で確認し、また遺跡のはば中央部において周囲に堀を巡らした近世から近代にかけての屋敷跡が多量の陶磁器と共に発見している。それ以降の調査においても、同時期の水田跡の水田跡が数地点で検出されており、これらは本遺跡の条里型土地割がいつの時代まで通り、その形態などを検討する上で貴重な発見となった。またこの他にも縄文時代の落とし穴が発見されるなど、遺跡は狩猟、生産、そして生活と、各時代を通じ、人間の営みの場であったことがわかった。



第1図 調査区位置図

3. 調査に至る経緯と調査方法

本報告書は仙台市太白区山田字竹の内前17 伊藤惣十郎氏より平成12年6月30日付けで提出された、仙台市太白区山田字田中前53-1におけるガソリンスタンド建設工事に関する発掘届に基づいた調査をまとめたものである。

申請者との協議の結果、調査は敷地内に建設される地下タンク埋設部分と建物部分を合わせた約340m²を対象とし、キャノピー部分については設計上、地下構造を傷めないとからこれを除外した。しかしながら、建物部分は遺跡内で実施されている土地区画整理事業の工事用車輛の道路となっており、この部分については実際調査は難しいとの判断から、最終的な調査区の設定は地下タンク部分を中心に、南側のキャノピー部分に一部拡張する形で実施している。

調査地には盛土が厚さ1.5~2 mもあることから、まず重機により25×10mの範囲の盛土と現代の水田耕作土を除去した後に、15×6.5mの調査区を設定し、これ以後は手掘りにより進めた。また遺跡の性格上、断面観察を先行するために、調査区北西端に側溝を設けた。調査ではIV層上面での溝跡、V層の疊瓦とみられるものを検出しているが、これらの図化にあたっては、調査区周囲に設定した任意の座標により行い、後日、土地区画整理事業内の2

級基準点から標高及び国土座標数値を設定している。

また調査の最終日には調査区北西端の土層断面図を作成すると共に、同壁面の2地点よりプラントオバールのための分析試料を採取し、調査を終了した。

4. 基本層序

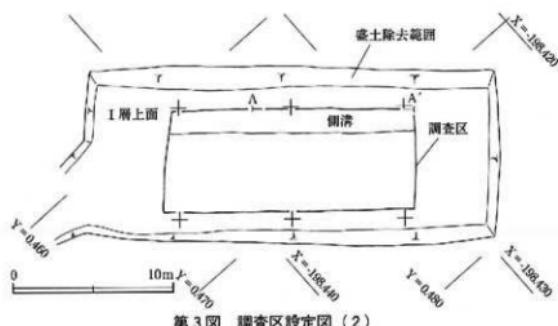
断面観察の結果、調査区内において大別9層、細別12層を確認した。

I層は盛土直下層であり、土地区画整理前の現代の水田耕作土である。II層は2か所で下面に段差が見られ、北側では層厚が2~10cmであるのに対し、西側では30cmもあるなど、北側の区画が標高の高い水田の耕作土とみられる。III層はII層による耕作を免れた北東側のみに残存し、厚い箇所では上半部において機械の程度が高いとみられる水田作土の可能性のある層である。IV層は北東側でありと

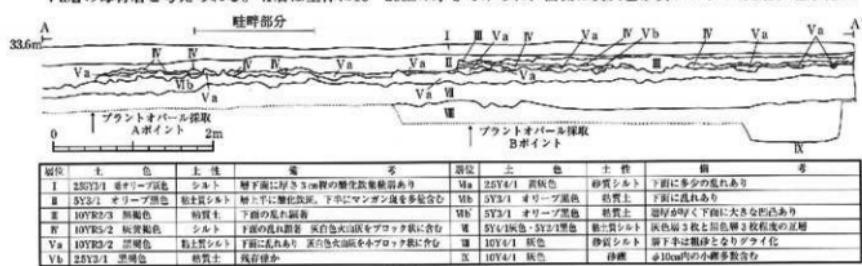
層状に残存するが、中央部では断続的となり、II層の深度の深い西側では見られない。灰白色火山灰をブロック状に含み、水田作土の可能性が高いとみられる。Va層は西側を除き、3~10cmの層厚で、やはり層中には灰白色火山灰をブロック状に含んでいる。水田作土と考えられる。Vb層は北東部のみに断続的にみられる自然堆積層で、Va層の母材層と考えられる。VI層は全体に10~20cmの厚さでみられ、西側は黄灰色砂質シルトのVib層、北東側は



第2図 調査区設定図(1)



第3図 調査区設定図(2)



第4図 基本層序

オリーブ黒色粘質土のⅥa層と違いが見られる。層自体は北から南に僅かに傾斜している。Ⅵb'層は西端部において断面で確認され、Ⅵb層を切り、層厚があり、下面には大きな起伏がみられる。Ⅶ層以下については明瞭な自然堆積層となり、Ⅷ層が粘土質シルトの互層であるのが、徐々に砂質層となり、Ⅹ層では径が10cm程度の円錐層となっている。

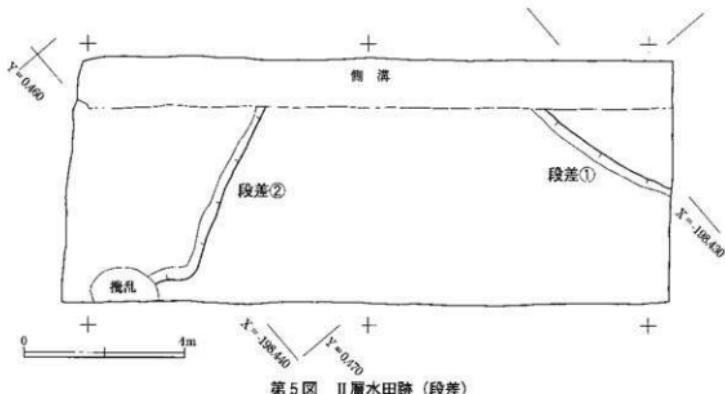
以上のように、調査区内においては現代の水田作土より下30~40cm程度までが水田耕作などにより人為的に擾拌された可能性のある層で、それより下層は段丘形成後に本流、あるいは小河川により堆積した砂や小砾を主体とした自然堆積物であることがわかった。

5. 発見遺構と出土遺物

(1) Ⅱ層水田跡

Ⅱ層上面において畦畔などは検出されなかつたが、Ⅱ層を除去したところ、下層上面において2つの段差により3つの平坦面が形成されているのが確認された。これは本米Ⅱ層上面にあった畦畔直下に形成された段差と考えられる。段差①は東偏70°で、多少弧状ではあるが、ほぼ東西方向の段で、標高の高い北側と中央を区画している。段差はやや急な立ち上がりで、高さは12cm程度ある。段差②は西偏25°とやや偏る南北方向の段差ではあるが、段差①とは直角関係をもつものとみられ、これにより中央と標高の低い西側を区画している。立ち上がりは緩やかで、段差①に比べやや高い。北側と西側の面との比高差は約35cmである。

各々の面の状況は断面からもわかるようにⅡ層下面の起伏が著しいことから凹凸があり、また2つの段差下側には幅をもってⅡ層が落込む傾向が見られる。さらに段差②の上側際の一部に基本層Ⅴ層が他に比べやや多く残存する部分が認められたが、これについてはかつての畦畔直下に位置することから、擬似畦畔状に残存したもの可能性がある。現在の水田区画との関係をみると、段差②は南側に溝接する南北方向の現在の畦畔のはば延長方向に位置しており、Ⅱ層による段差と現在の畦畔との関係が問われるところである。Ⅱ層中からの遺物の出土は無かった。



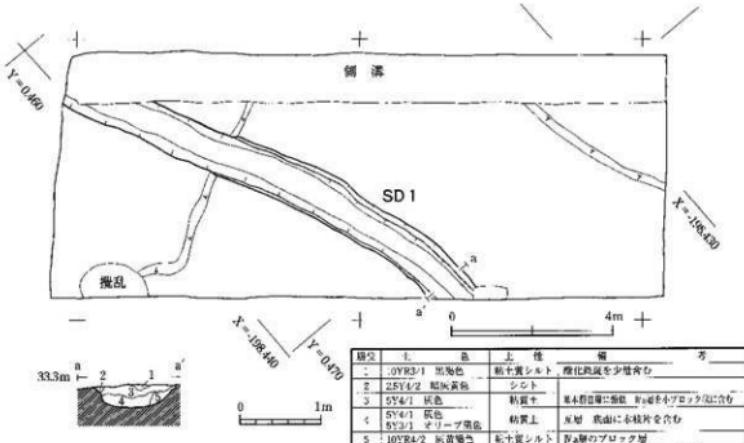
第5図 Ⅱ層水田跡（段差）

(2) Ⅳ層上面

SD 1 溝跡

調査区を縦断する形で検出された。確認長は11mである。溝方向は真北より東へ65°偏っており、東端部ではやや南に曲がっている。幅は1m前後で一定しており、深さは30cm程度である。底面は緩やかな舟底状で、壁面下半

はやや急であるが、途中稜線を境に上端部分は緩やかに立ち上がっている。堆積土は5層確認されたが、大部分を占めるのは3・4層である。3層は灰色粘質土で、基本層Ⅲ層に類似することから、溝跡はⅢ層堆積後に掘り込まれ、堆積上3層は水田作土の可能性のあるⅣ層が崩れ、溝内に流入したものと考えられる。Ⅲ層の遺存状況が良ければ、Ⅲ層上面で確認される溝跡であったと考えられる。またⅣ層は粘質土の瓦層で、底面近くには幾つかの木枝が見られた。これらの状況からみて、溝跡は水利のためのものと考えられ、畦畔などの検出は無かったが、Ⅲ層による水田に伴った水路跡であったと考えられる。溝跡内からの遺物の出土は無かった。



第6図 SD1 溝跡

(3) Va層水田跡

Va層上面での検査では不明瞭であったが、Va層を多少掘り下げたところ、下層のVib層が帶状に延びるのが確認された。後述のプラントオパール分析の結果を参考にすると、Vib層は水田作土として可能性が低いことから、この畦畔状遺構はVa層水田によるVI層での擬似畦畔であるものと考えられる。

【耕作土の状況】

耕作土はVa層で、黒褐色の粘土質シルトである。一部に灰白色火山灰をブロック状に含み、下面には起伏が見られる。層厚は西側ではⅡ層により尖われているが、北側、中央では厚いところでも8cm程度で、やはりⅣ層による搅拌で尖われている箇所がある。層上にはⅡ・Ⅲ・Ⅳ層が堆積し、水田耕作」とみられるこれらの層により、上面は下面同様起伏が著しい。

【畦畔の状況】

上層のⅡ層が耕作土のため、Va層上面に僅かにみられた高低差についてはⅡ層による擬似畦畔Bである可能性があることから、水田跡との認定はVib層上面が畦畔状に高まる擬似畦畔として確認した。またVI層は畦畔を含め、それより西側のVib層と東側のVa層に分層したが、これについてはVa層以上の層が何かしら下層へ影響したものと考えられる。さらにVI層においても上面が僅かに高まることが確認されたが、一部のみで、この層は自然堆積層であり、Vib層のプラントオパール分析結果から見ると、自然の起伏であったものと見られる。

畦畔状プランは東北より西に23°傾り、Ⅱ層による段差とはほぼ平行関係にあり、おおむね南北方向のものと見られる。高まりは上端幅35~50cm、下端幅55~70cm、高さは5cm程度のものであるが、本来の畦畔はより幅と高さを

V 山田条里遺跡（第6次調査）

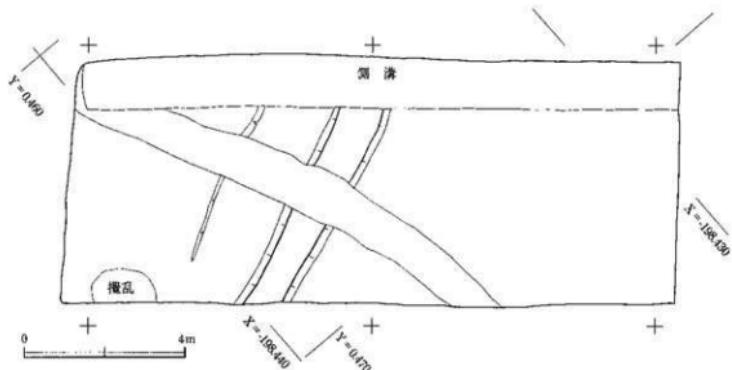
もっていたと考えられる。高まりは東側については断面からみてもわりと明瞭であるのに対し、西側は不明瞭である。プランの方向性からみて、II層水田に伴う畦畔についてはこのVa層水田跡の畦畔を意識した上で配置されたものと考えられる。

【面の状況】

耕作土下面にあたるVI層上面の状況をみると、畦畔より東側は全体に平坦面であるが、畦畔近くがやや低くなる傾向があり、これは畦畔土の積み上げに関係するものとみられる。西側については多くがII層により失われることから不明である。

【出土遺物】

Va層中からの遺物の出土は無かった。

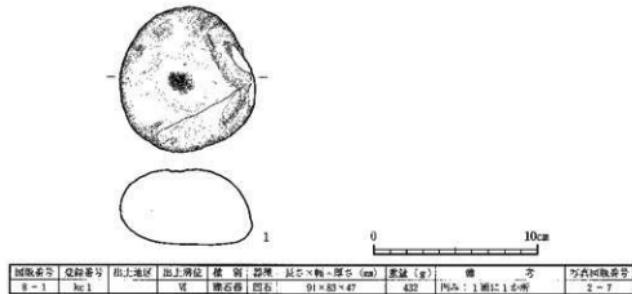


第7図 Va層水田跡（擬似畦畔）

（4）その他

III層とIV層は層の状況やプラントオパール分析の結果からみて、水田耕作土の可能性が考えられる層である。今回の調査ではこれらの層がII層により搅拌される度合いが大きかったことから、SD1以外に水田跡と認定し得る遺構の検出は無かったが、II層による段差②とVa層水田跡による擬似畦畔の位置関係から見て、その間に挟まれるIII・IV層段階においてもほぼ同様の位置に畦畔が存在していた可能性がある。

出土遺物としてはIV層中より須恵器片が1点、VI層中より熱を受けた凹石が1点出土したのみである。



第8図 出土遺物

6. まとめ

- (1) 今回の調査区は遺跡の最西端に位置し、第4次調査1区の南西側にあたる。現在の水田面の標高は約33.3mである。
- (2) 検出した遺構としては、II層水田跡に伴う段差跡2列、IV層上面検出の溝跡1条、V層水田跡の擬似畦畔1条がある。この他III層及びIV層についても水田作土の可能性が高く、SD1はIII層水田跡に伴った水路跡と考えられる。
 - ・II層水田跡では区画整理前の現水田作土である1層により層上面が削平されていることから、かつて存在した区画は段差により知るのみである。かつての地形図において調査区南側には段差②のラインにおおよそ一致する区画整理前の畦畔が確認できるが、これらが関連するものかは不明である。II層は層厚があることからこの周辺に広く残存しているものと推定され、遺物が無いことから時期は不明である。第1次調査では灰白色火山灰を全く含まず、層順からみてIIa層とIIc層が本調査のII及びIII層に対応する可能性もあるが、4次調査での両層の間に砂層が介入するのに対し、そのような層は確認されなかったのに加え、色調にも違いがみられることから、これらが同一のものかは特定しかねる。
 - ・水田作土とみられるIV及びV層中には一部に灰白色火山灰がブロック状に混入している。第4次調査1区ではIV層水田跡の上部に火山灰が乗り、後にこの畦畔を踏襲した形でIIIa層畦畔やIIIb層水田が作られている。これらの畦畔はほぼ東西及び南北方向に合ったものであるのに対し、本調査のVa層のものはやや西偏し、またいずれとも色調が異なっている。
- 本調査のIV・V層の時期については火山灰の降下した平安時代かそれ以降のものであることは4次調査IIIa・IIIb層と同様である。しかしながら、遺物による検証がほとんどできないのに加え、本調査区においては基本的に上砂の堆積が少ない地区であることから、下層への攪拌や削平が著しく、火山灰の混入の程度のみでさるに時期を限定することは難しいものと考える。
- (3) 本遺跡の条里型土地割は遺跡の東部でありと認識できるのに対し、西部では不明瞭となり、そこには北西方向から流れ込む小河川による土砂の堆積が関係するとの指摘がある。そんな中でも6次調査区は砂礫など河川堆積物の供給の少ない地区にあり、同一層を繰り返し耕作したとみられるにもかかわらず、数枚の水田耕作土が確認されている。各水田跡の区画上には区画整理前の畦畔は位置していなかったが、古代の可能性も考えられるV層水田跡との関係からみて、かつての条里型土地割はII層水田段階まではその形態の一部を残していた可能性もあったといえる。

参考文献

- 浅部弘美 1993：「山田条里遺跡」『仙台平野の遺跡群XII 平成4年度発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第170集 仙台市教育委員会
- 主浜亮朗 1999：「山田条里遺跡—第2次・第3次調査」『陸奥国分尼寺跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第238集 仙台市教育委員会
- 平間亮輔 2000：「山田条里遺跡—第4次・第5次調査」『五本松窓跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第247集 仙台市教育委員会



写真1 山田条里遺跡空中写真（1956年撮影 約1/10,000）白丸は調査地点



写真2 SDI検出状況



写真3 SDI完掘状況（南西より）



写真4 SDI断面状況（西より）



写真5 Va層水田跡確認状況（南西より）



写真6 Va層水田跡検出状況（南西より）



写真7 Va層水田跡検出状況（南より）



写真8 北西壁断面状況（南東より）



写真9 北西壁断面状況（南より）



写真10 北西壁断面状況（南東より）



写真11 凹石（VI層）

7. プラント・オパール分析

仙台市、山田条里遺跡第6次調査におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

（1）はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO₂）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山、1984）。

さて、山田条里遺跡第6次調査の発掘調査では、複数の層で畦畔状あるいは擬似畦畔とみられる高まりが認められた。そこで、プラント・オパール分析を行いこれらの層における稻作の可能性について検討を行うことになった。

（2）試料

試料採取地点は、AポイントとBポイントの2地点である。分析試料は、Aポイントでは上位よりⅡ層（オリーブ黒色粘性シルト）、Ⅵb層（オリーブ黒色粘質土）の2点、Bポイントでは上位よりⅢ層（黒褐色粘質土）、Ⅳ層（灰黄褐色シルト）、Ⅴa層（黒褐色粘性シルト）、Ⅵa層（褐色砂質シルト）、Ⅶ層（灰色粘性シルト）の5点の計7点である。なお、Ⅳ層上面では講溝、Ⅵa層では畦畔状の高まりが認められている。

（3）分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに直秤約40μmのガラスピースを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃、6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数（試料1gあたりのガラスピース個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピースの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10⁻³g）を乗じて、単位面積で厚さ1cmあたりの植物体生産量を算出した。ヒエ属（ヒエ）の換算係数は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75である。

(4) 分析結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、ヒエ属型、ヨシ属、スキ属型（おもにスキ属）、タケアサ科（ネザサ節型、クマザサ属型、その他）および未分類等である。これらの分類群について定量を行い、その結果を第1表および第9図に示した。

(5) 考察

① 稲作およびその他の農耕の可能性

稻作跡（水田跡）の検証や探査を行うにあたっては、通常、イネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ5,000個以上の密度で検出された場合にそこで稻作の行われていた可能性が高いと判断している。ただし、仙台平野ではこれまでの調査において密度が3,000個/g程度でも水田遺構が複数検出されていることから、ここでは基準値を3,000個/gとした。また、当該層においてプラント・オパール密度にピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくことから、密度が基準値に達していない場合であっても稻作跡である可能性が考えられる。これらのこととを基準として稻作の可能性について検討を行う。

イネが検出されたのは、上位よりII層、III層、IV層、Va層の各層である。これらはいずれも溝跡や段差、畦畔状の高まりが検出されていた層である。したがって、これらの層において稻作の行われていた可能性が高いと考えられる。また、このことからIV層上面で検出された溝跡は水田に伴う水路であった可能性が高い。なお、プラント・オパール密度は、それぞれ2,900個/g、1,300個/g、2,000個/g、2,200個/gとやや低い値である。プラント・オパール密度の低いことの要因については、1) 稲作の行われていた期間が短かった、2) 稲藁の多くが水田の外に持ち出されていた、3) 上層の堆積速度が速かった、4) 稲の生産性が低かった、などがあげられるがここでの要因がどれに該当するのかは不明である。

イネ以外では、III層、IV層およびVIb層でヒエ属型が検出されている。ヒエ属には栽培種と野生種が含まれるが、現時点では両者を識別できるまでには至っていない（杉山ほか、1988）。III層とIV層については、プラント・オパール密度が1,000個/g未満と低いこと、両層が水田耕作層であったとみられることなどから、水田雑草のイスビエである可能性が高い。VIb層では密度が2,100個/gとやや高い値である。本層ではイネのプラント・オパールは検出されていないが、層の下面に乱れがあることから、あるいはヒエの栽培が行われていた可能性も考えられる。

② プラント・オパール分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群の出現状況ならびにおもな分類群の推定生産量（第1表の下部）をみてみると、Via層、VIb層およびVI層でヨシ属が優勢であり、とくにVIb層とVI層では卓越する。このことから、これらの層の堆積時は調査区一帯は湿地あるいはそれに近い環境であったと推定される。その他では各層でネザサ節型とクマザサ属が検出されている。また、Via層を除く各層でスキ属型が検出されている。したがって、各層とも調査地周辺にはネザサ節やクマザサ属が生育しており、Via層以外の層ではスキ属も生育していたと推定される。

(6)まとめ

山田条里遺跡第6次調査においてプラント・オパール分析を行った。その結果、II層、III層、IV層、Va層が過去の水田耕作層であった可能性が認められた。そしてIV層上面で検出された溝跡は水路であった可能性が高いと判断された。また、VIb層においてはヒエの栽培が行われていた可能性が考えられた。なお、Via層、VIb層およびVI層堆積時は調査区は湿地あるいは湿地的環境であったと推定された。

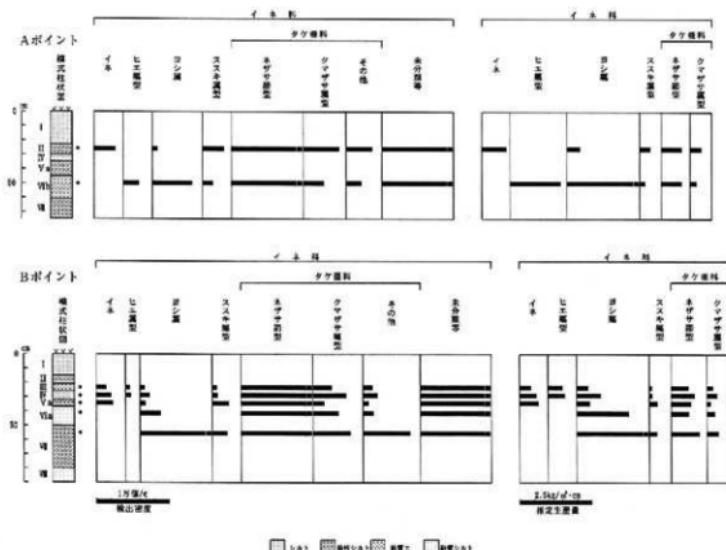
検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名・学名）＼試料	A ポイント		B ポイント				
	II	Vb	III	IV	Va	VIa	VII
イネ科 Gramineae (Grasses)							
イネ Oryza sativa (domestic rice)	29		13	20	22		
ヒエ属型 Echinochloa type		21	6	7			
ヨシ属 Phragmites (reed)	7	55	6	13	7	28	111
ススキ属型 Miscanthus type	29	14	6	7	22		20
タケモ科 Bambusoideae (Bamboo)							
ネザサ節型 Pleioblastus sect Nezasa type	144	145	123	166	141	125	202
クマザサ属型 Sasa (except Miyakozasa) type	50	28	26	46	15	35	52
その他 Others	36	21	13	20	7	14	65
未分類等 Unknown	815	538	422	531	556	500	784
プラント・オバール総数	1111	821	616	810	770	702	1234

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

イネ	Oryza sativa (domestic rice)	0.85	0.38	0.59	0.65		
ヒエ属型	Echinochloa type		1.74	0.55	0.56		
ヨシ属	Phragmites (reed)	0.46	3.48	0.41	0.84	0.47	1.75
ススキ属型	Miscanthus type	0.36	0.17	0.08	0.08	0.28	0.24
ネザサ節型	Pleioblastus sect Nezasa type	0.69	0.70	0.59	0.80	0.68	0.60
クマザサ属型	Sasa (except Miyakozasa) type	0.38	0.21	0.19	0.35	0.11	0.26
							0.39

第1表 プラント・オバール分析結果



第9図 プラント・オバール分析結果

文献

- 杉山真二（1987）タケア科植物の機動細胞壁酸体、富士竹頭植物園報告、第31号、p.70-83.
- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213.
- 杉山真二・松田隆一・藤原宏志（1988）機動細胞壁酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追究のための基礎資料として－、考古学と自然科学、20、p.81-92.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析 法－、考古学と自然科学、9、p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水 田址の探査－、考古学と自然科学、17、p.73-85.

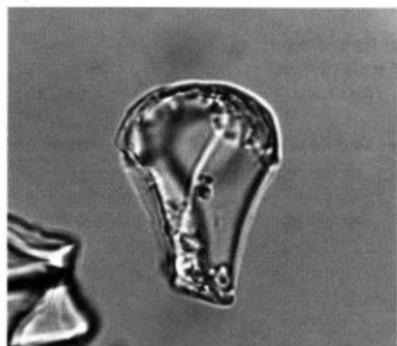


写真12 イネ Bポイント Va層

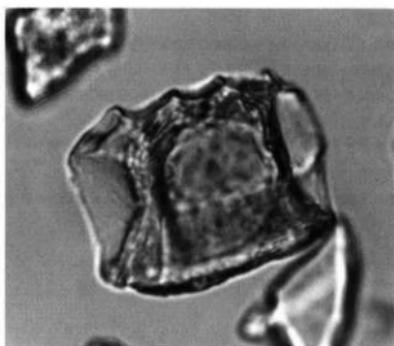


写真13 ヒエ属型 Aポイント Vib層

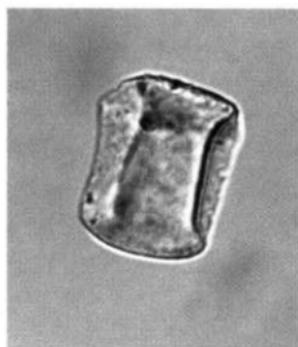


写真14 ススキ属型 Bポイント Va層

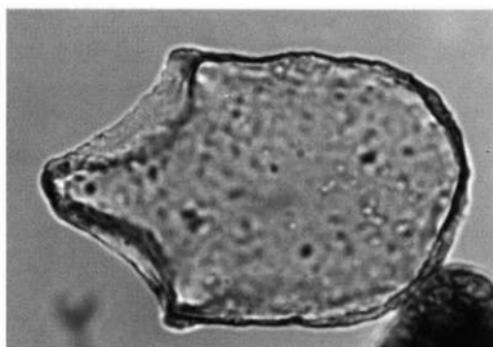


写真15 ヨシ属 Aポイント VII層

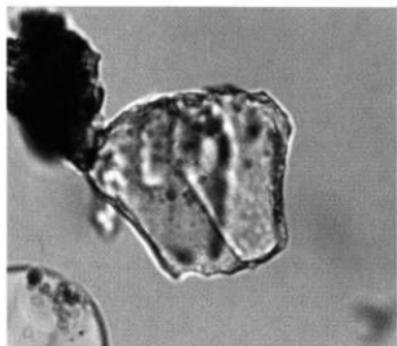


写真16 タケ亞科(ネザサ節属) Aポイント II層

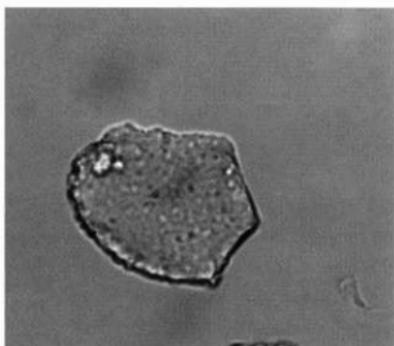


写真17 タケ亞科(クマザサ属型) Aポイント II層

プラント・オパール（植物珪酸体）の顕微鏡写真

VI 富沢遺跡（第117次調査）

1. 調査要項

遺跡名 富沢遺跡（宮城県遺跡番号01369）
 調査地 仙台市太白区長町南4丁目20番2号
 調査原因 東北療護センター増築工事
 調査面積 720m²
 調査面積 99m²
 調査期間 平成12年9月4日～平成12年9月13日
 調査主体 仙台市教育委員会
 調査担当 仙台市教育委員会文化財課
 担当職員 吉岡恭平
 調査参加者 青山諒子 小田島祥子 玉上なみ子 橋本房子
 申請者 自動車事故対策センター理事長 岩田貞男



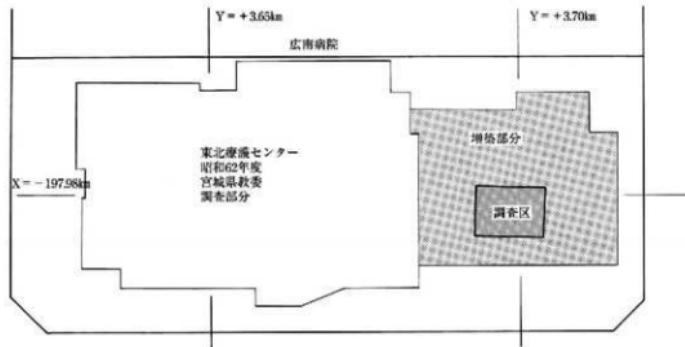
第1図 調査地点

2. 遺跡の位置と環境

富沢遺跡は仙台市の南東部に位置し、名取川と広瀬川に挟まれた沖積地（郡山低地）の西側にあり、北西を丘陵（青葉山丘陵）、他を自然堤防で囲まれた後背湿地を中心に立地している。弥生時代から近世までの各時代の水田跡が重層して検出されている他、後期旧石器時代の焚き火跡等の生活跡とそれをとりまく樹木群などが発見されている。今回の調査区は広南病院と東北療護センターの敷地内にあるが、広南病院は昭和59年度に仙台市教育委員会が富沢遺跡第8次調査として、後者は今回の約15m西隣で宮城県教育委員会が昭和62年度に調査を実施している。

3. 調査の方法と経過

東北療護センターの増築が計画され、自動車事故対策センターと仙台市で協議が開始された。予定地内には以前パイル打ちの農協施設があったため、そこを除外した場所を対象として発掘調査を実施することで協議が成立した。届出は平成12年7月4日に提出されている。調査区は上面で9×11mに設定したが、2m近く盛土があることから、旧表上面で4×6mと縮小せざるを得ず、断面観察中心の調査となった。なお、北壁、西壁で土壤を探し、プランツ・オーバル分析を行っている。



第2図 調査区位置図 (1/800)

4. 基本層序

区画整理及び病院等建築の際の盛土が約2mあり、その下に旧表土の水田耕作土（1層）がある。1層以下確認された層は13層で、1～3層が明るい黒褐色～黃灰色の砂質シルト、4・5層が灰色～黒色の粘土、6～11層が黒褐色系の泥炭質粘土、12層が灰色のグライ化、砂質化したシルトとなる。各層ともほぼ水平堆積で、厚さは4層が20～40cmと厚くなるほかは10～20cm程度である。

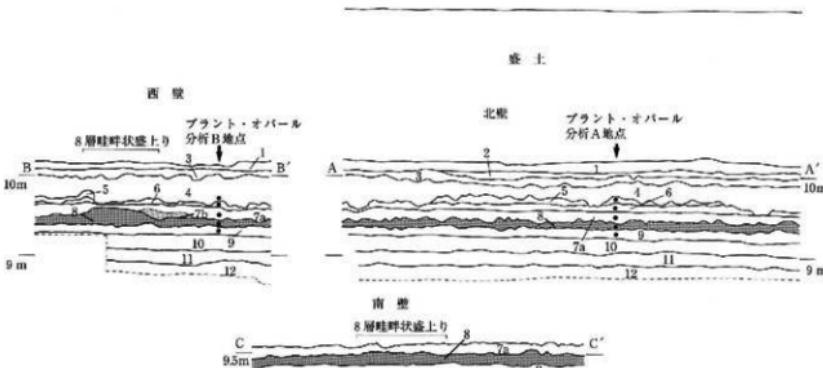
5. 調査成果

2、3、4、5、7a、8層は、層の下面に凹凸があり、層の下部には直下の層を起源とするブロックが分布する、という水田耕作土に一般的な特徴が認められることから、水田耕作土と考えられた。6、7b、9～12層は自然堆積層である。ここでは古代以前が想定される4層以下について述べる。

4層：灰色の粘土質シルトで、層厚が最大40cmと厚い。また下面の凹凸が著しく、5・6・7層にまで耕作の攪拌が及んでいる。畦畔状盛上り等は確認されていないがイネのプランツ・オパールは検出されている。層中に灰白色火山灰（10世紀前葉降下）ブロックを若干含むことから、平安時代灰白火山灰以降の水田跡と考えられる。

5層：黒色粘土である。4層でかなり攪拌を受け残存状況が悪いが層相から水田耕作土と考えられた。しかし畦畔状盛上り等、及びイネのプランツ・オパールは検出されていない。

7a層：黒褐色（2.5Y3/1）の泥炭質粘土層であるが上下の土色の関係で、下半部はやや暗いものの全体はかなり明るく見える。層厚は15cm前後で一定しており、かつ下面の凹凸がやや顕著で直下層の8層を巻き上げたブロックが多くみられる。断面で畦畔状盛上り等は確認されていないが、後述する8層の畦畔状盛上りの北側に自然堆積層



順序	土 色	七 性	層	考
1	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	旧表土、水田耕作土	
2	10YR2/1 黒褐色	砂質シルト	上部に発達した粘土、薄灰岩が多い。下部凹凸あり。水田耕作土	
3	2.5Y4/1 黄褐色	砂質シルト	砂ブロック含む、麻雀骨が多い。下部凹凸あり。水田耕作土	
4	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	灰色土、下部は灰褐色。河床堆积土を含む。下部凹凸。粗粒砂土	
5	3Y2/1 黒色	粘 土	4層でかなり攪拌を受ける。下部凹凸。水田耕作土	
6	3Y3/1 オリーブ型粘土と5Y2/1 黑色泥炭質粘土の互層		自然堆積層	
7a	2.5Y3/1 黑褐色	泥炭質粘土	全体に多く見える。下部やや多い。下部凹凸あり。水田耕作土	
7b	2.5Y2/1 黑褐色	泥炭質粘土	7a層と同様。下部に薄い。黑色泥炭土と黒色泥炭土が混在する。自然堆積層	
8	10YR2/2 黄褐色	泥炭質粘土	下部やや多い。下部やや凹凸あり。水田耕作土	
9	2.5Y4/1 黄褐色土と2.5Y2/1 黄色	10YR1/7.1 混色泥炭質粘土の互層、自然堆積層		
10	10YR2/1 黑色	泥炭質粘土	自然堆積層	
11	10YR2/2 黑褐色	泥炭質粘土	自然堆積層	
12	5Y4/1 灰色	シルト	自然堆積層、グライ化、砂質化する	

第3図 平面図・断面図

の7b層が残存することから、7b層と8層の盛上りをあわせた部分は、7a層の耕作が及ばず残存した擬似畦畔Bの可能性が考えられる。イネのプランツ・オパールがA B両地点で検出されている。

8層：黒褐色の泥炭質粘土で下半部がやや黒くなる。西壁断面と南壁断面で畦畔状盛上りを確認した。西壁の畦畔状盛上りは明瞭で上幅60cm、下幅90cm、高さ10cmである。南壁は高さが低く、上幅60cm、下幅100cm、高さ4cmである。西壁の盛上りの北側肩部分に7b層が確認された。7b層は下端部に黒褐色と黒色の泥炭質粘土の互層を含む自然堆積層である。その7b層が盛上りの北側傾斜を覆うことから、西壁の盛上りは8層本米の所産と理解され、上層の耕作等により形成されたもの（擬似畦畔B）ではないと判断された。南壁際では部分的であるが、西壁と南壁の盛上りを結ぶ線上に7a層と8層の土色の違いを検出している。また、イネのプランツ・オパールがA B両地点で検出されている（B地点では高密度）。これらのことより、8層は水田跡の可能性が高く、西壁と南壁の8層の畦畔状盛上りは同一のもので、土色の違いは盛上りの北側のラインと理解され、この盛上りは8層水田跡に伴う畦畔の可能性が高いと考えられる。その方向は西北西—東南東である。

6.まとめ

層の特徴から、2、3、4、5、7a、8層が水田耕作土と考えられた。また、壁面で7b層と8層が形成する畦畔状の盛上りを検出し、一つは7a層の水田跡に伴う擬似畦畔B、他方は8層水田に伴う畦畔の可能性が考えられた。西に隣接する県教委の昭和62年度調査区（真山他1988）と主な層を対比させると下表のようになる。

上層の互層である自然堆積層や相対的な層の色調などから、今回の7a層が62年度の10層（以下62年度の層名には下線）、8層が12層と対応することはほぼ妥当と考えられる。7b層が11層に対応するかどうかは、7a層下半が11層に対応する可能性もあること（暗いという色調の共通性）から確定はできない。

62年度では10層と12層で畦畔状造構が検出されている。8次調査（工藤哲1984）との対応から、10層が8次の8B層に対応し弥生時代中期、12層が8次の9層に対応しやや遅る中期と捉えられている。一方8次の9層水田跡についてはその可能性が低いことが指摘されている（斎野1987、佐藤甲1990）。

今回の7a層、8層と8次の8B層、9層との対応は、上下の層序関係や層相から7a層と8次の8B層は対応するが、8次の9層は黒味が強いため疎離できず十分な検討が必要である。しかし、今回8層において擬似畦畔Bではないと考えられる畦畔状盛上りが確認され、かつイネのプランツ・オパールが一定量検出されたことは、10層や8次の8B層の下位にあたる層準に、より古い水田跡の存在する可能性を示すデータが追加されることになる。

参考文献

- 工藤哲1984「富沢水田遺跡－病院建設に伴う泉崎前地区の調査報告書」仙台市文化財調査報告書第67集
 斎野裕彦他1985「富沢一宮遺跡第15次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第65集
 佐藤甲一1991「富沢・泉崎浦・山門遺跡（3）」仙台市文化財調査報告書第152集
 真山他1988「富沢遺跡・泉崎前地区」宮城県文化財調査報告書第129集

今　川　遺　跡		昭和62年調査			
層序	土色・土性	層序	土色・土性		
4	灰色粘土質シルト	木山耕作土・火山灰質土	5 6 7	神灰青色シルト 黒褐色シルト 黒褐色シルト	水田跡 平安時代火山灰質下以後 水田跡 平安時代火山灰質下以前
5	黑色粘土	木山耕作土・殘存悪い			
6	オリーブ褐色 黒褐色粘土	自然堆積層、互層	8 9 10 11	紺灰青色シルト 黒褐色シルト オリーブ褐色シルト オリーブ褐色シルト	水田跡 強生時代中期
7a	黒褐色泥炭	木山耕作土・下部悪い			
7b	黒褐色泥炭	下半に互層 7b層より悪い	12	黒色シルト	木山跡 強生時代中期
8	黒褐色泥炭	木山耕作土・断面で地帯化	13 14 15 16	黒色シルト 黒色・黒褐色シルト 黒褐色シルト 黒色シルト	互層
9	青灰色粘土 黑色泥炭	自然堆積層、互層			

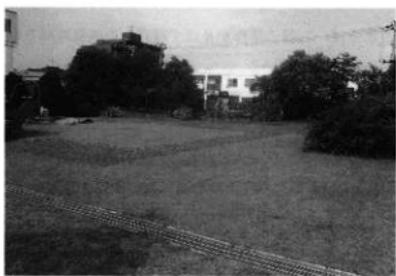


写真1 調査前風景 (南西より)



写真2 調査区全景 (南西より)



写真3 北壁断面 (西半)

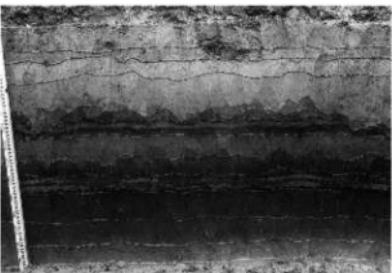


写真4 北壁断面 (東半)



写真5 西壁断面 (畦畔状盛上り部分)



写真6 南壁断面 (畦畔状盛上り部分)

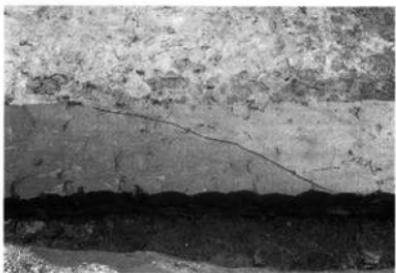


写真7 7a層と8層の土色の違い(7a層：白、8層：黒)



写真8 7a層と8層の土色の違い
(7a層：白、8層：黒)

7. プラント・オパール分析

仙台市、富沢遺跡第117次調査におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

(1) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山、1984）。

富沢遺跡第117次調査の発掘調査では、複数の層で水田跡が検出された。そこで、プラント・オパール分析を行い、これらにおける稻作の検証とその他の層における稻作の可能性について検討を行うことになった。

(2) 試料

調査地点は、A地点とB地点の2地点である。分析試料は、A地点では上位より5層（黒色粘土）、6層（オリーブ黒色粘土と泥炭質粘土の互層）、7a層（黒褐色泥炭質粘土）、8層（黒褐色泥炭質粘土上）、9層（黄灰色粘土）の5点、B地点では上位より4層（灰色粘土質シルト）、6層（オリーブ黒色粘土と泥炭質粘土の互層）、7a層（黒褐色泥炭質粘土）、8層（黒褐色泥炭質粘土）、9層（黄灰色粘土上）の5点の計10点である。このうち、発掘調査において水田跡が検出されていたのは4層、5層、7a層^{※1}である。

(3) 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに直徑約40μmのガラスピーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42kHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数（試料1gあたりのガラスピーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10-5g）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。ヒエ属（ヒエ）の換算係数は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネササ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75である。

(4) 分析結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、シバ属、タケモ科（ネササ節型、クマザサ属型、その他）および未分類等である。これらの分類群について定量を行い、その結果を第1表および第4・5図に示した。

（5）考察

①稲作およびその他の農耕の可能性

水田跡の検証や探査を行う場合、通常、イネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ5,000個以上の密度で検出されれば、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、仙台平野ではこれまでの調査において密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは基準値を3,000個/gとした。また、当該層においてプラント・オパール密度にピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性を考えにくいくことから、密度が基準値に達していない場合であっても稲作跡である可能性が考えられる。これらのことと基準として稲作の可能性について検討を行う。

分析の結果、4層、7a層および8層よりイネのプラント・オパールが検出された。このうち、4層と7a層では水田跡が検出されていることから、両層において稲作が行われていたことが分析の上でも確認できる。また、8層でもイネのプラント・オパールが9,400~5,100個/gの高密度で検出されている。したがって、当該層においても稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。一方、発掘調査では5層も水田跡とされているが、プラント・オパール分析ではイネは検出されていない。本層は上部に攪乱をうけたあとがあることから、耕作土が動いてしまった可能性が考えられる。

なお、4層と7a層では検出されたプラント・オパールの密度がやや低い傾向がある。これについては、1) 稲作の行われていた期間が短かった、2) 稲叢の多くが水田の外に持ち出されていた、3) 上層の堆積速度が速かった、4) 稲の生産性が低かった、などの要因があげられる。

②プラント・オパール分析から推定される植生と環境

イネ以外では、全体にタケアキ科（ネザサ節やクマザサ属）が優勢であるが、B地点の6層ではヨシ属が高い密度で検出されている。このことから、調査区は各時期とも比較的乾いた環境であったが、6層の堆積時期にはB地点周辺はやや湿った状況であったか、あるいは部分的にヨシが堆積した可能性が考えられる。なお、調査区周辺にはススキも生育していたようである。

（6）まとめ

富沢遺跡第117次調査においてプラント・オパール分析を行った。その結果、水田跡が検出されていた4層、7a層については、イネのプラント・オパールが検出されたことから、これらで稲作が行われていたことが分析的にも確認された。また、水田層の可能性が考えられていた8層では、イネのプラント・オパールが高い密度で検出され、水田耕作層であった可能性が高いと判断された。なお、水田跡の検出されていた5層からはイネのプラント・オパールが検出されなかった。これについては、後代に削平されるなりして耕作土が動かされてしまった可能性が示唆された。

（編者註）分析を依頼した段階では8層について水田跡かどうか検討中であったので、分析執文はそのまま掲載している。

文献

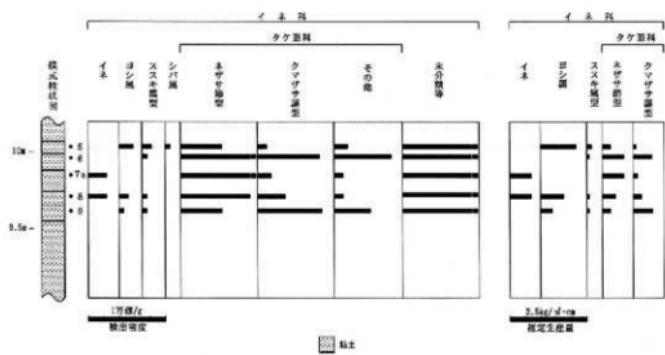
- 杉山真二（1987）タケアキ植物の機動細胞壁微体。富士竹類植物園報告、第31号、p.70-83。
- 杉山真二（2000）植物珪化体（プラント・オパール）。考古学と植物学、同成社、p.189-213。
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞壁微体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—。考古学と自然科学、20、p.81-92。
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪化体標本と定量分析法－。考古学と自然科学、9、p.15-29。
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田跡の探査－。考古学と自然科学、17、p.73-85。

分類群(学名・学名)	試料	A地点					B地点				
		5	6	7a	8	9	4	5	7a	8	9
イネ科	Gramineae (Grasses)										
イネ	Oryza sativa (domestic rice)			24	24		25		12	51	
キビ族型	Panicoid type										8
ヨシ属	Phragmites (reed)	18			12	6	15	48	6		15
ススキ属型	Miscanthoid type	12	6		6	6	15	12	18	13	8
シバ属	Zizanioid	6									
タケ目	Bambooideae (Bamboo)										
ネササ属型	Pleioblastus sect. Nesiota type	53	144	145	90	54	35	48	116	76	45
タマササ属型	Sasa (except Miyakosasa) type	12	81	18	36	84	115	24	31	19	114
その他	Others	18	75	12	12	49	75	24	8	19	30
未判別	Unknown	285	537	265	294	297	595	364	251	290	318
ブランク・オパール	Blank - Opal	404	842	464	464	496	235	519	441	467	538

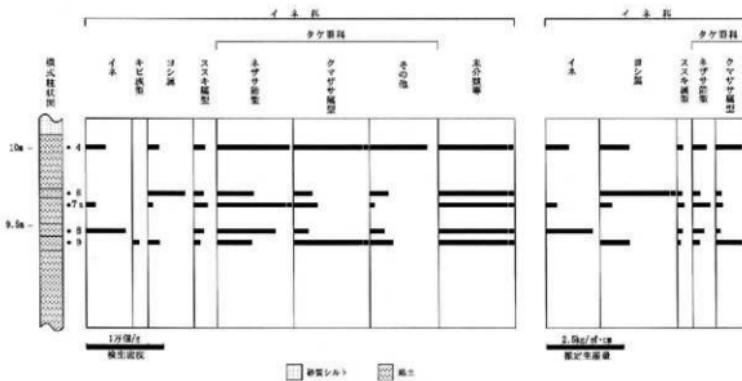
計もみ分類群の推定生産量(単位: kg/m²・cm)

イネ	Oryza sativa (domestic rice)	0.71	0.71	0.74	0.36	1.49					
当季型	Phragmites (reed)	1.12		0.76	0.38	0.85	3.01	0.39	0.96		
ススキ属型	Miscanthoid type	0.15	0.07	0.07	0.07	0.19	0.15	0.23	0.16	0.09	
ネササ属型	Pleioblastus sect. Nesiota type	0.26	0.69	0.69	0.43	0.26	0.46	0.23	0.56	0.36	0.22
タマササ属型	Sasa (except Miyakosasa) type	0.09	0.61	0.14	0.27	0.63	0.85	0.18	0.23	0.14	0.85

第1表 仙台市、富沢遺跡第117次調査のプラント・オパール分析結果



第4図 A地点におけるプラント・オパールの分析結果



第5図 B地点におけるプラント・オパールの分析結果

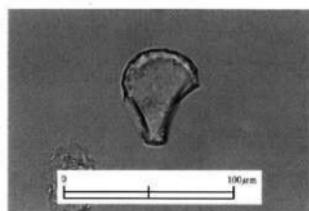


写真9 イネ A地点7a層



写真10 イネ B地点7a層

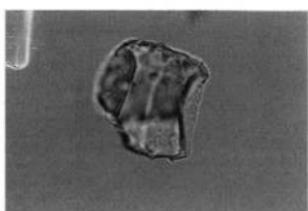


写真11 イネ B地点8層

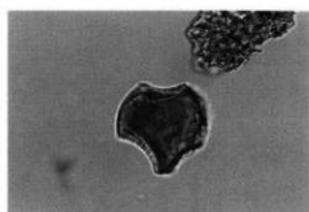


写真12 シバ属 A地点 5層



写真13 ウシクサ族 (ススキ属)
B地点7a層

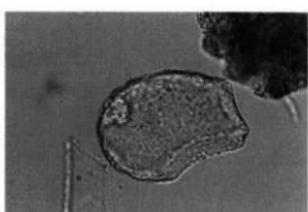


写真14 ヨシ属 A地点 5層

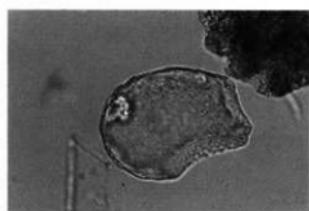


写真15 ヨシ属 B地点 6層

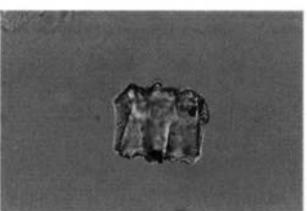


写真16 タケ亜科 (ネザサ節型)
A地点7a層



写真17 タケ亜科 (ネザサ節型)
B地点 4層

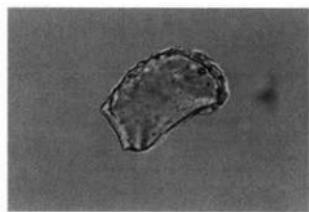


写真18 タケ亜科 (クマザサ属型)
B地点 4層

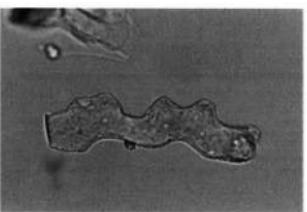


写真19 不明 A地点 6層

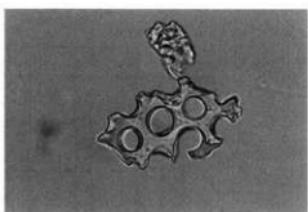


写真20 不明 A地点 9層

プラント・オパール（植物珪酸体）の顕微鏡写真

報告書抄録

ふりがな 書名	やぎやまみどりちょういせきほかはつくつちょうさほうこくしょ 八木山緑町遺跡ほか発掘調査報告書						
副書名 卷次							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第253集						
著者名	吉岡恭平・渡部弘美・主浜光朗・工藤信一郎・平岡亮輔・佐藤 浩・村上秀樹						
編集機関	仙台市教育委員会						
所在地	〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7-1 TEL022-214-8893・8894						
発行年月日	2001年3月31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
八木山緑町 遺跡	市町村 仙台市太白区八木山 緑町21-3	04100 01317	38°14'13"	140°52'09"	1995.08.28 ~1995.10.31	700m ²	宅地造成
	第2次	タ	タ	タ	1999.11.02 ~1999.11.09	150m ²	共同住宅建設
洞ノ口遺跡	仙台市宮城野区岩切 字青津目・分台外側	04100 01372	38°18'10"	140°57'39"	1999.10.04 ~2000.01.24 2000.04.17 ~2000.11.17	2,435m ²	土地整理事業
	第6次	タ	タ	タ	2000.08.24 ~2000.08.30	26m ²	個人住宅建設
南小泉遺跡	仙台市若林区南小泉 二丁目	04100 01021	38°14'21"	140°54'35"	2000.10.23 ~2000.10.27	60m ²	個人住宅建設
	第34次	タ	タ	タ	2000.11.06 ~2000.11.15	123m ²	共同住宅建設
大原一里塚	仙台市太白区秋保町 坂下字清水久保	04100 16056	38°15'30"	140°40'05"	2000.07.03 ~2000.07.05	44m ²	道路改良工事
山田条里遺跡 第6次調査	仙台市太白区山田字 山中前53-1	04100 01367	38°12'44"	140°50'20"	2000.09.13 ~2000.10.02	100m ²	ガソリンスタンド建設
富沢遺跡 第117次調査	仙台市太白区長町南 四丁目	04100 01369	38°12'58"	140°52'30"	2000.09.04 ~2000.09.13	99m ²	医療施設 増築
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
八木山緑町遺跡 第1次・第2次調査	集落跡 包含地	縄文・弥生	竪穴住居跡・土坑	绳文土器・弥生土器 石器・菅玉			
洞ノ口遺跡 第3次・第6次調査	城館 集落跡 水田跡	奈良~近世	土坑・柱穴・水田跡 溝跡	土師器・須恵器 土師質土器・陶器・磁器 石製品・木製品			
南小泉遺跡 第33次・第34次調査	集落跡 屋敷跡?	奈良~近世	竪穴住居跡・溝跡	土師器・須恵器・陶器 磁器			
大原一里塚	一里塚	近世	一里塚				
山田条里遺跡 第6次調査	水田跡	縄文・古代 中世・近世	水田跡	礫石器			
富沢遺跡 第117次調査	水田跡	弥生~近世	水田跡				

仙台市文化財調査報告書第253集

八木山緑町遺跡ほか

発掘調査報告書

2001年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町三丁目7-1

文化財課 022(214)8893

印 刷 株式会社 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24

TEL 022(263)1166

